費、遞信省所管に於て電話交換擴張に伴ふ維持費・通信事業增進に伴ふ經費・諸拂戻金の增加・證票及式紙類費の增加ある等の爲め八百九十七萬九千百六十三圓を增加するを以て、差引三百九十六萬七千六百三十一圓を減少し、臨時部に於ては內務省所管に於て治水事業費・爆發物倉庫等新營費・關門海峽改良費の增加・府縣會郡會議員總選擧取締費、大藏省所管に於て罹災救助基金補助の增加・議院建築準備費・朝鮮總督府經費補充金・治水費資金特別會計繰入、陸軍省所管に於て軍隊官衙學校改築費・軍用氣球研究費及朝鮮派遣部隊費の增加、海軍省所管に於て鎭守府官舍新營費・軍備補充費の追加、文部省所管に於て臨時維新史料編纂局設置費、農商務省所管に於て製鐵所第二期擴張費・原蠶種製造所及牛疫血淸製造所設置に伴ふ新營費・日本大博覽會費・治水事業費、遞信省所管に於て南米及北米航路補助の增加・電話交換擴張費年割額の增加ある等の爲め五千五百二十六萬千七百八十圓を增加すると雖も、內務省所管に於て補助費の減少・土木事業費を要せざると、大藏省所管に於て臺灣特別會計繰入金の減少・韓國政府立替金・韓國鐵道資本勘定へ繰入・國債整理基金臨時繰入及宅地地價修正費を要せざると、海軍省所管に於て外國派遣軍艦費を要せざると、農商務省所管に於て製鐵所據置運轉資本補塡・日英博覽會費及植樹奬勵費の減少・製鐵所創立費を要せざると、遞信省所管に於て航海奬勵費の減少・八重山基隆間海底電線布設替費を要せざる等の爲め三千三百五十六萬五千四百七十一圓を減少するを以て、差引二千百六十九萬六千三百九圓を增加したり。

明治四十四年度に於て新に要求に係る繼續費は千八百九十八萬九千六百二十一圓、既定繼續費に對し追加を要するもの二億九百二十四萬二千百五十九圓、合計二億二千八百二十三萬千七百八十圓にして、其の年限最も長きは明治六十一年度に終る。而して既定繼續費に對し減額を要するもの百萬圓あるを以て、差引增加額二億二千七百二十三萬千七百八十圓を明治四十四年度以降の既定繼續費總額三億五千三十九萬九千五十四圓に加ふるときは、明治四十四年度以降の繼續費の總額は五億七千七百六十三萬八百三十四圓となるの計算なり。

明治四十四年度に於て國庫豫備金は第一豫備金百萬圓、第二豫備金二百萬圓なり。

明治四十四年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は八千萬圓なり。

政府は治水事業に關し曩に臨時治水調査會を置き審議の結果、治水事業の大計を定めたるに付、其の計畫に從ひ河川及砂防に關する事業を繼續施行する爲め、提出豫算に對し修正書を提出したるを以て、前揭の數額は總て右修正金額に依り修正揭上したるものなり。

第二項　豫算の成立及公布

明治四十四年度歲入歲出總豫算案は明治四十四年一月二十一日第二十七回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計歲入歲出豫算案と共に衆議院に提出せられ、同日大藏大臣桂太郎は衆議院に於て明治四十四年度歲計豫算案に關し左の演說を爲せり。

『本大臣は玆に明治四十四年度歲計豫算を紹介するの光榮を有す。明治四十四年度總豫算に就ては編成後に至り治水事業に關し後段述ぶるが如き計畫の成案を得たるを以て、政府は之が實施に伴ひ豫算を修正するの必要を認め、旣に之が修正案を提出したり。今其の修正の結果に依れば明治四十四年度總豫算に計上する所の歲入は、經常部に屬するもの四億九千二百十三萬八千圓、臨時部に屬するもの五千九百八十九萬四千五百三十九圓、合計五億五千二百三萬二千五百

三十九圓にして、其の歳出は經常部に屬するもの四億七百十六萬三千九百九十一圓、臨時部に屬するもの一億四千四百八十六萬八千五百四十八圓、合計五億五千二百三萬二千五百三十九圓なり。故に經常歳入を以て經常歳出に比較すれば八千四百九十七萬四千九圓の超過にして、之を前年度に於ける經常部歳入歳出の關係に對照すれば一層良好なる狀態を示せり。右總豫算に計上する歳出の外、明治四十四年度に於ては臨時軍事費特別會計より繰越したる經費の內二百六十五萬圓を使用するの豫定にして、前年度剩餘金を以て之を支辨するの計畫なり。明治四十四年度歳入を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては前年度に於て決定したる稅法整理の結果、前年度に於て一部の減額を示すに止まれる地租は本年度に於て其の全部の減額を來し、營業稅は本年度より新率を適用せらるるに依りて、共に減收を見るの外、前年度に於ける稀有の水害は自ら各種租稅の收入に影響を及ぼすものなきにあらずと雖も、一般經濟上の發達及新關稅率の實施に伴ひ增加するものあるが爲に、結局租稅收入に於て三百八十餘萬圓を增加し、其の他印紙收入、官業及官有財產收入等に於て、朝鮮總督府特別會計設置の結果、前年度に於て一般會計に屬したる歳入の一部を本年度に於て同特別會計歳入に移替へたるものあるが爲に二百七十九萬餘圓を減少したるも、一般經濟上の發達に伴ふ收入の增加するものある等に依りて差引百四十七萬餘圓を增加し、結局經常部に於て五百三十餘萬圓の增加を示し、臨時部に於ては主として軍艦水雷艇補充基金繰入の增加及新に設置したる治水費資金の繰入ある等に依り差引千二百三十餘萬圓を增加する爲め、歳入總額に於て千七百七十餘萬圓を增加す。明治四十四年度歳出を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては一方に於て既定の計畫に基く事業の進捗及軍備の充實等に依りて歳出の增加するものあるも、他方に於て國債整理基金の繰入及諸拂戻金等の減少するものあるが爲に差引三百九十六萬餘圓を減じ、臨時部に在りては一方に於て既定繼續費年割額の減少し、若は前年度限の費途にして本年度に於て之を要せざるが爲に歳出を減少するものあるも、他方に於て既定繼續費年割額の增加し、若は前年度に於て著手したる關門海峽の改良、神戸稅關防波堤の築造等に關し事業の進捗に伴ひ工費の增加するものある等の外、海軍軍備補充、治水事業、製鐵所擴張、蠶種統一等、國防の充實、國土の保全竝產業の發展上緊急缺くべからざる事項に關し、或は既定の計畫を擴張し或は新に特別の方策を定めたる等に依り歳出の增加するものあるが爲に差引二千百六十九萬餘圓を增加し、結局歳出總額に於て千七百七十餘萬圓の增加を見るものとす。以上明治四十四年度豫算に關し其の歳入歳出增減の大體を說明したり。本大臣は更に進で同年度豫算に關する財政計畫の綱領に就て一言せんと欲す。歳計の基礎を確實にし公債に對する信用を厚くするは、政府が前々年度以來鋭意其の實行に努めたる財政上の大方針なり。明治四十四年度豫算を編成するに方りても亦從來の方針を繼承し、財政基礎の鞏固を維持する範圍內に於て內外の情勢に鑑み國勢の進運上緊急已むを得ざる施設を實行するの政策を採れり。今其計畫の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

一、海軍の製艦及造兵方針に適當なる變更を加へ以て軍備の充實を圖ること。

二、治水の根本策を定め生民の厄災を除き國土の保全を期すること。

三、鐵道の改良及普及に努め以て交通機關の整備を圖ること。

四、新に帝國の版圖に歸したる朝鮮に對し其開發に必要なる各般の施設を爲すこと。

五、其他產業の發達國民經濟の進歩に必要缺くべからざる諸般の經營を行ふこと。

最近列國海軍の趨勢は其の製艦造兵の方針に一大革新を來し、艦型竝砲徑に於ても愈〻其の大を競ふに至れり。從て帝國海軍に於ても亦其の既定計畫に係る軍費の補充に關し製艦造兵の方針に適當なる變更を加へ、國防の充實を圖るの必要あり。政府は現下に於ける我財政の情態に鑑み其經常歳入を以て支辨し得べき範圍内に於て海軍軍備補充の計畫を改定し、既定繼續費に對し本年度以降六箇年間に亙り總額約八千二百萬圓を追加せんとす。而して本年度に於て其既定年割額に對し增加を要する金額は千四百八十萬圓なり。前年に於ける洪水は廣く各地方に亙りて多大の損害を及ぼし、人民の苦痛極めて大なるものあり。政府は之が應急の手段に於て違算なからんことを期し、又其復舊工事費に關しても或は國庫補助に就て臨機の處置を採り或は預金部より低利の資金を融通して地方費負擔に屬する經費の財源に充てしむる等專ら地方人民の負擔を輕減し、其恢復を速ならしむるの方法を講じたり。之が爲め既に國庫より支出し又は將來支出すべき金額は實に七百餘萬圓に達し、低利資金の貸出高實に千七百餘萬圓に上らんとす。而も之れ單に前年に於ける水害後の應急手段に過ぎず。抑〻本邦の國土たる、地勢の關係上容易に出水の害を見るの恐あり。政府は夙に河川の改良を實施し來れりと雖も、未だ充分に之が災厄を防止するに足らず。今にして早く百年の大計を定むるに非ずんば將來爲に國土を損じ生命を傷ひ又は財產を失ふ等其の慘害寔に測り知るべからず。是を以て政府は根本的治水策を定むるの一刻も猶豫すべからざるを認め、曩に特に臨時治水調査會を置き河川の改良、砂防の實施、森林の增植其の他治水に關する各般の計畫を其の議に付したり。爾來同會に於て周密なる調査審議を經たる結果、最近に及びて永遠に亙る治水策の成案を得たるを以て、政府は右の計畫に基き本年度以降之が實行を期せんとす。其の第一期事業に要する經費の總額は一億九千三百餘萬圓を算し、十八箇年間に完成するの豫定にして、本年度に於て要する經費は千二百七十九萬餘圓とす。右治水事業に要する經費は國庫竝關係府縣に於て之を分擔すべきは當然なりと雖も、其の經常歳入を以て年々必要なる金額の全部を支辨せしめんとするは負擔重きに過ぐるものと謂はざるべからず。故に政府は中央竝地方財政の負擔を考慮し姑く借入金を以て其の足らざる所を補ひ、以て一擧先づ其事業を完成し、然る後徐に之が償還を爲すを以て適當なりと認めたり。而して多年に亙りて此計畫の遂行を確實にするが爲には特別に其資金の經理を爲すを必要とするを以て、治水費資金に關しては特別の會計を設置せんと欲す。產業の發達上交通機關の整備を緊切とするは特に言ふを須ひず。今や財政の整理漸く其の歩を進むるに及び、交通機關の整備を圖り以て產業の發達に資し國運の發展を期するは刻下の急務たり。依て現在の鐵道に對して大に改良を加ふると同時に、新橋下關間の幹線を廣軌式に改築し竝既に著手したる線路の外更に數線の建設を規畫し、且既成鐵道の交通を補成すべき輕便鐵道の建設を奬勵するの計畫を立たり。之が爲め既定計畫に對し更に建設費に於て總額四千六百餘萬圓、改良費に於て總額二億七千四百餘萬圓を增加し、本年度以降前者は七箇年、後者は十三箇年を以て之を完成するの豫定なり。右改定の爲め本年度に於て支出すべき帝國鐵道建設及改良費の年割額は五千百九十三萬餘圓に達す。新に帝國の版圖に歸したる朝鮮に對しては其の開發に努め、以て新附の人民をして永く福利を享けしめざるべからず。依て朝鮮總督府の會計

は之を特別のものとし、其の歳入を以て其の歳出に應じ、足らざる所は之を一般會計より補充し以て必要なる施設を實行せんとす。本年度以降該特別會計に於て實施する計畫の主要なるものは鐵道の建設改良海陸連絡の設備・道路の修築・各種產業の補助及土地の調査等にして、或は從來の規模を擴張し或は新に計畫を立つる等、孰れも朝鮮に於ける富源の開發・民力の養成に必要なる所とす。而して本年度に於て一般會計より補充を要する金額は千二百三十五萬圓にして之を前年度に於て舊韓國の爲に一般會計より支出せし金額に比較對照するときは、純粹に一般會計の負擔を增加したる金額は百三十六萬圓なりとす。前年度に於ける大水害の後を承けて國費多端なるの際に方り、以上各般の施設を實行するの外、製鐵所の擴張・蠶種統一に關する事業等、產業の發達に資すべき計畫を定め、之に要する費額亦少からずと雖も、歳計全體を通じて努めて緊縮を圖りたるを以て、一般の歳計に於ては公債財源に依らずして能く歳入歳出の均衡を保つことを得たるのみならず、公債に關しては從來の方針を繼承し、本年度に於ても亦元金償還資金として五千萬圓を繰入するの計畫を定めたり。前年度に於て實行したる公債借換の成績を一言すれば、借換の爲に發行したる四分利公債は總額五億五千六百餘萬圓にして、之を以て償還したる五分利公債の總額は五億千八百餘萬圓なり。其の結果毎年利子を節約し得べき金額は三百六十餘萬圓に達すべし。公債の借換は永く國庫の負擔を輕減し財政上利益する所大なるのみならず、右低利借換の結果は自ら一般金利の低落を誘致し、產業の發達を刺戟し、之に依りて又間接に國庫を益するもの少しとせず。政府は今後も亦市場の情勢を按じ、適當と認むる方法に依り既定の計畫を遂行し、以て一旦著手したる事業をして能く終始する所あらしめんとす。

鑑て前年中に於ける我經濟界の趨勢を按ずるに、金融は常に緩漫の狀態を呈したるのみならず稀有の水害は各地に於ける產業を害し、地方人民の購買力を損じたるが如しと雖も、同年中銀行會社の新設又は擴張の計畫を爲したるもの約四億八千餘萬圓に達し、現實社債又は株金の拂込を爲したるもの約二億圓に上り、大體に於て各種の事業漸次穩健なる發達の兆を呈しつつあるは一般に認めらるる所にして、殊に製造工業に要する資金最多額を占め、其計畫に係るもの約一億四千萬圓に達せるは良好の傾向と言はざるべからず。本年度に於ては諸般の財政的施設と相俟て更に一層良好なる狀況を呈すべきは疑を容れざる所なり。又同年中に於ける我外國貿易の狀況を見るに輸出額四億六千四百餘萬圓、合計九億二千二百餘萬圓、輸入額四億五千八百餘萬圓に超過すること僅に五百八十萬餘圓なり。之を前年度の貿易額に比較するに、輸出に於て四千五百餘萬圓、輸入に於て七千萬圓、總額に於て實に一億千五百餘萬圓を增加せり。若し右輸出入額に更に內地朝鮮間に於ける貨物の移出入を加算するときは、輸出輸入各四億七千二百餘萬圓、合計九億四千四百餘萬圓にして、之を最近貿易額の最多かりし明治四十年に比するも尙總額に於て千八百餘萬圓を增加す。更に昨年中に於ける貿易の內容を按ずるに、輸入に於ては主として生產原料を增加し、輸出に於ては全製品を增加せるの實蹟を見る。以て我內地の產業が近時漸く長足の進步を爲しつつあることを知るべし。之を要するに大戰役の後を承けて財政上愼重の注意を要すべき秋に方り、上下心を協せて財政の緊縮を斷行し、國債償還の大計を確立し、鋭意之が整理に努めたるの結果、公債の市價漸次恢復し、戰時匆々の際に制定したる稅法は大體の整理を經、公債の低利借換亦其の進行の途に在り。

緊急已むを得ざる各般の施設漸次其の實行を見るに至りたるは本大臣の深く喜ぶ所なり。本大臣は諸君の愼重審議以て速に豫算案に協贊を與へられんことを望む。』

衆議院豫算委員會に於ては審議の結果、其の一部に修正を加ふることに決し、二月十四日豫算委員長原敬は委員會に明ける審議の經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『委員會は明治四十四年度總豫算に就て審査の結果、司法省所管監獄費中より今年新に增加要求せられたる分を削減し、五百七十二萬六百九十二圓を五百四十二萬五千八百二十八圓と修正したり。是れ新刑法實施以來執行猶豫の範圍大に擴まり、其の他種々法律上の改正を加へたるに拘らず、却て在監人の年々增加するを見るは甚だ其の當を得ざるにより、十分司法當局の反省を促したるなり。次に遞信省所管發電水力調査費三十萬圓は二十七萬圓に修正したり。右削減の結果として明治四十四年度歳入總額を五億五千二百三萬二千五百三十九圓に、歳出總額を五億五千百七十萬七千六百七十五圓に修正したり。又製鐵所擴張費は四十四年度以降四箇年の繼續費なりしを五箇年に修正せり。尤も總額及本年度年割額に異動なし。次に大藏省所管帝國鐵道特別會計に廣軌改良に關する經費を計上せり。廣軌案は原則として必ずしも否なりとするにあらざるも、此の如き問題は財政其の他の關係に於て十分調査を要するものなれば、今俄に解決するの必要なかるべしとの意見ありて、政府も亦之に同意せり。其の結果資本勘定に於て多少の修正を見たり。玆に數字の大體を述ぶれば帝國鐵道建設及改良費の既定總額三億四十三萬千六百八十九圓は異動なしと雖も、追加要求の三億二千百五十四萬九千七百三十三圓は九千六百一萬六千三百三十三圓に改めたり。從て總額六億二十餘萬圓は三億九千六百四十四萬八千二十二圓となれり。又輕便鐵道建設費は總額七百萬圓中未定線に屬する費額三百八十萬圓を削減せり。但し四十四年度の年割額百萬圓は原案通とす。以上は豫算審査の結果なるが、特に玆に一言すべきは、右修正を爲すに當り豫算總會に於て一人の反對論者をも見ざりしことと是なり。次に豫算委員會の希望を報告すべし。（一）外務省所管に於て外交の施設甚だ不十分なりと認め、殊に對淸施設に就ては向後一層の活動を希望せり。（二）內務省所管に於て政府が治水の大策を立て法案を提出せるは頗る滿足を表するに足るも、愈〻之を實行するの曉に改良すべき河川の支川に屬するものも從來地方經濟に放委して深く顧みざる嫌あるを以て、大に地方官を督勵して相當の改良を加へ、且改良工事を施行するに當り、電氣事業若は鐵道敷設等に於て往々水利を害するの虞あるを以て、大に是等諸點に注意し、又爆發物倉庫修繕費等に關しては多少の異議なきにあらずと雖も、此の際經費を削減せざるが故に、十分注意して將來の危險を防止せんことを希望したるに、政府は十分注意すべき旨を言明せり。（三）大藏省所管歳入經常部に於て租稅印紙收入に關し算出方法區々一ならざるを以て之を改良し、以て豫算額と決算額との適合を計らんことを希望し、又預金利子の豫算には利子支拂手數料等相當なるものを增加すること、及歳入臨時部雜收入中に利子收入の豫算を加へ相當の金額を計上すること、卽ち在外正貨運用の利子又は日本銀行預金の利子等年々相當の收入あるを以て、此の如きものを計上せんことを希望したるに、政府は明年度より之を實行すべき旨を言明し、又前年度繰入金に關する希望に對しては政府は其の數字に於ては希望者の謂ふ所の如きも、豫算を編成するに當りて其の數を明に見ること能はざるが故に、俄に同意を表し難きも十分勘考すべき旨を言明し、又歳出に於て貯蓄債券取扱手數料の件に關し、勸業銀行に對し從來一分一厘卽ち二十萬六千二百九十六圓を交付せる

も、最早斯く多額を交付するの必要なかるべきに依り、其の減少を計らんことを希望したるに、政府は勧業銀行に對し交渉を試むべき旨を言明し、又大藏省預金利子特別會計に關しては、預金規則は既に多くの年所を經、且今日の如き巨額の預金を取扱ふ上に於て適當ならざるものと認めこれを改正せんことを希望したるに、政府は同じく改正の必要を認むる旨を言明し、而して此の改正を行ふに就ては地方公共貸付金の範圍を擴張し、預金は成るべく地方に散布すること、及利子制定の方法を嚴重にすること、卽ち預金利子貸出利子は共に經濟の狀況事業の性質に依り高低の必要あるが故に、其の方法を講ずること等を希望したるに、政府は同意の旨を言明し、又利子仕拂元積立金を整理し一般會計に繰入るること、卽ち預金部に於て增殖したる利子中其の幾部分を一般會計に組入れ以て國家必要の財源に充てんことを希望したるに、政府は十分勘考すべき旨を言明し、又特別會計法は屢〻制定せられ區々に亙るの嫌あるを以て、今日に於て相當の改正を要すべく、殊に臺灣特別會計の如きは多額の剩餘金を生じ居るが故に、其の取締方法に就ても大に講究せざるべからず、又特別會計は一般會計の如く會計法の制裁を受くること嚴重ならざるが故に、之を改正せんことを希望したるに、政府は十分勘考すべき旨を言明し、(四)陸軍省所管に於て營繕及初度調辨費と戰後整理費との二款、明治三十九年法律第五十二號に據り臨時軍事費繰延額とを合併し、其の年割額を適當に按排し、以て事業費の整理を圖らんことを希望したるに、政府は同意の旨を言明し、又馬政は一般生產事業に於けるが如く農務に屬するの寧ろ相當なるを以て、其の所管に就て十分考慮を費さんことを希望したるに、政府は注意勘考すべき旨を言明し、(五)海軍省所管に於て菰浦大砲發射場位置の變更に就ては其の事情を諒とせざるにあらざるも將來此の如きことを繰り返さざるべく警告したるに、政府は十分注意すべき旨を言明し、又朝鮮に於ける海軍用地經營に關し朝鮮總督府に於て適當なる道路を造るを相當と認むるものに對し、海軍省に於て之が施設を爲すの計畫ありしを以て、之を改めんことを希望したるに、政府は注意勘考すべき旨を言明し、又德山に於ける煉炭製造事業は海軍採炭所作業會計中に組入るるを相當なりとし、十分調査を遂げ適當の處置あらんことを希望したるに、政府は之を調査すべき旨を言明し、又官設工廠に於ける民間委託事業に關し民間事業と競爭し之を壓迫するが如き弊に陷るなからんことを希望したるに政府は注意すべき旨を言明し、陸海軍兩省所管の官設工廠に使役せらるる職工中多年の勤續者に對しては、退職の際何等かの恩給的方法を設けんことを希望したるに、政府は注意すべき旨を言明し、又繼續費の性質を帶ぶる費目は將來全體の年度割を明示あらんことを希望したるに政府は之を容認する旨を言明し、(六)司法省所管に於て在監人減少に關する件に就ては十分之を注意し、(七)農商務省所管に於て政府は製材所の經營は適當の時期に於て之を民業に移し、又民業を壓迫せざる方針を以て經營しつつありと云ふも、事實は往々之に反し動もすれば民業と競爭の狀態を呈する傾向あるを以て、將來此の弊を絕たんことを希望したるに、政府は十分注意すべき旨を言明し、又鐵道院に於て廣軌案に關する經費を削除したるに就ては當局は更に之が調査會を設くることを言明せるに依り、貴衆兩院及民間より適當の人物を選擇し以て公平愼重の審査を遂げんことを希望したり。』

次で武富時敏は豫算委員長の報告に反對して左の如く陳述せり。

『余は豫算委員長の報告に反對すると同時に、豫算の編成を更めしむる爲め之を政府に返戻するの動議を提出するものなり。桂侯が大藏大臣として本豫算を紹介するに方り其の末段に於て財政の緊縮を斷行し國債償還の基礎を確立し、而して戰時制定に係れる稅法も既に大體の整理

を終りたりとて得色揚々たるものありき。然り財政緊縮・國債償還及稅制整理の三者は現政府の夙に宣明する所の政綱たり。今其の是非は姑く措くも政府は全力を傾倒して其の貫徹を期するの責あり。然るに何事ぞ未だ其の一端だも遂行せず、恬然大聲揚言して其の事既に了せりと言ふ。是れ豈虛妄の甚しきものにあらずや。乞ふ試に之を問はん。政府は果して如何なる場合に財政の緊縮を行ひたるか。或は先年の各省事業繰延に藉口し是れ其の一端なりと言はん。然れども繰延は節約にあらず、之を以て財政の緊縮と云ふ、誰か牽強を嗤はざらんや。繰延尙可なり。蓋し爲さずして止むに勝る。然らば政府は繰延に於て此の上一步も餘地なき迄に能ふ限を盡したりやと言ふに事實は然らず。未だ著手せざる事業に向ひ功程如何に頓著なく續々莫大の豫算を要求しつつあり。現に陸軍省所管に係る兵器彈藥費の如き、工廠の製造能力不足にして豫算の定額を支出し盡す能はざるに拘らず、莫大の豫算を計上し置けるは豫算委員會に於ける石橋氏の質問之を證して餘あり。獨り陸軍省のみならず各省比々として然らざるなく、事業費の豫算定額を支出し了らずして後年度に巨大の繰越を爲すもの殆ど一般普通の事例たり。更に甚しきに至ては經常部に於ける俸給・廳費の如きすら年々尠からざる剩餘金を生じつつあり。政府の無誠實なる、斯る瞞著手段を以て歲々過大の豫算を貪り、而して年々の決算に於て遺憾なく正體を暴露しつつ、尙且口頭のみ財政緊縮斷行なりと稱す。片腹痛き極にあらずや。又政府は先年千三百萬圓の官吏增俸を要求し、同時に行政整理を實行し約五百萬圓を餘し得たりと稱するも、所謂行政整理なるものは官制上の定員と各廳奉職の現員とを近からしめたるに過ぎず、畢竟紙上の整理にして事實の整理にあらざるを以て、員數に於て從前と大差なく十有六萬の官吏は依然全國に充滿せり。事實斯の如くにして徒に財政を緊縮せりと言ふ。誰か之を首肯せん。是れ本員が本豫算を政府に返戻し、編成換を爲さしめんと主張する第一理由たり。政府は國債償還の基礎確立し、年々五千萬圓以上の償還を實行しつつありと聲言するも果して所言を實現しつつありや。成程四十三年度に於て五億二千三百萬圓を償還せり。而も同時に一方に於て四分利公債約五億六千三百萬圓を發行せり。則ち內國債に於ては二回に二億七千五百萬圓の四分利公債を、外國債に於ては四分利英貨及佛貨公債約二億八千八百萬圓を發行し、以て五分利公債五億二千三百萬圓を償還したりしなり。是れ償還にあらずして借換なり。夫れ借換必ずしも非難すべきに非ず。然れども國債償還の目的は國債所有者に現金を交付し國債額を減少するに在り。而も政府の爲したる所は全然之に反し、借金を以て借金に振換へし迄にて、曾に國債額を減少せざるのみならず、四十三年一月に於て二十五億有餘萬圓を算し公債は四十三年末に於て二十六億數千萬圓を算し、總高に於て三四千萬圓の增加を見る。多年五六千萬圓の國債を償還すべしと聲明したる政府が唯に其言を食むのみならず、敢て公債借換の爲四千萬圓の國債を增加せり。如上の事實を以て推せば四十四年度豫算に於て四十二年度以降國債未償還金繰越七千二百萬圓及一般會計より五千萬圓を償還すべしとあるも、眞僞甚だ覺束なきものあり。抑國債整理基金は國民が戰時非常の際に於て痛苦を忍び負擔し來りたる租稅中より、毎年一億一千萬圓を繰入れて國債償還の資に充てたるものなり。然るに徒に之を國債整理基金部に積み置き國債の償還を行はず、借換に借換を重ねて在外正貨保留を圖る遣繰手段に供し、而も洒然自ら贊して國債償還の基礎を確立すと說くに至りては、竪を鳴らして之を攻めざるべからず。是れ本員が本豫算を政府に返戻し編成換を爲さしめんと主張する第二理由たり。政府は大體に於て旣に戰時稅の整理を了せりと云ふも是れ亦無實の譫語のみ。成

程嚢に非常特別稅たりし地租をば先年八厘を減じて永久稅とせり。然れども此の他兵馬倥傯の際制定したる所得稅・通行稅・營業稅・繊物稅及鹽專賣等の改正若は廢止を必要とするものに至ては、政府も亦夙に認めつつありと稱せるに拘らず、平和克復以後六年の今日に於て國民一般依然として戰時同樣の惡稅に苦しめられつつあり。嗚呼是れ果して何の狀ぞ。若夫れ此の種稅法の改廢斷行に由りて歳入の缺陷を憂ふるならば、則ち政府の標榜する如く眞に財政の緊縮を實行し、不急の事業を廢し、且又事業の功程を標準として過大の豫算を切詰むれば惡稅の改廢立ろに成るべし。若又斯の如くして尙且缺陷を補ふに足らずんば、百尺竿頭更に一步を進めて國債償還基金の政策を撤去せよ。歳入歳出の均衡を得る蓋し易々の業たるのみ。是れ本員が本豫算を政府に返戻し編成換を爲さしめんと欲する第三理由たり。本員等は以上三箇の理由を以て豫算返却の動議を提出し、滿場諸君の贊成を求む。』

次で大岡育造の豫算案返付の動議に對する反對論、島田三郎の贊成論、井上角五郎の豫算委員長の報告に對する贊成論、早速整爾の反對論あり。次に早速整爾・高木正年・高木益太郎・佐々木安五郎・武田貞之助は豫算案に對し修正案を提出せり。斯くて討論終結し、議長は先づ豫算返付の動議に就き採決したるに少數にて否決せられ、次で修正案を順次採決したるに孰れも少數にて否決せられ、豫算委員長報告の通全部可決確定したり。今政府原案と衆議院議決額とを對照すれば左の如し。

區分	政府原案	衆議院議決額	差引削減額
歳入			
經常部	四九二、一三八、〇〇〇円	四九二、一三八、〇〇〇円	○
臨時部	五九、八九四、五三九	五九、八九四、五三九	○円

歳出			
經常部	四〇七、一六三、九九一	四〇六、八六九、一二七	二九四、八六四
臨時部	一四四、八六八、五四八	一四四、八三八、五四八	三〇、〇〇〇
合計	五五二、〇三二、五三九	五五一、七〇七、六七五	三二四、八六四

貴族院に於ては二月十四日衆議院より明治四十四年度豫算案を受領し、同月二十日より豫算委員會を開きて愼重審議の結果、衆議院議決の通可決すべきものと決定し、三月十三日豫算委員長曾我祐準は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算委員會に於ては委員より十三項に亙る質問あり各主務大臣より之に答辯せり。中に就き小學校教員俸給國庫補助の件は政府も曩に下賜されたる　詔書に奉答する誠意を以て追加豫算として本議會に提出すべき旨總理大臣より明言ありたり。明治四十四年度の總豫算は歳入歳出總額五億五千二百三萬餘圓なりしも、衆議院に於て司法省經常部・遞信省臨時部にて約三十二萬圓の削減を加へたり。本委員會に於ては各分科審査報告後各案全部異議なく衆議院査定案の通可決せり。尙議院建築の延期と教育基金補塡の二件は、各所屬分科に於ても委員總會に於ても共に全會一致を以て議決せり。』

斯くて採決の結果總て豫算委員長報告の通卽ち衆議院修正案の如く可決確定したり。

右貴衆兩院の協贊を經たる明治四十四年度歳入歳出總豫算は裁可を經て明治四十四年三月二十一日左の如く公布せられたり。

明治四十四年度歳入歳出總豫算表

歳入		歳出	
經常部	四九二、一三八、〇〇〇円	經常部	四〇六、八六九、一二七円
臨時部	五九、八九四、五三九	臨時部	一四四、八三八、五四八
合計	五五一、七〇七、六七五	合計	五五一、七〇七、六七五

科目	金額
歳入	
經常部	
租稅	円 三三四、〇九八、四二八
地租	七五、〇七二、七五五
所得稅	三二、九六八、二七八
營業稅	二四、一八四、七八三
相續稅	一、八六二、九四七
通行稅	三、一八四、四四〇
鑛業稅	二、〇一三、一七七
兌換銀行券發行稅	一、〇三二、八九七
酒稅	八八、七二七、三五〇
醬油稅	四、六八〇、八六四
砂糖消費稅	一四、七七、二六三
織物消費稅	一八、六二、七、五六四
石油消費稅	二、一二一、四八九
賣藥營業稅	二〇一、五〇六
取引所稅	三、六六二、二一〇
關稅	五〇、五二四、四六五
噸稅	五八、七四二〇
印紙收入	二五、〇二六、一五〇
雜收入	円 四六八、一九一
官業及官有財產收入	三五四、七一五
郵便電信及電話收入	一三〇、一五六
森林收入	四三四、一三三
配當金收入	六五七
囚徒工錢及製作收入	七、八五一、〇四四
官有物貸下料	七、八九六、三四二
印刷局益金	五、六九六、四〇四
專賣局益金	一、五二四、九二四
東京砲兵工廠益金	五、一八〇、四一四
大阪砲兵工廠益金	五二五、九二八
千住製絨所益金	四九二、一三八、〇〇〇
海軍採炭所益金	二、三〇九、二四四
海軍工廠賚金材料物品賣拂益金	一、〇〇〇
電信燈臺用品製造所益金	二四五、二三九
雜收入	六、二六二
免許及手數料	一、五二四、九二四
懲罰及沒收金	三九六、三五五
辨償及違約金	一三五、五一四
家畜拂下代	四、一四五、一九五
船舶拂下代	三〇七、四五七
物品拂下代	二三四、九七四
建物拂下代	二、九二四
地所拂下代	二四五、二三九
鑛山拂下代	一、〇〇〇
官有物拂下代	二、三〇九、二四四
經常部合計	四九二、一三八、〇〇〇
臨時部	
砂糖消費稅繰入	五二五、九二八
臺灣事業公債及借入金償却繰入	五、一八〇、四一四
臺灣特別會計ヨリ繰入	五、六九六、三四二
預金利子繰入	七、八五一、〇四四
預金利子繰入	二四五、二三九
小笠原島地方收入	六五七
校自費生納金	四三四、二三一
一年志願兵及幼年學	一三〇、一五六
及遺族扶助料法納金	三五四、七一五
學校圖書館職員退隱	円 四六八、一九一
官吏遺族扶助法納金	四六八、一九一
雜收入	円 四六八、一九一

科目	金額
海軍受託造修收入	三二九、五七三
返納金	一、七六九、三四四
清國償還金收入	二、一四四、二三八
雜收入	一三、〇三〇
港灣設備納付金	六〇〇、〇〇〇
港灣設備納付金	六〇〇、〇〇〇
公債募集金	二、七五〇、〇〇〇
臺灣事業費繰替借入金	二、七五〇、〇〇〇
森林資金繰入	二、七五五、七二八
森林資金繰入	二、七五五、七二八
陸軍營繕費補充資金繰入	四八、八八八
陸軍營繕費補充資金繰入	一一〇、八五九
軍艦水雷艇補充基金繰入	四、六八一
軍艦水雷艇補充基金繰入	五、四八三
貨幣整理資金繰入	三一、九二二
貨幣整理資金繰入	八六、一五三
治水費資金繰入	一三、八四五、四六七
治水費資金繰入	一三、八四五、四六七
獻納金	二八一、六二七
學校創立費獻納金	二八一、六二七
前年度繰入金	三、七二七、一四七
前年度繰入金	
臨時部合計	三、七二七、一四七
歳入總計	五五三、〇三三、五三九
歳出	
經常部	
皇室費	六〇〇、〇〇〇
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
外務省所管	
外務本省	七九〇、四四六
俸給	四、五〇〇、〇〇〇
廳費	一一〇、八五九
修繕費	四八、八八八
旅費	四、六八一
雜給及雜費	五、四八三
傭外國人諸給	三一、九二二
電信料	一五、〇〇〇
宴會費	五、〇〇〇
常設仲裁裁判所費分擔金	六二四
外國留學生費	一八、〇〇〇
機密費	四〇、〇〇〇
在外公館	三、四三九、八六八
俸給	一、八〇〇、〇〇三
館費	四二六、八四九
旅費	一八七、一二一
傭外國人諸給	三六、八七五
裁判及登記諸費	二、四七四
在留民取締費	一七九、七七一
在監人費	一五、九三三
地所家屋借料	三三四、二七二
電信料	三〇〇、〇〇〇
宴會費	一五六、五八〇
諸支出金	一八、七一三
諸支出金	一八、七一三
合計	四、二四九、〇一七
內務省所管	
神宮費	七〇、〇〇〇
神宮費	七〇、〇〇〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	二三四、九九七
官國幣社費	二〇、〇〇〇
國幣社例祭幣帛料	三、三五〇
招魂社諸費	一一、六四七
內務本省	四九七、六二八

科目	金額	科目	金額	科目	金額
俸給	円 一八六、一二九	俸給	一六六、八九六	修繕費	三〇、九〇五
廳費	四三、三四四	廳費	一四、一六二	旅費	九三七、四七三
修繕費	四四、四〇〇	修繕費	三、九三〇	雜給及雜費	四四九、五七二
旅費	三七、八一八	旅費	二、五一〇	徵兵費	四三、三二一
雜給及雜費	六七、〇七三	雜給及雜費	六〇、七四一	傭外國人諸給	七、二〇〇
萬國協約分擔金	二、八九四	徵兵費	九、〇〇〇	警察費連帶支辨金	二、六二六、七九五
機密費	八六、七〇〇	警察費連帶支辨金	五六八、八九四	港務費	一四一、五九二
北海道廳	三九、四〇〇	港務費	二七〇、九九六	海港檢疫費	五八、八七七
俸給	三〇、〇〇〇	海港檢疫費	四一、一四九	機密費	一三〇、〇〇〇
廳費	一三二、八六一	機密費	六、三〇六	地方費	六七、七三三
修繕費	一四、九七六	地方費	八一、二八六	小笠原島地方費	二七、一五八
旅費	三八、五〇五	小笠原島地方費	五四、三三三	島地警察費	四〇、三〇五
雜給及雜費	一五、〇六六	島地警察費	二四、九三四	機密費	三六〇
徵兵費	五四、八六九	機密費	一一、一五六	補助費	一、〇六一、九八三
警察費連帶支辨金	二四、四二	補助費	七五、三四四	傳染病豫防費補助	三八三、三一八
舊土人保護費	一八二、六〇七	傳染病豫防費補助	三、六〇〇	地方感化院費補助	一〇〇、〇〇〇
機密費	二九、八九五	地方感化院費補助	八、四九三、〇八五	地方費補給	四二九、七六五
俸給	一四、九七六	地方費補給	三、三三、一六七	古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇
府縣	一三七、七三六	古社寺保存補助及補給費	二七五、一九二	諸支出金	二三八、七六六
廳費	二六六、二四九	諸支出金	二、一六六、八六〇	合計	一二、八四四、七三五

科目	金額	科目	金額	科目	金額
諸支出金	二三八、七〇六	賚賞費	四八、二六六	雜給及雜費	三〇、〇〇〇
合計	**二、八四四、七三五**	文官試驗費	四、七五五	會計檢查院	三二七、一六四
大藏省所管		文官懲戒諸費	九三二	俸給	一八七、〇四三
大藏本省	三七一、三七五	機密費	一〇〇、〇〇〇	廳費	六、一〇三
俸給	一五〇、六〇八	樞密院	七、八五一、〇四四	修繕費	一、〇七五
廳費	三七、一九四	俸給	二三、七五九	旅費	二六、四九四
修繕費	五、〇八五	廳費	二二五、二二五	雜給及雜費	一六、四四九
旅費	二五、五五三	修繕費	二、八一三	行政裁判所	七四、四四一
雜給及雜費	六九、九五五	雜給及雜費	一六、四四九	俸給	六三、一四七
關稅訴願審查委員會費	二、八四四	貴族院	一、一一〇	廳費	二、三〇六
萬國關稅表刊行同盟費	五七八	議員諸費	一七、九一七	修繕費	八六七
證券類取扱費	三九、五一九	俸給	四、九一七	雜給及雜費	八、三三一
預金利子及手數料	七、八七四、五三三	廳費	七、八五一、〇四四	拓殖局	八五、一九七
預金利子	七、八五一、〇四四	修繕費	二三、四七九	俸給	三八、七六七
利子拂手數料	二三、四七九	雜給及雜費	二五、二五五	廳費	一六、六一〇
內閣	三四五、五七九	衆議院	九二、二四四	修繕費	一、〇〇〇
俸給	一三、七五〇	議員諸費	八〇七、七八三	旅費	九、七六三
廳費	三三、〇五八	俸給	三四、三一八	雜給及雜費	一九、〇四七
修繕費	二、七五八	廳費	三八、四七一	稅關	一、三一、〇一九
雜給及雜費	四二、〇四〇	修繕費	一、七九七	俸給	五三〇、五四〇

科目	金額
廳費	三二、四五八円
修繕費	四七、五四二
旅費	三三、二四九
雜給及雜費	二六五、一九一
處分費	一七、〇四〇
機密費	三、〇六七
配當金	二、九〇一
內國稅徵收費	六、八九九、四四五
俸給	二、六四三、〇〇〇
廳費	四七七、二五八
修繕費	一三、八八〇
旅費	一、〇八六、三五七
雜給及雜費	七三、〇五七
調查費	一六四、〇六四
處分費	八〇、五六八
印紙類諸費	九三、一三八
市町村交付金	一、七三七、九八三
釀造試驗費	五四、五五五
俸給	一三、八八〇
事務費	八五、七六三円
事業費	八五、七六三
橫濱港維持費	三、〇〇〇、〇〇〇
俸給	一、〇〇〇、〇〇〇
事務費	二、〇〇〇、〇〇〇
維持費	一八五、二九、三〇六
國庫金取扱及金融事項調查監督費	二四二、七九三
仕拂命令及保管金引出切符用紙製造費	四〇、一三八
貯蓄債券取扱手數料	三、六七五
諸拂戻及缺損補塡金	二一、〇六三
諸拂戻金	七八、八三七
缺損補塡金	七二、八五五、九一二
輸出交付金	二〇、九六六、四一三
國債整理基金繰入	一、一〇〇、二九八
國債整理基金繰入	一、三八五、八五八
軍艦水雷艇補充基金繰入	二、五三七、七三〇
軍艦水雷艇補充基金繰入	一、四七五、九四六
諸支出金	八五、七六三円
諸支出金	八五、七六三
國庫豫備金	三、〇〇〇、〇〇〇
第一豫備金	一、〇〇〇、〇〇〇
第二豫備金	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	一八五、二九、三〇六
陸軍省所管	
陸軍本省	三八六、四九六
俸給	二四二、七九三
廳費	四〇、一三八
修繕費	三、六七五
旅費	二一、〇六三
雜給及雜費	七八、八三七
軍事費	七二、八五五、九一二
俸給	二〇、九六六、四一三
廳費	一、一〇〇、二九八
修繕費	一、三八五、八五八
旅費	二、五三七、七三〇
雜給及雜費	一、四七五、九四六

科目	金額
諸手當	一、三八四、一五二
外國駐在員費	一二八、五六八
囑託料	二〇、九五〇、八三三
被服費	七、五〇八、一六五
兵器彈藥費	六、一五〇、五九三
馬匹費	一、八六四、四四五
演習費	一、八四七、五三三
患者費	三八二、一七五
軍隊需品費	一、八九九、三八八
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	四三四、二三二
在監人費	六八、六二三
兵要地圖費	六、五四五
供奉費	二、六四〇
輸送費	一、三三二、四二六
機密費	三一九、三〇〇
憲兵費	一、八七九、四〇〇
俸給	八一六、六二四
廳費	一四六、四〇七
修繕費	三、五〇〇
旅費	一九八、〇九九
雜給及雜費	一六三、七七八
事業費	四〇、八四五
靖國神社寄付金	三四五、三五〇
諸支出金	四七、九九〇
諸手當	二七、七三二
在監人費	一六、五三〇
雜給及雜費	五、〇八九
廳費	三九、〇六
俸給	八一六、六二四
廳費	一四六、四〇七
修繕費	三、五〇〇
旅費	一九八、〇九九
雜給及雜費	一六三、七七八
事業費	四〇、八四五
靖國神社寄付金	三四五、三五〇
諸支出金	四七、九九〇
諸手當	二七、七三二
在監人費	一六、五三〇
雜給及雜費	五、〇八九
廳費	三九、〇六
俸給	八一六、六二四
廳費	一四六、四〇七
修繕費	三、五〇〇
旅費	一九八、〇九九
雜給及雜費	一六三、七七八
事業費	四〇、八四五
靖國神社寄付金	三四五、三五〇
諸支出金	四七、九九〇
諸手當	二七、七三二
在監人費	一六、五三〇
雜給及雜費	五、〇八九
廳費	三九、〇六
俸給	八一六、六二四
廳費	一四六、四〇七
修繕費	三、五〇〇
旅費	一九八、〇九九
雜給及雜費	一六三、七七八
事業費	四〇、八四五
靖國神社寄付金	三四五、三五〇
諸支出金	四七、九九〇
諸手當	二七、七三二
海軍省所管	
海軍本省	一九四、一九三
俸給	一四七、六五六
廳費	一五、六九九
修繕費	三、五〇五
旅費	七、三五三
雜給及雜費	一九、九七九
軍事費	四〇、五三一、二三九
俸給	一三、一八一、三三四
廳費	四四一、五六九
修繕費	二五八、五一一
旅費	六三一、八四〇
雜給及雜費	三三〇、三四五
諸手當	三八四、三〇六
雜給及雜費	九七七、七五〇
事業費	七、五五〇
靖國神社寄付金	三七一、六九一
諸支出金	三七、六九一
諸支出金	七六、三七一、三三六

科目	金額
衣糧費	七、一四〇、七四四円
造船造兵及修理費	一一、四二九、六六〇
艦型試驗費	九、九〇一
演習費	二八六、七三四
患者費	二五九、六七三
軍港要港費	三九〇、七三三
艦營費	六、〇八四、一二八
扶助金	三三、〇四九
在監人費	六、三三一
水路費	二六八、二六九
傭外國人諸給	一四、〇四〇
機密費	八〇、〇〇〇
艦船經費繰替金	三〇、〇〇〇
諸支出金	三〇、九〇七
合計	四〇、七四六、三三八
司法省所管	
司法本省	
俸給	一五六、六三三
廳費	一八、七七七円
修繕費	一、四三〇
旅費	七、二四七
雜給及雜費	一八、七三〇
判事檢事及辯護士試驗費	六、五〇五
外國司法制度視察費	一四、九七七
裁判所	
俸給	六、〇七七、五九九
廳費	三、八七七、九四一
修繕費	四四八、二四三
旅費	六八、一三三
雜給及雜費	二二一、八八三
監獄	
俸給	九六九、一三七
廳費	四四七、二六三
修繕費	二〇、九〇七
旅費	一、四三〇
雜給及雜費	二九、五六九
裁判及登記諸費	四五、一〇一
機密費	九、七一六
俸給	一〇、〇九七
廳費	四、五六九
修繕費	一〇、〇〇〇
旅費	二〇、〇〇〇

科目	金額
雜給及雜費	一八、七七七円
在監人費	一、四三〇
諸支出金	七、二四七
諸支出金	一八、七三〇
合計	六、五〇五
文部省所管	一一、七三三、七五二
文部本省	
俸給	五六一、七五九
廳費	一一、七七二
修繕費	一四、九二四
旅費	三、一五〇
雜給及雜費	一六、四〇〇
編輯書費	二九、五六九
帝國學士院費	四五、一〇一
教員免許及檢定費	九、七一六
萬國理學文書目錄委員會加盟諸費	一〇、〇九七
美術奬勵費	四、五六九
文藝及通俗教育奬勵費	一〇、〇〇〇
外國留學生費	二〇、〇〇〇
大學及學校圖書館支出金	二、三四一、一三九円
東京帝國大學	三八、〇五一
京都帝國大學	三、五二六
東北帝國大學	四八、六三四
九州帝國大學	四三、八六三
學校及圖書館	二〇、九一〇
府縣立師範學校長俸給	三四、七八八
普通教育費	二四、二九二
小學校教育費補助	二〇、八二三
教育資金配當金	一一、八六四
實業教育奬勵費	七、五〇〇
實業教育費補助	一九七、六七九
實業教員養成費	九八、一六六
實業教員養成費支出金	五七、四〇七
諸支出金	一、一二八
諸支出金	三、七五二
合計	三六、九六八
農商務省所管	二四八
農商務本省	
俸給	七五八、四二七

科目	金額
萬國學術協會費	四、四七六
震災豫防調査會	二一、五七九
修繕費	一、一四四
調査費	二〇、三五五
測地學委員會	八、四八三
修繕費	一〇〇
調査費	八、三八三
中央氣象臺	七一、二〇九
俸給	三三、四九六
廳費及修繕費	二六、二五八
雜給及雜費	二一、四五五
緯度觀測所	八、五七一
俸給	五、二四三
廳費及修繕費	一、九六六
雜給及雜費	一、三六二
醫術及藥劑師試驗費	八〇、一九五
俸給	二、三三〇
廳費及修繕費	四、六三七
雜給及雜費	三一、八九
病院費	四一、三三九
俸給	五、二七八、六六一
廳費	一、三五八、八三八
修繕費	八四〇、〇〇〇
旅費	二六四、四七七
雜給及雜費	一〇〇、〇〇〇
監獄	
俸給	二四八、六〇〇
廳費	三八、〇五一
修繕費	三、五二六
旅費	四八、六三四
雜給及雜費	四三、八六三
萬國協約分擔金	三〇、九一〇
度量衡費	三四、七八八
調査事業費	二四、二九二
商品陳列館諸費	二〇、八二三
種牡牛檢查費	一一、八六四
重要技術員養成費	七、五〇〇
特許局	一九七、六七九
俸給	九八、一六六
廳費	五七、四〇七
修繕費	一、一二八
旅費	三、七五二
雜給及雜費	三六、九六八
審判及審查諸費	二四八
森林費	四、五三、二六三
俸給	七五八、四二七

科目	金額
廳費	一三三、六三三円
修繕費	一一、九三八
旅費	二〇五、六七七
雜給及雜費	一八〇、一四三
事業費	三、二九三、四四六
鐵山監督署	
俸給	三八六、五八二
廳費	二三三、六五〇
修繕費	五六、六一〇
旅費	八四、一〇二
雜給及雜費	三一、二一〇
農事試驗場	
俸給	八一、九九七
事務費	二三、四九七
事業費	一〇五、二一六
水產講習所	
給費	三五、〇二五
事務費	三一、六三六
事業費	八一、一四七

科目	金額
蠶業講習所	二七、六九二円
俸給	七四、六一九
事務費	二三、三〇九
事業費	一三、三三八
生絲檢查所	四九、一八二
俸給	九〇、五九一
事務費	八、四四八
畜產改良費	四、六四六
補助費	七七、四九七
農會補助	四四四、〇〇〇
產業試驗費講習費補助	一三八、五〇〇
蠶病豫防費補助	一七五、五〇〇
輸出羽二重檢查費補助	一〇〇、〇〇〇
諸支出金	三〇、〇〇〇
合計	四四、〇五五
遞信省所管	四四、〇五五
遞信本省	七、三三三、八三三
事業費	七三四、九八七

科目	金額
事業費	一七五、七八四円
原蠶種製造所	四九、一〇五
俸給	三〇、四四五
事務費	一〇八、二一九
事業費	八八、八〇〇
牛疫血清製造所	三三、一一七
俸給	一六、七三一
事務費	四八、九一一
事業費	二七二、〇七八
補助費	一三、六一六
農會補助	三一、〇一四
產業試驗費講習費補助	三三七、四四八
蠶病豫防費補助	一〇八、四九二
輸出羽二重檢查費補助	三七、八四〇
諸支出金	八、五三〇
合計	六二、一二三
遞信省所管	五六、五五八
遞信本省	一四、三七七

科目	金額
廳費	二八九、三九〇
修繕費	二〇四、二四八
旅費	六八、六三二
雜給及雜費	一四四、六二一
傭外國人諸給	六、六〇〇
萬國航海會議補助費	三、〇〇〇
遞信費	三六、四五一、六三一
俸給	二、七五、二五一
修繕費	六八、四五〇
旅費	三三、〇三七
萬國郵便電信聯約費	五、一〇一
遞信事業費	一九、八八七、四七五
諸拂戻金	三、四八〇、五二四
審判費	一、六九三
航路標識費	四〇六、九八四
俸給	二一、二六六
修繕費	七〇八
旅費	八、九五七
航路標識事業費	一八六、〇〇三

科目	金額
商船學校	二三、六三三円
給費	一七五、七八四
俸給	四九、一〇五
廳費	三〇、四四五
修繕費	一〇八、二一九
旅費	八八、八〇〇
雜給及雜費	三三、一一七
事業費	一六、七三一
海上練習費	四八、九一一
學生	二七二、〇七八
雜給及雜費	一三、六一六
修繕費	三一、〇一四
旅費	三三七、四四八
雜給及雜費	一〇八、四九二
工業試驗所	三七、八四〇
事務費	八、五三〇
事業費	六二、一二三
花莚檢查所	五六、五五八
事務費	一四、三七七

科目	金額
在外公館移轉費	二三三、六四三
在外公館移轉費	五六、八五五
移民調查費	二九、三五四
移民調查費	一、〇〇〇
條約改正費	一、二七五
條約改正費	一八、五四二
海牙平和宮殿寄贈品費	四二、八六四
海牙平和宮殿寄贈品費	七二、七一三
合計	二九、〇三〇、七五四
內務省所管	
補助費	一〇、三〇一、九三〇
水道費補助	一八、八八八、八三四
道路改良費補助	五二、八二一
治水事業費	五五、八八九、八一〇
事務費	四〇六、八六九、一二七
河川費	一〇五、〇〇〇
砂防費	一〇〇、〇〇〇
道路港灣調查費	一〇五、〇〇〇
道路港灣調查費	一〇〇、〇〇〇
營繕費	五、〇〇〇

科目	金額
在外公館移轉費	六〇、〇〇〇
在外公館移轉費	二〇、〇〇〇
移民調查費	二〇、〇〇〇
條約改正費	三〇、〇〇〇
條約改正費	三〇、〇〇〇
海牙平和宮殿寄贈品費	二〇、〇〇〇
海牙平和宮殿寄贈品費	二〇、〇〇〇
合計	三三五、〇〇〇
內務省所管	
補助費	一、三一〇、〇〇〇
水道費補助	一、〇一〇、〇〇〇
道路改良費補助	三〇、〇〇〇
治水事業費	三、二九一、七五〇
事務費	六七五、七五〇
河川費	二、二六一、〇〇〇
砂防費	三五五、〇〇〇
道路港灣調查費	七〇、〇〇〇
道路港灣調查費	七〇、〇〇〇
營繕費	五五、九六六

科目	金額
爆發物倉庫其他新營費	二五〇、〇〇〇円
新營費	三一〇、〇〇〇
修繕費	八二、九六六
造神宮使廳	三八、四六一
俸給	三〇、〇七二
廳費及修繕費	二、六一四
旅費	三、九〇〇
雜給及雜費	一〇、〇五四
御裝束及神寶費	一、八二二
小笠原島殖產事業費	一七、五〇三
森林經營費	五、二一〇
水產經營費	一三、二九二
北海道拓殖費	二、六六八、八三七
殖民費	三九〇、四四〇
產業費	一八二、七八七
道路橋梁費	八八四、〇四三
土地改良費	一三、四四〇
河川費	一五〇、九二二
港灣費	一、〇五五、一四五
北海道森林費	三一〇、〇〇〇
俸給	八二、九六六
廳費及修繕費	三八、四六一
雜給及雜費	二一〇、〇七二
事業費	二、六一四
港灣改良費	三、九〇〇
敦賀港改良費	一〇、〇五四
關門海峽改良費	一、八二二
神職養成及神社調查費	一七、五〇三
神職養成及神社調查費	五、二一〇
臨時外國行諸費	一三、二九二
比律賓群島醫學會參列費	二、六六八、八三七
議員總選擧取締費	三九〇、四四〇
府縣會郡會議員總選擧取締費	一八二、七八七
ドレスデン萬國衞生博覽會費	八八四、〇四三
ドレスデン萬國衞生博覽會費	一三、四四〇
臨時神社費	一五〇、九二二
出石神社造營費	一、〇五五、一四五
トラホーム講習費	九、一三八
合計	一八、七四九、五〇三
大藏省所管	
補助費	四三、五九八
株式會社農工銀行補助	二、五〇〇
罹災救助基金補助	四〇、〇六八
營繕費	二、八三二、九〇〇
橫濱稅關海面埋立及陸上設備費	七五七、〇〇〇
神戸稅關海陸運輸聯絡設備費	三四、〇〇〇
煙草製造專賣創業建設費	三七九、〇四〇
神戸稅關防波堤築造費	五〇〇、〇〇〇
新營費	四三五、九三一
修繕費	九六、八九九
關稅定率調查費	一四、八四三
四分利付清國債券元利	二、一四四、三五八
四分利付清國債券元利	二、一四四、三五八
海外駐劄財務官費	八二、七〇四
海外駐劄財務官費	八二、七〇四
トラホーム講習費	九、一三八
合計	一八、七四九、五〇三
大藏省所管	
補助費	四三、五九八
株式會社農工銀行補助	二、五〇〇
罹災救助基金補助	四〇、〇六八
營繕費	二、八三二、九〇〇
橫濱稅關海面埋立及陸上設備費	七五七、〇〇〇
神戸稅關海陸運輸聯絡設備費	三四、〇〇〇
煙草製造專賣創業建設費	三七九、〇四〇
神戸稅關防波堤築造費	五〇〇、〇〇〇
新營費	四三五、九三一
修繕費	九六、八九九
關稅定率調查費	一四、八四三
四分利付清國債券元利	二、一四四、三五八
四分利付清國債券元利	二、一四四、三五八
海外駐劄財務官費	八二、七〇四
海外駐劄財務官費	八二、七〇四

科目	金額
臨時事件行賞諸費	二五、七〇八
臨時事件行賞諸費	二五、七〇八
造幣局擴張費	八六、一五三
機械增設費	八一、三一五
工場其他增築及改築費	四、九三八
臨時秩祿處分費	三一、七六一
調查費	一四、八〇九
裁判費	六、九五二
國勢調查準備費	四、一三四
委員會費	二、〇〇〇
統計講習諸費	二、一三四
議院建築準備費	四四、八〇〇
內閣所屬文庫圖書整理諸費	四四、八〇〇
內閣所屬文庫圖書整理諸費	一、八三三
朝鮮總督府經費補充金	一、八三三
朝鮮總督府經費補充金	三三、三五〇、〇〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇
臺灣特別會計繰入金	二、七六〇、〇〇〇
公債募集金繰入	二、七六〇、〇〇〇
樺太廳經費補充金	五七〇、六五七
樺太廳經費補充金	五七〇、六五七
治水費資金特別會計繰入金	三、八一〇、三六八
治水費資金特別會計繰入金	三、八一〇、三六八
合計	**二八、〇三二、三六七**
陸軍省所管	
砲臺建築費	四、一三四
東京灣砲臺建築費	四、一三四
營繕費	二、〇〇〇
小倉衞戍地各部隊給水設備支出金	二、一三四
旭川衞戍地各部隊水道布設費	四四、八〇〇
軍隊官衙學校改築費	四四、八〇〇
新營費	一、八三三
修繕費	一、八三三
營繕及初度調辦費	三三、三五〇、〇〇〇
土地買上費	三三、三五〇、〇〇〇
建築費	三、〇四七、八〇〇
兵器其他諸費	三、〇四七、八〇〇
臺灣兵營廳舍營繕及初度調辦費	二、七六〇、〇〇〇
臺灣兵營廳舍營繕及初度調辦費	二、七六〇、〇〇〇
土地建造物利用費	五七〇、六五七
土地建造物利用費	五七〇、六五七
軍用氣球研究費	三、八一〇、三六八
軍用氣球研究費	三、八一〇、三六八
無線電信研究費	**三八、〇三二、三六七**
無線電信研究費	三〇、〇〇〇
測量費	三〇、〇〇〇
俸給	一、三三〇、〇〇〇
事務費	五〇、〇〇〇
事業費	一〇〇、〇〇〇
拂下地圖製造費	五三〇、〇〇〇
拂下地圖製造費	三〇、〇〇〇
朝鮮派遣部隊費	二六〇、〇〇〇
朝鮮派遣部隊費	四、〇六六、七四一
清國駐屯部隊費	一〇、〇〇〇
清國駐屯部隊費	二六一、九六〇
特別大演習外賓接待費	三、七九四、七八一
特別大演習外賓接待費	六八三、七二六
匪徒鎭定費	六八、三六六
匪徒鎭定費	六八、三六六

科目	金額
匪徒鎭定費	三〇、〇〇〇 円
一時賜金	三、一五九
一時賜金	三、一五九
戰後整理費	九、四一〇、一〇二
戰後殘務整理費	一九八、一三八
戰史編纂及統計費	一〇一、三八九
復舊費	八、五五、七六六
倉庫建築費	六〇四、八二一
馬政事業設備費	一九〇、六三六
馬政事業設備費	一九〇、六三六
臨時馬疫調查費	三五、〇〇〇
臨時馬疫調查費	三五、〇〇〇
臺灣蕃匪討伐行賞費	八九、〇〇〇
臺灣蕃匪討伐行賞費	八九、〇〇〇
災害費	二四、二六四
軍馬補充部水害耕作物補充費	二四、二六四
合計	三、〇三一、一三三
海軍省所管	
營繕費	五九一、三六五
永興防備隊移築費	三〇、〇〇〇 円
高田大砲發射場新設費	三、一五九
吳工廠水雷試射場移築費	三、一五九
海軍本省煖房裝置改築費	三〇〇、〇〇〇
鎭守府官舍新營費	三〇〇、〇〇〇
新營費	三〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	一二四、六〇〇 円
鎭海軍港第一期設備費	一四〇、五八五
受託造修費	八六、一六〇
受託造修費	三四、六〇〇
臨時海軍建築部費	九五、四一〇
俸給	八〇、〇〇〇
事務費	五四六、五五七
拂下圖誌製造費	二三、二八三
拂下圖誌製造費	二三、二八三
軍艦製造費	四三、七二、一九四
軍艦補充費	二九、三六三、一九四
水陸設備費	五、二一七、四九四
造船造兵及修理費	九、一三一、五〇六
朝鮮海軍用地經營費	三〇、〇〇〇 円
朝鮮海軍用地經營費	三〇、〇〇〇
艦艇火藥庫冷却裝置費	三〇〇、〇〇〇
艦艇火藥庫冷却裝置費	三〇〇、〇〇〇
舊軍艦松島解船引揚費	三〇、〇〇〇
舊軍艦松島解船引揚費	三〇、〇〇〇
合計	四五、四八七、二五五
司法省所管	
法律調查費	三一、四七三
法律調查費	三一、四七三
免囚保護事業獎勵費	一〇、〇〇〇
免囚保護事業獎勵費	一〇、〇〇〇
俸給	七二〇、四二四
營繕費	一〇、〇〇〇
甲府監獄建築費	一六、四八〇
秋田監獄建築費	四七、二〇〇
福岡監獄建築費	四二、七〇〇
安濃津監獄建築費	九八、三四四
市谷監獄建築費	一二〇、〇〇〇 円
大阪控訴院地方裁判所區裁判所建築費	二一、五二九
臨時調查費	一三、〇〇〇
國語調查費	一〇、〇〇〇
諸學校教科細目調查費	一、五二〇
萬國數學教育調查費	一、五二〇
臨時教員養成所費	九、五五三
臨時教員養成所費	九、五五三
委託學生費	二二、〇一〇
清國委託學生費	二二、〇一〇
臨時外國行諸費	六、七一三
第十六回東洋學會議參列費	三、三五六
第二回萬國地震學會議參列費	三、三五六
獎勵費	九、〇〇〇
教育獎勵諸費	九、〇〇〇
臨時維新史料編纂局費	五〇、七八
俸給	八、八六九
廳費及修繕費	一一、六九〇
雜給及雜費	三〇、一四九
合計	七一七、〇九二
農商務省所管	

科目	金額
札幌地方裁判所廳舍及官舍建築費	六〇、〇〇〇
新營費	二三五、〇〇〇
修繕費	七〇、〇〇〇
合計	七六一、八七六
文部省所管	
營繕費	一五九、五〇〇
東京美術學校校舍改築費	一〇、〇〇〇
新營費	一二三、一五〇
修繕費	三六、三五〇
設備費	二一、七四〇
學校設備費	二一、七四〇
工科大學創立費	八二、七三七
新營費	一五、一三七
設備費	六七、六〇〇
東北帝國大學創立費	五、〇〇〇
新營費	五、〇〇〇
第二女子高等師範學校創立費	三五、〇〇〇
新營費	二五、〇〇〇
設備費	一〇、〇〇〇
第二高等農林學校創立費	三、三三
新營費	一〇、七九二
設備費	二、五三一
設備費	二〇、〇〇〇
學校及圖書館設備費	一七、五〇〇
諸學校教科細目調查費	二、五〇〇
萬國數學教育調查費	四四、〇〇〇
臨時教員養成所費	三九、〇〇〇
臨時教員養成所費	五、〇〇〇
委託學生費	五五、〇〇〇
清國委託學生費	五〇、〇〇〇
臨時外國行諸費	五、〇〇〇
第十六回東洋學會議參列費	五四、〇四九
第二回萬國地震學會議參列費	二五、九八九
獎勵費	二八、〇二〇
教育獎勵諸費	一〇〇、〇〇〇
臨時維新史料編纂局費	二六、〇〇〇
俸給	七四、〇〇〇
廳費及修繕費	三五、七五〇
雜給及雜費	一〇、五〇〇
合計	三、七二

科目	金額	科目	金額
外國貿易擴張費	九九、〇〇〇円	足尾國有林復舊費	四〇、五四三円
實業練習生補助費	五七、三一八	產業奬勵費	一、一八八、四八六
商品陳列費	八四二	遠洋漁業奬勵費	一九九、七六一
實業調查費	四〇、八四〇	農事改良奬勵費	六二四、三九〇
製鐵所擴張費	一、七九九、九三三	糖業改良費	八九、八二一
事務費	六八、九三三	工業奬勵費	三八、〇〇〇
工場費	一、〇三二、〇〇〇	植樹奬勵費	六六、八二六
原料鐵山費	七〇〇、〇〇〇	蠶絲業改良奬勵費	一六九、六八八
督繕費	四六七、四四五	臨時調查費	七四、四八〇
新營費	四三三、七一三	鐵毒調查費	四〇、〇〇〇
修繕費	三三、七三一	鐵物調查費	二、七五五、七二八
國有林野經營費	二、七五五、七二八	日本大博覽會費	四〇七、〇七〇
俸給及諸給	四〇七、〇七〇	日英博覽會費	二、三四八、六五八
事業費	二、三四八、六五八	日英博覽會費	五〇〇、〇〇〇
製鐵所據置運轉資本補塡	五〇〇、〇〇〇	羅馬及チユラン萬國博覽會費	四六七、四四五
製鐵所據置運轉資本補塡	五〇〇、〇〇〇	羅馬及チユラン萬國博覽會費	四三三、七一三
漁業免許處分費	八、五六二	臨時外國行諸費	三三、七三一
漁業免許處分費	八、五六二	萬國農事協會會議參列費	四〇、五四三
足尾國有林復舊費	四〇、五四三	萬國工業所有權保護同盟會議參列費	五、〇〇〇
足尾國有林復舊費	五七、三一八	生產調查會費	三九、九六四
產業奬勵費	八四二	生產調查會費	三九、九六四
遠洋漁業奬勵費	四〇、八四〇	獸疫及害蟲驅除費	九〇、四〇〇
農事改良奬勵費	一、七九九、九三三	獸疫費	三〇、四〇〇
糖業改良費	六八、九三三	害蟲驅除豫防費	六〇、〇〇〇
工業奬勵費	一、〇三二、〇〇〇	治水事業費	五三、〇〇〇
植樹奬勵費	七〇〇、〇〇〇	調查及監督費	一六四、八三四
蠶絲業改良奬勵費	四六七、四四五	督繕費	四六、一六六
臨時調查費	四三三、七一三	補助及補償費	二九一、〇〇〇
鐵毒調查費	四〇、〇〇〇	**合計**	**八、〇四三、三一二**
鐵物調查費	三三、七三一	**遞信省所管**	
日本大博覽會費	二、七五五、七二八	補助費	一三、七一六、九五〇
日英博覽會費	四〇七、〇七〇	海員養成補助	五、〇〇〇
日英博覽會費	二、三四八、六五八	水難救濟補助	二〇、〇〇〇
羅馬及チユラン萬國博覽會費	五〇〇、〇〇〇	航路擴張費	一〇、九四一、三六一
羅馬及チユラン萬國博覽會費	五〇〇、〇〇〇	航海奬勵費	一、六四六、七五八
臨時外國行諸費	八、五六二	造船奬勵費	九、三七四
萬國農事協會會議參列費	四〇、五四三	電信電話督繕費	一、一〇三、九五〇
萬國工業所有權保護同盟會議參列費	五、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇
生產調查會費	三九、九六四		
生產調查會費	三九、九六四		
獸疫及害蟲驅除費	九〇、四〇〇		
獸疫費	三〇、四〇〇		
害蟲驅除豫防費	六〇、〇〇〇		
治水事業費	五三、〇〇〇		
調查及監督費	一六四、八三四		
督繕費	四六、一六六		
補助及補償費	二九一、〇〇〇		
合計	**八、〇四三、三一二**		
遞信省所管			
補助費	一三、七一六、九五〇		
海員養成補助	五、〇〇〇		
水難救濟補助	二〇、〇〇〇		
航路擴張費	一〇、九四一、三六一		
航海奬勵費	一、六四六、七五八		
造船奬勵費	九、三七四		
電信電話督繕費	一、一〇三、九五〇		
	三〇〇、〇〇〇		

新規繼續費表

事項	總額	明治四十四年度	同四十五年度	同四十六年度	同四十七年度	同四十八年度	自同四十九年度至同六十一年度
軍隊官衙學校改築費	八五一、〇〇〇円	五一〇、〇〇〇円	三三〇、〇〇〇円	〇円	〇円	〇円	〇円
札幌地方裁判所廳舍及官舍建築費	一〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
製鐵所擴張費	一三、三八九、九二九	一、七九九、九三三	三、〇三三、一八六	三、七九七、五三五	二、五九三、一八五	一、一七、〇九〇	〇
治水事業費	五、六三九、〇〇〇	三一一、〇〇〇	二六八、〇〇〇	二七九、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	三九四、〇〇〇	四、一五七、〇〇〇
合計	一八、九七八、九二九	二、九三三、一八五	三、六五〇、一八六	四、〇七六、五三五	二、九三三、一八五	一、五七、〇九〇	四、一五七、〇〇〇

事項	總額	明治四十四年度	同四十五年度	同四十六年度	同四十七年度	同四十八年度	自同四十九年度至同六十一年度
電信電話督繕費	三〇〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	三四三、一七	七六、八三三	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇
航路標識督繕費	八五、〇〇〇	七六、七三〇	九三〇				
航路標識設置費	七六、七三〇						
新營費	九三〇						
航路標識修繕費	六、八四〇	五〇〇					
發電水力調查費	二七〇、〇〇〇						
合計	三一〇、九二一、九二〇	四三〇、〇〇〇	三四三、一七	七六、八三三	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇
臨時部合計	一四四、八三八、三四八	五一〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
歳出總計	三五一、九〇七、九二五	四三〇、〇〇〇	三四三、一七	三、七九七、五三五	二、五九三、一八五	一、一七、〇九〇	四、一五七、〇〇〇

第二款　追加豫算

明治四十四年度總豫算に對する追加豫算案は、第二十七回及第二十八回帝國議會に於て各四件提出せられたり。今其の內容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第二十七回帝國議會提出追加豫算

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各五十七萬六千百三十七圓にして、其の追加を要する所以は英國皇帝陛下戴冠式擧行に付參列の爲め帝國軍艦を派遣するの必要あり、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右は明治四十四年二月六日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月九日、貴族院は同月十五日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て三月二十一日公布せられたり。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各百萬圓にして、其の追加を要する所以は小學校教員の加俸に對する國庫補助額の追加を要するを以て、預金特別會計よりの繰入金を財源として之を豫算したるに依る。

（三）本議會提出の第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入千四百七十五萬九千八百四圓、歳出千五百八萬四千六百六十八圓にして、歳入歳出差引歳入不足額三十二萬四千八百六十四圓は、總豫算に於ける歳入超過額を以て之を支辨するの計畫なり。而して其の追加を要する所以は、歳入に在りては血清賣下代の增加、朝鮮公債及借入金償却繰入、朝鮮事業費繰替借入金及前年度繰入金を豫算し歳出に在りては血清調製費、國債整理基金繰入、海牙平和宮殿寄贈品費、水害罹災者北海道移住費補助、土木費及教育費借入金利子補給、沖繩縣農工銀行補助、關東都督府經費補充金、朝鮮總督府特別會計公債募集金繰入、東京美術學校校舍改築費、災害費、電信電話營繕費等を豫算したるに依る。

右第二號及第三號追加豫算案は明治四十四年三月三日衆議院に提出せられしが、衆議院豫算委員會に於ては審議の結果、第三號追加豫算中歳出臨時部文部省所管第一款營繕費中第四項白蟻試驗所新營費一萬八千九百九十圓、及第二十款白蟻豫防調査費第一項白蟻豫防調査費一萬五千圓、合計三萬三千九百九十圓を削除し、其の他は全部原案の通可決すべきものと決定し、三月十四日豫算委員長は之を本會議に報告し、貴族院豫算委員會に於ては審議の結果總て衆議院議決案の通可決すべきものと決定し、三月二十日豫算委員長は之を本會議に報告し異議なく委員長報告の通即ち衆議院議決の通可決確定したり。

右貴衆兩院の協賛を經たる第二號及第三號追加豫算は、裁可を經て三月二十五日公布せられたり。

（四）本議會提出の第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入五十三萬五千四百三十六圓、歳出五十六萬九千四百二十六圓にして、歳入歳出差引歳入不足額三萬三千九百九十圓は第三號追加豫算に於ける歳入超過額を以て之を支辨するの計畫なり。而して其の追加を要する所以は市町村に對し地租徵收手數料の交付を要すると、東京蠶業講習所及農事試驗場附屬建物燒失せし爲め之が復舊を要するとの爲め、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右は明治四十四年三月十六日衆議院に提出せられしが、衆議院は三月十八日、貴族院は同月二十一日何れも異議なく可決せしを以て、裁可を經て同月二十五日公布せられたり。

以上第二十七回帝國議會の協賛を經たる追加豫算四件を一括表揭すれば左の如し。

明治四十四年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額	科目	金額
歳入經常部		歳出	
雜收入	四五、〇〇〇円	雜科	
		預金利益金繰入	四五、〇〇〇円
		預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇
		朝鮮特別會計ヨリ繰入	一、七三、四九七円
		朝鮮公債及借入金償却繰入	一、七三、四九七
		合計	三、七八、四九七

科目	金額
臨時部	
公債募集金	三、三三四、一九九円
朝鮮事業費繰替借入金	三、三三四、一九九
前年度繰入金	一、七六八、六八一
前年度繰入金	一、七六八、六八一
合計	四、〇九二、八〇〇
歳入總計	一六、八七一、三七七
歳出	
經常部	
內務省所管	
傳染病研究所	一三、七四四
事業費	一三、七四四
大藏省所管	
內國稅徵收費	五五、五〇九
市町村交付金	五五、五〇九
國債整理基金繰入	一、七三三、四九七
國債整理基金繰入	一、七三三、四九七
合計	三、五九九、〇〇六
文部省所管	
普通教育費	一、〇〇〇、〇〇〇円
小學校教育費補助	一、〇〇〇、〇〇〇
經常部合計	三、三二二、七四〇
臨時部	
外務省所管	
海牙平和宮殿寄贈品費	八八、八八八
海牙平和宮殿寄贈品費	二三五、二九〇
內務省所管	
臨時外國行諸費	一〇〇、〇〇〇円
萬國阿片會議參列費	一〇〇、〇〇〇
災害費	八八、八八八
府縣風水害諸費	八八、八八八
褒賞費	二三五、二九〇
災害救恤者褒賞諸費	二三五、二九〇
水害罹災者北海道移住費補助	一〇〇、〇〇〇
水害罹災者北海道移住費補助	一〇〇、〇〇〇
縣債利子補給	三、二〇〇
土木費借入金利子補給	三、二〇〇
合計	二九一、六九九
大藏省所管	
補助費	一〇〇、〇〇〇円
株式會社農工銀行補助	一〇〇、〇〇〇
營繕費	八八、八八八
新營費	八八、八八八
關東都督府經費補充金	二三五、二九〇
關東都督府經費補充金	二三五、二九〇
印刷局据置運轉資本補足費	一〇〇、〇〇〇
印刷局据置運轉資本補足費	一〇〇、〇〇〇
朝鮮總督府特別會計繰入金	三、三三四、一九九
公債募集金繰入	三、三三四、一九九
合計	二、八四九、二七七
海軍省所管	
外國派遣軍艦費	五七六、二七七
英國派遣軍艦費	五七六、二七七
司法省所管	
營繕費	三、二〇〇
新營費	三、二〇〇
文部省所管	

新規繼續費表

費目	總額	明治四十四年度	同四十五年度	同四十六年度
繼續費				
東京美術學校校舍改築費	六四、四六二			
新營費	六〇、〇〇〇			
災害費	四、四六二			
東京美術學校火災應急費	二、八〇〇			
縣債利子補給	一六、七五九			
教育費借入金利子補給	一六、七五九			
合計	八四、〇二一			
農商務省所管				
營繕費				
新營費	四三、九二七			
遞信省所管				
電信電話營繕費	七〇、〇八三			
電信電話營繕費	七〇、〇八三			
臨時部合計	一三、九三四、四九一			
歳出總計	一七、一六六、三四一			

新規繼續費表

事項	總額	明治四十四年度	同四十五年度	同四十六年度
海牙平和宮殿寄贈品費	九、〇五〇円	五、〇五七円		二〇〇円
東京美術學校校舍改築費	一一九、九九〇	六〇、〇〇〇		五九、九九〇
合計	一二九、〇四〇	六五、〇五七		六〇、一九〇

第二　第二十八回帝國議會提出追加豫算

(一)本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各八十七萬七千九十三圓にして、其の追加を要する所以は、清國事件に關し同地在留帝國臣民の保護其の他に關する經費を要し、別途提案に係る法律の規定に依り清國事件費支辨の財源として特別會計より受入るべき金額を以て支辨する計畫にて、之を豫算したるに依る。

(二)本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各三百九十二萬七千百七圓にして、其の追加を要する所以は歳入に在りては郵便電信及電話收入の增加舊式兵器及特別兵器拂下

代の増加及前年度繰入金を豫算し、歳出に在りては警察費連帯支辨金・市町村交付金・諸拂戻金・糧秣費・在監人費・傳染病豫防費及公債端金等を豫算したるに依る。

（三）本議會提出の第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各四萬七千七百圓にして、其の追加を要する所以は、清國事件に關し關東都督府經費補充金の支出を要し、特別會計資金繰入を財源として之を豫算したるに依る。

（四）本議會提出の第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各二十四萬千百八十一圓にして、其の追加を要する所以は軍人恩給に不足を生じたるを以て、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右は明治四十五年三月十八日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月十九日、貴族院は同月二十五日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十七日公布せられたり。

以上第二十八回帝國議會の協賛を經たる追加豫算四件を一括表揭すれば左の如し。

明治四十四年度歳入歳出總豫算追加表（二）

科目	金額	科目	金額
歳入		**臨時部**	
經常部		官有物拂下代	一、一九七、三三一 円
官業及官有財産收入	一、七九、九六〇 円	物品拂下代	九三四、七九三
郵便電信及電話收入	一、七九、九六〇	前年度繰入金	三、二九三、一三一
		前年度繰入金	一、一七一、〇六六 円
		清國事件費資金受入	一、一七一、〇六六
		特別會計資金繰入	一、一九七、二三一
		合計	三、二九三、一三一

歳入總計	三、〇四三、〇八一
歳出	
經常部	
内務省所管	
府縣	三五〇、〇〇〇
警察費連帶支辨金	三五〇、〇〇〇
大藏省所管	
内國稅徵收費	八〇〇、〇〇〇
市町村交付金	八〇〇、〇〇〇
諸拂戻及缺損補塡金	二五〇、〇〇〇
諸拂戻金	二五〇、〇〇〇
合計	一、〇五〇、〇〇〇
陸軍省所管	
軍事費	一、七七、四〇九
糧秣費	一、七七、四〇九
司法省所管	
監獄	一六八、七五五
在監人費	一六八、七五五
通信省所管	
通信費	四六六、四三〇
諸拂戻金	四六六、四三〇
年金及恩給	二四一、八八一
恩給	二四一、八八一
合計	七〇七、二一一
經常部合計	四、〇四三、七八五
臨時部	
外務省所管	
清國事件費	二〇〇、〇〇〇
清國事件費	二〇〇、〇〇〇
内務省所管	
災害費	一、〇五〇、〇〇〇
關東都督府清國事件費補充金	四七、七二〇
合計	八八、七〇〇
陸軍省所管	
清國事件費	一四四、五一〇
清國事件費	一四四、五一〇
海軍省所管	
清國事件費	一九六、一九〇
清國事件費	一九六、一九〇
逓信省所管	
航路標識營繕費	一二、〇〇〇
航路標識設置費	一二、〇〇〇
清國事件費	三二六、三九三
清國事件費	三二六、三九三
合計	三四八、三九三
臨時部合計	一、〇一九、二九六
歳出總計	五、〇六三、〇八一

以上第二十七・二十八兩議會の協賛を經たる追加豫算額を其の本豫算額に加算して明治四十四年度歳入歳出總豫算の總額を示せば左の如し。

明治四十四年度歳入歳出總豫算總計表

區分	本豫算額	第二十七議會追加豫算額	第二十八議會追加豫算額	總計
歳入 經常部	四九二、一三八、〇〇〇円	二、七七八、四九七円	一、七九九、九六〇円	四九六、七一六、四五七円
歳入 臨時部	五九、八九四、五三九	一四、〇九二、八八〇	三、二九三、一二一	七七、二八〇、五四〇
歳入 合計	五五二、〇三二、五三九	一六、八七一、三七七	五、〇九三、〇八一	五七三、九九六、九九七
歳出 經常部	四〇六、八六九、一二七	三、二七二、七五〇	四、〇六三、七八五	四一四、二〇五、六六二
歳出 臨時部	一四四、八三八、五四八	一三、九二三、四九一	一、〇二九、二九六	一五九、七九一、三三五
歳出 合計	五五一、七〇七、六七五	一七、一九六、二四一	五、〇九三、〇八一	五七三、九九六、九九七

第三款　豫備金及豫備金外支出

明治四十四年度第一豫備金の豫算額は百萬圓にして、明治四十四年勅令第百四十九號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば外務本省及在外公館電信料・血清類調製及配送費・褒賞費・繊物輸出交付金・受託造修費・裁判及登記諸費・在監人費及遞信事業用證票類費等なり。

明治四十四年度第二豫備金の豫算額は二百萬圓にして、豫算外に生じたる必要の費途に豫算全額を支出せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば日露間諸案件解決交付金・在旅順露國人所有家屋買收費・傳染病豫防費・關東都督府ペスト防遏費補充金・遣羅國派遣軍艦費・火災復舊費・震災海嘯及風水害復舊費等なり。

明治四十四年度一般會計に於て豫備金以外に豫算超過及豫算外支出を爲したる金額は總計三百七十三萬八千百二十五圓十七錢にして、内二百八十八萬九千二百六十六圓十七錢は國庫剩餘金より之を支出し、八十四萬八千八百五十九圓は清國事件に關する豫算外の經費にして、當初國庫剩餘金より之を支出したるも、明治四十五年法律第一號に依り貨幣整理資金繰入金を以て之を支辨することに振替整理したるものなり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、在外公館電信料・災害土木費補助・風水害復舊費・諸拂戻金・火災復舊費・在監人費及清國事件費等なり。

右明治四十四年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は第三十回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、大正二年三月十五日之が總計算書を衆議院に提出したり。衆議院に於ては之を特別委員に付託して之が審査を爲さしめしが、特別委員會に於ては結局全部に對し承諾を與ふべきものと決定し、三月二十四日特別委員長渡邊修は特別委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『本案に就ては種々の質問應答ありしが、今其の中重要と認むる二箇の質問應答を紹介せんに、第一に剩餘金の支出は憲法第六十四條第二項に據りたるものなりや否やとの質問に對し、政府は憲法には何等の關係なく政府の責任を以て支出せり。之を以て其の責任の解除を求むるが爲め本案を提出したりと答辯し、第二に會計法第二十條には各年度に於て歳入の剩餘ある時は其

の翌年度の歳入に繰入るべしとあり。剰餘金の支出は此法文に牴觸せざるや否やと質問したるに、政府は會計法第二十條は剰餘金取扱の手續を規定したるに過ぎざるを以て、同法文には牴觸せずと答辯せり。斯くて討論に移り、豫備金の支出には承諾を與ふべきも、剰餘金の支出は憲法違反なるを以て承諾を與ふべからずとの議論ありたるも、採決の結果右は少數にて否決せられ、結局多數を以て已むを得ざる支出なりと認め、全部承諾を與ふるに決せり。』

次で早速整爾は委員長報告に反對して左の如く陳述せり。

『豫備金の支出に對しては承諾を與ふべきも、豫備金外の支出に就ては承諾を與ふべきものにあらず。本問題は毎年議會に於て論議せらるる憲法上の重大問題たり。憲法第六十四條に國庫の歳入歳出は毎年豫算を以て帝國議會の協贊を經べしとの規定あるに拘らず、豫備金外の支出は政府が帝國議會の協贊を經ずして、殆ど豫備金の如く看做し恣に支出し居るものにして、明に憲法の條章を無視し議會の協贊權を蹂躙するものと云はざるべからず。而して之に對し幾多の先例ありとは從來幾度か繰返されたる辯明なるも、憲法に反し議會の協贊權を蹂躙したる惡先例は斷じて蹈襲すべからざるものなり。』

次で松田源治は委員長の報告に贊成して左の如く陳述せり。

『剰餘金の支出は憲法の認めざる行爲なるも、豫備金既に盡きたりとて國家行政機關の運轉は一時も休止する能はざるを以て、臨時緊急已むべからざる場合に於て政府は責任を以て之を支出し、議會に事後承諾を求め、議會は其の内容の善惡當否を審査し以て承諾不承諾を決し來れる例なるが、蓋し是れ憲法の妙用たり。而して現政府は吾人と同一の意見を執り、憲法第六十四條第二項に據るにあらず、憲法の認めざる行爲即ち政府の責任支出にして、其の之を提出し事後承諾を求むるは責任解除を求むるなりと言明せり。是れ吾人の贊成する所以なり。』

次で大口喜六は早速整爾の不承諾說に贊成したり。斯くて討論終結し、採決の結果總て委員長報告の通全部承諾を與ふることに決定したり。

貴族院に於ては三月二十四日明治四十四年度豫備金及豫備金外支出の件を受領し、之を特別委員に付託して之が審査を爲さしめしが、特別委員會に於ては審議の結果全部承諾を與ふべきものと決定し、三月二十六日特別委員長村上敬次郎は特別委員會に於ける經過及結果を本會議に報告し、異議なく總て委員長報告の通全部承諾を與ふることに決定したり。

第四款　決　算

明治四十四年度の歳入歳出總決算に計上する所の經常部歳入額は五億八百五十五萬八千六百八十四圓三錢四厘、臨時部歳入額は一億四千八百六十三萬三千五百三十六圓六十五錢三厘、歳入合計六億五千七百十九萬二千二百二十圓六十八錢七厘にして、之に對する經常部歳出額は四億九百八十八萬九千四十五圓二錢八厘、臨時部歳出額は一億七千五百四十八萬五千五百六十七圓九十九錢、歳出合計五億八千五百三十七萬四千六百十三圓一錢八厘なり。故に歳入歳出差引七千百八十一萬七千六百七圓六十六錢九厘の剰餘を生じたり。該剰餘金は會計法第二十條に依り之を大正元年度の歳入に繰入せり。今右決算額を豫算額に對照して其の大要を說明すれば左の如し。

第一　歳　入

明治四十四年度歳入の決算額六億五千七百十九萬二千二百二十圓六十八錢七厘を以て、其の豫算額五億七千三百九十九萬六千九百九十七圓に對比すれば八千三百十九萬五千二百二十三圓六十八錢七厘を增加せり。今之を經常・臨時に區分すれば經常部歳入の決算額は五億八百五十五萬八千六百八十四圓三錢四厘にして、之を其の豫算額四億九千六百七十一萬六千四百五十七圓に對比すれば千百八十四萬二千二百二十七圓三錢四厘を增加し、臨時部歳入の決算額は一億四千八百六十三萬三千五百三十六圓六十五錢三厘にして、之を其の豫算額七千七百二十八萬五百四十圓に對比すれば七千百三十五萬二千九百九十六圓六十五錢三厘を增加せり。今歳入の增減を生じたる重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）經常部

租稅は課稅斤數の多かりし等の爲め砂糖消費稅の收入增加せしと、課稅價額の多かりし等の爲め酒稅の收入減少せしとに依り五百一萬三千三十四圓六十一錢七厘を減少せしを以て、差引四百九十七萬二千八百九十二圓二十六錢二厘を增加せり。

相續稅の收入增加せしと、所得額の多かりし等の爲め所得稅の收入增加せしと、商品賣買取引高の多かりし等の爲め取引所稅の收入增加せしと、其の他通行稅・營業稅・兌換銀行券發行稅・織物消費稅・鑛業稅・醬油稅等の收入增加せしとに依り九百九十八萬五千九百二十六圓八十七錢九厘を增加せりと雖も、酒類造石高の少かりし等の爲め酒稅の收入減少せしと、輸入の少かりし等の爲め關稅の收入減少せしとに依り五百一萬三千三十四圓六十一錢七厘を減少せしを以て、差引四百九十七萬二千八百九十二圓二十六錢二厘を增加せり。

印紙收入は收入印紙賣捌代の收入多かりし等の爲め四百四萬七千五百四十六圓八十二錢二厘を增加せり。

官業及官有財產收入は煙草生產費の減少せしと鹽賣渡數量の增加せし等との爲め專賣局益金の增加せしと、郵便切手賣捌代及電話料の收入多かりし等の爲め郵便電信及電話收入の增加せしと、製鐵所に於ける操業者の技術漸次熟練せし等の爲め製鐵所益金の增加せしと、其の他森林收入・囚徒工錢及製作收入・印刷局益金等の增加せしとに依り六百二十萬四千二百九十一圓九十四錢八厘を增加せりと雖も、南滿洲鐵道株式會社配當金の少かりし等の爲め配當金收入の減少せしと、其の他海軍工廠資金材料物品賣拂益金及電信燈臺用品製造所益金の減少せしとに依り二百二十五萬七千八百七十八圓七錢二厘を減少せしを以て、差引三百九十四萬六千四百十三圓八十七錢六厘を增加せり。

雜收入は辨償及違約金・官吏遺族扶助法納金等の增加せしに依り十七萬八千九百八十六圓五十一錢四厘を增加せりと雖も、雜入・稅關雜收入等の減少せしに依り八萬八千八百八十五圓十八錢を減少せしを以て、差引九萬百一圓三十三錢四厘を增加せり。

預金利子繰入は普通預金利子及保管金利子の仕拂少かりし等に依り五萬千二百十七圓五十七錢九厘を減少せり。

臺灣特別會計より繰入は砂糖消費稅の繰入を要せざりしと、臺灣事業公債及借入金利子の仕拂少かりし等とに依り七十七萬八千七十七圓六十七錢九厘を減少せり。

朝鮮特別會計より繰入は公債利子の仕拂少かりし等に依り三十八萬五千四百三十二圓二厘を減少せり。

（二）臨時部

官有物拂下代は船舶及建物拂下代等の收入增加せしに依り四十二萬八千六百二圓一錢八厘を增

加せりと雖も、物品及地所拂下代の收入減少せしに依り二十萬四千五百九十六圓四十八錢二厘を減少せしを以て、差引二十二萬四千五圓五十三錢六厘を增加せり。

雜收入は國庫金預入等に係る利子の收入ありしが爲め利子收入の增加せしと、其の他臨時軍事費所屬收入及公債償還金收入の增加せしとに依り二百三十三萬五千六百三圓六十二錢五厘を增加せりと雖も、清國より受領すべき償還金の拂込遲延せしが爲め清國償還金收入の減少せしと、其の他返納金の減少せしとに依り百十二萬六千三百十九圓四十四錢六厘を減少せしを以て、差引百二十萬九千二百八十四圓十七錢九厘を增加せり。

公債募集金は公債支辨に係る朝鮮及臺灣事業費の財源に充用すべき資金の繰替借入を要することと少かりしに依り三百八十八萬三千四百六十九圓を減少せり。

森林資金繰入は國有林野經營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り三十二萬九千六十五圓二十四錢六厘を減少せり。

陸軍營繕費補充資金繰入は修繕費及土地建造物利用費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り二萬千三百二十四圓七十錢を減少せり。

貨幣整理資金繰入は造幣局擴張費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り三萬八千八百十四圓七錢を減少せり。

治水費資金繰入は治水事業費等の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り二百七十七萬九千二百七十六圓九十三錢二厘を減少せり。

前年度繰入金は歳計剩餘金の繰入多かりしに依り七千六百五十五萬四千七百三十五圓三十二錢八厘を增加せり。

清國事件費資金受入は清國事件に關する豫算外の經費を要し、當初國庫剩餘金より支出したる金額を明治四十五年法律第一號に依り特別會計に屬する資金を以て支辨することに振替整理したるが爲め、之が資金の繰入を要すること多かりし等に依り四十一萬六千九百二十一圓五十五錢八厘を增加せり。

第二　歳　出

明治四十四年度歳出の決算額五億八千五百三十七萬四千六百十三圓一錢八厘を以て、其の豫算額五億七千三百九十九萬六千九百九十七圓に對比すれば千百三十七萬七千六百十六圓一錢八厘を增加せり。今之を經常臨時に區分すれば、經常部歳出の決算額は四億九百八十八萬九千四十五圓二錢八厘にして、之を其の豫算額四億千四百二十萬五千六百六十二圓に對比すれば四百三十一萬六千六百十九錢にして、之を其の豫算額一億五千九百七十九萬千三百三十五圓に對比すれば千五百六十九萬四千二百三十二圓九十九錢を增加せり。

明治四十四年度歳出豫算額は五億七千三百九十九萬六千九百九十七圓なるも、豫算決定後に於て會計法第二十一條第二十二條竝明治三十九年法律第五十二號第三條及明治四十四年法律第二號に依り、前年度の豫算殘額を本年度に繰越したるが爲め、九千八百三十三萬九千二百五十八圓八十一錢九厘、國庫豫備金外に臨時支出を爲したるものありしが爲め三百七十三萬八千百二十五圓十七錢を增加せり。依て右歳出豫算額及豫算決定後增加額を合計すれば六億七千六百七萬四千三百八十圓

九十八錢九厘にして、同年度支出濟額は五億八千五百三十七萬四千六百十三圓一錢八厘、同年度に於て支出を終らずして翌年度に繰越したる金額は八千二百二十九萬五千八百九十七圓七十三錢なるを以て、差引八百四十萬三千八百七十四圓二十四錢一厘の不用額を生ぜり。今翌年度繰越及豫算不用に係る重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）翌年度繰越

營繕土木の工事・林野の經營・艦船及兵器の製造修理・陸海軍の演習其の他航海の補助等にして、海外に注文したる物品の年度內に到達せざるものありしと、天候不良其の他避くべからざる事故に依り事業を遲延し又は豫定の計畫を遂行すること能はざるものありし等との爲め年度內支出を終らざりし經費にして、會計法第二十一條に依り翌年度に繰越したる金額は千百九十三萬六千二百七十圓六十五錢六厘なり。

砲臺の建築・軍艦及兵器の製造・河川の修築其の他營繕工事等の繼續事業にして、海外に注文したる物品の年度內に到達せざるものありしと、天候不良其の他の事故に依り豫定の如く事業進行せざるものありしとの爲め、會計法第二十二條に依り翌年度に繰越したる金額は二千五百七十萬四千四百三十九圓八十八錢一厘なり。

臨時軍事費支辨に係る兵器及被服の製造・兵營及廳舍の建築等の經費にして、年度內支出を終らざりし爲め、明治三十九年法律第五十二號第三條に依り翌年度に繰越したる金額は四千三百七萬三千二百八十五圓十五錢三厘なり。

公共團體の經營に係る工事の經費に對する補助にして年度內支出を終らざりし爲め、明治四十四年法律第二號に依り翌年度に繰越したる金額は百五十八萬千九百二圓四錢なり。

（二）豫算不用

俸給及在外國居留民取締費の支出少かりし等の爲め在外公館の經費に於て不用に歸したる金額は十八萬二千二百二十八圓七十六錢四厘、徵兵費及旅費の支出少かりし等の爲め北海道廳及府縣の經費に於て不用に歸したる金額は十五萬二千八百八十九圓四錢、貨幣交換差金及通信運搬費の支出少かりし等の爲め國資運用費に於て不用に歸したる金額は二十一萬三千九百七十二圓三十九錢五厘、宅地地價修正事業に關する經費の支出少かりし等の爲め宅地地價修正費に於て不用に歸したる金額は二十萬五千八百三十圓三十四錢、旅費及被服費の支出少かりし等の爲め陸海軍軍事費及憲兵費に於て不用に歸したる金額は九十一萬五千三十五圓十四錢三厘、森林及原野の經營に關する事業費の支出少かりし等の爲め森林費及國有林野經營費等に於て不用に歸したる金額は六十三萬九千九百二十四圓四十九錢一厘、製鐵所作業會計に於て前年度の損益決算上益金を生じたるが爲め製鐵所據置運轉資本補塡に於て不用に歸したる金額は五十萬圓、博覽會開催の計畫中止の爲め日本大博覽會費に於て不用に歸したる金額は三十七萬七千八百八十六圓二十七錢、遞信事業に關する經費の支出少かりし等の爲め遞信費に於て不用に歸したる金額は十五萬七千五百二十三圓十二錢一厘、年金受領者の死亡又は勳章の褫奪等に依り受領權の消滅したるものありし等の爲め年金及恩給に於て不用に歸したる金額は十九萬五千九十八圓六十五錢、傳染病豫防費・罹災救助基金・航路擴張竝航海及造船奬勵等に關する補助金の支出を要すること少かりしが爲め各種の補助費に於て不要に歸したる金額は二百十一萬七千五百八十二圓七十七錢、以上の外經費の節約等に依り諸般の經費に於て

不用に歸したる金額は二百七十四萬五千八百九十九圓二十五錢七厘なり。

明治四十四年度に於ける大藏省證券發行最高額は一時借入金を併せ七千七百六十六萬圓にして之を其の豫定最高額八千萬圓に對比すれば二百三十四萬圓を減少せり。

今明治四十四年度決算額を其の豫算額と對照すれば左の如し（圓位以下切捨）。

明治四十四年度歳入歳出決算額豫算額對照表

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
歳入			
經常部			
租稅	三二九、〇七一、三一〇	三二四、〇九八、四二八	四、九七二、八九二
地租	七四、九三六、〇八五	七五、〇二一、七六五 △	一、〇八五、七八〇
所得稅	三四、七五五、七四五	三二、九六八、二七八	一、七八七、四六七
營業稅	二四、五九八、六一二	二四、一八四、七八三	四一三、八二九
相續稅	四、〇六一、五九六	一、八六二、九四七	二、一九八、六四九
通行稅	三、九一八、三四〇	三、一八四、四四〇	七三三、八九四
鑛業稅	二、二三八、〇七二	二、〇三二、一七七	三二四、八九五
兌換銀行券發行稅	一、三八八、一五九	一、〇三二、八九七	三五五、二六二
酒稅	八六、〇三二、八三三	八八、七一七、三五〇 △	二、六九四、五一八
醬油稅	四、八二八、三一六	四、六三〇、八六四	一九七、五四八
砂糖消費稅	一七、二五五、五四八	一四、七一七、二八三	二、五二八、二六五
織物消費稅	一八、九二六、一五〇 円	一八、六一七、五六四 円	二九八、五六四 円
石油消費稅	一、九二五、五〇三	二、一二一、四八九 △	一八五、九八六
賣藥醫業稅	二四四、三〇八	二〇一、五〇六	四二、八〇二
取引所稅	四、七九九、六二四	三、六三一、二一〇	一、一三八、一四四
關稅	四八、五一八、六一四	五〇、五二四、四六五 △	一、九九五、八五一
噸稅	六五、三一八、一六	五八、七一四、〇六	六、四二、〇六
印紙收入	二九、〇七三、六九六	二五、〇六一、一五〇	四、〇四七、五四六
官業及官有財產收入	二、〇七三、六九六	二、〇七三、一五〇	四、〇四七、五四六
郵便電信及電話收入	一三、二五三、三六四	二八、三〇五、九五一	三、九四六、一三
森林收入	五一、九六三、七三一	五〇、三九九、六八五	一、五七四、〇四六
配當金收入	二一、〇四七、九四七	一〇、五四四、八〇七	五〇三、一四〇
因徒工錢及製作收入	一、四六六、五三〇	三、六七五、六三五 △	二、二〇九、一〇五
	一、五三八、一九	一、一七九、四九〇	二五八、六二九

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
官有物貸下料	四三六、四〇三	三九八、九一四	三七、四八九
印刷局益金	三九八、九五八	二六三、八三一	一三五、一二七
專賣局益金	六三、三三六、〇九九	六二、一三六、四〇二	一、九八九、六九七
東京砲兵工廠益金	一〇五、九八八	二四、五〇〇	八一、一九八
大阪砲兵工廠益金	四二、六八二	二三、一〇〇	一七、一
千住製絨所益金	三、九四三	三、七七二	一七一
海軍採炭所益金	七八、六八八	三二、一二五	四七、四九三
海軍工廠資金材料物品賣拂益金	二八四、八二七	三三、一七六 △	四六、九三九
電信燈臺用品製造所益金	一、〇〇九	二、九二四 △	一、八三五
鹽專賣收入	一、八二八	〇	一、八二八
製鐵所益金	一、五四六、二八五	〇	一、五四六、二八五
雜收入			
免許及手數料	三二四、五七三	三二四、五三四	四九、一六五
懲罰及沒收金	八三九、一二六	八五四、九二九 △	一五、八一三
辨償及違約金	四三七、一四四	三〇七、六四七	二七、四七〇
稅關雜收入	一五七、一五〇四	一八四、九七四 △	二七、四七〇
雜收入	四六七、五八八	五二三、一九一 △	四五、六〇三
官吏遺族扶助法納金	三七七、四三五	三五四、七一五	二三、七二〇
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	一四〇、七六六	一三〇、一五六	一〇、六一〇
一年志願兵及幼年學校自費生納金	四四九、七一〇	四二四、二三二	二五、四八八
小笠原島地方收入	一、二八六	六五七	六二九
預金利子繰入	七、七九九、八三六	七、八五一、〇四四 △	五一、二一八
預金利子繰入	七、七九九、八三六	七、八五一、〇四四 △	五一、二一八
臺灣特別會計ヨリ繰入	四、九一八、二六四	五、六九六、三四二 △	七七八、〇七八
臺灣事業公債及借入金償却繰入	四、九一八、二六四	五、一七〇、四一四 △	二六二、一五〇
砂糖消費稅繰入	〇	五一五、九二八 △	五一五、九二八
預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
朝鮮特別會計ヨリ繰入	一、二四八、〇六四	一、七三三、六九七 △	三八五、四三三
朝鮮公債及借入金償却繰入	一、二四八、〇六四	一、七三三、四九七 △	三八五、四三三
經常部合計	**五〇八、五五八、六八四**	**四九六、七一六、四五七**	**一一、八四二、二二七**
臨時部			
官有物拂下代	三、七二四、三九五	三、四八三、三九〇	二三四、〇〇五
鑛山拂下代	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
地所拂下代	二三七、二〇五	二四五、二三九 △	三八、〇三四
建物拂下代	四九、一六五	六、一六二	四二、九〇三
物品拂下代	二、五二六、四五六	二、六九六、〇一〇 △	一六六、五六四
船舶拂下代	七五三、四四八	三九六、三五五	三七七、〇九三
家畜拂下代	一六四、一一九	一三五、五一四	二八、六〇五
雜收入	五、三五四、四七九	四、一四五、一九五	一、二〇九、二八四

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
海軍受託造修收入	二三四、一八一	二三九、五七三	△五、三九二
返納金	一、七二〇、一四三	一、七六九、三四四	△四九、一〇一
清國償還金收入	一、〇七三、四〇〇	二、一四四、二五八	△一、〇七〇、八五八
雜入	一一、〇五〇	一二、〇二〇	△九七〇
利子收入	一、八六七、六六八	〇	一、八六七、六六八
臨時軍事費所屬收入	三六一、一三四	〇	三六一、一三四
公債償還金收入	一〇六、八〇〇	〇	一〇六、八〇〇
港灣設備納付金	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	〇
港灣設備納付金	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	〇
公債募集金	一一、一〇〇、七八〇	一五、〇八四、一九九	△三、八〇三、六六八
臺灣事業費繰替借入金	一、一〇〇、七八〇	二、七六〇、〇〇〇	△一、五九〇、〇〇〇
朝鮮事業費繰替借入金	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一二、三二四、一九九	△二、三二四、一九九
森林資金繰入	二、四二六、六六二	二、七五五、七二八	△三二九、〇六六
森林資金繰入	二、四二六、六六二	二、七五五、七二八	△三二九、〇六六
陸軍軍繕費補充資金繰入	三六二、五九三	三八三、九一八	△二一、三二五
陸軍軍繕費補充資金繰入	三六二、五九三	三八三、九一八	△二一、三二五
軍艦水雷艇補充基金繰入	三、〇〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
軍艦水雷艇補充基金繰入	三、〇〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
貨幣整理資金繰入	四七、三三八	八六、一五三	△三八、八一五
貨幣整理資金繰入	四七、三三八	八六、一五三	△三八、八一五
治水費資金繰入	一〇、〇六六、一九〇	一二、八四五、四六七	△二、七七九、二七七
治水費資金繰入	一〇、〇六六、一九〇	一三、八四五、四六七	△二、七七九、二七七
獻納金	二八一、六三七	二八一、六三七	〇
學校創立費獻納金	二八一、六三七	二八一、六三七	〇
前年度繰入金	一〇二、二四七、七五	二四、六九三、〇六〇	七六、五五四、七三五
前年度繰入金	一〇二、二四七、七五	二四、六九三、〇六〇	七六、五五四、七三五
清國事件費資金受入	一、三四一、七一四	九二四、七九三	四一六、九二一
特別會計資金繰入	一、三四一、七一四	九二四、七九三	四一六、九二一
臨時部合計	一四八、六三三、五三六	一二七、二八〇、五四〇	二一、三五三、九九六
歲入總計	六五七、一九二、三一〇	五七三、九九六、九九七	八三、一九五、二一三
歲出			
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七九三、七六八	七八〇、四四六	三、三二二
在外公館	三、七四一、九四三	三、四三九、八六八	三〇二、〇七五
諸支出金	三三、三三〇	一八、七一三	四、五一七
合計	四、五五八、九四三	四、二四九、〇一七	三〇九、九二六
內務省所管			

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
貨幣整理資金繰入	四七、三三八	八六、一五三	△三八、八一五
治水費資金繰入	一〇、〇六六、一九〇	一二、八四五、四六七	△二、七七九、二七七
治水費資金繰入	一〇、〇六六、一九〇	一三、八四五、四六七	△二、七七九、二七七
獻納金	二八一、六三七	二八一、六三七	〇
學校創立費獻納金	二八一、六三七	二八一、六三七	〇
前年度繰入金	一〇二、二四七、七五	二四、六九三、〇六〇	七六、五五四、七三五
前年度繰入金	一〇二、二四七、七五	二四、六九三、〇六〇	七六、五五四、七三五
清國事件費資金受入	一、三四一、七一四	九二四、七九三	四一六、九二一
特別會計資金繰入	一、三四一、七一四	九二四、七九三	四一六、九二一
臨時部合計	一四八、六三三、五三六	一二七、二八〇、五四〇	二一、三五三、九九六
歲入總計	六五七、一九二、三一〇	五七三、九九六、九九七	八三、一九五、二一三
歲出			
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七九三、七六八	七八〇、四四六	三、三二二
在外公館	三、七四一、九四三	三、四三九、八六八	三〇二、〇七五
諸支出金	三三、三三〇	一八、七一三	四、五一七
合計	四、五五八、九四三	四、二四九、〇一七	三〇九、九二六
內務省所管			
神宮費	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	二三四、七一六	二三四、九五七	△四一
內務本省	四八三、八六一	四九七、六五八	△一三、七九七
衛生試驗所	一三二、四四三	一三二、八六一	△四一八
傳染病研究所	二三三、〇九一	一九六、三五一	三六、七四〇
警視廳	二六五、七五四	二六五、二四九	〇、五
北海道廳	五七八、三四五	五六八、八五四	九九一
府縣	八、六九五、九八三	八、八四三、〇八五	△一四七、一〇二
地方費	六七、一七七	六七、七三三	△五六
補助費	九〇一、七四五	一、〇六一、九八三	△一六〇、二三八
諸支出金	三二一、五三三	二三八、七〇六	△二七、一七三
合計	二一、八四四、六一三	二二、一六八、四四七	△三〇三、八三四
大藏省所管			
大藏本省	三五七、〇一四	三七一、三五五	△一四、三四一
預金利子及手數料	七、八二三、二六	七、八七四、五一三	△五〇、四八七
內閣	三九〇、一〇六	三五四、五七九	四、五二七
樞密院	一六〇、一〇八	一七三、八三六	△一三、七二八
貴族院	七〇六、八七七	七三五、八六五	△二八、九八八
衆議院	八三〇、三三七	九二、二一四	△一、八七七
會計檢查院	二三六、三一〇	二三七、一六四	△八四
行政裁判所	七四、九八一	七四、四四一	五四〇
拓殖局	七六、二四三	八五、一九七	△八、九五四
稅關	一、一三九、八五〇	一、一三一、〇二九	八、八二一
內國稅徵收費	八、一五三、二六九	八、三四四、九五四	△一九一、六八五
釀造試驗費	五四四、三六四	五四四、四五五	△九一
橫濱港維持費	一、六二一、二三四	一、六二一、二四三	△一七九
國債整理基金繰入	五、〇八四、七八五	四、六四五、〇〇〇	四三九、七八五
國債整理基金繰入	一、八六七、八七一	一五八、八七一	二八、〇四四
軍艦水雷艇補充基金繰入	一四七、三三五、八五八	一四七、六五七、三三七	△四四四、七七九
諸支出金	一三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	〇
國庫豫備金	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	△三、〇〇〇、〇〇〇
合計	一八五、一一一、五八二	一八八、五三八、二四四	△三、四二六、六三二
陸軍省所管			
陸軍本省	三七一、三三五	三八六、四九六	△一四、七六一
軍事費	七三、〇六九、二三六	七三、六六三、三三〇	△五九四、〇八四
憲兵費	一、八六六、九二〇	一、八七九、四〇〇	△一三、四八〇
癈兵費	三六、三一二	三九、〇三六	△二、七二四
馬政局	一、七九五、五六八	一、八四五、一六二	△四九、五九四

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
靖國神社寄付金	七、五五〇	七、五五〇	
諸支出金	三三四、五二二	三三七、六九一	△ 三、一七〇
合計	七七、四三一、七四三	六八、一三八、六四五	△ 七三六、九〇二
海軍省所管			
海軍本省	一九二、三三一	一九四、一九二	△ 一、八六一
軍事費	三九、六六九、五四六	四〇、五三一、二三九	△ 五六一、六九三
諸支出金	四六、三七二	三〇、九七	△ 二五、四六五
合計	四〇、二〇八、二三一	四〇、七〇五、三三八	△ 四九七、一〇七
司法省所管			
司法本省	一五六、四三四	一五六、六三三	△ 二、一九九
裁判所	六、一二〇、八七八	六、〇七七、五九九	三、一〇一、二七九
監獄	六、二八五、七四四	五、五九四、五三三	六九一、二〇一
諸支出金	五九、二四六	六二、六九二	△ 三、四四六
合計	二三、六二二、三五四	二一、八九二、五一七	七三〇、八三七
文部省所管			
文部本省	五五四、六一七	五六一、七五九	△ 七、一四二
震災豫防調查會	二一、二六一	二一、三七九	△ 一一八
測地學委員會	八、四八一	八、四八三	△ 二
中央氣象臺	七一、一六二	七一、二〇九	△ 四八
緯度觀測所	八、五八八	八、五七一	△ 一七
醫術及藥劑師試驗費	七九、五五六	八〇、一九五	△ 六三九
大學及學校圖書館支出金	五、二八〇、二五九	五、二七八、六八一	一、五七八
府縣立師範學校長俸給	一二七、八六四	一二七、八九五	△ 三一
普通教育費	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	〇
實業教育奬勵費	三八二、七五七	三八三、〇〇〇	△ 二四三
諸支出金	八七	九九八	△ 一二八
合計	九、〇三五、二九九	九、〇三二、一四〇	二、一五九
農商務省所管			
農商務本省	四七八、七一〇	五四二、一四〇	△ 六三、四三〇
特許局	一九七、四八二	一九七、六七九	△ 一九七
森林費	四、五三二、五七七	四、五三三、二六三	△ 九三一
鑛山監督署	三六六、七三	三八六、五八二	△ 一九、八六九
農事試驗場	二〇七、九六三	二一〇、七一〇	△ 二、七四七
水產講習所	一四五、七一六	一四七、〇九二	△ 一、三七六
蠶業講習所	一六九、六三三	一七五、一三五	△ 六、一三五
生絲檢查所	八八、一〇五	八八、八〇〇	△ 六九五
畜產改良費	二六九、〇七〇	二七二、七八一	△ 三、〇一一
工業試驗所	一〇八、二一六	一〇八、四九二	△ 二七六

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
花蓮檢查所	五五、六八四	五六、五八八	△ 九〇四
原蠶種製造所	七一、七八四	七四、一九〇	△ 二、三〇六
牛疫血清製造所	六八、八六六	九一、五九一	△ 二三、一二五
補助費	四四三、三五四	四四四、〇〇〇	△ 六四六
諸支出金	五一、九九二	四四、〇五五	七、九三七
合計	七、二五五、八五八	七、三三三、八三三	△ 七七、九七五
遞信省所管			
遞信本省	六七九、九九六	七二四、九七七	△ 四四、九八一
遞信費	二六、九二一、二三七	二六、九八八、〇九一	△ 六六、八五四
航路標識費	四〇五、〇九五	四〇六、九八四	△ 八九
商船學校	三三一、八一〇	三三一、六四三	一六七
年金及恩給	二九、〇六六、八三六	二九、〇六一、九三五	一九五
諸支出金	三五、三五	五二、八一一	△ 一六、七七六
合計	五七、三一〇、三〇一	五七、五九七、四一一	△ 二八七、一一〇
經常部合計	四〇九、八八九、〇四五	四一四、二〇五、六六二	△ 四、三一六、六一七
臨時部			
外務省所管			
營繕費	一〇二、一七三	一〇五、〇〇〇	△ 二、八二七
在外公館移轉費	五七、二八七	六〇、〇〇〇	△ 二、七一三
移民調查費	二〇、二六〇	二〇、〇〇〇	二六〇
條約改正費	八九四	三、一七〇	△ 二、二七六
海牙平和宮殿寄贈品費	二、八三五	二、八三五	
清國事件費	二、七二五	二、七二五	
臨時外國行諸費	六四六	一、三七一	△ 七二五
在清國帝國居留民防疫費	七、九三七	七、九三七	
日露間諸案件解決交付金	六七、九九五	六七、九九五	
在旅順露國人所有家屋買收費			
合計	四四、九九一	四四、九九一	
內務省所管			
補助費	一、八八九	一、〇五七、二六〇	△ 一、〇五五、三七一
治水事業費	八三三	九、六八六、一五二	△ 九、六八五、三一九
道路港灣調查費	一九五、〇九九	四九、八四九	一四五、二五〇
營繕費	一七、四八六	四六二、六三九	△ 四四五、一五三
造神宮使廳	二七七、一一〇	五五、九六六	二二一、一四四
小笠原島殖產事業費	四、三一六、六一七	四一八、一〇五、六六二	△ 四一三、七八八、〇四五
北海道拓殖費	二、六五四、五三〇	二、六七六、八三七	△ 二二、三一七
北海道森林費	三九二、七三〇	三九九、五〇七	△ 六、七七七
港灣改良費	一、〇〇七、五二九	一、一〇〇、〇〇〇	△ 九二、四七一
神職養成及神社調查費	九、九五〇	一〇、〇〇〇	△ 五〇
臨時外國行諸費	七、四七七	二、九四三	四、四八三

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
議員總選擧取締費	九五、〇四一	一〇〇、〇〇〇	△四、九五九
ドレスデン萬國衞生博覽會費	三六、〇四七	三六、〇五四	△七
臨時神社費	三六、三三三	三六、三三三	〇
トラホーム講習費	九、三三八	九、三三八	〇
災害費	八〇、七六七	八〇、七六七	〇
褒賞費	一九、一三一	四七、〇三一	△二七、八八九
水害罹災者北海道移住費補助	五九、五四三	六〇、〇〇〇	△四五七
縣債利子補給	二七、六八三	二七、六八五	△二
傳染病豫防費	一六〇、三三八	二四、二二一	一三六、一二七
地方廳臨時諸費	四四、六九二	〇	四四、六九二
衆議院議員選擧法改正調査會費	一、五三八	〇	一、五三八
合計	二、七四二、九二七	一九、〇九二、一七五	△一六、三四九、二四八
大藏省所管			
補助費	四五三、五五一	五三、五九八	△四〇〇、〇四七
營繕費	三、二六八、九一九	二、三七二、七八八	八九六、一三一
國稅定率調査費	一四四、八三八	一四四、八三三	△五
四分利付清國債券元利	一、二五四、四四八	二、一四四、二五八	△八二、七一〇
海外駐劄財務官費	七五、二八三	八二、七四〇	△六、七五七
臨時事件行賞諸費	二三、七二七	二六、七八八	△二、九八一
陸軍省所管			
砲臺建築費	一四二、三五五	三〇、〇〇〇	一二二、三五五
營繕費	一、一五八、四九五	一、三三〇、〇〇〇	△七四、五〇五
營繕及初度調辨費	七、三三八、八五〇	四、〇六六、七四一	三、一七二、一〇九
臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費	六九三、三三一	六八三、七三六	九、五九五
土地建造物利用費	一〇三、七七五	一三三、九一八	△二九、一四三
軍用氣球研究費	三九二、五七七	六七〇、〇九九	△二七七、五二二
無線電信研究費	五三、三三四	七〇、〇〇〇	△一六、六六六
測量費	三六、六二四	二九〇、六七六	△二五四、〇五二
拂下地圖製造費	六五、九九三	六六、〇〇〇	△七
朝鮮派遣部隊費	四、三九〇、〇〇九	四、五一一、九一八	△一二一、九〇九
清國駐屯部隊費	四七九、七三五	四九〇、七八五	△一一、〇五〇
特別大演習外賓接待費	一九、五八八	二五、〇七七	△五、四八九
匪徒鎭定費	二七、八二六	三〇、〇〇〇	△二、一七四
一時賜金	二、四一〇	三、一五九	△七四九
戰後整理費	八、四五七、六二三	九、四一〇、一〇四	△九五二、四八二
馬政事業設備費	一八八、一三九	一九〇、六三六	△二、四九七
臨時馬疫調査費	二〇、〇六八	二五、〇〇〇	△四、九三二
臺灣蕃匪討伐行賞費	八四、〇四二	八九、〇〇〇	△四、九五八
合計	三七、八四二、二五〇	四〇、九六九、四二八	△三、一二七、一三四
陸軍省所管			
砲臺建築費	一四一、三五	三〇、〇〇〇	一二一、三五五
營繕費	一、一五八、四九五	一、三三〇、〇〇〇	△一七四、五〇五
營繕及初度調辨費	七、三三八、八五〇	四、〇六六、七四一	三、一七二、一〇九
臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費	六九三、三三一	六八三、七三六	九、五九五
土地建造物利用費	一〇三、七七五	一三三、九一八	△二九、一四三
軍用氣球研究費	三九二、五七七	六七〇、〇九九	△二七七、五二二
無線電信研究費	五三、三三四	七〇、〇〇〇	△一六、六六六
測量費	三六、六二四	二九〇、六七六	△二五四、〇五二
拂下地圖製造費	六五、九九三	六六、〇〇〇	△七
朝鮮派遣部隊費	四、三九〇、〇〇九	四、五一一、九一八	△一二一、九〇九
清國駐屯部隊費	四七九、七三五	四九〇、七八五	△一一、〇五〇
特別大演習外賓接待費	一九、五八八	二五、〇七七	△五、四八九
匪徒鎭定費	二七、八二六	三〇、〇〇〇	△二、一七四
一時賜金	二、四一〇	三、一五九	△七四九
戰後整理費	八、四五七、六二三	九、四一〇、一〇四	△九五二、四八二
馬政事業設備費	一八八、一三九	一九〇、六三六	△二、四九七
臨時馬疫調査費	二〇、〇六八	二五、〇〇〇	△四、九三二
臺灣蕃匪討伐行賞費	八四、〇四二	八九、〇〇〇	△四、九五八
災害費	四四七、六八六	四三三、四三三	一四、二五三
清國事件費	四四七、五六四	一四四、五一〇	三〇三、〇五四
臨時軍事費	二、八三〇、二四七	二、八三〇、二四七	〇
滿洲駐劄部隊ペスト豫防費	八、九一三	八、九一三	〇
合計	二七、五七八、一六一	三一、一六五、六四三	△三、四二二、四八二
海軍省所管			
營繕費	五四五、七九四	五九一、三六五	△四五、五七一
鎭海軍港第一期設備費	六九〇、〇七六	五四四六、五五七	一四三、五一九
受託造修費	三三三、五四六	二一二、八三三	二一、二六三
臨時海軍建築部費	四六、五九八	四九、八五六	△三、二五八
拂下圖誌製造費	一四、〇〇〇	一五、〇〇〇	△一、〇〇〇
軍備補充費	五七、〇三八、八一四	四三、七二一、九四〇	一三、三一六、六七四
朝鮮海軍用地經營費	三八、五一三	三〇、〇〇〇	八、五一三
艦艇火藥庫冷却裝置費	二九八、四七八	三〇〇、〇〇〇	△一、五二二
舊軍艦松島解船引上費	二八、三三七	三〇、〇〇〇	△一、六六三
外國派遣軍艦費	六二一、五五八	五七六、一三七	四五、四二一
清國事件費	五三、一八一	一六六、一九〇	△一三四、九〇九
災害費	一六七、九六〇	〇	一六七、九六〇
一時賜金	五〇八	〇	五〇八
合計	六〇、二五五、三六六	四六、二五九、五八二	一三、九九五、七八四

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
司法省所管			
法律調査費	三一、二五七円	三一、四七三円	△一二五円
免囚保護事業奬勵費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇
督縮費	七七五、九〇〇	七三三、六〇四	五二、二九六
災害費	一〇八、〇三五	〇	一〇八、〇三五
府縣會議員總選擧檢察費	三、〇〇〇	〇	三、〇〇〇
合計	九二八、二七三	七六二、〇七六	一六一、二一七
文部省所管			
督縮費	三〇八、二一〇	三三三、九六二	△二四、二四八
設備費	一三、三二九	一、一四〇	一二、一八九
工科大學創立費	一五三、〇三八	八二、七三七	七〇、三〇一
東北帝國大學創立費	九二、〇五三	五、〇〇〇	八七、〇五三
第二女子高等師範學校創立費	三六、一〇〇	三五、〇〇〇	一、一〇〇
第二高等農林學校創立費	五八、八七六	一三、三三三	四五、五四三
蠶絲專門學校創立費	一三二、四六九	二〇、〇〇〇	一〇二、四六九
第五高等商業學校創立費	七四、〇七〇	四四、〇〇〇	三〇、〇七〇
第六醫學專門學校創立費	九六、五七九	五五、〇〇〇	四一、五七九
第七高等工業學校創立費	九五、一三八	五四、〇四九	四一、〇八九
鐵山專門學校創立費	一五三、三五五	一〇〇、〇〇〇	五三、三五五
大學及學校圖書館臨時支出金	三五、七五〇円	三五、七五〇円	〇円
臨時調査費	二三、七七七	一三、〇〇〇	△二〇三
臨時教員養成所費	九、五三五	九、五五三	△一八
委託學生費	二一、四三七	二三、〇一〇	△五八三
臨時外國行諸費	八、〇八九	六、七一二	一、三五七
奬勵費	八、二六〇	九、〇〇〇	△七四〇
臨時維新史料編纂局費	四〇、一六二	五〇、七〇八	△一〇、五四六
災害費	二八、一三七	二五、三三七	二、八〇〇
縣債利子補給	一三、二四四	一六、七五九	△四、四六五
災害費臨時支出金	五四、〇七〇	〇	五四、〇七〇
合計	一、四三三、九二八	八〇一、一三	六三二、八一五
農商務省所管			
外國貿易擴張費	九四、七五五	九九、〇〇〇	△四、二四五
製鐵所擴張費	四三一、六六四	一、七九九、九三三	△一、三七八、二六九
督縮費	二、四三六、六六二	二、七五五、七八	△三九、〇九六
國有林野經營費	〇	五〇、〇〇〇	△五〇、〇〇〇
製鐵所據置運轉資本補塡	一六、七五九	八、五六二	四四九
漁業免許處分費	八、一三	五〇、〇〇〇	△四四九
足尼國有林復舊費	五〇、〇七七	四〇、五四三	九、五三四
産業奬勵費	一、一六〇、八一六	一、一八八、四八六	△二七、六七〇
臨時調査費	七三、九三一	七四、四八〇	△一、五四九
日本大博覽會費	八三、三八七	四二、八六九	△三八、四八二
日英博覽會費	三一、九七八	五、五二八	二六、四五〇
羅馬及チュラン萬國博覽會費	五七、五三四	四九、〇〇〇	八、五三四
臨時外國行諸費	六、八九八	九、三七四	△二、四七六
生産調査會費	三二、五八四	三八、六四四	△六、〇六〇
獸疫及害蟲驅除費	七九、六二七	九〇、四〇〇	△一〇、七七三
治水事業費	三七九、七九六	五〇三、〇〇〇	△一三三、二〇四
災害費	一三六、六四二	〇	一三六、六四二
合計	五、四九八、〇二三	八、〇八七、三二九	△二、五九九、一〇七
遞信省所管			
補助費	二、八〇〇、九九一	一三、七六八、九九〇	△一、九一五、九九八
電信電話營繕費	三八八、一七一	三七〇、〇八三	一八、〇八八
航路標識營繕費	八八、〇三三	九七、〇〇〇	△八、九七八
營繕費	三六四、二八七	四〇、〇〇〇	△五五、七一三
電話交換擴張費	五、八五四、四三九	六、〇〇〇、〇〇〇	△一四五、五六一
發電水力調査費	二七一、四〇三	二七〇、〇〇〇	一、四〇三
清國事件費	四〇、三五八	三六、三九三	△二九六、〇三五
電氣器具機械設備費	六〇、三六	〇	六〇、三六
災害費	二五四、〇四四	〇	二五四、〇四四
合計	二、九一三、〇九六	一四、一三〇、四六六	△一一、二一七、三七〇
臨時部合計	一七五、四八五、五六七	一五九、七九一、三三五	一五、六九四、二三二
歳出總計	五八五、三七四、六一三	五二二、九九六、九九七	五二、三七七、六一六

右明治四十四年度歳入歳出總決算は同年度各特別會計決算及會計檢査院の檢査報告と共に、大正三年二月二日第三十一回帝國議會に提出せられたり。衆議院に於ては決算委員會に於て之が審査を行ひ、三月二十三日を以て之を終了せしも、同日議會の停會を命ぜられ、停會中會期終了せし爲め遂に本案を院議に付するに至らずして止みしを以て、翌大正四年五月第三十六回帝國議會に於て之が審査を行ふことと爲せしが、右決算委員會に於ては第三十一回議會に於ける決算委員會の決議を認むることと爲し、五月三十一日決算委員長大津淳一郎は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『明治四十四年度の決算は既に第三十一回議會に於て審査結了し、唯院議のみ未了なりしものなるを以て、委員會は該會期の決算委員會の審査を尊重し、之を基礎として審査せり。其の審査の結果は一般會計決算中に於て不當不法と認めたるもの五十七件、特別會計決算中に於て不當不法と認めたるもの二十八件、不穩當と認めたるもの一件、既往年度たる四十二年度の一般會計決算中不當と認めたるもの六件、特別會計決算中不當不法と認めたるもの二件、四十四年度に於ける一般會計決算中警告若は注意を與ふべきものと決したるもの十三件、特別會計決算中警告若は注意を與ふべきものと決したるもの八件なり。外に政府に對する希望一件あり。卽ち既往に於ける例に依れば政府の決算提出は往々遲延し、之が愼重審議を爲すに困難なる場合あるを以て、爾後は之を豫算案と同時に提出せられたしとの希望にして、其の文案は「年々決算の提出が大に遲延するは審査上頗る遺憾に堪へざるものあるを以て、今後は成るべく豫算と同時に提出せられんことを要望す」と謂ふにあり。院議の承認を望む。』

斯くて採決の結果總て委員長報告の通決定したり。

貴族院に於ては大正三年二月二日第三十一回帝國議會に於て明治四十四年度決算の提出せらるるや、決算委員會に於て之が審査を遂げたる結果、明治四十四年度一般會計歳出に於て一件は政府の措置穩當を缺くものと認め、同歳入に於て一件、同歳出に於て七件は政府に對し將來の注意を促すべきものと認め、其の他は異議なしと議決し、決算委員長は三月十四日を以て審査報告書を議長に提出せしが、本案の院議に付せらるるに先ち同月二十三日議會は停會を命ぜられ、停會中會期終了せしを以て、遂に院議に付せらるるに至らずして止みたり。依て貴族院は同年六月第三十三回帝國議會に於て之が審議を行ふことと爲せしが、決算委員會は明治四十四年度決算に就ては總て第三十一議會に於ける審議を認むるに決し、六月二十八日決算委員長松平直之は委員會に於ける經過及結果を本會議に報告し、院議は異議なく委員長報告の通決定したり。

第十一節　明治四十五大正元年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

明治四十五年度の豫算を編成するに當り同年度に於ける歳入出の狀況を考察するに、歳入に於ては其の增加を見ること甚だ多からず、而も歳出に在りては既定繼續費年割額の增加するもの少からず、且既定計畫に屬する事業の進捗に基き經費の增加を要するもの亦少からざるを以て、歳入出の均衡を維持するが爲め努めて歳計の膨脹を抑制するの方針を採り、普通歳入及前年度剩餘金額の範圍内に於て相當の計畫を立てたり。

右方針に依り編成せられたる明治四十五年度歳入歳出總豫算の數額は、歳入歳出各五億七千二百八十九萬千八百六十六圓にして、内歳入經常部五億二百五十五萬五千八百五圓、同臨時部七千三十三萬六千六十一圓、歳出經常部四億千百九十六萬五千八百六十四圓、同臨時部一億六千九十二萬六千二圓なり。尙右の外臨時軍事費特別會計より繰越したる經費の中二百九十八萬千九百八十三圓は、本

年度に於て之が使用を要するものにして、右は前年度剰餘金を以て支辨するの計畫なり。今本年度豫算額を前年度豫算額に比較すれば左の如し。

區分		明治四十五年度豫算額	明治四十四年度豫算額	比較増	比較減
歳入	經常部	五〇二、五五五、八〇五 内	四九四、九一六、四九七 円	七、六三九、三〇八 円	○円
	臨時部	七〇、三三六、〇六一	七三、九八七、四一九	○	三、六五一、三五八
	合計	五七二、八九一、八六六	五六八、九〇三、九一六	三、九八七、九五〇	○
歳出	經常部	四一一、九六五、八六四	四一〇、〇八四、九九四	一、八八〇、八七〇	○
	臨時部	一六〇、九二六、〇〇二	一五八、八一八、九二二	二、一〇七、〇八〇	○
	合計	五七二、八九一、八六六	五六八、九〇三、九一六	三、九八七、九五〇	○

（備考）一、明治四十四年度豫算額は本豫算額及第二十七議會通過追加豫算額の合計なり。
二、明治四十四年度豫算額中陸軍省所管經費に於て、本年度豫算との比較對照上彼此組替掲記したるものあるを以て、該年度決定金額と符合せず。

今明治四十五年度歳入豫算を前年度に比較して其の増減せる重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては印紙收入・郵便電信及電話收入・專賣局益金・預金利子繰入・朝鮮公債及借入金償却繰入の増加したる等の爲め千九十九萬四十四圓を増加すと雖も、租稅・南滿洲鐵道株式會社配當金・臺灣事業公債及借入金償却繰入の減少したると、砂糖消費稅繰入の皆滅したる等との爲め三百三十五萬七百三十六圓を減少するを以て差引七百六十三萬九千三百八圓を増加し、臨時部に於ては横濱港灣設備納付金・獻納金及前年度繰入金等に於て九百六萬五千九百五十六圓を減少すと雖も、官有物拂下代・利子收入・治水費資金繰入等に於て五百四十一萬四千五百九十八圓を増加するを以て、差引三百六十五萬千三百五十八圓を減少したり。

又其の歳出豫算増減の重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては内務省所管に於て警察費連帶支辨金の増加、大藏省所管に於て預金利子及手數料市町村交付金の増加、陸軍省所管に於て軍備充實及二年現役に係る年割額の増加、海軍省所管に於て新艦に要する軍事費の増加、司法省所管に於て在監人費の増加、文部省所管に於て大學及學校圖書館政府支出金の増加、農商務省所管に於て造林事業費及原蠶種製造所費の増加、遞信省所管に於て電話交換擴張に伴ふ維持費及通信事業増進に伴ふ經費の増加等の爲め七百四十四萬三千二百圓を増加すと雖も、大藏省所管に於て國債整理基金繰入の減少したる等の爲め五百五十六萬二千三百三十圓を減加し、臨時部に於ては外務省所管に於て英國大使館及奉天長春二領事館移轉費、内務省所管に於て上下水道費新規補助傳染病豫防費・衆議院議員總選擧取締費・治水事業費の増加、大藏省所管に於て神戸税關海陸運輸聯絡設備費及煙草製造專賣創業建設費の増加、陸軍省所管に於て舊兵營其他修築費・豫備兵器補塡費の増加、海軍省所管に於て軍備補充費の増加・教育兵器充實費・標的船製造及航空術研究費、文部省所管に於て大學及學校圖書館臨時支出金・第八高等工業學校創立費、農商務省所管に於て原蠶種製造所新營費・製鐵所擴張費の増加、遞信省所管に於て電話交換擴張費の増加等の爲め千四百十六萬八千百三十五圓を増加すと雖も、内務省所管に於て關門海峽改良費の減少、大藏省所管に於て關東都督府經費補充金及議院建築準備費の減少、陸軍省所管に於て整備費及軍用氣球研究費の減少、海軍省所管に於て外國派遣軍艦費の皆減、農商務省所管に於て製鐵所据置運轉資本補塡及日本大博覽

會費の皆減、遞信省所管に於て航海奬勵費及造船奬勵費の減少等の爲め千二百六萬千五十五圓を減少するを以て、差引二百十萬七千八十圓を增加したり。

明治四十五年度に於て新に要求に係る繼續費は八十一萬八千五百十圓、既定繼續費に對し追加を要するもの二百五十萬圓、合計三百三十一萬八千五百十圓にして、其の年限最も長きは明治四十七年度に終る。而して明治四十五年度以降の既定繼續費總額四億九千四百六十七萬九千八百七十七圓に右增加額を加ふるときは、明治四十五年度以降繼續費の總額は四億九千七百九十九萬八千三百八十七圓となるの計算なり。

明治四十五年度に於て國庫豫備金は第一豫備金百萬圓、第二豫備金二百萬圓なり。

明治四十五年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は一億圓なり。

第二項　豫算の成立及公布

明治四十五年度歳入歳出總豫算案は、明治四十五年一月二十三日第二十八回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計歳入歳出豫算案と共に衆議院に提出せられ、同日大藏大臣山本達雄は衆議院に於て財政計畫に關して左の如き演說を爲したり。

『本官は茲に明治四十五年度歳計豫算を紹介するの光榮を有す。明治四十五年度豫算計畫を立つるに方り其の歳入出の狀況を察するに、歳入に在りては其の增加を見ること甚だ多からず、而も歳出に在りては既定繼續費に於て年割額の增加するもの多きのみならず、既定計畫に屬する事業の進捗に伴ひ經費の增加を要するもの亦少からざるを以て、同年度豫算の編成に際しては歳入出の均衡を維持するが爲め、普通歳入及前年度剩餘金の範圍内に於て相當の計畫を立つるの方針を採れり。右の方針に依り編成したる明治四十五年度總豫算の歳入は、經常部五億二百五十五萬五千八百五圓、臨時部七千三十三萬六千六十一圓、合計五億七千二百八十九萬千八百六十六圓にして、其の歳出は經常部四億千百九十六萬五千八百六十四圓、臨時部一億六千九十二萬六千二圓、合計五億七千二百八十九萬千八百六十六圓なり。故に經常歳入を以て經常歳出に比較すれば九千五十八萬九千九百四十一圓の超過にして、之を前年度に於ける經常部歳入歳出の關係に對照すれば一層良好なる狀態を示せり。右總豫算に計上せる歳出の外、曩に臨時軍事費特別會計より繰越したる豫算の内二百九十八萬千九百八十三圓を併せて使用するの豫定にして、前年度剩餘金を以て之を支辨するの計畫なり。明治四十五年度歳入を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては水害の結果前年度に於て特に減額を示したる地租の漸く其の收入を回復すると、營業稅及通行稅等に於て增加するものあるも、砂糖消費稅、關稅、酒稅、所得稅等に於て減少するものあるが爲め、結局租稅收入に於て二百十餘萬圓、官業及官有財產收入に於て四百八十餘萬圓を增加し、其の他預金特別會計繰入金等に於て百七十餘萬圓を增加するを以て、差引七百六十餘萬圓の增加を示し、臨時部に在りては官有物拂下代、治水費資金繰入等に增加するものあるも、主として前年度繰入金の減少するが爲に、差引三百六十餘萬圓を減少し、結局歳入總額に於て三百九十餘萬圓を增加す。明治四十五年度歳出を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては一方に於て國債利子の減少及經費の節約等に依りて歳出の減少するものあるも、他方に於て既定計畫に屬する事業の進捗及一般の進

運に伴ひ經費の增加するものあるが爲に、差引百八十餘萬圓を增加し、臨時部に在りては一方に於て前年度限の費途にして本年度に於て之を要せざるものあるの外、前年度に比して經費を節減したるもの亦少からずと雖も、既定繼續費に屬する年割額の增加せるもの多きのみならず、必要缺くべからざる施設に關し經費の增加せるものあるが爲に差引二百十餘萬圓を增加し、結局歳出總額に於て三百九十餘萬圓の增加を示せり。而して國債に關しては從來の方針に依り本年度に於て五千萬圓を償還するの豫定なり。

釀て前年中に於ける我經濟界の狀態を觀察するに、前々年度以來引續きたる金融緩慢の狀況が近時漸く其の勢を一轉せんとするものあるは、自ら各般の事業稍〻其の整理發展の氣運に向ひつつあるの徴候と謂ふを得べきも、尚未だ充分なりと謂ふべからず。又同年中に於ける我外國貿易の狀況を見るに輸出額四億四千七百餘萬圓、輸入額五億千三百餘萬圓、合計九億六千百餘萬圓にして、之を前年の對韓貿易を除きたる額に比すれば總額に於て實に六千四百餘萬圓の增加にして、未曾有の額に達し、貿易の發達を示すに足れりと雖も、其の輸入額は前年に比し五千八百餘萬圓を增加せるに反し、輸出に於ては僅に六百餘萬圓の增額に止まれり。斯の如く輸出入の差額著しきは關稅改正の爲め見越輸入ありて大に此勢を助長せしものあるべしと雖も、現下の我國情に照し實に考慮すべき現象なりとす。本官は以上の趨勢に顧み今後益〻產業を振興し輸出を增進し、以て國力の充實に資するの急務なるを信ず。

之を要するに明治四十五年度豫算に於ては主として歳入歳出の均衡を保ち、一般經濟との調和を計り、我財政の基礎をして一層鞏固ならしめんことを期せり。而して此方針は我財政の信用を厚くし、以て將來に於ける國力の發展に資すべきは本官の固く信じて疑はざる所なり。諸君幸に之を諒せられ、豫算案に對し愼重審議以て協贊を與へられんことを望む。』

衆議院に於ては一月二十四日より引續き豫算委員會を開きて審議を遂げたる結果、全部原案の通可決すべきものと決定し、二月十三日豫算委員長野田卯太郎は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算案審査の結果は歳入歳出共に全部原案に決定したり。尤も豫算外國庫の負擔となるべき契約に關する件に於て多少の修正あり、卽ち一般會計に於て遞信省所管清國航路補助年限「五箇年」を「四十七年度まで」と修正し、大連航路補助中に於て「四十八年度まで四箇年」とありしを「四十七年度まで三箇年」と修正し、大連航路補助中「四十六年度より四十九年度まで四箇年」とありしを「四十七年度まで」と修正し、上海線航海補助・北清線航海補助・浦鹽斯德線航海補助・本州北海道聯絡航路補助中「四十八年まで」とありしを「四十七年まで」と修正したるが爲め、本年度豫算には關係なしと雖も、其の結果總てに於て二百四十四萬四千二百四十八圓を減少し、又特別會計に於て大藏省所管朝鮮總督府の航海補助「四十六年度より五十年度まで」とありしを「四十七年度まで」と修正したり。其の理由は歐洲航路・南米航路及北米航路は四十七年度に於て滿期となるを以て、是と同樣に航海補助費を按排せば大に整理の餘地あるべしとの見込なるが故なり。次に委員會に於て政府に警告する所あり、卽ち陸海軍省に於ては陸海軍は大に經費を整理するの餘地ありと認むるに依り將來一層整理を爲すこと、農商務省に於ては今より一層殖產興業の振起に努むること、朝鮮總督府に於ては土地の整理を急ぐこと、及東洋拓殖會社に對し十分の監督を加へ當初の目

的を達すること、臺灣總督府に於ては鹽業に關すること等なり。委員會に於て武富君外二名より「一般會計歳出に於て六千萬圓を削減すること、但し其款項の金額は政府と協議して之を定むること」の動議を提出せられ、之に對して井上君・小川君より質問又は反駁ありたり。卽ち武富君は今此に於て財政を整理せざれば帝國の將來甚だ危く、且又豫算の運用も困難なるに至るべし。政府は來年度に於て制度局を設け之が整理を爲すとのことなるを以て整理には同意なるべく然らば本年度に於て直に之を行ふべし。而して此の動議通過せば本會に於て之を議決し、今より政府と協議を遂げ豫算案全部を變更すべしと。之に對し小川君・井上君は今や會期も切迫せるに拘らず、武富君等は政府と協議して豫算を變更すべしと云ふも、政府は旣に同意し能はざる旨を言明し、議會に於ても過去二十一日間に亙りて審議討論を經たるのみならず、吾人は削減を加ふるの權能あるを以て、款項に依り之を實行せば可なるべし。然るに漫然六千萬圓天引を決議し、而して其の款項の金額は政府と協議して定めんと云ふが如きは議會の權能を輕んずるも甚しと反駁し、武富君等の動議は終に否決せられたり。又加治君より一般會計に於て五千萬圓削減卽ち「一般會計に於て皇室費・神宮費・李王家費用・契約に依り政府の義務に屬する預金利子及手數料を除き各項目より一割三分を減ずべし」との動議を提出せられしも、是亦否決せられ、豫算案全部金額に於て聊も修正なく之を贊成したり。卽ち今日の時局に於て此の豫算の不當ならざるのみならず、近く政府は來年度に於て制度調査局を設置し、總理大臣其の總裁として根本的に行政及財政を整理すべきことは委員會に於ても屢言明せし所にして、武富君等の議論に於ても要するに時期の問題に過ぎず。然らば則ち此の豫算は法律其の他の關係上政府をして自ら整理せしむるものなるに依り、一年を待ちて之を爲すも未だ晩しとせずとの趣意を以て總て原案を可決せり。』

委員長報告の後武富時敏は一般會計歳出に於て六千萬圓を削除すべしとの修正動議を提出し、其の趣旨を左の如く陳述せり。

『大藏大臣は豫算を紹介するに當り、入るを量りて出づるを制するの方針を採りたりと云ひしも本豫算を遂行せんとせば二億圓餘の借金を爲さざるべからず。借金を豫定して編成したる豫算は入るを量りて出づるを制したるものと云ふべからず。又政府は大藏省證券發行の最高限八千萬圓を一億圓に增加し、國庫の窮乏を暴露したり。從來大藏省證券は其の最高限を發行したること稀にして、縱令金融緩慢にして其の需用多き場合と雖も、五千萬圓以上の賣行ありたることは殆ど之なしと云ふも不可なし。然るに今此一億圓に加ふるに專賣局竝製鐵所の融通證券等を以てせば、一億三千有餘萬圓の大藏省證券を發行せざるべからざるに至るべし。果して然らば其の全部民間に賣行く能はざるは勿論なるを以て、結局日本銀行をして調達せしむるの外又取るべきの途なきに至らん。尙其の他に於て鐵道資金・朝鮮公債・臺灣公債等の借入金支辨の經費は之を日本銀行に仰がざるべからざるものあり。日本銀行と雖も無限に資金を有するものにあらざるを以て、結局兌換券の增發を爲すより外なきに至るべし。兌換券の增發は物價の騰貴を來し、物價の騰貴は輸入の增加を來し、正貨の流出なる現象を呈するに至るべし。然らざるも日本の正貨準備は憂慮すべき狀態にあり。大藏大臣は正貨と兌換券の發行高と相匹敵し居れるを以て、向後二年位は差支なしと云ふも、右は外國貿易の均衡を保ちつつある場合を指

すものにして、年々五千萬圓乃至六千萬圓の輸入超過を示す場合、若くは近年の如き特に其の逆調の甚しき場合は之に當らざるなり。故に年々五千萬圓の輸入超過あるものと見て、之に八千萬圓の外國債利子拂を加ふれば一億三千萬圓の正貨を要し、若し七千萬圓の輸入超過とすれば一億五千萬圓の正貨を要す。毎年一億五千萬圓の正貨拂を要すとせば、三億圓の在外正貨は二年を出でずして消盡すべし。正貨は兌換券制度の基礎にして、一朝危殆に瀕せんか、經濟界は名狀すべからざる混亂に陷るのみならず、國家有事の日に際し百萬の陸軍、六十萬噸の海軍ありと雖も何等の用を爲さざるに至る。思はずんばあるべからざるなり。是れ本員等が從來の方針を根本より改め財政方針を立直すべしとする所以なり。日露戰後政府當局の施設宜しきを得ば、戰後二年の今日は其の瘡痍も漸く癒えて、經濟界亦順調に向ひたるべかりしなり。然るに當初の財政政策當を失するものありて今日の苦境を誘致せり。而も既往は追ふべからず、將來は尙爲すあるに足るを以て、其の財政方針を改むる第一著手として本員等は本豫算に六千萬圓の削減を加へんとするものなり。而して政府は來年度に於ては營業稅竝所得稅の改正、鹽價の低廉、海軍の充實を計るべしと公約せりと雖も、本豫算の實行既に困難なるものあるに拘らず、來年度の豫算を如何にして編成せんとするや。政府は其の公約の實行のみに少くも歳出に於て六七千萬圓の節減を加へざるべからずと信ず。政府は是等總ての計畫を制度整理局の調査に待たんとするが如きも、斯の如きは全然不可能の事に屬せり。政府眞に制度整理に志あらば、宜しく先づ其の範圍を定め、而して其の範圍内に於て制度整理を行ふべきことを命ずるに非ざれば政費の節減は到底期し難し。』

次に淺野陽吉は武富時敏の歳出減額六千萬圓を五千萬圓に修正するの動議を提出し、其の趣旨を陳述せり。次で小川平吉は委員長の報告に贊成し、修正動議に反對して左の如く陳述せり。

『武富君は六千萬圓を、淺野君は五千萬圓を削減すと云ふも、果して如何なる款項に付幾許の金額を減少するかに關しては何等具體的の案を示さず、唯漫然之を削減すと云ふが如きは憲法上議會の權能の上に於て穩當を缺くものに非ざるか。之を要するに武富君の動議は豫算を政府に返却して、政府をして六千萬圓を減額したる新豫算を提出せしめんとするものなりと認むるを至當なりと信ず。果して然らば政府は之を返却するも六千萬圓減額したる豫算を提出せずと言明し居るを以て、修正を欲せざる政府、信任せざる政府に豫算の新編成を强ひんよりは、寧ろ此の場合直に論者は款項に亙り削減修正するの可なるに非ずや。若し本員等にして豫算返却の動議に贊成するとせば本豫算は不成立に終り、其の結果は論者の希望せざる五億六千八百萬圓てふ巨額の前年度豫算を施行するに至るのみならず、論者の熱心唱導する海軍の充實其の他必要なる事業は總て實行する能はざるに至り、論者の希望に反對の結果を生ずるに至るべし。又武富、淺野兩君は財政の困難、正貨の流出、大藏省證券に關し評論したるも、物價騰貴、輸入超過、正貨流出に就ては種々なる原因あるものにして、之あるが爲に六千萬圓を削減し豫算を返却すべしとの結論の生ずべきものに非ず。財政の困難は今日に始まりしに非ずして、日露戰役以來引續き來りたる事實たり。大藏省證券の增發は已むを得ざるものあるが爲にして、之を以て豫算返却の理由とする能はざるなり。財政を改革し之を窮地に救ひ、租稅を輕減し國防を充實すべしとの武富君の意見は、獨り本員のみならず政府も亦同感にして、既に制度整理局を設置し之が調査

を進めつつあるのみならず、行政竝稅制の整理を斷行すべきを言明し居れるを以て、先づ假すに相當の時日を以てし、之を行はしむるを得策なりとす。』

次で石橋爲之助・片岡直溫の武富時敏の修正動議贊成論、竹越與三郎・井上角五郎の修正動議反對委員長報告贊成論あり、次に小河源一は航路補助の件に關し修正意見を提出し、川原茂輔は之に反對したり。斯くて討論終結し、議長は先づ修正動議に就き採決したるに孰れも少數にて否決せられ、豫算委員長報告の通豫算案全部可決確定したり。

貴族院に於ては二月十三日衆議院より明治四十五年度豫算案を受領し、同月十七日より豫算委員會を開きて審議の結果、衆議院議決の通可決すべきものと決定し、三月七日豫算委員長曾我祐準は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算委員會に於て委員より發せられたる質問の重なるものを擧ぐれば（一）清國動亂に對する政府の過去現在及未來の政策如何（二）國勢調査の實施期如何（三）社會政策に關する件（四）鎭海灣軍港設備に關する件（五）國民道德の涵養に關する件、感化院の件、傳染病豫防に關する件（六）宗教家會同に關する件（七）海軍勢力補充の件（八）制度調査局及稅制整理に關する件等なるが、一委員より政府は一方制度調査局を設けて行政及財政を整理すと稱しながら、一方には新事業を起し、剩へ數年に亙る繼續事業及補助金等を要求せり。故に此の如き豫算には斷じて贊成するを得ずとの反對意見を提出せしも、贊成者なくして消滅せり。其の他別に何等の波瀾なく、三案共に衆議院議決案の通可決すべきものと議決せり。其の他各分科及一箇人の希望も數多ありしが、其の中第一分科の希望として議決報告せられたる（一）減稅（二）公債・借入金・大藏省證券等の調節（三）政費節減（四）四十六年度に於ける海軍補充の爲には場合に依りては增稅も已むを得ざることの五點は、內閣總理大臣より二月二十日豫算總會に於て責任ある答辯を與へられたる以上、必ず之が實蹟を擧げられんことを希望するとの動議提出せられ、一委員の增稅を以て海軍補充計畫の財源とするに反對の意見ありしも消滅し、豫算委員會の希望として之を可決せり。』斯くて採決の結果異議なく總て豫算委員長報告の通卽ち衆議院議決案の通可決確定したり。

右貴衆兩院の協贊を經たる明治四十五年度歳入歳出總豫算は裁可を經て明治四十五年三月十五日左の如く公布せられたり。

明治四十五年度歳入歳出總豫算表

科目	金額	科目	金額
歳入		歳出	
經常部		經常部	
租稅	三三、九六四、三二九円	酒稅	八八、四八一、五八二円
地租	七五、四二七、九九四	醬油稅	四、六三四、八四五
所得稅	三三、七三五、二六二	砂糖消費稅	一三、七八九、七九〇
營業稅	二四、五九五、三六五	織物消費稅	一八、六四三、七九一
相續稅	一、九四九、〇七七	石油消費稅	一、九九八、六二八
通行稅	三、五七八、九三三	寶藥營業稅	三五、九七〇
鑛業稅	一、九七八、二九	取引所稅	三、六二二、〇〇三
兌換銀行券發行稅	八六二、二八四	印紙收入	四九、八九二、二〇七
印紙收入	二七、一七三、九二三円	關稅	五七七、三三九
官業及官有財產收入	一三、三三三、七二九	噸稅	二七、一七三、六二
郵便電信及電話收入	五四、一三四、五三〇	印紙收入	二七、一七三、九二三円
森林收入	一〇、七八三、一八八	官業及官有財產收入	一三、三三三、七二九
配當金收入	一、六六三、七四五	郵便電信及電話收入	五四、一三四、五三〇
囚徒工錢及製作收入	一、三三八、五三二	森林收入	一〇、七八三、一八八
官有物貸下料	二七二、八四五	配當金收入	一、六六三、七四五
印刷局益金	二七一、八三五	囚徒工錢及製作收入	一、三三八、五三二
專賣局益金	六二、一三二、四一三	官有物貸下料	二七二、八四五
東京砲兵工廠益金	一五、一四六	印刷局益金	二七一、八三五
		專賣局益金	六二、一三二、四一三
		東京砲兵工廠益金	一五、一四六

科目	金額	科目	金額
大阪砲兵工廠益金	三六、八九四 円	朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	三六、八九四 円
千住製絨所益金	三、八九九	朝鮮公債及借入金償却繰入	二、三七、三六四
海軍採炭所益金	八三、六一三	臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	三、四七九、七五二
海軍工廠資金益金	五八三、二六六	臺灣事業公債及借入金償却繰入	三、四七九、七五二
製鐵所益金	一〇、〇〇〇	**經常部合計**	**五〇二、三五五、八〇五**
電信燈臺用品製造所益金	二、九二四	**臨時部**	
雜收入	三、〇四六、〇四九	官有物拂下代	四、五七九、六三一
免許及手數料	二三七、六三九	鐵山拂下代	一、〇〇〇
懲罰及沒收金	九二五、五六六	地所拂下代	一、二六八、四七四
辨償及違約金	三三四、一八四	建物拂下代	四九、三三
稅關雜收入	一七三、二四九	工場拂下代	一四三、三〇〇
雜入	四二六、九八八	物品拂下代	二、一〇一、七一六
官吏遺族扶助法納金	三七〇、六七一	船舶拂下代	一、〇〇一、五四九
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	一四二、七八九	家畜拂下代	一四三、三六九
一年志願兵及幼年學校自費生納金	四三四、三三	雜收入	四、〇〇一、九〇七
小笠原島地方收入	七二	海軍受託造修收入	二三、一七〇、六六七
預金特別會計ヨリ繰入	二三、一七〇、六六七	返納金	一、七七七、九八八
預金利子繰入	二、一四四、一七五	清國償還金收入	一四四、一七五
預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	利子收入	六九四、九〇〇

科目	金額	科目	金額
雜入	八、五二五 円	氣象臺磁力計室移築費獻納金	一〇、〇〇〇
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	前年度繰入金	一五、〇七四、五七九
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	前年度繰入金	一五、〇七四、五七九
公債募集金	一五、一八一、五四〇	**臨時部合計**	**七〇、三三五、〇六一**
朝鮮事業費公債及繰替借入金	一三、五九六、五四〇	**歳入總計**	**五五二、八八一、八六六**
臺灣事業費繰替借入金	二、五八五、〇〇〇	**歳出**	
森林資金繰入	二、八二九、〇六七	**經常部**	
森林資金繰入	二、八二九、〇六七	皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
陸軍營繕費補充資金繰入	三七三、〇〇〇	皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
陸軍營繕費補充資金繰入	三七三、〇〇〇	**外務省所管**	
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	外務本省	七九四、五三八
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	俸給	一二四、五五九
貨幣整理資金繰入	四〇、〇〇一	總費	四八、八八八
貨幣整理資金繰入	四〇、〇〇一	修繕費	四、六八一
治水費資金繰入	一五、一六二、三一六	旅費	五、四八三
治水費資金繰入	一五、一六二、三一六	雜給及雜費	三一、九三一
學校創立費獻納金	九四四、〇〇〇	傭外國人諸給	一五、〇〇〇
學校建築費獻納金	八〇、〇〇〇	電信料	一五〇、〇〇〇
	四、〇〇〇	宴會費	五、〇〇〇
		常設仲裁裁判所費分擔金	一、〇〇六

科目	金額	科目	金額
外國留學生費	一八、〇〇〇	官國幣社費	二三〇、〇〇〇
機密費	四〇〇、〇〇〇	國幣社例祭幣帛料	三、五五〇
在外公館	三、四六六、一一〇	招魂社諸費	一一、六四七
俸給	一、八〇〇、〇〇三	內務本省	五〇四、二三八
館費	四二六、八四九	俸給	一八六、六一九
旅費	一八七、一二一	廳費	四九、三三四
傭外國人諸給	三六六、八七五	修繕費	四、四〇〇
裁判及登記諸費	二、九二一	旅費	三七、八一八
在外國居留民取締費	一七六、〇六二	雜給及雜費	六七、〇七三
在監人費	一六、五六二	萬國協約分擔金	二、八九四
地所家屋借料	三六三、一一八	感化救濟事業奬勵諸費	八六、七〇〇
電信費	一二四、五五九	地方改良事業奬勵諸費	三九、四〇〇
宴會費	四八、八八八	機密費	三〇、〇〇〇
諸支出金	四、六八一	痘生試驗所	一三七、八六一
諸支出金	五、四八三	俸給	三八、五七五
合計	**三一、九三一**	事務費	一五、〇六六
內務省所管		事業費	五九、八六九
神宮費	一五、〇〇〇	阿片費	二四、四三
神宮費	一五〇、〇〇〇	傳染病研究所	一八二、六〇七
神社費及國幣社例祭幣帛料	七〇、〇〇〇	俸給	二九、八九五
	五、〇〇〇		
	二三四、九九七		

科目	金額	科目	金額
事務費	一四、九七六	府縣	円 九、〇六〇、六四五
事業費	三七、七三六	俸給	三、三一四、二六〇
警視廳費	二六六、二四九	諸支出金	三七八、六九二
俸給	一六六、八九六	諸支出金	三三、一七二
修繕費	一四、一六二	合計	九三七、九二二
旅費	三、九三〇	**大藏省所管**	
雜給及雜費	一一、五二〇	大藏本省	四五四、一九二
徵兵費	二八、五二〇	俸給	三九八、七七一
舊土人保護費	六〇、七四一	廳費	七、二〇〇
警察費連帶支辨金	九、〇〇〇	修繕費	三、二〇六、九四七
北海道廳	五八七、九五六	旅費	一四一、五九二
俸給	二七〇、九九六	雜給及雜費	五八、八七七
廳費	四一、一四九	雜給及雜費	一三〇、〇〇〇
修繕費	六、二〇六	地方費	三四、一六六
旅費	九一、四三九	小笠原島地方費	三四、一六六
雜給及雜費	五四、三三	島地警察費	三九、五一九
徵兵費	二八、五二〇	機密費	二一、二〇〇
機密費	二一、一五六	補助費	一、〇五八、九三八
俸給	八〇、五六七	傳染病豫防費補助	三七九、一七三
廳費	三三、三〇〇	地方感化院費補助	一〇〇、〇〇〇

科目	金額	科目	金額
地方費補給	円 四二九、七六五	旅費	八〇七、七六三
古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇	雜給及雜費	一、一三〇、三三七
諸支出金	二三五、〇七三	俸給	五三〇、五五七
諸支出金	二三五、〇七三	修繕費	二三三、八六六
合計	二、〇七四、〇六六	廳費	四二七、二五八
大藏省所管		修繕費	四七、五四二
大藏本省	三七一、四三三	雜給及雜費	七、五四七、五三三
俸給	一九〇、六〇八	內國稅徵收費	二、六四三、〇〇〇
廳費	三七、一九四	俸給	四二七、二五八
修繕費	五、〇八五	廳費	四二七、二五八
旅費	二五、五五二	修繕費	一三、八八〇
雜給及雜費	六九、九九五	旅費	一、〇六六、五三七
關稅訴願審查委員會費	二、八四四	雜給及雜費	七一三、〇五七
萬國關稅表刊行同盟費	六三六	調查費	一二四、〇六四
證券類取扱費	三九、五一九	處分費	八〇、五八
預金利子及手數料	二一、二〇三、四九七	印紙類諸費	一〇〇、四三六
預金利子	二一、一七〇、六六七		
利子拂手數料	三一、八三〇		
內閣	三四五、五七九		

科目	金額	科目	金額
俸給	一二三、七五〇	議員諸費	八〇七、七六三
廳費	三三、〇五八	俸給	三四、二一八
修繕費	二、七五八	雜給及雜費	三八、八三
雜給及雜費	四三、〇四〇	稅關	一、七五七
賞賚費	四八、二六六	俸給	三〇、〇二四
文官試驗費	四、七七五	廳費	二三七、一六四
文官懲戒諸費	九三三	修繕費	一八七、〇四三
機密費	一〇〇、〇〇〇	旅費	六、一三
樞密院	一七三、八三六	雜給及雜費	二七、二八八
俸給	一六四、九九六	處分費	一、〇七五
廳費	二、八三	機密費	二六、四九四
修繕費	一、一〇	配當金	一六、四四九
雜給及雜費	四、九一七	內國稅徵收費	七五、三七
貴族院	七〇一、一九九	俸給	六三、一四七
廳費	二、二六	廳費	二、二六
修繕費	六八、〇六〇	修繕費	八六七
雜給及雜費	二五、二五	調查費	五〇、八四三
議員諸費	三、八六六	處分費	一六、九四〇
俸給	三、一八〇	印紙類諸費	一、〇〇〇
廳費	二五、二五		
修繕費	九三、六三五		
衆議院			

科目	金額
市町村交付金	二、三七八、七五三 円
醸造試験費	七七、〇一五
俸給	二三、二四〇
事務費	九、九四四
事業費	四四、八〇一
横濱港維持費	一六二、四一三
俸給	二、三一〇
事務費	四、九六
維持費	一五五、一六七
國資運用費	六〇四、四一八
國庫金取扱及金融事項調査監督費	三八三、九〇九
仕拂命令及保管金引出切符用紙製造費	一八、〇〇三
貯蓄債券取扱手數料	二〇三、五〇六
諸拂戻及缺損補塡金	四、四一五、〇〇〇
諸拂戻金	四、四〇〇、〇〇〇
缺損補塡金	一五、〇〇〇
輸出交付金	二〇〇、二八〇
輸出交付金	二〇〇、二八〇
國債整理基金繰入	一四二、二五四、九二五
國債整理基金繰入	一四二、二五四、九二五

科目	金額
軍艦水雷艇補充基金繰入	二、三七八、七五三 円
軍艦水雷艇補充基金繰入	七七、〇一五
諸支出金	二三、二四〇
諸支出金	九、九四四
國庫豫備金	四四、八〇一
第一豫備金	一六二、四一三
第二豫備金	二、三一〇
合計	四、九六
陸軍省所管	
陸軍本省	一五五、一六七
俸給	六〇四、四一八
廳費	三八三、九〇九
俸給	一八、〇〇三
廳費	二〇三、五〇六
修繕費	四、四一五、〇〇〇
旅費	四、四〇〇、〇〇〇
雜給及雜費	一五、〇〇〇
軍事費	二〇〇、二八〇
俸給	二〇〇、二八〇
廳費	一四二、二五四、九二五
修繕費	一四二、二五四、九二五
旅費	

科目	金額
雜給及雜費	一、五〇九、〇三五 円
諸手當	一、四〇一、二〇六
外國駐在員費	一二八、五六八
糧秣費	三一、二五三、七二五
被服費	七、四九九、二七四
兵器彈藥費	五、九四八、三七五
馬匹費	一、八三九、八〇〇
演習費	一、九四九、五七五
患者費	三九三、二三五
軍隊需品費	一、八八五、七三五
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	四三四、二三一
在監人費	五七、〇三三
兵要地圖費	六、五四五
供奉費	二、六七〇
輸送費	一、一五〇、二〇一
機密費	三二九、三〇〇
憲兵費	一、八七九、四〇〇
俸給	八一六、六〇四
廳費	一四六、四〇七
修繕費	二三、五〇〇

科目	金額
旅費	一九、〇六九
雜給及雜費	一六三、七八
諸手當	四〇、四五
糧秣費	三四五、三五〇
被服費	四七、九五〇
兵器彈藥費	二七、七三
馬匹費	一六、五三〇
在監人費	五、〇八九
機密費	四八、五一六
廳費	三九、〇三六
修繕費	一〇、二六四
旅費	四、四二五
雜給及雜費	二四、三三七
軍事費	二四、三三七
俸給	一、八九二、四六二
廳費	一三五、二八三
修繕費	二、三五〇
旅費	六四九、四四二
雜給及雜費	五八、七三八
諸手當	三二、八六三
修繕費	三二八、〇五九
旅費	六、八一一、三六六
雜給及雜費	一一、〇八、三四九
靖國神社寄付金	一、八五三、七八
諸支出金	三四〇、八四五
諸支出金	三四五、三五〇
合計	四七、九五〇
海軍省所管	
海軍本省	一六、五三〇
俸給	五、〇八九
廳費	四八、五一六
修繕費	三九、〇三六
旅費	一〇、二六四
雜給及雜費	四、四二五
軍事費	二四、三三七
俸給	一、八九二、四六二
廳費	一三五、二八三
修繕費	二、三五〇
旅費	六四九、四四二
雜給及雜費	五八、七三八
諸手當	三二、八六三
修繕費	三二八、〇五九
旅費	六、八一一、三六六
雜給及雜費	一一、〇八、三四九

科目	金額
演習費	七、五五〇
患者費	七、五五〇
軍港要港費	三、八〇、〇六七
艦船費	三、八〇、〇六七
扶助金	七六、七五〇、四三八
在監人費	七六、七五〇、四三八
水路費	一九四、一九二
傭外國人諸給	一四七、六五六
機密費	一五、六九九
艦船經費繰替金	三、五〇五
諸支出金	七、三五三
諸支出金	一九、九七九
合計	四〇、六〇六、四三七
司法省所管	
司法本省	四四〇、三九一
俸給	二五八、五一二
廳費	六四九、四四二
修繕費	三二八、〇五九
旅費	六、八一一、三六六
雜給及雜費	一一、四三九、五二六
演習費	二九四、〇八二
患者費	三五九、六〇五
軍港要港費	三七一、一九六
艦船費	六、一三〇、二七三
扶助金	三三一、〇四九
在監人費	六、三一二
水路費	二四二、七一四
傭外國人諸給	二〇、四四〇
機密費	八〇、〇〇〇
艦船經費繰替金	二〇、〇〇〇
諸支出金	一五、〇八一
諸支出金	一五、〇八一
合計	四〇、八五五、七一〇
司法本省	一五九、〇一三
俸給	八九、八四七
廳費	一九、〇一七
修繕費	一、四三〇
旅費	七、二四七
雜給及雜費	一八、九八〇
判事檢事及辯護士試驗費	六、五二五

科目	金額
外國司法制度視察費	一四、九七七円
萬國監獄常設委員會分擔金	一、〇〇〇
裁判所	六、一五三、九四四
俸給	三、八八五、〇四一
廳費	四七四、八七四
修繕費	六七、八三三
旅費	一三〇、八〇一
雜給及雜費	九六九、一三七
裁判及登記諸費	四七八、二六三
機密費	六八、〇〇〇
監獄	六、〇六八、〇九九
俸給	三三八、五五二
廳費	一六九、一八九
修繕費	九一、二〇九
旅費	四五、〇六三
雜給及雜費	二、四三四、六六五
在監人費	二、九八九、四二
諸支出金	五九、二七六
合計	
文部省所管	
文部本省	
俸給	三、八八五、〇四一
廳費	四七四、八七四
修繕費	六七、八三三
旅費	一三〇、八〇一
雜給及雜費	九六九、一三七
編書費	四七八、二六三
帝國學士院費	六八、〇〇〇
教員免許及檢定費	六、〇六八、〇九九
萬國理學文書目錄委員會加盟諸費	三三八、五五二
美術奬勵費	一六九、一八九
文藝及通俗教育奬勵費	九一、二〇九
外國留學生費	四五、〇六三
萬國學術協會費	二、四三四、六六五
震災豫防調査會	二、九八九、四二
修繕費	五九、二七六
調査費	五、二四三
中央氣象臺	一、九六六
廳費	一、九六六
修繕費	一、三六二
雜給及雜費	八二、一九五
測地學委員會	二、三三〇
修繕費	二、三三〇
調査費	八、四八三円
中央氣象臺	一〇〇
廳費	七一、九二九
修繕費	二三、七八六
雜給及雜費	二六、五〇八
綜度觀測所	二一、六三五
廳費	八、五七一
廳費及修繕費	五、二四三
雜給及雜費	一、九六六
醫術及藥劑師試驗費	一、三六二
俸給	八二、一九五
廳費及修繕費	二、三三〇
雜給及雜費	四、六三七
病院費	三三、八九九
大學及學校圖書館支出金	四一、三五九
東京帝國大學	五、七一〇、三六六
京都帝國大學	一、三八〇、〇〇〇
	八四〇、〇〇〇

科目	金額
東北帝國大學	四三六、五二五
九州帝國大學	四〇九、二三八
學校及圖書館	二、六四四、五九三
府縣立師範學校長俸給	一二九、二八二
府縣立師範學校長俸給	一二九、二八三
普通教育費	二、五〇〇、〇〇〇
小學校教育費補助	二、〇〇〇、〇〇〇
教育資金配當金	五〇〇、〇〇〇
實業教育奬勵費	三九三、〇〇〇
實業教育費補助	三五一、〇〇〇
實業教員養成費	一六、九五五
實業教員養成費支出金	二五、〇〇五
諸支出金	五三四
諸支出金	五三四
合計	四八、六三四
農商務省所管	
農商務本省	
俸給	五二一、九七三
廳費	二四八、七二〇
修繕費	三八、〇五一
旅費	三、五二六
雜給及雜費	四八、六三四
事業費	四三、八四三
鑛山監督署	二〇、九三三
俸給	三四、七八八
廳費	二四、二九二
修繕費	二〇、八一三
旅費	二一、八六四
雜給及雜費	七、五〇〇
農事試驗場	一九七、六七九
俸給	九八、一六六
事務費	五四、四〇七
事業費	一、一二八
水產講習所	三、七六二
俸給	三九、九六八
事務費	二四八
事業費	四、六六八、五〇三
蠶業講習所	七五八、四二七
俸給	一一九、一七九
事務費	一三、九三八
事業費	二〇五、六七七
雜給及雜費	一三〇、一四三
萬國協約分擔金	三、四四三、一三九
度量衡費	三七七、〇八二
測査事業費	二一三、一五〇
商品陳列館諸費	五六、六二〇
種牡牛檢查費	二、〇〇〇
重要技術員養成費	八四四、一〇三
特許局	三一、二一〇
俸給	二一〇、七一〇
事務費	八一、九九七
廳費	三三、四九七
事業費	一〇五、二一六
俸給	一四七、八〇八
廳費	三五、〇一五
事務費	三三、三四六
事業費	八〇、四三七
蠶業講習所	一〇七、三七
俸給	三九、三七〇
事務費	一六、一三三
事業費	五一、八四四

科目	金額
生絲檢查所	八八、八〇〇 円
俸給	三三、一二七
事務費	一六、七二二
事業費	四八、九二一
畜產改良費	二七二、〇七八
俸給	一三、六二六
事務費	二、〇一四
事業費	三七七、四四八
工業試驗所	一〇八、四九二
俸給	三七、八四〇
事務費	八、五三〇
事業費	六二、一三三
花蓮檢查所	五六、五五八
俸給	一四、三七七
事務費	一四、四九一
事業費	二七、六九一
原蠶種製造所	二九、五二〇
俸給	六七、八七五
事務費	四二、一三九
事業費	一四四、六二三 円
牛痘血清製造所	六、六〇〇
俸給	二、〇〇〇
事務費	二七、六八四、九一九
事業費	二、八四四、七五〇
補助費	七五、六三八
農會補助費	三五、七七六
產業試驗費講習費補助	五、三〇一
蠶病豫防費補助	二〇、九五一、三三七
輸出羽二重檢查費補助	三、四八〇、五二四
諸支出金	一、六九三
審判費	四三、九八四
航路標識費	二、六、一九四
俸給	七〇八
修繕費	九、四四九八
旅費	一八七、五八四
廳費及修繕費	三、四四一、三九一
商船學校	五六、八九五
俸給	二九、六〇六
修繕費	一、八九九、五〇六 円
旅費	八五、二七一
雜給及雜費	一八、四四八
萬國航海會議補助費	八、四四六
遞信費	四、六四六
俸給	七二、一七七
事務費	四四四、〇〇〇
事業費	一三八、五〇〇
萬國郵便電信聯約費	一七五、五〇〇
遞信事業費	一〇〇、〇〇〇
諸拂戻金	三〇、〇〇〇
審判費	四九、二九七
航路標識費	四九、二九七
俸給	七、六三六、一五八
修繕費	二八九、三九〇
旅費	二〇、〇三五、三五四
廳費及修繕費	一八、九五五、四〇〇
補助費	一、六一五
條約改正費	一八、五四七
海牙平和宮殿寄贈品費	四四、三五五
海牙平和宮殿寄贈品費	七三、七一三
合計	二九、〇三〇、七五四
內務省所管	
補助費	一、〇〇〇
移民調查費	一、〇〇〇
條約改正費	一、二七五
海牙平和宮殿寄贈品費	四四、三五五
海牙平和宮殿寄贈品費	七三、七一三
年金及恩給金	二九、〇三〇、七五四
恩給金	一〇、〇三五、三五四
諸支出金	一八、九五五、四〇〇
合計	五八、一三二、八四六
經常部合計	四二、九五五、八六四
臨時部	
外務省所管	
營繕費	八五、〇〇〇
在外公館修築費	八〇、〇〇〇
外務本省修繕費	五、〇〇〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
移民調查費	三〇、〇〇〇
俸給	二一〇、一〇〇
廳費及修繕費	二〇、〇〇〇
旅費	三三、一〇〇
雜給及雜費	三三、一〇〇
海上練習費	七三、七一三
年金及恩給金	二九、〇三〇、七五四
恩給金	一〇、〇三五、三五四
諸支出金	一八、九五五、四〇〇
合計	五八、一三二、八四六
臨時部	
外務省所管	
營繕費	八五、〇〇〇
在外公館修築費	八〇、〇〇〇
外務本省修繕費	五、〇〇〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
移民調查費	三〇、〇〇〇
俸給	二一〇、一〇〇
廳費及修繕費	二〇、〇〇〇
旅費	三三、一〇〇
雜給及雜費	三三、一〇〇
海上練習費	七三、七一三
年金及恩給金	二九、〇三〇、七五四
恩給金	一〇、〇三五、三五四
諸支出金	一八、九五五、四〇〇
合計	五八、一三二、八四六
臨時部	
外務省所管	
營繕費	八五、〇〇〇
在外公館修築費	八〇、〇〇〇
外務本省修繕費	五、〇〇〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
在外公館移轉費	一八八、四四〇
移民調查費	三〇、〇〇〇
俸給	一三、八三一
廳費及修繕費	一、六一五
旅費	三、五六一
雜給及雜費	六、一一三
御裝束及神寶費	八、八七一
營地買收保存費	一五、一五六
模型製作費	三、八七
小笠原島殖產事業費	一五、三〇三
森林經營費	五、二一〇
水產經營費	九、九二三
北海道拓殖費	二、九八九、六三九
殖民費	三九〇、四四〇
產業費	一八三、七八七
道路橋梁費	八八四、〇四三
土地改良費	一三、四四〇
河川費	一五〇、九六二
港灣費	一、三六七、九四七
北海道森林費	三九九、五〇七
俸給	一〇五、一五四
廳費及修繕費	二〇、五〇七

科目	金額
雜給及雜費	一六一、八五一円
事業費	二一、九六六
港灣改良費	八〇〇、〇〇〇
敦賀港改良費	二〇〇、〇〇〇
關門海峽改良費	六〇〇、〇〇〇
合計	**二〇、八二一、九八〇**
大藏省所管	
神職養成及神社調查費	一〇七、〇〇〇
神職養成及神社調查費	一〇七、〇〇〇
傳染病豫防費	一六〇、〇〇〇
傳染病豫防費	一六〇、〇〇〇
議員總選舉取締費	一七六、一三六
衆議院議員總選舉取締費	一七五、〇〇〇
府縣會議員總選舉取締費	一一三六
臨時神社費	二、〇一〇
山形縣招魂社再築費	二、〇一〇
トラホーム講習費	七、〇三八
トラホーム講習費	七、〇三八
縣債利子補給	一五五、六五五
土木費借入金利子補給	一五五、六五五
災害費	二、六八五
山形縣新築假廳舍備品費	八三、七二四円
勳記配送費	二六、七八
勳記配送費	二六、七八
合計	**八三、七二四**
大藏省所管	
罹災救助基金補助費	二、七六二
補助費	二、七六二
營繕費	一四、八〇九
橫濱稅關海面埋立及陸上設備費	六、九五二
神戶稅關海陸運輸聯絡設備費	三、三九六
煙草製造專賣創業建設費	二、〇〇〇
神戶稅關防波堤築造費	一、三九六
新營費	七、〇〇〇
修繕費	七、〇〇〇
關稅定率調查費	一、八三三
關稅定率調查費	一、八三三
四分利付清國債券元利	七、〇〇〇
四分利付清國債券元利	七、〇〇〇
海外駐劄財務官費	一三、五〇〇
海外駐劄財務官費	四九、七五
臨時事件行賞諸費	二〇、〇七七
臨時事件行賞諸費	二〇、〇七七
造幣局擴張費	二七、三一九
機械增設費	二七、三一九
工場其他增築及改築費	三、〇七一
臨時秩祿處分費	一、九三〇
調查費	二、七六二
裁判費	一四、八〇九
國勢調查準備費	六、九五二
委員會費	三、三九六
統計講習諸費	二、〇〇〇
議院建築準備費	一、三九六
議院建築準備費	七、〇〇〇
內閣所屬文庫圖書整理諸費	七、〇〇〇
內閣所屬文庫圖書整理諸費	一、八三三
拓殖局廳舍借料及設備費	一、八三三
拓殖局廳舍借料及設備費	七、〇〇〇
朝鮮總督府經費補充金	七、〇〇〇
朝鮮總督府經費補充金	二三、三五〇、〇〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇
樺太廳經費補充金	五九一、八一九
樺太廳經費補充金	五九一、八一九
治水費資金特別會計繰入金	三、八一〇、三三八
治水費資金特別會計繰入金	三、八一〇、三三八
朝鮮總督府特別會計繰入金	二三、五六一、五四〇
朝鮮總督府特別會計繰入金	二三、五六一、五四〇
公債募集金繰入	二、五八五、〇〇〇
臺灣總督府特別會計繰入金	二、五八五、〇〇〇
公債募集金繰入	二、五八五、〇〇〇
合計	**四一、三四四、〇〇五**
陸軍省所管	
砲臺建築費	二一〇、〇〇〇
東京灣砲臺建築費	二一〇、〇〇〇
營繕費	一、五三五、〇〇〇
小倉衞戍地各部隊給水設備支出金	五〇、〇〇〇
旭川衞戍地各部隊水道布設費	一〇〇、〇〇〇
軍隊官衙學校改築費	三三〇、〇〇〇
新營費	一六〇、〇〇〇
舊兵營其他修築費	六三五、〇〇〇
修繕費	二六〇、〇〇〇
整備費	七、九五三、七九四
臺灣兵營廳舍營繕及初度測辨費	七、九五三、七九四
臺灣兵營廳舍營繕及初度測辨費	六七九、八八三
土地建造物利用費	六七九、八八三
土地建造物利用費	一三、〇〇〇
軍用氣球研究費	二、五八五、〇〇〇
軍用氣球研究費	二、五八五、〇〇〇
無線電信研究費	二、五八五、〇〇〇
無線電信研究費	四一、三四四、〇〇五
測量費	二一〇、〇〇〇
俸給	二一〇、〇〇〇
事務費	一、五三五、〇〇〇
事業費	五〇、〇〇〇
拂下地圖製造費	一〇〇、〇〇〇
拂下地圖製造費	三三〇、〇〇〇
朝鮮派遣部隊費	一六〇、〇〇〇
清國駐屯部隊費	四九〇、七八五
清國駐屯部隊費	四九〇、七八五
特別大演習外賓接待費	二〇、〇七七
特別大演習外賓接待費	二〇、〇七七
豫備兵器補塡費	二七八、三一九
豫備兵器補塡費	二七八、三一九
匪徒鎭定費	三〇、〇〇〇
匪徒鎭定費	三〇、〇〇〇
一時賜金	三、九〇九
一時賜金	三、九〇九
戰後整理費	二〇五、三三〇
戰後殘務整理費	九三、一一七
戰史編纂及統計費	一一二、一〇二
馬政事業設備費	一三六、六〇七
馬政事業設備費	一三六、六〇七
臨時馬疫調查費	二五、〇〇〇
臨時馬疫調查費	二五、〇〇〇
合計	**一六、六二〇、一二一**
海軍省所管	
營繕費	三九三、一二八

科目	金額
吳鎭守府整度射擊場新設費	四八、七六六円
兵學校大講堂新營竝廳舍模樣替增築費	四〇、〇〇〇
兵學校用地買收費	三三、七三二
工機學校實驗工場新營費	四五、〇四〇
機關學校講堂增築費	四八、七四〇
永興防備隊設備費	四八、七四〇
佐世保海軍監獄新營費	二〇、〇〇〇
佐世保工廠造船工場鍛冶場屋根改築費	一四、一四〇
新營費	六四、〇〇〇
修繕費	二九、八九〇
鎭海軍港第一期設備費	七〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	七〇、〇〇〇
受託造修費	二三、二八三
臨時海軍建築部費	四九、八五六
俸給	三一、五七二
事務費	一八、二八四
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇

科目	金額
軍備補充費	四八、七六六円
軍艦製造費	四〇、〇〇〇
水陸設備費	三三、七三二
造船造兵及修理費	四五、〇四〇
艦艇火藥庫冷却裝置費	四八、七四〇
艦艇火藥庫冷却裝置費	四八、七四〇
教育兵器充實費	二〇、〇〇〇
教育兵器充實費	一四、一四〇
標的船製造費	六四、〇〇〇
標的船製造費	二九、八九〇
大演習外賓接待費	七〇、〇〇〇
大演習外賓接待費	七〇、〇〇〇
航空術研究費	二三、二八三
航空術研究費	四九、八五六
合計	三一、五七二
司法省所管	
法律調查費	一八、二八四
法律調查費	一五、〇〇〇
免囚保護事業奬勵費	一五、〇〇〇

科目	金額
免囚保護事業奬勵費	三〇、〇〇〇円
衆議院議員總選擧檢察費	七、〇〇〇
衆議院議員總選擧檢察費	七、〇〇〇
營繕費	七〇八、二五八
福岡監獄建築費	四七、九〇〇
安濃津監獄建築費	四二、七〇〇
市谷監獄建築費	一〇八、三四四
大阪控訴院地方裁判所區裁判所建築費	一八〇、〇〇〇
札幌地方裁判所廳舍及官舍建築費	四〇、〇〇〇
新營費	三五九、〇〇〇
修繕費	六八、三一四
合計	七七四、七三〇
文部省所管	
營繕費	二四一、〇七六
東京美術學校校舍改築費	二一、三六三
新營費	二〇四、五四七
修繕費	二五、一六六
設備費	四、四〇〇
中央氣象臺設備費	一、八〇〇

學校設備費	二、六〇〇
九州帝國大學工科大學創立費	一〇、〇〇〇
九州帝國大學工科大學創立費	一〇、〇〇〇
第二女子高等師範學校創立費	二六、七四七
新營費	二四、九四一
設備費	三、八六六
蠶絲專門學校創立費	三〇、〇〇〇
新營費	二七、五〇〇
設備費	二、五〇〇
第六醫學專門學校創立費	五〇、〇〇〇
新營費	五〇、〇〇〇
第七高等工業學校創立費	二五、〇〇〇
新營費	二五、〇〇〇
設備費	五〇、〇〇〇
鑛山專門學校創立費	四〇、〇〇〇
新營費	四〇、〇〇〇
第八高等工業學校創立費	五〇、〇〇〇
新營費	五〇、〇〇〇
大學及學校圖書館臨時支出金	三六六、二三八
東北帝國大學	一四五、三一七

九州帝國大學學校及圖書館臨時調查費	一〇、〇〇〇
國語調查費	八四二
諸學校教科細目調查費	四〇、八四〇
萬國數學教育調查費	三、〇三二、一八六
臨時教員養成所費	四三、一八六
委託學生費	二、九七九、〇〇〇
清國委託學生費	四五六、三九〇
奬勵費	四二三、六五八
教育奬勵諸費	三二、七三二
臨時維新史料編纂事務局費	二、八二九、〇八七
俸給及諸給	四〇七、〇五一
事業費	二、四三二、〇三六
漁業免許處分費	八、五六二
漁業免許處分費	八、五六二
雜給及雜費	四〇、二三〇
縣債利子補給	四〇、二三〇
教育費借入金利子補給	一、二〇〇、八六六
合計	一、九九、七六一
農商務省所管	六二四、三九〇

外國貿易擴張費	九九、〇〇〇
實業練習生補助費	五七、三一八
商品陳列費	八四二
實業調查費	四〇、八四〇
製鐵所擴張費	三、〇三二、一八六
事務費	四三、一八六
工場費	二、九七九、〇〇〇
營繕費	四五六、三九〇
新營費	四二三、六五八
修繕費	三二、七三二
國有林野經營費	二、八二九、〇八七
俸給及諸給	四〇七、〇五一
事業費	二、四三二、〇三六
漁業免許處分費	八、五六二
漁業免許處分費	八、五六二
足尾國有林復舊費	四〇、二三〇
足尾國有林復舊費	四〇、二三〇
產業奬勵費	一、二〇〇、八六六
遠洋漁業奬勵費	一九九、七六一
農事改良奬勵費	六二四、三九〇

科目	金額	科目	金額	科目	金額
糖業改良費	八六、八二二円	營繕費	八三、六二二円	航路標識設置費	五〇、六五〇円
工業奬勵費	三八、〇〇〇	補助及補償費	三一六、〇〇〇	新營費	三〇〇
植樹奬勵費	六四、八二六	膃肭獸保護費	一三、九六二	航路標識修繕費	九、六四七
蠶絲業改良奬勵費	一八三、六八八	膃肭獸保護費	一三、九六二	修繕費	三、二五〇
府縣聯合共進會費	三、〇〇〇	合計	八、四〇八、七七三	營繕費	二五八、〇〇〇
臨時調査費	五九、四八〇	遞信省所管		新營費	一八八、〇〇〇
鑛毒調査費	二五、〇〇〇	補助費	一二、四三三、三〇二	修繕費	七〇、〇〇〇
鑛物調査費	三四、四八〇	海員養成補助	五、〇〇〇	電話交換擴張費	六、五〇〇、〇〇〇
生産調査會費	一五、〇〇〇	水難救濟補助	二〇、〇〇〇	電話交換擴張費	六、五〇〇、〇〇〇
生産調査會費	一五、〇〇〇	航路擴張費	一〇、九〇二、九一六	發電水力調査費	二四〇、〇〇〇
獸疫及害蟲驅除費	九〇、四〇〇	航海奬勵費	七二三、五三六	發電水力調査費	二四〇、〇〇〇
獸疫費	三〇、四〇〇	造船奬勵費	七八一、八五〇	合計	一九、七二五、一四九
害蟲驅除豫防費	六〇、〇〇〇	電信電話營繕費	二三〇、〇〇〇	臨時部合計	一六〇、九二六、〇〇二
治水事業費	五七四、〇〇〇	電信電話營繕費	二三〇、〇〇〇	歲出總計	三七二、八九一、八六六
調査及監督費	一七四、三七八	航路標識營繕費	六三、八四七		

新規繼續費表

事項	總額	明治四十五年度	同四十六年度	同四十七年度
兵學校大講堂新營竝廳舍模樣替增築費	三〇〇、〇〇〇円	四〇、〇〇〇円	一三〇、〇〇〇円	一三〇、〇〇〇円
佐世保海軍監獄新營費	一六八、五一〇	二〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	一二三、五一〇
第八高等工業學校創立費	三五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
合計	八一八、五一〇	一一〇、〇〇〇	二九五、〇〇〇	四一三、五一〇

第二款　追加豫算

明治四十五大正元年度總豫算に對する追加豫算案は、第二十八回帝國議會に於て三件、第二十九回帝國議會に於て一件、第三十回帝國議會に於て二件提出せられたり。今其の內容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第二十八回帝國議會提出追加豫算

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歲入歲出各二百六十一萬千五百八十九圓にして、其の追加を要する所以は清國事件に關し同地在留帝國臣民の保護其の他に關する經費を要し、明治四十五年法律第一號に據り清國事件費支辨の爲め特別會計より受入るべき金額を財源として之を豫算したるに依る。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歲入歲出各四十六萬百六十圓にして、其の追加を要する所以は、歲入に在りては郵便電信及電話收入の增加・別途提案に係る假置場法の規定に依り私設假置場特許手數料の收入及前年度繰入金を豫算し、歲出に在りては私設假置場に對する稅關官吏特派費・膃肭獸保護條約締結に伴ひ同獵業者等に交付すべき國債證券利子繰入・官幣大社生國魂神社再築費・各種萬國會議參列費・韓國併合記念章調製諸費・公債端金及電信電話營繕費等を豫算

したるに依る。

（三）本議會提出の第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各一萬三千三百八十圓にして其の追加を要する所以は日露鐵道及汽船の貨物聯絡運送に伴ひ稅關出張所設置に關する經費を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。

右追加豫算案三件は明治四十五年三月十八日衆議院に提出せられしが、衆議院は第一號及第二號追加案に就ては同月十九日、第三號追加案に就ては同月二十二日異議なく之を可決し、又貴族院は三件共同月二十五日異議なく可決せしを以て、右追加豫算三件は裁可を經て同月二十八日公布せられたり。今之を一括表揭すれば左の如し。

明治四十五年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額	科目	金額
歳入		前年度繰入金	四三、一四九円
經常部		清國事件費資金受入	一九、二八一
官業及官有財産收入	三四、九二一円	特別會計資金繰入	一五、六六八
郵便電信及電話收入	三四、九二一	特別會計資金借入	一、四四八
雜收入	六、四八〇	**臨時部合計**	六三〇
稅關雜收入	六、四八〇	**歳入總計**	四三、一四九
經常部合計	四一、三九一		
臨時部			
前年度繰入金	四三、一四九		
歳出			
經常部			
大藏省所管		稅關	一九、二八一
俸給	二、六二一、五八九	俸給	一五、六六八
廳費	一、〇〇〇、〇〇〇	廳費	一、四四八
旅費	一、六二一、五八九	旅費	六三〇
雜給及雜費	三、〇四三、一二八	雜給及雜費	一、五三五
國債整理基金繰入	三、〇八五、二二九	國債整理基金繰入	六八、九〇六
合計		國債整理基金繰入	六八、九〇六
遞信省所管		**合計**	八八、一八七
俸給	一九、八二三		
營繕費	二、八〇		
新營費	一七、〇三三		
遞信事業費	一七、〇三三		
經常部合計	一〇七、九九九		
臨時部			
外務省所管			
清國事件費	六〇〇、〇〇〇		
清國事件費	六〇〇、〇〇〇		
內務省所管			
臨時神社費	四一、〇〇〇		
生國魂神社再築費	四一、〇〇〇		
縣債利子補給	二、八六八		
土木費借入金利子補給	二、八六八		
災害費	六、二一〇		
府縣風水害諸費	六、二一〇		
臨時外國行諸費	七、一九三		
萬國航海會議參列費	三、六七〇		
萬國結核病會議參列費	三、五三三		
合計	六六、一七一		
大藏省所管		**文部省所管**	
營繕費	二、七〇	災害費臨時支出金	一七、一六五
新營費	一七、〇三三	東北帝國大學	一七、一六五
清國事件費	一〇七、九九九	臨時外國行諸費	七四、八〇〇
關東都督府清國事件費補充金		第十六回東洋學會議參列費	七四、七〇〇
公債諸金		**合計**	五六、〇〇〇
公債諸金	六〇〇、〇〇〇	**農商務省所管**	
韓國併合記念章調製諸費	六〇〇、〇〇〇	臘虎臘納獸獵禁止處分費	四〇、七九四
韓國併合記念章調製諸費		臘虎臘納獸獵禁止處分費	四〇、七九四
合計	四一、〇〇〇		一八八、六五九
陸軍省所管	四一、〇〇〇	**遞信省所管**	
清國事件費	一二、八六八	電信電話營繕費	一、〇K〇、〇K〇
清國事件費	一二、八六八	電信電話營繕費	一、〇K〇、〇K〇
海軍省所管	八、二一〇	清國事件費	一、〇K〇、〇K〇
清國事件費	六、二一〇		
清國事件費	七、一九三		
司法省所管	三、六七〇	清國事件費	七七七、〇七七
臨時外國行諸費	三、五三三	臨時外國行諸費	七七七、〇七七
萬國手形法制統一會議參列費	六六、一七一	萬國航海會議參列費	七七七、〇七七
		合計	四、一三九
		臨時部合計	四、一三九
		歳出總計	六六、一七一

新規繼續費

事項	總額	明治四十五年度	同四十六年度
生國魂神社再築費	八二、八八六円	四一、〇〇〇円	四一、八八六円

第二　第二十九回帝國議會提出追加豫算

大正元年八月二十一日　明治天皇大喪に關する豫算を議せしめんが爲め第二十九回臨時帝國議會召集せられしが、同月二十三日同議會の開會に方り、政府は明治四十五年大正元年度歳入歳出總豫算追加案を衆議院に提出したり。本追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各百五十四萬五千三百八十九圓にして、其の追加を要する所以は大喪に關し之が經費を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。翌八月二十四日内閣總理大臣西園寺公望は衆議院に於て本追加豫算に關し演說を爲し、次で大藏大臣山本達雄は更に之に關し左の如く說明せり。

『茲に御大喪に關する經費の豫算を紹介するは寔に恐懼に堪へざる所なり。御大喪に關する經費として要求する所の豫算額は百五十四萬五千三百八十九圓にして、其の内容は豫算書類に詳なり。謹んで按ずるに　大行天皇の御盛德、御大業は之を稱へ奉るに辭なし。又其の崩御は我國民の上下擧つて痛悼悲哀に堪へざる所なり。而して御大喪儀は古來の典禮に則りて行はせられ、政府は之に要する總ての經費を計上し、之が實行に就き遺漏なきを期せり。諸君冀くば之を諒とし審査協贊あらんことを。』

次で議長は政府より本案は議院法第二十八條但書に依り議定せんことの要求あり、別に討論の通告なきを以て直に採決する旨を告げ、採決の結果全會一致を以て原案を可決したり。

貴族院に於ては本案を衆議院より受領するや卽日之を院議に付し、内閣總理大臣西園寺公望及大藏大臣山本達雄は衆議院に於けると同一の演說を爲せり。次で議長は本案は議院法第二十八條但書の要求あるに依り委員の審査を省略する旨を諮りたる後曾我祐準の贊成演說あり。斯くて採決の結果全會一致を以て原案の通可決確定したり。

右貴衆兩院の協贊を經たる追加豫算は裁可を經て大正元年八月二十五日左の如く公布せられたり。

明治四十五年
大正元年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額	科目	金額
歳入 臨時部		歳出 臨時部	
前年度繰入金	一、五四五、三八九円	前年度繰入金	一、五四五、三八九円
		大藏省所管	
		大喪費	一、五四五、三八九円
		大喪費	一、五四五、三八九

第三　第三十回帝國議會提出追加豫算

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各四百五十萬六千七十九圓にして、其の追加を要する所以は貴衆兩院經費・陸軍糧秣費・諸拂戻金・恩給・和歌山外三縣災害土木費補助・清國事件費等の追加を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右は大正二年三月十三日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月十八日、貴族院は同月二十六日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十八日公布せられたり。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各一萬千六百五十九圓にして

其の追加を要する所以は家祿賞典祿處分法及沖繩縣諸祿處分法等に依り交付すべき國債證券の端金、及京都帝國大學火災復舊費臨時支出金の支出を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右は大正二年三月二十日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月二十四日、貴族院は同月二十六日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十八日公布せられたり。

以上第三十回帝國議會の協贊を經たる追加豫算二件を一括表揭すれば左の如し。

明治四十五大正元年度歳入歳出總豫算追加表（三）

科目	金額	科目	金額	科目	金額
歳入		衆議院	一一八、八七六円	**海軍省所管**	
臨時部		議員諸費	一一一、五一三	軍事費	一〇二、四四五円
前年度繰入金	四、五一七、七三八円	廳費	五、二四六	造船造兵及修理費	一〇二、四四五
前年度繰入金	四、五一七、七三八	修繕費	五九四	**遞信省所管**	
歳出		雜給及雜費	一、五二三	遞信費	五二九、八四七
經常部		**合計**	一五一、四一三	諸拂戻金	五二九、八四七
大藏省所管		**陸軍省所管**		年金及恩給	一、二五一、二五四
貴族院	三二、五三七	軍事費	一、四六七、一一四	恩給	一、二五一、二五四
議員諸費	二七、五五八	糧秣費	一、四六七、一一四	**合計**	一、七八一、一〇一
廳費	三、九一八	憲兵費	六、一七六	**經常部合計**	三、五〇八、二四九
修繕費	一二七	糧秣費	六、一七六	**臨時部**	
雜給及雜費	九三四	**合計**	一、四七三、二九〇	**內務省所管**	

科目	金額	科目	金額	科目	金額
災害費	六八四、一二八	祿高整理公債端金	一八九	**文部省所管**	
府縣風水害諸費	二一、三二〇	救恤金公債端金	一五〇	災害費臨時支出金	一一、〇七三
和歌山縣災害土木費補助	二一八、〇〇〇	沖繩縣諸祿公債端金	二四七	京都帝國大學	一一、〇七三
德島縣災害土木費補助	一六六、〇〇〇	**海軍省所管**		**遞信省所管**	
香川縣災害土木費補助	二五八、〇〇〇	清國事件費	二一六、五六五	浮流水雷發見者給與費	一〇〇
宮崎縣災害土木費補助	一九、〇〇〇	清國事件費	二一六、五六五	浮流水雷發見者給與費	一〇〇
警視廳電信電話線路火災復舊費	一、八〇八	艦艇救難及修理費	九七、〇三七	**臨時部合計**	一、〇〇九、四八九
大藏省所管		艦艇救難及修理費	九七、〇三七	**歳出總計**	四、五一七、七三八
公債端金	五八六	**合計**	三一三、六〇二		

以上第二十八・二十九・三十議會の協贊を經たる追加豫算額を其の本豫算額に加算して、明治四十五大正元年度歳入歳出總豫算の總額を示せば左の如し。

明治四十五大正元年度歳入歳出總豫算總計表

區分	本豫算額	第廿八議會追加豫算額	第廿九議會追加豫算額	第三十議會追加豫算額	總計
歳入					
經常部	五〇二、五五五、八〇五円	四一、三九一円	〇円	〇円	五〇二、五九七、一九六円
臨時部	七〇、三三六、〇六一	三、〇四三、七三八	一、五四五、三八九	四、五一七、七三八	七九、四四二、九二六
合計	五七二、八九一、八六六	三、〇八五、一二九	一、五四五、三八九	四、五一七、七三八	五八二、〇四〇、一二二
歳出					
經常部	四一一、九六五、八六四	一〇七、九九九	〇	三、五〇八、二四九	四一五、五八二、一一二

區分	本豫算額	第廿八議會追加豫算額	第廿九議會追加豫算額	第三十議會追加豫算額	總計
臨時部	一六〇、九二六、〇〇二円	二、九七七、一三〇円	一、五四五、三八九円	一、〇〇九、四八九円	一六六、四五八、〇一〇円
合計	五七二、八九一、八六六	三、〇八五、一二九	一、五四五、三八九	四、五一七、七三八	五八二、〇四〇、一二二

第三款　豫備金及豫備金外支出

明治四十五大正元年度第一豫備金の豫算額は百萬圓にして、明治四十五年勅令第百九號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば在外公館電信料・血清類調製及配送費・褒賞費・諸拂戻金・裁判及登記諸費等なり。

明治四十五大正元年度第二豫備金の豫算額は二百萬圓にして、豫算外に生じたる各費途に充用したる金額は百九十四萬三千九十三圓九十五錢なり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば福島外三縣災害土木費補助・風水害復舊費・トロール漁業取締用汽船製造費・海底電信線被害復舊費等なり。

明治四十五大正元年度一般會計に於て豫備金以外に豫算超過及豫算外の支出を爲したる金額は總計七百四十七萬千八百五十六圓にして、內六百二十二萬二千二百四十九圓は明治四十五大正元年度第一豫備金拂切に付國庫剩餘金より之を支出し、百二十四萬九千六百七圓は清國事件に關する豫算外の經費にして明治四十五年法律第一號に依り森林資金繰入金を以て之を支辨したり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば在外公館電信料・諸拂戻金・陸軍糧秣費・在監人費・遞信事業用證票類費・清國事件費補足等なり。

右明治四十五大正元年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は第三十一回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、大正三年三月三日之が總計算書を衆議院に提出したり。衆議院は審査の結果同月二十三日全部承諾を與ふべきものと議決し、卽日之を貴族院に送付したるも、同日帝國議會の停會を命ぜられ、停會中會期終了せし爲め、貴族院に於ては院議に付するに至らずして止みたり。依て政府は更に大正四年五月二十六日第三十六回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、再び總計算書を衆議院に提出したり。衆議院及貴族院に於ては共に六月五日何れも多數を以て全部承諾を與ふべきものと決定したり。

第四款　決　算

明治四十五大正元年度の歳入歳出總決算に計上する所の經常部歳入額は五億五千二百八萬五千五百八十一圓九十四錢三厘、臨時部歳入額は一億三千五百三十萬六千八百九十八圓四十五錢四厘、歳入合計六億八千七百三十九萬二千四百八十圓三十九錢七厘にして、之に對する經常部歳出額は四億千六百八十九萬五千九十一圓二十六錢六厘、臨時部歳出額は一億七千六百七十萬千三百五十三圓四十錢三厘歳出合計五億九千三百五十九萬六千四百四十四圓六十六錢九厘なり。故に歳入歳出差引九千三百七十九萬六千三十五圓七十二錢八厘の剩餘を生じたり。該剩餘金は會計法第二十條に依り之を大正二年度の歳入に繰入せり。今右歳入歳出決算額を豫算額に比較して其の大要を說明すれば左の如し。

第一　歳　入

明治四十五大正元年度歳入の決算額六億八千七百三十九萬二千四百八十圓三十九錢七厘を以て其の豫算

額五億八千二百四萬百二十二圓に對比すれば、一億五百三十五萬二千三百五十八圓三十九錢七厘を增加せり。今之を經常・臨時に區分すれば經常部歳入の決算額は五億五千二百八萬五千五百八十一圓九十四錢三厘にして、之を其の豫算額五億二百五十九萬七千百九十六圓に對比すれば、四千九百四十八萬八千三百八十五圓九十四錢三厘を增加し、臨時部歳入の決算額は一億三千五百三十萬六千八百九十八圓四十五錢四厘にして、之を其の豫算額七千九百四十四萬二千九百二十六圓に對比すれば五千五百八十六萬三千九百七十二圓四十五錢四厘を增加せり。今歳入の增減を生じたる重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）經常部

租稅は有稅品の輸入多かりし等の爲め關稅の收入增加せしと、所得金額の多かりし等の爲め所得稅の收入增加せしと、酒類造石高の多かりし等の爲め酒稅の收入增加せしと、相續財產課稅價額の多かりし等の爲め相續稅の收入增加せしと、織物課稅價額の多かりし等の爲め織物消費稅の收入增加せしと、營業稅課稅標準額の多かりし等の爲め營業稅の收入增加せしと、商品賣買約定代金の多かりし等の爲め取引所稅の收入增加せしと、其の他兌換銀行券發行稅・通行稅・鑛業稅・醬油稅及噸稅等の收入增加せしとに依り三千八百六十一萬千九百八圓七十六錢六厘を增加せりと雖も、石油消費稅・砂糖消費稅及地租の收入減少せしに依り六十萬六千二百二十八圓八十六錢一厘を減少せしを以て、差引三千八百萬五千六百七十九圓九十錢五厘を增加せり。

印紙收入は收入印紙賣捌代の收入多かりし等に依り百七十六萬三百圓五十八錢七厘を增加せり。

官業及官有財產收入は製鐵所に於ける操業者の技術漸次熟練せし等の爲め製鐵所益金の增加せしと、煙草の賣渡數量增加せし等の爲め專賣局益金の增加せしと、電話料及郵便切手賣捌代の收入多かりし等の爲め郵便電信及電話收入の增加せしと、其の他森林收入・東京砲兵工廠益金・大阪砲兵工廠益金・囚徒工錢及製作收入・官有物貸下料・印刷局益金等の增加せしとに依り千百十萬七千二百十圓八十七錢七厘を增加せりと雖も、海軍工廠資金益金等の減少せしに依り二十三萬四千三百四十八圓三十二錢六厘を減少せしを以て、差引千八十七萬二千八百六十二圓五十五錢一厘を增加せり。

雜收入は雜入・懲罰及沒收金・稅關雜收入・一年志願兵及幼年學校自費生納金等の收入增加せしに依り三十三萬四千八百五十圓六十九錢三厘を增加せしと雖も、免許及手數料・辨償及違約金の收入減少せしに依り四萬七千四百六十圓四十七錢九厘を減少せしを以て、差引二十八萬七千三百九十圓二十一錢四厘を增加せり。

預金特別會計より繰入は普通預金及貯蓄債券募集金預入等に係る利子の仕拂少かりしに依り六十七萬九千三百五十九圓七錢四厘を減少せり。

朝鮮總督府特別會計より繰入は公債利子の仕拂少かりし等に依り三十八萬八千二百六十一圓六十七錢を減少せり。

臺灣總督府特別會計より繰入は公債利子及借入金利子の仕拂少かりし等に依り三十七萬二百二十六圓五十七錢を減少せり。

（二）臨時部

官有物拂下代は物品及船舶拂下代の收入減少せしに依り七十七萬千七百四十九圓六錢一厘を減少せりと雖も、地所・建物及家畜拂下代等の收入增加せしに依り三十一萬千七百六十五圓四十二錢三

厘を増加せしを以て、差引四十五萬九千九百八十三圓六十三錢八厘を減少せり。

雜收入は利子收入及海軍受託造修收入等の多かりしと、膃肭獸皮分配前受金及臨時軍事費所屬收入のありしとに依り百四十三萬六千百三十三圓二十九錢九厘を增加せりと雖も、清國償還金收入等の減少せしに依り八十六萬千五百四十三圓六十七錢二厘を減少せしを以て、差引五十七萬四千五百八十九圓六十二錢七厘を增加せり。

公債募集金は公債支辨に係る朝鮮及臺灣事業費の財源に充用すべき資金の繰替借入を要すること多かりしに依り三百十四萬五千六百三圓を增加せり。

森林資金繰入は國有林野經營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り三十八萬八千百九十七圓八十一錢五厘を減少せり。

陸軍營繕費補充資金繰入は土地建造物利用費等の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り二萬五千八十四圓九十三錢を減少せり。

貨幣整理資金繰入は造幣局擴張費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り三萬二千五百七十四圓八十九錢を減少せり。

治水費資金繰入は治水事業費等の財源に充用すべき資金の繰入を要すること多かりしに依り三百四十萬八千九百五十二圓八十二錢六厘を增加せり。

前年度繰入金は歳計剩餘金の繰入多かりしに依り五千二十四萬七千七百五十二圓六十六錢九厘を增加せり。

清國事件費資金受入は清國事件費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り六十萬七千八十四圓三十九錢五厘を減少せり。

第二　歳　出

明治四十五年大正元年度歳出の決算額五億九千三百五十九萬六千四百四十四圓六十六錢九厘を以て其の豫算額五億八千二百四萬百二十二圓に對比すれば、千百五十五萬六千三百二十二圓六十六錢九厘を增加せり。今之を經常・臨時に區分すれば經常部歳出の決算額は四億千六百八十九萬五千九十一圓二十六錢六厘にして、之を其の豫算額四億千五百五十八萬二千百十二圓に對比すれば百三十一萬二千九百七十九圓二十六錢六厘を增加し、臨時部歳出の決算額は一億七千六百七十萬千三百五十三圓四十錢三厘にして、之を其の豫算額一億六千六百四十五萬八千十圓に對比すれば千二十四萬三千三百四十三圓四十錢三厘を增加せり。

明治四十五年大正元年度歳出豫算額は五億八千二百四萬百二十二圓なるも、豫算決定後に於て會計法第二十一條・第二十二條・明治三十九年法律第五十二號第三條及明治四十四年法律第二號に依り、前年度の豫算殘額を本年度に繰越したるが爲め八千二百二十九萬五千八百九十七圓七十三錢、國庫豫備金外に臨時支出を爲したるものありしが爲め七百四十七萬千八百五十六圓を增加せり。依て右歳出豫算額及豫算決定後增加額を合計すれば六億七千百八十萬七千八百七十五圓七十三錢にして、同年度支出濟額は五億九千三百五十九萬六千四百四十四圓六十六錢九厘、同年度に於て支出を終らずして翌年度に繰越したる金額は七千四十二萬七千八百二十二圓五十九錢九厘なるを以て、差引七百七十八萬三千六百八圓四十六錢二厘の不用額を生ぜり。今翌年度繰越及豫算不用に係る重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）翌年度繰越

營繕土木の工事・林野の經營・艦船及兵器の製造修理・陸海軍の演習其の他航海の補助等に關し海外に注文したる物品の年度内に到達せざるものありしと、天候不良其の他避くべからざる事故に依り事業を遲延し又は豫定の計畫を遂行すること能はざるものありし等との爲め、年度内支出を終らざりし經費にして、會計法第二十一條に依り翌年度に繰越したる金額は六百八十一萬二千九百六十六圓三錢一厘なり。

軍艦及兵器の製造・河川の修築其の他營繕工事等の繼續事業に關し海外に注文したる物品の年度内に到達せざるものありしと、天候不良其の他の事故に依り豫定の如く事業進行せざるものありしとの爲め、會計法第二十二條に依り翌年度に繰越したる金額は二千百四十八萬八千七十七圓七十七錢五厘なり。

臨時軍事費支辨に係る兵器及被服の製造・兵營及廳舍の建築等の經費にして、年度内支出を終らざりし爲め、明治三十九年法律第五十二號第三條に依り翌年度に繰越したる金額は四千十一萬八千二百三圓二十二錢三厘なり。

公共團體の經營に係る工事の經費に對する補助にして年度内支出を終らざりし爲め、明治四十四年法律第二號に依り翌年度に繰越したる金額は二百萬八千五百七十五圓五十七錢なり。

（二）豫算不用

俸給及在外國居留民取締費等の支出少かりしが爲め在外公館の經費に於て不用に歸したる金額は二十四萬三千三百六十四圓五十錢六厘、警察費連帶支辨金及旅費等の支出少かりしが爲め北海道廳及府縣の經費に於て不用に歸したる金額は二十二萬二千五百三十二圓六十二錢三厘、預金利子の支出少かりしが爲め預金利子及手數料に於て不用に歸したる金額は六十八萬千二百九十三圓二十六錢四厘、調査費及旅費等の支出少かりしが爲め内國稅徵收費に於て不用に歸したる金額は十三萬千百七十三圓九十九錢二厘、大喪に關する經費の支出少かりしが爲め大喪費に於て不用に歸したる金額は三十萬三千六百八十二圓三十八錢、俸給及被服費等の支出少かりしが爲め陸海軍軍事費及憲兵費に於て不用に歸したる金額は百九萬三千五百七十三圓九十六錢八厘、糧秣費及需品費等の支出少かりしが爲め朝鮮派遣部隊費に於て不用に歸したる金額は五十四萬百七十六圓八十五錢三厘、森林及原野の經營に關する經費の支出少かりしが爲め森林費及國有林野經營費に於て不用に歸したる金額は二十一萬四千四百八十三圓二十八錢五厘、遞信事業に關する經費の支出少かりしが爲め遞信費に於て不用に歸したる金額は二十九萬八千二百六十七圓四十一錢三厘、年金受領者の死亡又は勳章の褫奪に依り受領權の消滅したるものありし等の爲め年金に於て不用に歸したる金額は十萬二千四百三圓三十七錢、傳染病豫防費・罹災救助基金・航路擴張竝航海及造船奬勵等に關する補助金の支出を要すること少かりしが爲め各種の補助費に於て不用に歸したる金額は八十五萬五千三百五十四圓七十九錢、以上の外經費の節約等に依り諸般の經費に於て不用に歸したる金額は三百九萬七千三百二圓一錢八厘なり。

（明治四十五大正元）年度に於ける大藏省證券發行最高額を其の豫定最高額一億圓に對比すれば五千三百四十七萬圓を減少せり。

今（明治四十五大正元）年度決算額を其の豫算額と對照すれば左の如し（圓位以下切捨）。

明治四十五大正元年度歳入歳出決算額豫算額對照表

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
歳入			
經常部			
租税	三六〇、九六九、九一八円	三三、九六四、三三九円	三八、〇〇五、六七九円
地租	七五、三六五、三五三	七五、四〇七、九四四	△四二、六〇一
所得税	三八、九三三、四九七	三三、七二五、二八一	六、二〇八、二一五
營業税	二六、〇二一、八〇三	二四、五九五、三五五	一、四二六、四三七
相續税	三、六二九、六八〇	一、九四九、〇七七	一、六八〇、六三三
通行税	四、三七五、七三五	三、三七八、九三三	七六六、八〇二
鑛業税	二、六二〇、一四四	一、九七八、一三九	六四二、〇〇五
兌換銀行券發行税	一、六五八、〇一三	八六〇、二八四	七九七、七三八
酒税	九三、八六一、七五七	八八、四八一、五八二	五、三〇、一七二
醬油税	四、九〇一、九五九	四、六三四、八四五	二六八、一一四
砂糖消費税	一三、五一七、三七四	一三、七八九、七八〇△	二七二、四一六
織物消費税	二〇、一七六、七九三	一八、六四三、七九一	一、五三三、〇〇二
石油消費税	一、七一七、四一五	一、九八六、六二八△	二九一、二三三
煙草賣捌營業税	二五〇、四七〇	二三五、九七〇	一四、〇三〇
取引所税	四、七五六、四三三	三、六二五、〇〇三	一、一三一、四三〇
印紙收入	三六〇、九六九、九一八円	三三、九六四、一三九円	三八、〇〇五、六七九円
印紙收入	七五、三六五、三五三	七五、四〇七、九四四△	四二、六〇一
官業及官有財産收入	三八、九三三、四九七	三三、七二五、二八一	六、二〇八、二一五
郵便電信及電話收入	二六、〇二一、八〇三	二四、五九五、三五五	一、四二六、四三七
森林收入	三、六二九、六八〇	一、九四九、〇七七	一、六八〇、六三三
配當金收入	四、三七五、七三五	三、三七八、九三三	七六六、八〇二
囚徒工錢及製作收入	二、六二〇、一四四	一、九七八、一三九	六四二、〇〇五
官有物貸下料	一、六五八、〇一三	八六〇、二八四	七九七、七三八
印刷局益金	九三、八六一、七五七	八八、四八一、五八二	五、三〇、一七二
專賣局益金	四、九〇一、九五九	四、六三四、八四五	二六八、一一四
東京砲兵工廠益金	一三、五一七、三七四	一三、七八九、七八〇△	二七二、四一六
大阪砲兵工廠益金	二〇、一七六、七九三	一八、六四三、七九一	一、五三三、〇〇二
千住製絨所益金	三〇、一五三	一、九八六、六二八△	二九一、二三三
海軍採炭所益金	七五、九六三	八三、六一三△	七、六五〇
海軍工廠賚金益金	三五七、一六一	三六五、一〇五△	三六、一〇五
關税	六八、四九六、九二五円	四九、八九二、一〇七円	一八、六〇四、六九八円
噸税	六九五、五二一	五七七、三三九	二八、一八二
印紙收入	二八、九三四、二六二	二七、一七三、九六二	一、七六〇、三〇〇
印紙收入	二八、九二四、二六二	二七、一七三、九六二	一、七六〇、三〇〇
官業及官有財産收入	一四二、二四一、五〇三	一三一、三六八、六四〇	一〇、八七二、八六三
郵便電信及電話收入	五五、一〇五、三七六	四四、一六九、四四一	九三五、九三五
森林收入	二一、三九、九〇九	一〇、七八三、一八八	四五六、七二一
配當金收入	一、六六三、八八五	一、六六三、七四五	一四〇
囚徒工錢及製作收入	一、五七八、四六一	一、三三八、五三二	二三九、九二九
官有物貸下料	三五二、五四六	二七二、八四五	八四、七〇一
印刷局益金	三三、一四一三	二七一、八三五	六〇、五七八
專賣局益金	六六、〇五五、一八	六二、一三二、一四二	三、八三三、一〇六
東京砲兵工廠益金	三一四、一五〇	一五、一四六	三〇九、〇〇四
大阪砲兵工廠益金	三三四、八六七	三六、八九四	二九七、九七三
千住製絨所益金	三〇、一五三	三、八九九	一六、二五四
海軍採炭所益金	七五、九六三	八三、六一三△	七、六五〇
海軍工廠賚金益金	三五七、一六一	三六五、一〇五△	三六、一〇五

製鐵所益金	四、八三八、七六四
電信燈臺用品製造所益金	二、三二九
雜收入	
免許及手數料	三、三三九、九一九
懲罰及沒收金	二〇七、八七四
辨償及違約金	一、〇一三、六九一
稅關雜收入	三一六、四八七
官吏遺族扶助法納金	二三八、一五五
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	五四三、三五八
一年志願兵及幼年學校自費生納金	三九、一七二
小笠原島地方收入	三、二一三
預金特別會計ヨリ繰入	
預金利子繰入	一、四九一、三五七
預金利益金繰入	一、〇五九、三五七
朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	一、九九九、一〇三
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	三、一〇九、五六八
臺灣事業公債及借入金償却繰入	三、一〇九、五六八
經常部合計	五五二、〇八五、二八一
臨時部	
官有物拂下代	四、一二九、六四七
鑛山拂下代	一二、九〇〇
地所拂下代	一、三六五、七八三
建物拂下代	一〇九、二三
工場拂下代	一四、三〇〇
物品拂下代	一、五五三、九七三
船舶拂下代	八七七、五四二
家畜拂下代	一八六、九三三
雜收入	五、三七六、四九六
海軍受託造修收入	二三八、二九四
返納金	一、七三八、三四四
清國償還金收入	一、二六九、八一六
利子收入	一、四八七、二三五
雜入	一、三一〇
臨時軍事費所屬收入	二一〇、二八五
腦脚獸皮分配前受金	四二、一〇〇
港灣設備納付金	一〇〇、〇〇〇
港灣設備納付金	一〇〇、〇〇〇
公債募集金	一八、三七、一四三

四、八三七、八六四	
二、三二九	△ 五九五
三、〇五二、五二九	△ 二七、三四九
二、六四九、二三三	△ 一、二四六
四六六、四七八	△ 四、六三三
三、六四八	△ 一、四二二
二三八、八一五	△ 一、三八六
一、七九、七二九	△ 一、六二九
五四三、三五八	△ 一、九二五
三八〇、六七一	△ 一、三〇一
一四二、七八九	△ 一六、三三九
四三六、四七八	△ 三三、二四六
三七〇、六七一	△ 一、三〇一
一、七九、七二九	△ 一六、三三九
四二六、九九八	△ 一二、三六〇
三五四、一八四	△ 一七、六九七
五九、〇六六	△ 六四七、七四三
二、三八、一六〇	△ 一、〇〇一、五四九
一四三、三六九	△ 四三、五六四
四、八〇一、九〇七	△ 五七四、五八九
二三六、三二九	△ 三一、九六五
一、七三七、九九八	△ 三四六
二、一四四、一七五	△ 八五四、三五九
六九四、九〇〇	△ 七九二、三三五
一、三一〇	△ 七、一八五
二一〇、二八五	△ 二一〇、二八五
四二、一〇〇	△ 四二、一〇〇
一〇〇、〇〇〇	〇
一〇〇、〇〇〇	〇
一五、一八一、五四〇	△ 三、一四五、六〇三

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
朝鮮事業費公債及繰替借入金	一四、九〇〇、〇〇〇	一二、五九六、五四〇	二、三〇三、四六〇
臺灣事業費繰替借入金	三、四一七、一四三	二、五八五、〇〇〇	八四二、一四三
森林資金繰入	二、四四〇、八八九	二、八二九、〇八七	△三八八、一九八
森林資金繰入	二、四四〇、八八九	二、八二九、〇八七	△三八八、一九八
陸軍軍艦費補充資金繰入	三四七、九一五	三七三、〇〇〇	△二五、〇八五
陸軍軍艦費補充資金繰入	三四七、九一五	三七三、〇〇〇	△二五、〇八五
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	〇
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	〇
貨幣整理資金繰入	七、四二六	四〇、〇〇一	△三二、五七五
貨幣整理資金繰入	七、四二六	四〇、〇〇一	△三二、五七五
治水費資金繰入	一八、五七一、二六八	一五、一六二、三一六	三、四〇八、九五二
治水費資金繰入	一八、五七一、二六八	一五、一六二、三一六	三、四〇八、九五二
獻納金	九四、〇〇〇	九四、〇〇〇	〇
學校創立費獻納金	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	〇
學校建築費獻納金	四、〇〇〇	四、〇〇〇	〇
氣象臺磁力計室移築費獻納金	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇
前年度繰入金	七二、八一七、六〇七	七二、八一七、六〇七	〇
前年度繰入金	七二、八一七、六〇七	七二、八一七、六〇七	〇
清國事件費資金受入	二、〇〇四、五〇四	二、〇〇四、五〇四	〇
特別會計資金繰入	二、〇〇四、五〇四	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇四、五〇四
特別會計資金借入	〇	一、六二一、五八九	△一、六二一、五八九
臨時部合計	**一三五、三〇六、八八六**	**七九、四三二、九三五**	**五五、八五三、九五一**
歳入總計	**六八七、三九二、四六〇**	**五八二、〇四〇、一三三**	**一〇五、三五二、三二七**
歳出			
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七三、三〇六	七九四、五三八	△七二、二三二
在外公館	三、四五二、六四四	三、四六六、一一〇	△一三、四一六
諸支出金	二六、二七六	二一、八三	四、三八三
合計	**四、二〇一、二七**	**四、二六三、三五一**	**△八一、二六四**
內務省所管			
神宮費	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	二三四、七一九	二三四、九九七	△二六八
內務本省	四六八、二一〇	五〇四、三三八	△三五、一二八
衛生試驗所	一三七、七四四	一三七、八六一	△一七
傳染病研究所	二四六、一八八	一八二、六〇七	六三、五八一
警視廳	二六四、六三八	二六六、二四九	△一、六一一
諸拂戻及缺損補塡金	七、五四八、四二九	四、四二五、〇〇〇	三、一三三、四二九
輸出交付金	一七一、六二九	二〇〇、三八〇	△二八、六〇一
國債整理基金繰入	一四一、六五二、七六三	一四二、三三五、八一一	△六七一、〇四八
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	〇
諸支出金	五二、一四四	七七、三七六	△二五、二三二
國庫豫備金	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	△三、〇〇〇、〇〇〇
合計	**一八四、三五二、八八八**	**一八五、八三五、九〇三**	**△一、四八二、〇一五**
陸軍省所管			
陸軍本省	三八四、二八八	三八六、四九六	△二、二〇八
軍事費	七五、六九九、七五六	七三、七三四、五五一	一、九六五、二〇五
憲兵費	一、八四一、二四六	一、八五五、五七六	△四四、三三〇
兵器費	三六、四八一	三九、〇二六	△二、五四五
馬政局	一、八七一、五五三	一、八九三、四六二	△二〇、九〇九
靖國神社寄付金	七、五五〇	七、五五〇	〇
諸支出金	三三四、五〇三	三一八、〇六七	一六、四三六
合計	**八〇、一二五、三八〇**	**七八、二五三、一七八**	**一、九二一、六五二**
海軍省所管			
海軍本省	一八九、一〇八	一九四、一九二	△五、〇九三
軍事費	四一、三二五、六七八	四〇、七〇八、八八二	六一六、七九六

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
北海道廳費	六二八、八三九	五八七、九五六	四〇、八八三
府縣	八、八五八、一一七	九、〇五〇、六四五	△一九一、五二八
地方費	六七、七七三	六八、五〇一	△七二九
補助費	九四五、七〇三	一、〇五八、九三八	△一一三、二三五
諸支出金	二一〇、〇三三	二三五、〇四三	△二五、〇一〇
合計	**二、三二一、九〇八**	**二、四五〇、〇六六**	**△一二八、一五八**
大藏省所管			
大藏本省	三四六、七五二	三七一、一四三	△二四、三九一
預金利子及手數料	一〇、五二一、三〇三	一一、一〇二、四九七	△六八一、一九四
內閣	三九〇、六一六	三四五、五七九	四四、〇三七
樞密院	一六三、九五四	一七三、八三六	△九、八八二
貴族院	七二七、二四八	七三三、七三六	△五、九八八
衆議院	一、〇一六、一五〇	一、〇三一、〇五一	△一四、九〇一
會計檢查院	二三六、四八七	二三七、一六四	△七、四七七
行政裁判所	七四、六三四	七五、二一七	△五八三
拓殖局	七九、八五五	九七、五九三	△一七、七三八
稅關	一、一三三、六九一	一、一四九、六一八	△一五、九二七
內國稅徵收費	七、四三四、一八六	七、五四七、五三三	△一二三、三四六
釀造試驗費	六〇、三九一	七七、〇二五	△一六、六三四
樺濱港維持費	一六二、二八六	一六二、四一三	△一二七
國債費	六〇〇、三五三	六〇四、一八	△三、八四五
運用費	五八七、九五六	四、〇五五	△三、四六八
資	四〇、八五二	四、〇五五	△四、二〇三
北海道廳	**四、〇五五**	**四、〇五五**	**△四、〇五五**
府縣	三〇、三五八	三、一三三、四二九	△三、一〇二、七一
地方費	七二九	二〇〇、三八〇	△二〇〇、六五一
補助費	一四一、六五二、七六三	一四二、三三五、八一一	△六七一、〇四八
諸支出金	二五、〇四〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	△一二、九七五、九六〇
合計	**一四一、六九二、五六三**	**一六五、三三五、九〇三**	**△二三、六四三、三四〇**
大藏省所管			
大藏本省	三四六、七五二	三七一、一四三	△二四、三九一
預金利子及手數料	一〇、五二一、三〇三	一一、一〇二、四九七	△六八一、一九四
內閣	三九〇、六一六	三四五、五七九	四四、〇三七
樞密院	一六三、九五四	一七三、八三六	△九、八八二
貴族院	七二七、二四八	七三三、七三六	△五、九八八
衆議院	一、〇一六、一五〇	一、〇三一、〇五一	△一四、九〇一
會計檢查院	二三六、四八七	二三七、一六四	△七、四七七
行政裁判所	七四、六三四	七五、二一七	△五八三
拓殖局	七九、八五五	九七、五九三	△一七、七三八
稅關	一、一三三、六九一	一、一四九、六一八	△一五、九二七
內國稅徵收費	七、四三四、一八六	七、五四七、五三三	△一二三、三四六
釀造試驗費	六〇、三九一	七七、〇二五	△一六、六三四
樺濱港維持費	一六二、二八六	一六二、四一三	△一二七

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
諸支出金	一八、八一三 円	一五、〇八一 円	三、七三二 円
合計	**四一、五三三、一〇〇**	**四〇、九八一、一五五**	**六五二、四四五**
司法省所管			
司法本省	一五七、一一五	一五九、〇一二 △	一、七九八
裁判所	六、〇九六、九八一	六、〇五三、九四九	三三、〇三二
監獄	六、三七八、七五三	六、〇八八、〇九九	三〇、六五四
諸支出金	六六、三一七	五九、二七六	七、〇四一
合計	**二二、六九九、二六八**	**二二、三五〇、三三七**	**三四八、九三一**
文部省所管			
文部本省	五六〇、七五八	五六九、七五九 △	九、〇〇一
震災豫防調査會	二一、三〇五	二一、三七九 △	七四
測地學委員會	八、四八一	八、四八三 △	二
中央氣象臺	七一、七五七	七一、九二九 △	一七二
緯度觀測所	八、五七〇	八、五七一 △	一
醫術及藥劑師試驗費	八一、六四七	八二、一九五 △	五四八
大學及學校圖書館支出金	五、七七、二五七	五、七一〇、三三六 △	六、九二二
府縣立師範學校長俸給	一一九、二七〇	一一九、二八二 △	一三
普通教育費	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇 △	〇
實業教育奬勵費	三九〇、一七三	三九三、〇〇〇 △	二、八二七
諸支出金	一、八二四 円	五三四 円	一、二九〇 円
合計	**九、四八一、〇四七**	**九、四八五、四八八** △	**四、四二一**
農商務省所管			
農商務本省	四七二、四四五	五〇二、九三五 △	三〇、五二八
特許局	一九七、二一一	一九七、六七九 △	四六八
森林費	四、九九二、四四五	四、六六八、一五三 △	三三一、九四二
鑛山監督署	三六四、五二四	三八七、〇八二 △	二三、五五八
農事試驗場	二〇八、二六八	二一〇、七一〇 △	二、四四二
水產講習所	一四六、三七	一四七、八〇八 △	一、五八二
蠶業講習所	一〇六、一九六	一〇七、三八七 △	一、一九一
生絲檢查所	八七、三七七	八八、八〇〇 △	一四三
畜產改良費	二六六、四六二	二七三、〇七八 △	六、六二六
工業試驗所	一〇七、八九九	一〇八、四九二 △	五九三
花莚檢查所	五四、八一〇	五六、五五八 △	一、七二八
原蠶種製造所	二六三、八四一	二九九、五二〇 △	三五、六七九
牛疫血清製造所	八四、四七五	八五、二七一 △	七九六
補助費	四四三、九三一	四四四、〇〇〇 △	六九
諸支出金	五六、五二九	四九、二七	七、二三三
合計	**七、八五二、一六八**	**七、六六六、一五八**	**三五二、九〇〇**

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
遞信省所管			
遞信本省	六八八、五二六	七二四、九七七 △	三六、四五九
遞信費	二八、四一八、八八八	二八、三四四、五七八 △	一八四、三一〇
航路標識費	四一三、一八六	四二三、九八四 △	七九八
商船學校	三三三、四八四	三三四、三九一 △	九〇七
年金及恩給	三〇、一六九、六〇四	三〇、二七二、〇〇八 △	一〇三、四〇四
諸支出金	三四、四三九	五三、八一一 △	一八、三七二
合計	**五九、九〇八、一三三**	**五九、九三三、七五九**	**二五、七七九**
經常部合計	**四一六、八九五、〇九一**	**四一五、五八三、一一三**	**一、三一二、九七九**
臨時部			
外務省所管			
營繕費	一三五、三五一	八五、〇〇〇	五〇、三五一
在外公館移轉費	一八八、四一三	一八八、四四〇 △	二五五
移民調查費	二一、四五四	二〇、〇〇〇	一、四五四
條約改正費	一四四、八三三	二〇、〇〇〇 △	一二四、八三三
海牙平和宮殿寄贈品費	二七、四五七	二三、二〇〇	四、二五七
清國事件費	三八五、四〇七	六〇〇、〇〇〇 △	二三四、五九三
（元大藏省所管）			
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇	三、〇四七、八〇〇	
清國事件費	七四、七二〇	七四、七二〇	
合計	**三、八九五、四〇五**	**四、〇九九、一四〇** △	**一六三、七三五**
內務省所管			
補助費	一、五三八、七三四	一、四〇〇、〇〇〇	一三八、七三四
治水事業費	一七、九三八、九七四	一四、二八〇、六一〇	三、七五八、三六四
道路港灣調查費	五四、八三三	七〇、〇〇〇 △	一五、一七八
營繕費	四三、七三三	三四七、八一六 △	八三、九五七
造神宮使廳	三五、八二〇	五二、〇三三 △	一六、三三三
小笠原島殖產事業費	二五、三六六	一五、二〇三	一〇、一三四
北海道拓殖費	二、八〇八、一七五	二、九八八、六三九 △	一八一、四六四
北海道森林費	三八七、二五四	三八九、五〇七 △	一三、二五三
港灣改良費	一、〇三三、〇一三	八〇〇、〇〇〇	三三三、〇一三
神職養成及神社調查費	九、九三三	一〇、〇〇〇 △	六七
傳染病豫防費	一五五、六八	一八〇、〇〇〇 △	四、三〇三
議員總選擧取締費	一七、二四一	一七六、一三六 △	五、七九五
臨時神社費	四三、〇〇六	四三、〇一〇 △	四
トラホーム講習費	七、〇〇四	七、〇八八 △	三四
縣債利子補給	一六七、五三三	一六七、五三三 △	一
災害費	一、三五〇、八三〇	六九二、九三三	五五七、八七七
動記配送費	一、四〇七	三、六一九 △	二、二一三
臨時外國行諸費	二一、七八	七、一九三	五、五四五

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
賞費	一六、六五五	〇	一六、六五五
地方廳臨時諸費	一三、〇六四	〇	一三、〇六四
海外渡航者檢查費	六、三四九	〇	六、三四九
（元大藏省所管）			
朝鮮總督府經費補充金	一三、三五〇、〇〇〇	一三、三五〇、〇〇〇	
樺太廳經費補充金	五九一、八一九	五九一、八一九	
朝鮮總督府特別會計繰入金	一四、九〇〇、〇〇〇	一三、五九六、五四〇、〇〇〇	一、三〇三、四六〇、〇〇〇 △
臺灣總督府特別會計繰入金	三、四三七、一四三	二、五八五、〇〇〇	八五二、一四三 △
合計	五七、三六六、三五一	四九、六四五、六〇八	七、七二〇、七四三 △
大藏省所管			
補助費	一九、〇〇〇	三六、二五五	一七、二五五 △
營繕費	三、三四四、七二九	三、九六七、九八八	六二三、二五九 △
關稅定率調查費	八、八七九	一〇、五四三	一、六六四 △
四分利付清國債券元利	一、二八九、八一六	二、一四四、五八四	八五四、七六八 △
海外駐劄財務官費	七〇、五一七	八二、七二四	一二、一七 △
臨時事件行賞諸費	三二、四九七	二六、七〇八	五、七八九 △
造幣局擴張費	五、六六八	四〇、〇〇一	三四、三三三 △
臨時秩祿處分費	二一、一四三	二一、七六一	三九九 △
國勢調查準備費	三、一四五	三、三六六	二二一 △
朝鮮派遣部隊費	三、九〇二、六三六	四、四四二、八一三	五四〇、一七七 △
清國駐屯部隊費	四七四、三九三	四九〇、七八五	一六、三九二 △
特別大演習外賓接待費	一六、二二一	三〇、〇七七	一三、八五六 △
豫備兵器補塡費	二七八、〇二三	二七八、三一九	三九六 △
匪徒鎭定費	一六、五八七	三〇、〇〇〇	一三、四一三 △
一時賜金	五九〇	三、九〇九	三、三一九 △
戰後整理費	一九六、〇七六	二〇五、三一九	九、二五三 △
馬政事業設備費	一三八、九三	一三六、六〇七	二、三二五 △
臨時馬疫調查費	二三、三五九	二五、〇〇〇	二、六四一 △
清國事件費	一、九二三、四三八	一、〇六〇、〇六〇	八五二、三七八 △
臨時軍事費	二、九五五、〇八一	〇	二、九五五、〇八一 △
災害費	一八七、九三〇	〇	一八七、九三〇 △
合計	三三、九五〇、〇〇二	一七、二一〇、二五二	六、三四〇、一七〇 △
海軍省所管			
營繕費	四五八、一七八	三九三、一三八	六五、一五〇 △
鎭海軍港第一期設備費	六九九、八七二	七〇、〇〇〇	六二九、八七二 △
受託造修費	二二三、一〇三	二二二、二八三	八〇 △
臨時海軍建築部費	四七、三三〇	四九、八五六	二、六三六 △
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇
軍備補充費	五〇、六六七、四八〇	四九、八三三、一八一	八四五、二九九 △
艦艇火藥庫冷却裝置費	二七七、八四三	三〇〇、〇〇〇	二二、一七七 △
教育兵器充實費	一八七、七三八	一八八、七六三	一、〇二五 △
標的船製造費	七〇、二六〇	七〇、二六〇	〇
大演習外賓接待費	六、三四七	二〇、〇〇〇	一三、六五三 △
航空術研究費	九九、九七九	一〇〇、〇〇〇	二 △
清國事件費	一、〇〇八、一四〇	九三、六四二	八四四、四九八 △
艦艇救難及修理費	九七、〇三七	九七、〇三七	〇
朝鮮海軍用地經營費	四、三一〇	四、三〇一	四 △
災害費	七六、七六七	〇	七六、七六七 △
一時賜金	一、〇六〇	〇	一、〇六〇 △
臨時救難船修理費	三三、〇九八	〇	三三、〇九八 △
合計	五三、九四一、三三八	五三、八九二、一五〇	一、〇六四、三一二 △
司法省所管			
法律調查費	三〇、四五三	三一、四七二	一九 △
免囚保護事業奬勵費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	〇
衆議院議員總選擧檢察費	七、〇〇〇	七、〇〇〇	〇
營繕費	六五七、三三三	七六六、二五八	四五、九六八 △
臨時外國行諸費	四、一二	四、一三九	八 △
災害費	二一四、四三三	〇	二一四、四三三 △
恩赦執行費	七、九二〇	七、九二〇	〇

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
合計	八五二、二四二	七八八、三五九	七三、八八三
文部省所管			
營繕費	三〇三、六五四	二四一、〇七六	六二、五七八
設備費	四、三九〇	四、四〇〇	△一〇
九州帝國大學工科大學創立費	七五、八一六	一〇、〇〇〇	六五、八一六
第二女子高等師範學校創立費	二九、〇六三	二八、七四七	三一六
蠶絲專門學校創立費	一〇八、五四二	三〇、〇〇〇	七八、五四二
第六醫學專門學校創立費	四七、三三六	五〇、〇〇〇	△二、六六四
第七高等工業學校創立費	一三三、五八二	七五、〇〇〇	四八、五八二
鐵山專門學校創立費	七一、六〇一	四〇、〇〇〇	三一、六〇一
第八高等工業學校創立費	一、一五九	五〇、〇〇〇	△四八、八四一
大學及學校圖書館臨時支出金	三六六、三三八	三六六、二二八	一一〇
臨時調査費	一二、九八四	一三、〇〇〇	△一六
臨時教員養成所費	三一、〇四六	一四、〇五三	△一七、一四四
委託學生費	一、三三〇	八、五〇五	△七、一七五
奬勵費	九、〇〇〇	九、〇〇〇	
臨時維新史料編纂事務局費	四六、七八一	五〇、七八	△三、九二七
縣債利子補給	三〇、五三〇	三三、三五五	△二、八二五
災害費臨時支出金	一六、一七六	一六、一七六	

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
臨時外國行諸費	一二、八八三	一、三八四	一一、四九九
災害費	四五、七〇六	〇	四五、七〇六
合計	一、三二一、〇四二	一、〇四〇、六五二	二八〇、三九〇
農商務省所管			
外國貿易擴張費	九五、二六三	九九、〇〇〇	△三、七三七
製鐵所擴張費	六五七、五四八	三、〇三三、一八六	△二、三六四、六三八
營繕費	四五八、六二三	四五六、三九〇	二、二三三
國有林野經營費	二、四四〇、八八九	二、〇二九、〇八七	三八八、一九八
漁業免許處分費	八、三六七	八、五六二	△一九五
足尾國有林復舊費	三九、三五〇	四〇、三一〇	△八七〇
産業奬勵費	一、一八一、三三九	一、〇〇〇、四八六	一九、一四七
臨時調査費	五八、八四九	五九、四八〇	△六三一
生産調査會費	一四、八七六	一五、〇〇〇	△一二四
獸疫及害蟲驅除費	七三、二五六	九〇、四〇〇	△一七、一四四
治水事業費	五三八、〇三六	五四、〇〇〇	三五、九六四
腥肭獸保護費	一三、五七八	一三、九二一	△三四四
臘虎腥肭獸獵禁止處分費	三、一八三	三、五三六	△三五三
災害費	二〇、三六九	〇	二〇、三六九
巴奈馬太平洋萬國博覽會參同準備費	一九、八〇一	〇	一九、八〇一

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
臨時外國行諸費	二、六六六	〇	二、六六六
トロール漁業取締費	四、四五三	〇	四、四五三
合計	五、二三〇、四三五	八、四二二、三〇九	△二、七八一、八七四
遞信省所管			
補助費	二、七三五、五九六	二、二四三、三三	△六九七、七三七
電信電話營繕費	三七八、五二六	三九七、八九	△一九、五六三
航路標識營繕費	七三、三八一	六三、八四七	九、五三四
營繕費	三二一、九四二	二五八、〇〇〇	五三、九四二
電話交換擴張費	六、四四〇、二七二	六、五〇〇、〇〇〇	△五九、七二八
發電水力調査費	二六一、七〇三	二四〇、〇〇〇	二一、七〇三
清國事件費	四一、九七二	一六九、七五二	△一二七、七八〇
臨時外國行諸費	三、五四八	三、六七〇	△一二二
浮流水雷發見者給與費	三〇〇	一〇〇	二〇〇
災害費	三〇、八四四	〇	三〇、八四四
商船學校職員臨時外國旅費	二、二四九	〇	二、二四九
合計	一九、七六一、三三八	一六六、四五八、〇一〇	△一四三、九三三、六七二
臨時部合計	一九、七六一、三三八	一六六、四五八、〇一〇	△一四三、九三三、六七二
歳出總計	五九三、五六六、四四四	五三、〇八〇、一三三	二、五四六、三一一

臨時外國行諸費　二、六六六
トロール漁業取締費　四、四五三
合計　五、二三〇、四三五
遞信省所管
補助費　二、七三五、五九六
電信電話營繕費　三七八、五二六
航路標識營繕費　七三、三八一
營繕費　三二一、九四二
電話交換擴張費　六、四四〇、二七二
發電水力調査費　二六一、七〇三
清國事件費　四一、九七二
臨時外國行諸費　三、五四八
浮流水雷發見者給與費　三〇〇
災害費　三〇、八四四
商船學校職員臨時外國旅費　二、二四九
合計　一九、七六一、三三八
臨時部合計　一九、七六一、三三八
歳出總計　五九三、五六六、四四四

右明治四十五大正元年度歳入歳出總決算は同年度各特別會計決算及會計檢査院の檢査報告と共に、大正三年十二月二十五日第三十五回帝國議會に提出せられしが、同日衆議院解散の爲め審査に著手するに至らずして止みしを以て、翌大正四年五月第三十六回帝國議會に於ては審議の末、一般會計歳入に於て不當なるもの二十三件、同歳出に於て不法なるもの二十一件及不當なるもの十五件、又法規に牴觸せざるも事實に於て不當の處置なりと認めなるもの二十一件及不當なるもの十五件、又法規に牴觸せざるも事實に於て不當の處置なりと認め警告を與ふべきものと決せしもの一件を議決し、且『政府は決算に於て違法と決議せしものに對し將來に於て其收支方法を改正すべきものとす』との決議を爲し、六月九日本會議に於て採決の結果異議なく委員會議決の通決定したり。

貴族院決算委員會に於ては審議の末、一般會計歳入に於て二件、同歳出に於て十六件、合計十八件は政府の處置穩當を缺くものと認め、又一般會計歳入に於て一件、同歳出に於て二件、合計三件は政府に

對し將來の注意を促すべきものと認め、其の他は總て異議なしと議決し、六月七日本會議に於て採決の結果異議なく委員會議決の通可決確定したり。

第十二節　大正二年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

大正二年度豫算は其の提出の直前に於て内閣の更迭行はれし爲め、新内閣は其の細目に亙りて新なる計畫を立つるの時日を存せざりしを以て、大體に於て前年度豫算を蹈襲することと爲し、歳入の増加を以て先づ前年度に於ける既定計畫上本年度に於て生ずべき財源の缺陷を補塡し、尚剩す所の確定歳入を以て支辨し得べき範圍内に於て緊急已むを得ざる必要の經費を計上し、以て歳入歳出の均衡を保たしむることとせり。

大正二年度歳入歳出總豫算に計上する所の金額は歳入歳出各五億八千四百九十二萬四千五十一圓にして、内歳入經常部五億二千九百七十五萬五千六百四十九圓、同臨時部一億六千二百九十二萬十圓なり。尚右の外二圓、歳出經常部四億二千二百萬四千四十一圓、同臨時部一億六千二百九十二萬十圓なり。尚右の外大正二年度に於て使用すべき豫定に係るものは臨時軍事費特別會計より繰越したる經費の中百萬圓にして、右は前年度剩餘金を以て之を支辨するの計畫なり。今本年度豫算額を前年度豫算額に比較すれば左の如し。

區分		大正二年度豫算額	大正元年度豫算額	比較増	比較減
歳入	經常部	五二九、七五五、六四九円	五〇二、五九七、一九六円	二七、一五八、四五三円	
	臨時部	五五、一六八、四〇二	七四、九二五、一八八	○	一九、七五六、七八六
	合計	五八四、九二四、〇五一	五七七、五二二、三八四	七、四〇一、六六七	○
歳出 經常部		四二二、〇〇四、〇四一	四一二、〇七三、八六三	九、九三〇、一七八	○
歳出 臨時部		一六二、九二〇、〇一〇	一六五、四四八、五二一	○	二、五二八、五一一
歳出 合計		五八四、九二四、〇五一	五七七、五二二、三八四	七、四〇一、六六七	○

（備考）大正元年度豫算額は、本豫算額及第二十八・二十九兩議會通過の追加豫算額の合計なり。

今大正二年度歳入豫算を前年度に比較して其の増減せる重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては所得稅・營業稅・相續稅・通行稅・酒稅・砂糖消費稅・織物消費稅・關稅・印紙收入・郵便電信及電話收入・專賣局益金・製鐵所益金・預金利子・繰入・朝鮮公債及借入金償却繰入等の増加したる爲め二千七百八十八萬百九十四圓を増加すと雖も、臺灣事業公債及借入金償却繰入の減少したる等の爲め七十二萬千七百四十一圓を減少するを以て、差引二千七百十五萬八千四百五十三圓を増加し、臨時部に於ては地所拂下代・物品拂下代・船舶拂下代・返納金・治水費資金繰入・前年度繰入金の減少したる等の爲め二千四萬八千四百六十六圓を減少すと雖も、臺灣事業費繰替借入金の増加したる等の爲め二十九萬千六百八十圓を増加するを以て、差引千九百七十五萬六千七百八十六圓を減少したり。

又其の歳出豫算増減の重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては内務省所管に於て神宮費及警察

費連帶支辨金の增加、大藏省所管に於て預金利子及手數料竝諸拂戻金の增加、陸軍省所管に於て糧秣費の增加、海軍省所管に於て新艦に要する軍事費の增加、司法省所管に於て在監人費の增加、文部省所管に於て大學及學校圖書館支出金の增加、農商務省所管に於てトロール漁業取締費・原蠶種製造支所完成に要する經費の增加、遞信省所管に於て電話交換擴張に伴ふ經費の增加、通信事業增進に伴ふ經費の增加諸拂戻金及恩給の增加したる等の爲め九百九十七萬九千三十一圓を增加すと雖も、內務省所管に於て傳染病豫防費補助の減少したる等の爲め四萬八千八百五十三圓を減少するを以て、差引九百九十三萬百七十八圓を增加し、臨時部に於ては外務省所管に於て敦賀港改良費及衆議院議員總選擧取締費の皆減、大藏省所管に於て清國事件費及大喪費の皆減、陸軍省所管に於て軍隊官衙學校改築費・舊兵營其他修築費・臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費・戰後整理費及清國事件費の皆減、海軍省所管に於て教育兵器充實費及清國事件費の皆減、文部省所管に於て大學及學校圖書館臨時支出金の減少、農商務省所管に於て原蠶種製造所新營費の減少、遞信省所管に於て清國事件費の皆減、電話交換擴張費の減少したる等の爲め千五百七十三萬八千九百八十九圓を減少すと雖も、內務省所管に於て彌彦神社再築費、大藏省所管に於て罹災救助基金補助及治水費資金特別會計繰入金の增加、陸軍省所管に於て豫備兵器補塡費の增加、海軍省所管に於て軍備補充費年割額の追加、農商務省所管に於て巴奈馬太平洋萬國博覽會費、遞信省所管に於て電話交換擴張費及電氣計器檢定用器具機械設備費を要する等の爲め千三百二十一萬四百七十八圓を增加するを以て、差引二百五十二萬八千五百十一圓を減少したり。

大正二年度に於て新に要求に係る繼續費は百三十萬圓、既定繼續費に對し追加を要するもの六百萬圓、合計七百三十萬圓にして、其の年限最も長きは大正五年度に終る。而して右金額を大正二年度以降の既定繼續費總額四億八百八十二萬六千六百九十圓に加ふるときは、大正二年度以降の繼續費の總額は四億千六百十二萬六千六百九十圓となるの計算なり。

大正二年度に於て國庫豫備金は第一豫備金百萬圓、第二豫備金二百萬圓なり。

大正二年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は五千萬圓なり。

第二項　豫算の成立及公布

第三十回帝國議會は大正元年十二月二十四日を以て召集せられしが、其の召集に先ち西園寺內閣は總辭職を爲し、後繼桂內閣は十二月二十一日を以て成立せり。然るに新內閣は二月五日に至らざれば豫算を提出し併せて施政方針及財政計畫に關する演說を爲す能はざるを以て、其の間休會の內議を衆議院の各派に試みたるも之に應ぜざりしを以て、政府は餘儀なく一月二十一日より二月四日迄十五日間の停會を奏請し、右期間の經過を待ちて二月五日、政府は大正二年度歳入歳出總豫算案及同年度各特別會計歳入歳出豫算案を衆議院に提出し、同日大藏大臣若槻禮次郎は衆議院に於て大正二年度歳計豫算案に關し大要左の如く演說せり。

『本大臣は玆に大正二年度歳計豫算を紹介するの光榮を有す。舊臘本大臣の大命を拜するや、帝國議會の開期既に切迫せしが爲め、大正二年度豫算の編成上、其の細目に亙りて新なる計畫を立つるの時日なかりしを以て、大體に於て前年度豫算を踏襲するの方針を執れり。大正二年度總豫算の歳入は經常部に屬するもの五億二千九百七十五萬五千六百四十九圓、臨時部に屬するも

の五千五百十六萬八千四百二圓、合計五億八千四百九十二萬四千五十一圓にして、其の歳出は經常部に屬するもの四億二千二百萬四千四十一圓、臨時部に屬するもの一億六千二百九十二萬十一圓、合計五億八千四百九十二萬四千五十一圓なり。而して經常歳入を以て經常歳出に比較すれば一億七百七十五萬千六百八圓の超過を示せり。右豫算に計上せる歳出の外、曩に臨時軍事費特別會計より一般會計に繰越したる豫算の內百萬圓を使用する豫定にして、前年度剩餘金を以て支辨する計畫なり。大正二年度歳入を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては主として一般經濟上の發達に基き租稅收入に於て千三百九十七萬九千四百二十四圓を增加し印紙收入に於て百八十九萬七千二百六十五圓を增加し、郵便電信及電話收入に於て四百八十二萬三千二百三十七圓を增加し、其他專賣局益金に於て百七十一萬八千百三十五圓、製鐵所益金に於て百九十九萬四千五百三十一圓を增加する等に依り、二千七百十五萬八千四百五十三圓の增加を示し、臨時部に在りては主として前年度繰入金の減少する爲め千九百七十五萬六千七百八十六圓を減少し、結局歳入總額に於て七百四十萬千六百六十七圓を增加せり。大正二年度歳出を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては恩給に於て二百八萬二千六百三十四圓諸拂戻金に於て二百三萬五千百七十九圓、米麥及馬糧の價額騰貴の爲め糧秣費及在監人費に於て百四十八萬八千三百四十四圓を增加し、其の他既定計畫に屬する事業の進捗及一般經濟上の進運に伴ひ經費の增加するものある等に依り、前年度に比し九百九十三萬百七十八圓を增加し臨時部に在りては一方に於て海軍軍備補充費追加・電話交換擴張費・巴奈馬太平洋萬國博覽會費其の他必要缺くべからざる經費にして新に計上したるものなきにあらずと雖も、他方に於て既定繼續費にして年割額の減少し又は事業の終了せるものある外、前年度限りの費途にして本年度に於て之を要せざるものある等に依り差引二百五十二萬八千五百十一圓を減少し、結局歳出總額に於て七百四十萬千六百六十七圓の增加を示せり。

以上は大正二年度總豫算に對する大體の說明なり。更に進んで國家歳計の整理竝財政經濟に關する政府の方針に就き一言せんと欲す。大正二年度豫算の編成及其の實體に就ては既に說明したるが如し。而して政府は今日の國情に鑑み國家歳計の整理を行ふの急務なることを認め、年額五千萬圓乃至六千萬圓の節約を目的として經費の節減及事業の繰延を行ひ、之に基きて諸般の計畫を立て大正三年度の豫算を編成し、次期帝國議會の協贊を求めんことを期せり。唯夫れ是等歳計の整理は國利民福に關すること極めて大にして、一日も之を緩うすべからざるを以て、政府は大正二年度に於ても豫算の執行上經費の節減及事業の繰延に努め、以て國家財政の基礎を鞏固にし、一般經濟の發達に資せんことを期す。國債に就ても政府は內外に於ける信用を維持し、財政經濟の調和を失はざらしめんことを旨とし、每年五千萬圓より勘からざる償還を爲すの計畫は嚴に其の維持實行に努むると共に、國債の發行額は成るべく之を減少するの趣旨を以て、鐵道の建設改良に要する資金の如きも鐵道益金及國庫預金部に於て引受け得べき資金を以て之に充當し、市場に向ては之が募集を爲さざるの方針を立てたるのみならず、歳計の整理に依り生ずべき剩餘金を利用して歳入の年度區分を改正し、酒類造石稅の納期を繰下ぐる等の方法を以て國庫收支の出合を改善し、每年度發行を要する大藏省證券の最高額を五千萬圓以下に止むるの見込にして、既に大正二年度豫算に於ては之を五千萬圓と定めたり。從來預金部よ

り供給したる低利貸付に就ては、地方産業組合及耕地整理に對する融通は事業の改良發達に資するが爲め尚之を繼續するの必要あるを認むるも、公共團體及府縣農工銀行に對する融通は將來に於ては之を見合せ、以て預金部資金運用を圓滑ならしむるの見込なり。一般公益上必要なき限りは事業は成るべく民間の經營に任ずるを相當と認むるを以て、官業中之を民業に移し差支なきものは成るべく之を民業に移すの方針を以て之が調査を遂げ、漸次實行を期せんとす。一般金融の方針に關しては成るべく急激なる變化を避け、生產事業の秩序的發達を期せんとするに在るを以て、既設の金融機關をして益〻其の機能を發揮せしむるは勿論、漸次金融機關の完備を計らんとす。中央財政の整理は地方財政の整理と相俟て始めて完全を得るものたるは言を俟たず。隨て地方財政の整理に關しても漸次之が遂行を期せんとす。大正二年度豫算は前に述べたるが如く大體に於て前年度豫算を蹈襲したるも、國運の進張に關し必要なる施設にして經費の增加を要するもの、又は國民の負擔を輕減すべき計畫に就ては、歲計其の他諸般整理の確定するを俟ちて之を考量するの見込なり。

釀て昨年中に於ける我が經濟界の趨勢を察するに、金融は漸次緊縮するの傾向を示したるも、民間事業の新設又は擴張計畫は依然其の盛況を呈せり。而して直接生產的事業に對する投資の漸次伸張せんとするの勢あるは諸君と共に慶賀する所なり。更に對外貿易の狀況を觀るに、輸出額五億二千六百餘萬圓、輸入額六億千八百餘萬圓、輸出入總額十一億四千五百餘萬圓にして、之を其の前年に於ける輸出入總額九億六千百餘萬圓に比するに一億八千四百餘萬圓の增加を示す。以て貿易の發達を推知するに足れり。而して其の輸出額は前年に比し七千九百餘萬圓を增加せるに對し、輸入額の增加も亦一億五百餘萬圓に達す。而して輸入額の輸出額に超過すること九千百餘萬圓なりと雖も、是れ主として原料品・肥料・機械類の輸入に基くものなり。本大臣は今後益〻生產的事業の振興に努め、輸出貿易の增進を圖り、以て經濟界の發展を促し國運の進步に資する所あらんとす。

之を要するに大正二年度歲計豫算は大體に於て前年度豫算を蹈襲し、而して歲入歲出の均衡を維持し、財政經濟の調和を保つに努めたりと雖も、之が執行上更に進んで政費の節減及事業の繰延を實行し、以て益〻財政の基礎を鞏固にし、國民經濟の發達を圖らんことを期す。諸君幸に之を諒とし、愼重審議以て協贊を與へられんことを望む。』

右演說終るや、元田肇は曩に提出せる內閣の措置竝政綱に關する質問主意書を敷衍して政府は不誠實無責任なりと痛論し、次で元田肇外十名の提出に係る內閣不信任決議案の審議に入り、尾崎行雄は提案の理由を說明し、內閣總理大臣桂太郎は之に對し本決議案は誤解より出でたるものなることを辯明せり。此時　詔勅下り二月五日より二月九日に至る迄五日間停會を命ぜられたり。尋で政府は更に二月十日より同十二日に至る迄三日間の停會を奏請し、此期間に於て諸般の準備を了して桂內閣は總辭職を爲したり。二月二十日後繼山本內閣成立するや、同月二十二日曩に桂內閣の衆議院に提出せる豫算案を撤回し、二十七日更めて之を同院に提出し、同日大藏大臣高橋是清は財政計畫に關し衆議院に於て大要左の如く演說せり。

『本大臣は大正二年度豫算及稅制整理に關し玆に一言するの光榮を有す。大正二年度豫算は旣に內閣總理大臣の演說せられたるが如く、新に行政及財政の整理に關する計畫を立て之を據り

て編成を爲すの餘日なきを以て、曩に撤回したるものに何等の變更を加ふることなく、今日再び之を提出したり。而して其の計數に關しては既に諸君の諒知せらるる所なるを以て玆に說明を省略すべし。財政及稅制の整理は今日の急務なり。本大臣は專ら其の局に當り銳意實行を期せんとす。而して所得稅法の改正は其の最急を要するものと認め、本大臣就任後直に調査に著手したるを以て、能ふ限り急速に之を結了し、其の改正案を本議會に提出せんことを期す。諸君現下の事態に察し政府誠意の存する所を諒とし、協贊を與へられんことを切望す。』

衆議院に於ては二月二十八日より引續き豫算委員會を開き質問應答を重ね、豫算返付論・修正論等ありたるも、結局原案の通可決すべきものと決定し、三月十五日理事奧繁三郎は豫算委員長代理として、豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算委員會は二月二十八日以後引續き開會し、各分科に於ても十分の審査を遂げ一昨十三日を以て分科の審査を終了し、昨日豫算委員總會を開き全體に就て討議を爲したり。其の際犬養君より一般會計に於て七千三百九萬二千八百八十五圓を減じ、特別會計に於て帝國鐵道資本勘定歳出に於て千四百九十二萬千六百二十五圓を減じ、尙收益勘定歳出に於て千三百九十八萬三千九百五十七圓を減じ、朝鮮總督府歳出に於て九百四十五萬二千五百五十四圓を減じ、臺灣總督府歳出に於て五百三十八萬千九百三十三圓を減じ、關東都督府歳出に於て百五十一萬九千六百八圓を減ずるの修正案を提出し、尙款項に亙り之を減ずる所以の明細書を添附提出せり。又福澤君より一般會計歳出に於て五千四十五萬四千九百六十六圓を減じ、歳入に於て五百七十七萬七千二百二十圓を減じ、特別會計に於て約五千萬圓を減ずるの修正案提出ありしが、是は款項に亙るの說明なく書類も亦提出なし。又武富君より一般會計歳入に於て二千七十一萬八千三百四十二圓を減じ、歳出に於て七千百二十萬四千九百十八圓を減じ、特別會計に於て歳入三千六十三萬二千百四十四圓、歳出四千九百三十二萬九千四百五十八圓を減ずるの修正案の提出あり。又早速君より豫算全體を政府に返付し、政府は適當なる限度に於て修正し再び之を提出すべしとの動議を提出したり。此等の諸案は之を衆議に諮りしに孰れも少數にて否決せられ、政府提出案は三十名に對する三十一名の過半數を以て可決せられたり。』

次で早速整爾は豫算返付の動議を提出して其の趣旨を說明し、之に對し奧繁三郎の反對演說あり議長は右動議を先決問題として採決したるに少數にて成立せず。次で犬養毅・武富時敏・福澤桃介は修正案を提出して修正意見を陳述し、奧繁三郎は修正案に反對の意見を陳述せしが、採決の結果何れも少數にて否決せられ、政府案は百八十一票に對する百八十六票の多數を以て原案の通可決確定したり。

貴族院に於ては三月十五日衆議院より大正二年度豫算案を受領し、同月十七日より豫算委員會を開きて審議の結果、衆議院議決の通可決すべきものと決定し、三月二十六日豫算委員長曾我祐準は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告せり。

『豫算委員會に於て委員より各種の質問ありしが、其の重なるものは行政整理・財政整理・國債・國際經濟・正貨準備・公債募集・大藏省證券發行制限額等に關するものにして、其の他各委員及各分科より政府に對する希望も數項あり、討議に入りたる際一委員より所得稅法改正案施行期未定なれば、其の豫算との關係上一時豫算案の決議を保留すべしとの動議出でて成立せり。然るに其の

後研究の結果明治四十二年砂糖消費税法改正の例もあり、別に不都合を生ずることなかるべしとして之を可決せり。唯豫算委員會として市町村費及市町村教育費の整理に關する希望事項を決議し、尙本年の豫算は編成者と施行者と其の人を異にする變態豫算なれば、特に之を可決するに一の決議を伴はしむべしとの動議成立し、左の如き決議を附して、全會一致を以て之を可決せり。

大正二年度の豫算を審査するに、次年度以降國防の充實其他緊切なる施設の爲巨額の支出を要するものあるべし。又減税の爲歳入の減少するものあらんとす。行政及財政の整理を斷行するは實に焦眉の急務に屬す。委員會は山本内閣總理大臣が二年度豫算の實施に際し、嚴に政費の節約を行ひ以て財政の基礎を鞏固にすべしとの言明を諒し、必ず其實蹟を擧げらるべきを期し之に協贊を與ふるものとす。』

斯くて採決の結果全會一致を以て委員長報告の通卽ち衆議院議決の通可決確定したり。

右貴衆兩院の協贊を經たる大正二年度歳入歳出總豫算は裁可を經て大正二年三月二十九日左の如く公布せられたり。

大正二年度歳入歳出總豫算表

科目	金額	科目	金額	科目	金額
歳入		地租	七五、三三五、〇四六円	相續税	三、〇三七、四四四円
經常部		所得税	三五、四七一、六七六	通行税	四、一一四、一四五
租税	三三六、九四三、六六三円	營業税	二五、〇五九、一九〇	鑛業税	二、一八八、三一三
兌換銀行券發行税	八一六、二三九	東京砲兵工廠益金	三八、九〇六	朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	五、一一七、六八七
酒税	八九、〇四七、四五七	大阪砲兵工廠益金	六四、四八二	朝鮮公債及借入金償却繰入	五、一一七、六八七
醬油税	四、七八九、〇六二	千住製絨所益金	三、二四九	臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	二、七五八、〇五四
砂糖消費税	一五、一二五、二九三	海軍採炭所益金	八三、八七四	臺灣事業公債及借入金償却繰入	二、七五八、〇五四
織物消費税	一九、一八〇、二〇四	海軍工廠資金益金	五八三、二六六	經常部合計	五二九、七五五、六四九
石油消費税	二、〇一四、七二九	製鐵所益金	二、〇〇五、四三一	臨時部	
賣藥營業税	二三五、〇九五	電信燈臺用品製造所益金	二、八五三	官有物拂下代	二、三六三、一三四
取引所税	四、〇二二、一四〇	雜收入	三、一七八、三八〇	鑛山拂下代	三、〇〇〇
關税	五五、九〇六、六八七	免許及手數料	二三九、七二〇	地所拂下代	一三四、三六〇
噸税	六〇〇、九四三	懲罰及沒收金	九二七、九五七	建物拂下代	二六、三二九
印紙收入	二九、〇七一、二二七	辨償及違約金	三九二、七六八	工場拂下代	一四、三〇〇
印紙收入	二九、〇七一、二二七	税關雜收入	一九六、六七四	物品拂下代	一、四三三、八九二
官業及官有財產收入	一四〇、〇三四、五二九	雜入	四三九、九二五	船舶拂下代	五九四、三四三
郵便電信及電話收入	五八、九九二、六七八	官吏遺族扶助法納金	三八四、〇〇二	家畜拂下代	一五六、九一〇
森林收入	一〇、七六二、七四〇	學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	一六二、一〇六	雜收入	四、二八六、七四八
配當金收入	一、六四六、四四〇	一年志願兵及幼年學校自費生納金	四三四、二三二	海軍受託造修收入	二一六、〇四九
囚徒工錢及製作收入	一、四三三、〇五二	小笠原島地方收入	九九六	返納金	一、三〇七、六七一
官有物貸下料	二九一、九六〇	預金特別會計ヨリ繰入	一二、六五二、一〇九	清國償還金收入	二、一四四、〇三四
印刷局益金	二七五、〇五一	預金利子繰入	一一、六五二、一〇九	利子收入	六一八、九九四
專賣局益金	六三、八五〇、五四七	預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇

科目	金額	科目	金額
港灣設備納付金	三〇〇、〇〇〇円	**經常部**	
公債募集金	一五、四二七、三一〇	皇室費	一八七、一二二円
朝鮮事業費公債及繰替借入金	一三、六二七、三一〇	皇室費	三六、八七五
臺灣事業費繰替借入金	二、八〇〇、〇〇〇		三、三四三
森林資金繰入	二、八二九、〇八七	**外務省所管**	
森林資金繰入	二、八二九、〇八七	外務本省	
陸軍營繕費補充資金繰入	三五〇、〇〇〇	俸給	一七六、〇七一
陸軍營繕費補充資金繰入	三五〇、〇〇〇	廳費	一五、三七四
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	修繕費	三七四、九九六
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	旅費	三〇、〇〇〇
治水費資金繰入	一四、九二三、七八八	雜給及雜費	一五六、五八〇
治水費資金繰入	一四、九二三、七八八	儲外國人諸給	二六、五九六
獻納金		電信料	三七四、九九六
學校創立費獻納金	一四〇、〇〇〇	宴會費	一五六、五八〇
前年度繰入金	一四〇、〇〇〇	常設仲裁裁判所費分擔金	二三四、九九七
前年度繰入金	二、六四八、四三五	外國留學生費	三三〇、〇〇〇
臨時部合計	二、六四八、四三五	機密費	三、三五〇
歳入總計	五五二、一六八、四〇一	在外公館	
	五六四、九二四、〇四一	俸給	一一、六四七
歳出		館費	四九八、一二八

科目	金額	科目	金額
旅費	四、五〇〇、〇〇〇円	雜給及雜費	一四四、一六三
儲外國人諸給	四、五〇、〇〇〇	三、九三〇	
裁判及登記諸費		徵兵費	
在外國居留民取締費	七九四、四九七	在鹽人費	一二四、五五九
地所家屋借料	四八、八八八	電信料	四、六八一
宴會費	四、六八一	諸支出金	五、四八三
諸支出金	三一、九二一	諸支出金	一五、〇〇〇
合計	一五、〇〇〇、〇〇〇	**內務省所管**	
內務省所管		神宮費	五、〇〇〇
神宮費	五、〇〇〇	神社費	九六五
神社費及國幣社例祭幣帛料	一八、〇〇〇	官國幣社費	四〇〇、〇〇〇
國幣社例祭幣帛料	三、四七七、三三三	招魂社諸費	一、八〇〇、〇〇三
內務本省		俸給	二六、八四九
俸給	一六、八九六	廳費	一四、一六三
廳費	二六六、二四九	修繕費	三、九三〇
修繕費	一八〇、七二八	旅費	一二、一七三
旅費	一六、八九六	雜給及雜費	三、九三〇
雜給及雜費	一四、一六三	徵兵費	三、九三〇
徵兵費	三、九三〇	儲外國人諸給	一二、一七三
儲外國人諸給	一二、一七三	警察費連帶支辨金	六〇、七四一
警察費連帶支辨金	六〇、七四一	港務費	九、〇〇〇
港務費	九、〇〇〇	海港檢疫費	五九二、〇三八
海港檢疫費	五九二、〇三八	機密費	二七〇、九九六
機密費	二七〇、九九六	地方費	四一一、一四九
地方費	四一一、一四九	小笠原島地方費	六、二〇六
小笠原島地方費	六、二〇六	島地警察費	九二、九四四
島地警察費	九二、九四四	機密費	五四四、三三
機密費	五四四、三三	補助費	三一、〇七〇
補助費	三一、〇七〇	傳染病豫防費補助	一一、一五六
傳染病豫防費補助	一一、一五六	地方惑化院費補助	八〇、五九四
地方惑化院費補助	八〇、五九四	地方費補給	三、六〇〇
地方費補給	三、六〇〇	古社寺保存補助及補給費	九一、八二二、六〇五
古社寺保存補助及補給費	九一、八二二、六〇五	諸支出金	三、三二四、二八〇
諸支出金	三、三二四、二八〇	諸支出金	三七八、六九二
諸支出金	三七八、六九二	合計	三一、一七三
合計	三一、一七三	**大藏省所管**	九三八、一〇四
大藏省所管	九三八、一〇四		
俸給	一六六、八九六	雜給及雜費	四五四、一九二
廳費	二六六、二四九	三九九、六六五	
修繕費	一八〇、七二八	徵兵費	三、九三〇
旅費	一六、八九六	儲外國人諸給	一二、一七三
雜給及雜費	一四、一六三	警察費連帶支辨金	六〇、七四一
徵兵費	三、九三〇	港務費	九、〇〇〇
儲外國人諸給	一二、一七三	海港檢疫費	五九二、〇三八
警察費連帶支辨金	六〇、七四一	機密費	二七〇、九九六
港務費	九、〇〇〇	地方費	四一一、一四九
海港檢疫費	五九二、〇三八	北海道廳	
機密費	二七〇、九九六	俸給	八六、七〇〇
地方費	四一一、一四九	廳費	三九、四〇〇
北海道廳		修繕費	三〇、〇〇〇
俸給	八六、七〇〇	旅費	一二七、八六一
廳費	三九、四〇〇	雜給及雜費	三八、五〇五
修繕費	三〇、〇〇〇	徵兵費	一五、〇六六
旅費	一二七、八六一	傳染病豫防費補助	五九、八六九
雜給及雜費	三八、五〇五	地方惑化院費補助	八〇、五九四
徵兵費	一五、〇六六	地方費補給	三、六〇〇
傳染病豫防費補助	五九、八六九	古社寺保存補助及補給費	九一、八二二、六〇五
地方惑化院費補助	八〇、五九四	諸支出金	三、三二四、二八〇
地方費補給	三、六〇〇	諸支出金	三七八、六九二
古社寺保存補助及補給費	九一、八二二、六〇五	合計	三一、一七三
諸支出金	三、三二四、二八〇	**大藏省所管**	九三八、一〇四
諸支出金	三七八、六九二		
合計	三一、一七三		
大藏省所管	九三八、一〇四		
俸給	一六六、八九六		
廳費	二六六、二四九		
修繕費	一八〇、七二八		
旅費	一六、八九六		

科目	金額	科目	金額	科目	金額
大藏本省	三七一、四三三円	文官懲戒諸費	二三七、一六四円	會計檢査院	九三二円
俸給	一九〇、六〇八	機密費	一八七、〇四三	俸給	一〇〇、〇〇〇
廳費	三七、一九四	樞密院	六、一〇三	廳費	一七三、八三六
修繕費	五、〇八五	俸給	一、〇七五	修繕費	一六四、九九六
旅費	二五、五二二	廳費	二六、四九四	旅費	二、八一三
雜給及雜費	六九、九九五	修繕費	一六、四四九	雜給及雜費	一、一一〇
關稅訴願審查委員會費	二、八四四	雜給及雜費	七五、二七	行政裁判所	四、九一七
萬國關稅表刊行同盟費	六三六	貴族院	七二四、〇六二	俸給	七二四、〇六二
證券類取扱費	三九、五一九	議員諸費	六三、一四七	廳費	六三、一四七
預金利子及手數料	二一、六八五、七五八	俸給	二、二〇六	修繕費	三一、八五八
預金利子	二一、六五二、一〇九	廳費	八六七	雜給及雜費	二五、九八五
利子拂手數料	三三、六四九	修繕費	八、九七	拓殖局	二、一八〇
內閣	三七九、二七九	雜給及雜費	九七、五九三	俸給	二五、二一五
俸給	二二三、七五〇	衆議院	五〇、八四三	廳費	九、六、七四三
廳費	三三、〇六八	議員諸費	一六、九四〇	修繕費	八〇七、七六三
修繕費	二、七五八	俸給	一、〇〇〇	旅費	三四、二八
雜給及雜費	四二、〇四〇	廳費	九、七六三	雜給及雜費	四二、六四一
賞費	八一、九六六	修繕費	一九、〇四七	俸給	一、七五七
文官試驗費	四、七五	雜給及雜費	五六七、一四一	賄	三〇、三六四

科目	金額	科目	金額	科目	金額
廳費	三三五、三四	事業費	三、〇〇〇、〇〇〇	國庫豫備金	四四、八〇二
修繕費	四七、五四二	橫濱港維持費	一、〇〇〇、〇〇〇	第一豫備金	一、六二、一四三
旅費	三五、六〇四	俸給	二、〇〇〇、〇〇〇	第二豫備金	二、三三〇
雜給及雜費	二七、一三	事務費	一八八、八〇九、八五九	合計	四、九二六
處分費	一七、〇五〇	維持費			一五五、一六七
機密費	三、〇六七	國資運用費		陸軍省所管	
配當金	二一、二一三	國庫金取扱及金融事項調査監督費	三八七、五八三	陸軍本省	五九九、三八九
內國稅徵收費	七、五四七、五三三	仕拂命令保管金引出切符用紙製造費	二四二、七九三	俸給	三八三、九〇九
俸給	二、六四三、〇〇〇	貯蓄債券取扱手數料	四〇、二八	廳費	一八、〇〇三
廳費	四七、二五八	諸拂戻及缺損補塡金	三、六七五	修繕費	一九七、四七七
修繕費	一三、八〇	諸拂戻金	二一、〇六三	旅費	六、四五〇、一七九
旅費	一、〇六、五七	缺損補塡金	七九、九二四	雜給及雜費	六、四三五、一七九
雜給及雜費	七三、〇七七	輸出交付金	七三、六〇七、五三三	軍事費	一五、〇〇〇
調査費	一六四、〇六四	國債整理基金繰入	三一、三〇〇、五七二	俸給	二〇〇、二八〇
處分費	八〇、五三八	軍艦水雷艇補充基金繰入	七七、〇三五	廳費	二〇〇、二八〇
印紙類諸費	一〇〇、四三六	諸支出金	三一、二四〇	修繕費	一四二、九四九、七九四
市町村交付金	二、三七八、七五二	諸支出金	九、九四	雜給及雜費	一三、〇〇〇、〇〇〇
釀造試驗費	七七、〇三五	俸給	九、八四	旅費	一四二、九四九、七九四
俸給	三三、二四〇	事務費		雜給及雜費	一三、〇〇〇、〇〇〇
諸支出金	九、九四			諸手當	一、三九、三一六
				外國駐在員費	七八、一五九
				糧秣費	二八、五六八

科目	金額	科目	金額
被服費	七、四八六、一八九 円	糧秣費	三五二、一二六 円
兵器彈藥費	六、四五二、一六四	被服費	四七、九八〇
馬匹費	一、八三六、八六九	兵器彈藥費	二七、七三二
演習費	二、一五九、三九九	馬匹費	一六、五二〇
患者費	三九六、一一〇	演習費	三、一〇三
軍隊需品費	一、九〇二、六五九	在監人費	四八、五一六
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	四三四、二三二	機密費	三三、五二五
在監人費	五六、一二九	海軍本省	一九四、一九二
兵要地圖費	六、五四五	廳費	五六、一二九
供奉費	二、六七〇	修繕費	一四六、四〇七
輸送費	一、一五〇、二〇一	旅費	一九八、〇六九
機密費	三一九、三〇〇	雜給及雜費	一六三、七七八
俸給	八一六、六〇四	賞勵及補償費	六三〇、九一三
廳費	一、八八四、一八〇	事業費	一、〇四五、二六七
修繕費	一四六、四〇七	靖國神社寄付金	四〇、八四五
旅費	三三、五〇〇		
雜給及雜費	一九八、〇六九		
賞勵及補償費	六三、七七八		
事業費	一、〇四五、二六七		
靖國神社寄付金	四〇、八四五		
諸支出金	三五二、一二六	靖國神社寄付金	七、五五〇 円
諸支出金	四七、九八〇	諸支出金	三一五、八七八
諸支出金	二七、七三二	諸支出金	三一五、八七八
諸支出金	一六、五二〇	諸支出金	七八、一三五、四〇三
諸支出金	三、一〇三		
諸支出金	四八、五一六		
諸支出金	三三、五二五		
諸支出金	五六、八一六		
諸支出金	三、九三九		
諸支出金	三三、九〇一		
諸支出金	一、九一九、一八四		
諸支出金	一三五、二八三		
諸支出金	二二、一六〇		
諸支出金	一三、九五六		
諸支出金	五八、七三八		
諸支出金	二三、八四七		
諸支出金	六三〇、九一三		
諸支出金	一、〇四五、二六七		
諸支出金	七、五五〇		
合計	三五二、一二六 円	合計	七八、一三五、四〇三
海軍省所管			

科目	金額	科目	金額
造船造兵及修理費	一三、八一一、七七二	雜給及雜費	九、一三四
演習費	三〇八、五三二	判事檢事辯護士試驗費	五九、一三四
患者費	二四九、〇七三	外國司法制度視察費	二一三、九九九
軍港要港費	三七一、一九一	萬國監獄常設委員會分擔金	一二、二九三、七九九
艦艇費	六、四九二、四三二	裁判費	五九、一三四
扶助金	三三、〇四九	合計	一二、二九三、七九九
在監人費	六、九九三	文部省所管	
水路費	一六一、三五一	廳費	一四、九二四
傭外國人諸給	二〇、四四〇	修繕費	三、一五〇
機密費	八〇、〇〇〇	旅費	一六、四四〇
艦船經費繰替金	二〇、〇〇〇	雜給及雜費	二九、五六九
諸支出金	三三、九二一	編書費	四五、一〇一
諸支出金	三三、九二一	帝國學士院費	九、七一六
諸支出金	三三、九二一	教員免許及檢定費	一〇、〇九七
諸支出金	三三、九二一	萬國理學文書目錄委員會加盟諸費	四、五三九
諸支出金	三三、九二一	美術奬勵費	一八、〇〇〇
諸支出金	三三、九二一	文藝及通俗教育奬勵費	三〇、〇〇〇
諸支出金	三三、九二一	外國留學生費	二六二、三五五
諸支出金	三三、九二一	萬國學術協會費	四、四七六
諸支出金	三三、九二一	震災豫防調查會	二一、三七九
諸支出金	三三、九二一	修繕費	一、一四四
諸支出金	三三、九二一	調查費	二〇、二三五
諸支出金	三三、九二一		
諸支出金	三三、九二一		
諸支出金	三三、九二一	

科目	金額	科目	金額
測地學委員會	円 八、四八三	東北帝國大學	円 三、五二六
修繕費	一〇〇	九州帝國大學	四八、六三四
調査費	八、三八三	學校及圖書館	四三、八六三
中央氣象臺	七四、五一三	府縣立師範學校長俸給	二〇、九二三
俸給	二四、六五六	府縣立師範學校長俸給	三四、七八八
廳費及修繕費	二六、八九九	普通教育費	二四、二九二
雜給及雜費	三一、九五九	小學校教育費補助	二〇、八一〇
緯度觀測所	八、五七一	教育資金配當金	二一、八六四
俸給	五、一四三	實業教育獎勵費	七、五〇〇
廳費及修繕費	一、九六六	實業教育費補助	二九、六三〇
雜給及雜費	一、三六二	實業教員養成費	一九七、六七九
醫術及藥劑師試驗費	八二、一九五	實業教員養成費支出金	九八、一六六
俸給	二、三二〇	諸支出金	五四、四〇七
廳費及修繕費	四、六三七	諸支出	一、二八
雜給及雜費	三三、八九九	合計	三、七六二
病院費	四一、三五九	**農商務省所管**	
大學及學校圖書館支出金	五、七六六、九六三	農商務本省	三九、九六八
東京帝國大學	一、三六〇、〇〇〇	給	二四八
京都帝國大學	八四〇、〇〇〇	俸	四、六七二、三一〇
		廳	七五八、四二七

科目	金額	科目	金額
廳費	二一八、一七九	俸	三九、三七〇
修繕費	一三、九三八	事務費	一六、一三五
旅費	二〇五、六七七	事業費	五一、八四四
雜給及雜費	一三三、九五〇	生絲檢查所	八八、八〇〇
事業費	三、四四二、一三九	俸給	二三、一一七
鑛山監督署	三六七、〇八二	事務費	一六、七七二
俸給	二二三、一五〇	事業費	四八、九二一
廳費	五六、六二〇	畜產改良費	二七二、〇七八
修繕費	二、〇〇〇	俸給	一三、六一六
旅費	八四、一〇二	事務費	二一、〇一四
雜、給及雜費	三一、二一〇	事業費	二三七、四四八
農事試驗場	二一〇、七一〇	工業試驗所	一〇八、四九二
俸給	八二、九七七	俸給	三七、八四〇
事務費	二三、四七七	事務費	八、五三〇
事業費	一〇五、二一六	事業費	六二、一三
水產講習所	一四七、八〇八	花莚檢查所	五六、五五八
俸給	三五、〇二五	俸給	一四、三七七
事務費	三一、三四六	事務費	一四、四九〇
事業費	八〇、四三七	廳費	二七、六九一
蠶業講習所	一〇七、三八七	原蠶種製造所	三二七、六七一
俸給	三九、三七〇	俸給	七六、一七〇
事務費	一六、一三五	事務費	四九、三九五
事業費	五一、八四四	事業費	二三二、一〇六
牛疫血清製造所	八八、八〇〇	俸給	八五、八七一
俸給	二三、一一七	事務費	八、四四八
事務費	一六、七七二	事業費	五、二四六
事業費	四八、九二一	補助費	四四四、〇〇〇
農會補助	一三八、五〇〇	產業試驗費講習費補助	一七五、五〇〇
蠶病豫防費補助	一〇〇、〇〇〇	輸出羽二重檢查費補助	三〇、〇〇〇
諸支出金	五四、六五九	諸支出金	五四、六五九
合計	七、七〇八、二四三		
遞信省所管			
遞信本省	七五四、二七九		
俸給	二九四、三七〇		
廳費	三六、六〇〇		
修繕費	九、四三五		

科目	金額
旅費	六九、八四八円
雑給及雑費	一四五、一四三
傭外國人諸給	六、六〇〇
萬國航海會議補助費	二、〇〇〇
遞信費	二九、三八一、九三八
俸給	二、九七〇、一四〇
修繕費	七五、六三八
旅費	三三七、九四三
萬國郵便電信聯約費	五、三〇一
遞信事業費	二一、九六三、九〇六
諸拂戻金	四、〇八一、一七
審判費	一、六九三
航路標識費	四一六、九八四
俸給	二七、八三〇
修繕費	七〇八
旅費	九、七一三
航路標識事業費	一八八、七三四
商船學校	三四、三九一
俸給	五六、八五五

科目	金額
廳費	六九、八四八円
修繕費	一四五、一四三
旅費	六、六〇〇
雑給及雑費	二、〇〇〇
學生費	二九、三八一、九三八
海上練習費	二、九七〇、一四〇
年金及恩給	七五、六三八
年金	三三七、九四三
恩給	五、三〇一
諸支出金	二一、九六三、九〇六
諸支出金	四、〇八一、一七
合計	一、六九三
經常部合計	四一六、九八四
臨時部	二七、八三〇
外務省所管	
營繕費	九、七一三
在外公館修築費	一八八、七三四
在外公館移轉費	三四、三九一
在外公館移轉費	五六、八五五

科目	金額
廳費	二九、六〇八円
移民調査費	一、〇〇〇
海牙平和宮殿寄贈品費	一、二七五
海牙平和宮殿寄贈品費	一八、五四七
合計	四四、三五五
內務省所管	七二、七一三
補助費	三〇、八四六、四四九
水道費補助	九、七六八、四一五
道路改良費補助	二一、〇七八、〇四四
治水事業費	五二、八一二
事務費	五二、八一二
河川費	六一、六七七、八三一
砂防費	四三、〇〇五、〇三三
道路港灣調査費	一〇〇、〇〇〇
道路港灣調査費	一〇〇、〇〇〇
營繕費	一〇〇、〇〇〇
新營費	一〇〇、〇〇〇
修繕費	一〇、〇〇〇
造神宮使廳	一〇、〇〇〇

科目	金額
移民調査費	二九、六〇八円
移民調査費	二〇、〇〇〇
海牙平和宮殿寄贈品費	三、七九三
海牙平和宮殿寄贈品費	三、七九三
合計	一三三、七九三
內務省所管	
補助費	一、四〇〇、〇〇〇
水道費補助	一、四〇〇、〇〇〇
道路改良費補助	一〇〇、〇〇〇
治水事業費	一三、四八〇、六一〇
事務費	六七四、六一〇
河川費	一三、一五一、〇〇〇
砂防費	六五五、〇〇〇
道路港灣調査費	七〇、〇〇〇
道路港灣調査費	七〇、〇〇〇
營繕費	三六、四八〇
新營費	一四四、〇〇〇
修繕費	八二、四八〇
造神宮使廳	二一、三五八

科目	金額
俸給	一〇、八〇〇
廳費及修繕費	一、〇一三
旅費	一、五六八
雑給及雑費	五、八〇九
萱地買收保存費	二、三五八
小笠原島殖產事業費	三一、〇七三
森林經營費	五、三一〇
水產經營費	一六、八六三
北海道拓殖費	三一、〇六、四一三
殖民費	三九〇、四四〇
產業費	一八二、七八七
道路橋梁費	八六四、〇四三
土地改良費	一三、四四〇
河川費	一五〇、九八一
港灣費	一、四四四、七三三
北海道森林費	三九九、五〇七
俸給	一〇五、一四四
廳費及修繕費	三〇、五〇七
雑給及雑費	一六一、八五〇
事業費	二一、九六六

科目	金額
港灣改良費	六〇〇、〇〇〇
關門海峽改良費	六〇〇、〇〇〇
神職養成及神社調査費	一〇、〇〇〇
神職養成及神社調査費	一〇、〇〇〇
傳染病豫防費	一六〇、〇〇〇
傳染病豫防費	一六〇、〇〇〇
議員總選擧取締費	三、一〇六、四一三
府縣會議員總選擧取締費	三九〇、四四〇
北海道會議員總選擧取締費	一八二、七八七
臨時神社費	四六、八六六
生國魂神社再築費	四一、八八六
彌彦神社再築費	二五、〇〇〇
海外駐劄財務官費	七、三八
海外駐劄財務官費	七、三八
トラホーム講習費	一五〇、九八一
縣債利子補給	一、四四四、七三三
土木費借入金利子補給	三九九、五〇七
合計	一〇五、一四四
大藏省所管	三〇、五〇七
補助費	一六一、八五〇
罹災救助基金補助	二一、九六六

科目	金額
營繕費	四、七五六、七六九
橫濱稅關海面埋立及陸上設備費	四六一、五〇〇
神戸稅關海陸運輸聯絡設備費	二、一三一、〇〇〇
煙草製造專賣創業建設費	一、五六四、七〇〇
神戸稅關防波堤築造費	三〇〇、〇〇〇
新營費	二一六、五四一
修繕費	八二、〇一七
關稅定率調査費	一〇、五四三
關稅定率調査費	一〇、五四三
四分利付清國債券元利	二、一四四、〇三四
四分利付清國債券元利	二、一四四、〇三四
海外駐劄財務官費	八二、七〇四
海外駐劄財務官費	八二、七〇四
臨時事件行賞諸費	二六、七〇八
臨時事件行賞諸費	二六、七〇八
臨時秩祿處分費	二二、七六一
調査費	一四、八〇九
裁判費	六、九五二
拓殖局廳舍借料及設備費	七、〇〇〇
拓殖局廳舍借料及設備費	七、〇〇〇

科目	金額
朝鮮總督府經費補充金	二、三五〇、〇〇〇 円
朝鮮總督府經費補充金	二三、三五〇、〇〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇四七、八〇〇
關東都督府經費補充金	五九九、二九一
樺太廳經費補充金	五九九、二九一
樺太廳經費補充金	四、〇〇〇、〇〇〇
治水費資金特別會計繰入金	四、〇〇〇、〇〇〇
治水費資金特別會計繰入金	二三、六二七、三三〇
朝鮮總督府特別會計繰入金	二三、六二七、三三〇
公債募集金繰入	二、八〇〇、〇〇〇
臺灣總督府特別會計繰入金	二、八〇〇、〇〇〇
公債募集金繰入	四二、五五〇、〇一七
合計	
陸軍省所管	
砲臺建築費	三一〇、〇〇〇
東京灣砲臺建築費	三一〇、〇〇〇
營繕費	五六〇、〇〇〇
旭川衞戍地各部隊水道布設費	一五〇、〇〇〇
新營費	一五〇、〇〇〇
修繕費	一、〇七七 円
整備費	一一〇、〇七七
土地建造物利用費	一、三五五、二三三
土地建造物利用費	三〇〇、〇〇〇
軍用氣球研究費	三〇〇、〇〇〇
軍用氣球研究費	二、九一〇
無線電信研究費	二、九一〇
無線電信研究費	三三、九八二
測量費	一四七、〇九三
俸給	一四七、〇九三
事務費	八、五〇〇
事業費	八、五〇〇
拂下地圖製造費	一九、三三、九五九
拂下地圖製造費	二一五、〇〇〇
朝鮮派遣部隊費	一三〇、〇〇〇
朝鮮派遣部隊費	二五、〇〇〇
清國駐屯部隊費	一、三五五、二三三
清國駐屯部隊費	三〇〇、〇〇〇
特別大演習外賓接待費	三〇〇、〇〇〇
特別大演習外賓接待費	一、三五五、二三三
豫備兵器補塡費	三〇〇、〇〇〇
豫備兵器補塡費	二、九一〇
匪徒鎭定費	三一、九八二
匪徒鎭定費	一四七、〇九三
一時賜金	八、五〇〇
一時賜金	一九、三三、九五九
勳記勳章取扱費	二一五、〇〇〇
勳記勳章取扱費	一三〇、〇〇〇
馬政事業設備費	二五、〇〇〇
馬政事業設備費	一、三五五、二三三
臨時馬疫調查費	三〇〇、〇〇〇
臨時馬疫調查費	二、九一〇
合計	三一、四七二
海軍省所管	
營繕費	三一、四七二
兵學校大講堂新營竝廳舍模樣替增築費	四九三、三三三
佐世保海軍監獄新營費	四九三、三三三

科目	金額
新營費	六〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	七〇〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	七〇〇、〇〇〇
受託造修費	三三、三六三
受託造修費	二三、三六三
臨時海軍建築部費	四九、八五六
俸給	三、五七二
事務費	一八、二四二
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇
軍備補充費	五二、七六八、三五六
軍艦製造費	三四、七二、五六六
水陸設備費	五、五七、三五九
造船造兵及修理費	一三、五九八、四二一
艦艇火藥庫冷却裝置費	三〇〇、〇〇〇
艦艇火藥庫冷却裝置費	三〇〇、〇〇〇
航空術研究費	一〇〇、〇〇〇
航空術研究費	一〇〇、〇〇〇
合計	五四、五六〇、四五
司法省所管	
法律調查費	六〇、〇〇〇
法律調查費	六〇、〇〇〇
免囚保護事業奬勵費	三三、三六三
免囚保護事業奬勵費	二三、三六三
營繕費	四九、八五六
福岡監獄建築費	三一、五七二
安濃津監獄建築費	一八、二四二
市谷監獄建築費	一五、〇〇〇
大阪控訴院地方裁判所區裁判所建築費	一五、〇〇〇
新營費	五二、七六八、三五六
修繕費	三四、七二、五六六
合計	五、五七、三五九
文部省所管	
營繕費	一三、五九八、四二一
東京美術學校校舍改築費	三〇〇、〇〇〇
新營費	三〇〇、〇〇〇
修繕費	一〇〇、〇〇〇
九州帝國大學工科大學創立費	一〇〇、〇〇〇
九州帝國大學工科大學創立費	二三〇、八三〇
第六醫學專門學校創立費	二五、一六六
臨時教員養成所費	九、九七七
臨時教員養成所費	九、九七七
奬勵費	一九、〇〇〇
教育奬勵諸費	一四、〇〇〇
新營費	三一、四七二
設備費	三一、四七二
第七高等工業學校創立費	三〇、〇〇〇
新營費	三〇、〇〇〇
設備費	五五八、七五八
第八高等工業學校創立費	四七、九〇〇
新營費	四二、七〇〇
設備費	六四、三四四
大學及學校圖書館臨時支出金	一六〇、〇〇〇
東北帝國大學	一七五、五六〇
九州帝國大學	六八、三二四
學校及圖書館	六三〇、二三〇
臨時調查費	二四五、九六六
國語調查費	一〇〇、〇〇〇
諸學校教科細目調查費	一三〇、八三〇
萬國數學教育調查費	二五、一六六
臨時教員養成所費	九、九七七
臨時教員養成所費	九、九七七
奬勵費	一九、〇〇〇
教育奬勵諸費	一四、〇〇〇

科目	金額	科目	金額
臨時維新史料編纂事務局費	五、七八〇円	俸給及諸給	四〇七、〇五一円
俸給	八、八六九	事業費	二、四三〇、〇三六
廳費及修繕費	一〇、六九〇	漁業免許處分費	八、五六二
雜給及雜費	三一、一四九	漁業免許處分費	八、五六二
縣債利子補給	二三、三六五	足尾國有林復舊費	四三、四一七
教育費借入金利子補給	二三、三六五	足尾國有林復舊費	四三、四一七
合計	八四七、八二〇	產業奬勵費	一、二〇七、四八六
農商務省所管		遠洋漁業奬勵費	一九九、七六一
外國貿易擴張費	九九、〇〇〇	農事改良奬勵費	六二四、三九〇
實業練習生補助費	五七、三八	糖業改良費	八六、八二
商品陳列費	八四二	工業奬勵費	三、〇〇〇
實業調查費	四〇、八四〇	植樹奬勵費	六四、八六
製鐵所擴張費	三、七九七、五三五	蠶絲業改良奬勵費	一八三、六八五
事務費	四三、一八五	府縣聯合共進會費	二、〇〇〇
工場費	三、七四五、三五〇	臨時調查費	一〇、〇〇〇
營繕費	二三一、六五一	鑛毒調查費	五九、四八〇
新營費	一八八、九一九	鑛物調查費	三四、四八〇
修繕費	三二、七三	生產調查會費	一五、〇〇〇
國有林野經營費	二、八九九、〇七七	生產調查會費	一五、〇〇〇
獸疫及害蟲驅除費	九一、四二〇	俸給及諸給	四〇七、〇五一円
獸疫費	三〇、四二〇	事業費	二、四三〇、〇三六
害蟲驅除豫防費	六〇、〇〇〇	漁業免許處分費	八、五六二
治水事業費	六八三、〇〇〇	漁業免許處分費	八、五六二
調查及監督費	一八三、九二三	足尾國有林復舊費	四三、四一七
營繕費	九五、七八	足尾國有林復舊費	四三、四一七
補助及補償費	四四、〇〇〇	產業奬勵費	一、二〇七、四八六
腦脚獸保護費	一三、九六二	遠洋漁業奬勵費	一九九、七六一
腦脚獸保護費	一三、九六二	農事改良奬勵費	六二四、三九〇
巴奈馬太平洋萬國博覽會費	三〇、〇〇〇	糖業改良費	八六、八二
巴奈馬太平洋萬國博覽會費	三〇、〇〇〇	工業奬勵費	三、〇〇〇
合計	九、三六八、三六〇	植樹奬勵費	六四、八六
遞信省所管		蠶絲業改良奬勵費	一八三、六八五
補助費	一三、二七五、六七三	府縣聯合共進會費	二、〇〇〇
海員養成補助	五、〇〇〇	臨時調查費	一〇、〇〇〇
水難救濟補助	三〇、〇〇〇	鑛毒調查費	五九、四八〇
航路擴張費	一〇、八三〇、六九五	鑛物調查費	三四、四八〇
航海奬勵費	六六九、二七八	生產調查會費	一五、〇〇〇
造船奬勵費	七五〇、七〇〇	生產調查會費	一五、〇〇〇

科目	金額	科目	金額
電信電話營繕費	三〇〇、〇〇〇	營繕費	六六、三五五
電信電話營繕費	三〇〇、〇〇〇	新營費	六六、三五五
航路標識營繕費	六三、〇〇〇	修繕費	一六、〇九五、〇三八
航路標識設置費	五六、六六五	電話交換擴張費	一六二、九一〇、〇一〇
新營費	二五〇	電話交換擴張費	五八四、九三四、〇五一
航路標識修繕費	二、八一五	發電水力調查費	四五、〇〇〇
修繕費	三、二七〇	發電水力調查費	四五、〇〇〇
營繕費	二五〇、〇〇〇	電氣器具機械設備費	六六、三五五
新營費	一六〇、四九〇	電氣器具機械設備費	六六、三五五
修繕費	八九、五一〇	合計	一六、〇九五、〇三八
電話交換擴張費	三、〇〇〇、〇〇〇	臨時部合計	一六二、九一〇、〇一〇
發電水力調查費	三、〇〇〇、〇〇〇	歲出總計	五八四、九三四、〇五一
發電水力調查費	二四〇、〇〇〇		
發電水力調查費	二四〇、〇〇〇		

新規繼續費表

事項	總額	大正二年度	同三年度	同四年度	同五年度
彌彥神社再築費	一〇〇、〇〇〇円	二五、〇〇〇円	二五、〇〇〇円	二五、〇〇〇円	二五、〇〇〇円
巴奈馬太平洋萬國博覽會費	一、二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
合計	一、三〇〇、〇〇〇	三二五、〇〇〇	五二五、〇〇〇	四〇五、〇〇〇	四五、〇〇〇

第三項　行政整理の遂行及實行豫算の編成

第一目　行政整理の遂行

大正二年度豫算は前記の如くにして其の成立を見しが、既述の如く右豫算の提出直前に於て内閣の更迭行はれし爲め、新内閣は本年度豫算に就き新なる計畫を立つるの餘裕を存せざりしを以て、大體に於て前年度豫算を踏襲して之を編成の上第三十議會の協贊を經しものなり。然れども行政及

財政の整理は年來の懸案にして、之が斷行に依り財政の基礎を鞏固にし併せて財政經濟の調和を圖ることは、當時に於て最も緊要とせらるる所なりしを以て、政府は右行財政の整理は大正三年度を俟つことなく、本年度に於て之を斷行することとし、鋭意調査の歩を進めし結果、整理遂行上法律の制定を必要とするものに就ては、法律案を第三十議會に提出して其の協贊を經、又官制の改正及定員の減少等に關しては勅令の改廢を行ふことと爲し、此等の法律・勅令は大正二年六月十三日迄に全部之を公布の上、同日を以て行政整理に依る歳入歳出增減額を發表したり。今之に依れば行政整理遂行の結果生ずべき歳入增加及歳出減少額は、大正二年度歳入歳出豫算に對し一般會計に於て三千八百四十七萬二千八百六十七圓、特別會計に於て三千百九十萬五百六十六圓にして、合計歳入歳出整理總額は七千三百七十三萬三千四百三十三圓に達するの計算なり。但し右は大正二年度豫算に對して增減を生ずべき標準額なるも、本年度は既に年度開始後數旬を經過し、其の間多少經費の支出を要したるものあり、又法律其の他の關係上來年度に至らざれば整理を實行し難きものある等、右整理標準額の一部を減少するの已むを得ざるものあるが爲め、其の大正二年度に於て實際に整理し得べき金額は、一般會計に於て三千五百十八萬八千七百七十四圓、特別會計に於て三千九十五萬四千六百五十六圓、整理總額六千六百十四萬三千四百三十圓となるものとす。今以上整理額の內譯計算を示せば左の如し。

區別	增減標準額	增減實際額	標準額に比し實際額の減	備考
(一)一般會計				
(イ)歳入增加額				
經常部	五〇〇、〇〇〇円	五〇〇、〇〇〇円		
臨時部	六、九二五、五八二	六、九二五、五八二		
歳入合計	**七、四二五、五八二**	**七、四二五、五八二**		
(ロ)歳出整理減額				
經常部				
外務省	三二五、三〇〇	二九九、七八六	二五、五一四	南滿洲鐵道株式會社政府持株配當增加に依る增加を計上す。從て右作業會計整理に依る歳入の增加を含まず
內務省	七七〇、四〇三	四六六、〇五六	三〇四、三四七	
大藏省	一、一五四、二七五	七五八、二四〇	三九六、〇三五	
陸軍省	三、〇一八、九六九	二、四六七、〇六二	五五一、九〇七	
海軍省	三、〇二五、九四四	三、〇二五、九四四	〇	
司法省	九四八、八六五	六四八、一六七	三〇〇、六九八	
文部省	四七六、二八二	二〇七、八〇〇	二六八、四八二	
農商務省	九三八、〇七〇	八〇五、〇五八	一三三、〇一二	陸軍委任經理の整理及土地拂下に依る增加
遞信省	一、九九六、一五五	一、一七四、四六二	八二一、六九三	
經常部合計	**一二、六五四、二六三**	**九、八五二、五七五**	**二、八〇一、六八八**	
臨時部				
外務省	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	〇	各外地特別會計整理に依る補充金及繰入金等の減を含まず
內務省	四、八三八、二三四	四、六九八、七五二	一三九、四八二	
大藏省	一、二九一、六七六	一、二四六、八二四	四四、八五二	
陸軍省	六、二九六、七二二	六、一四七、四五八	一四九、二六四	
海軍省	二、四六〇、六四四	二、四六〇、六四四	〇	
司法省	九七、六三〇	九七、六三〇	〇	

區別	増減標準額	増減實際額	標準額に比し實際額の減	備考
文部省	一〇二、四六〇円	九七、四五六円	五、〇〇四円	
農商務省	二、二〇八、四五一	二、一〇八、五四三	九九、九〇八	
遞信省	五〇五、八八七	四六一、九九二	四三、八九五	
臨時部合計	**一七、八二九、七〇四**	**一七、三四七、二九九**	**四八二、四〇五**	
内繼續費に屬する分				
繼延額	一三、二七四、〇八九	一三、二二八、七四四	四五、三四五	
節減額	一、六九三、四一七	一、六八一、八二五	一一、五九二	
小計	一四、九六七、五〇六	一四、九一〇、五六九	五六、九三七	
臨時軍事費	五六三、三一八	五六三、三一八	〇	
歳出合計	**三一、〇四七、二八五**	**二七、七六三、一九二**	**三、二八四、〇九三**	
一般會計合計	**三八、四七二、八六七**	**三五、一八八、七七四**	**三、二八四、〇九三**	
（二）特別會計				
（甲）一般會計歳入を增加すべきもの				
印刷局益金	一八五、〇九四円	一六五、二三〇円	一九、八六四円	
專賣局益金	二、〇六二、三九九	一、五七一、六二八	四九〇、七七一	
千住製絨所益金	三六、〇三八	三六、〇三八	〇	
製鐵所益金	一二六、五一二	一二〇、六二〇	五、八九二	
電信燈臺用品製造所益金	二、二一五	一、〇七九	一、一三六	
臺灣總督府砂糖消費稅繰入	三、六三八、一二八	三、四六九、六四九	一六八、四七九	
合計	**六、〇五〇、三八六**	**五、三六四、二四四**	**六八六、一四二**	
（乙）一般會計歳出を減少すべきもの				
朝鮮總督府經費補充金の減	二、三五〇、〇〇〇	二、三五〇、〇〇〇	〇	
關東都督府經費補充金の減	七四七、八〇〇	七〇〇、〇〇〇	四七、八〇〇	
樺太廳經費補充金の減	二八〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	
合計	**三、三七七、八〇〇**	**三、二六〇、〇〇〇**	**一一七、八〇〇**	
造幣局益金	二三、〇六二	一四、〇五八	九、〇〇四	
帝國鐵道益金	一、七五八、九六四	一、六二六、〇〇〇	一三二、九六四	
（丁）公債又は借入金を財源とする繼續費繰延額				
朝鮮總督府事業費	一、二一三、一三八	一、二一三、一三八	〇	
臺灣總督府事業費	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	
帝國鐵道建設及改良費	一八、四七七、二一六	一八、四七七、二一六	〇	
合計	**二〇、六九〇、三五四**	**二〇、六九〇、三五四**	**〇**	
特別會計合計	**三〇、九五四、六五六**	**三〇、九〇〇、五六六**	**九四五、九一〇**	
歳入歳出整理額總計	**六六、一四三、四三〇**	**七〇、三七三、四三三**	**四、二三〇、〇〇三**	

上記の外普通財源に依る繼續繼延額は、臺灣總督府一、二〇〇、〇〇〇圓、關東都督府九、〇〇、〇〇〇圓、合計一、二九、〇〇、〇〇〇圓なるを以て、繼續費繼延額の總計は一、一九八、〇三五圓なり。

以上整理の結果新に國庫に一般財源の餘裕を生ずるものの外、或は公債又は借入金の額を整理減少し得べきものあり、或は特別會計資金の增加を來すべきものあり。其の計算の大要左の如し。

區別	增減標準額	增減實際額	標準額に比し實際額の減
（一）新に一般會計に財源を生ずべき額	四三、〇八七、一八六円	三九、〇六五、八七七円	四、〇二一、三〇九円
（二）公債又は借入金を減ずべき額	二六、六九八、八二八	二六、五五三、〇八四	一四五、七四四

區別		增減標準額	增減實際額	標準額に比し實際額の減
帝國鐵道建設及改良費財源		二〇、二三六、一八〇円	二〇、一〇三、二一六円	一三二、九六四円
內	朝鮮事業費財源	一、二一三、一三八	一、二一三、一三八	○
內	臺灣事業費財源	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	○
內	治水事業費財源	四、二四九、五一〇	四、二三六、七三〇	一二、七八〇
(三)資金を增加し又は資金の使用を節約し得べき額		五〇三、四一九	四四〇、四六九	六二、九五〇
合計		七〇、二八九、四三三	六六、〇五九、四三〇	四、二三〇、〇〇三

（備考）一、本表合計額と前表整理額總計との間に於て八四、〇〇〇圓の差異あるは、學校創立費の繰延に伴ひ寄附金の收入を後年度に繰延ぶるものあるに依る。

二、本表に揭ぐる計算の外、尙實際に於ては官廳事務所管換の爲め多少臨時の支出を要するものあり、又休職者に對する俸給の支給を要する等、尙若干の經費を要する見込なり。

第二目　實行豫算の編成

前記の如き行政整理の遂行に伴ひ大正二年度豫算に於て數額の異動を生ぜしを以て、政府は同年度の實行豫算を編成し、大正二年七月一日之を發表したり。今之を成立豫算額と比較表揭すれば左の如し。但し成立豫算額は本豫算額及第三十議會通過追加豫算額の合計額を揭げたり。

區分	成立豫算額	實行豫算額	成立豫算額に比し 增	成立豫算額に比し 減
歳入				
經常部				
稅	二三六、九四三、六六三円	三三六、九四三、六六三円	○円	○円
印紙收入	二九、〇七一、二二七	二九、〇七一、二二七	○	○
官業及官有財產收入	一四〇、〇三四、五二九	一四二、四二九、一二四	二、三九四、五九五	○
雜收入	三、一七八、三八〇	三、一七八、三八〇	○	○
預金特別會計より繰入	一二、六五二、一〇九	一二、六五二、一〇九	○	○
朝鮮總督府特別會計より繰入	五、一一七、六八七	五、〇七九、六五二	○	三八、〇三五
臺灣總督府特別會計より繰入	二、七五八、〇五四	二、六九七、〇八二	○	六〇、九七二
臺灣總督府砂糖消費稅繰入				
經常部合計	五二九、七五五、六四九	五三五、五二〇、八八六	五、七六五、二三七	○
臨時部				
官有物拂下代	二、三六三、一三四	八、九二七、四〇三	六、五六四、二六九	○
雜收入	四、二八六、七四八	四、六四八、〇六一	三六一、三一三	○
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	○	○
公債募集金	一五、四二七、二二〇	一三、二一四、〇二八	○	二、二一三、一九二
森林資金繰入	二、八二九、〇八七	二、四〇二、六七六	○	四二六、四一一
陸軍軍需費補充資金繰入	三六〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	○	○
軍艦水雷艇補充基金繰入	一二、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	○	○
治水費資金繰入	一四、九一三、七八八	一〇、六三二、四〇六	○	四、二八一、三八二
納金	一四〇、〇〇〇	五六、〇〇〇	○	八四、〇〇〇
獻金				
前年度繰入金	四、五三一、九六二	四、五三一、九六二	○	○
臨時部合計	五七、〇五一、九三九	五六、九七二、五九〇	○	七九、三四九
歳入總計	五八六、八〇七、五八八	五九二、四九三、四七六	五、六八五、八八八	○
歳出				
經常部				

區分	成立豫算額	實行豫算額	成立豫算額に比し 增	成立豫算額に比し 減
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇 円	四、五〇〇、〇〇〇 円	○ 円	○ 円
外務省	四、二九八、三〇五	三、九九八、五一九	○	○
内務省	一二、五九〇、八〇一	一二、一二四、七四五	○	○
大藏省	一八八、九一〇、二八五	一八八、〇二一、一六六	○	○
陸軍省	七八、一五五、四〇三	七五、六八八、三四一	○	○
海軍省	四二、二三六、二一五	三九、二一〇、二七一	○	○
司法省	一二、三九三、七九九	一一、七四五、六三二	○	○
文部省	九、五四七、四五三	九、三三九、六五三	○	○
農商務省	七、七〇八、二四三	六、九〇三、一八五	○	○
遞信省	六一、六七七、八五二	六〇、五〇三、三九〇	○	○
經常部合計	**四二二、〇一八、三五六**	**四一二、〇三四、九〇二**	**○**	**九、九八三、四五四**
臨時部				
外務省	二九三、一六五	二六五、一六五	○	○
内務省	一九、七七〇、三五三	一五、〇七一、六〇一	○	○
大藏省	四二、五七六、五五一	三五、八二四、〇二四	○	○
陸軍省	一九、七八〇、六七三	一三、六三三、二一五	○	○
海軍省	五四、八四五、五九一	五二、三八四、九四七	○	○
司法省	六四八、一三七	五五〇、五〇七	○	○
文部省	一、〇五八、八四三	九六一、三八七	○	○
農商務省	九、三七五、一八九	七、二五三、八六六	○	○
遞信省	一六、四四〇、七三〇	一五、九七八、七三八	○	○

臨時部合計	一六四、七八九、二三二	一四一、九二三、四五〇	○	二二、八六五、七八二
歳出總計	五八六、八〇七、五八八	五五三、九五八、三五二	○	三二、八四九、二三六
（外）臨時軍事費	一、〇〇〇、〇〇〇	四三六、六八二	○	五六三、三一八
改總計	五八七、八〇七、五八八	五五四、三九五、〇三四	○	三三、四一二、五五四

右大正二年度實行豫算の歳入歳出を比較對照すれば歳入超過額三千八百五十三萬五千百二十四圓にして、之に臨時軍事費の節減額を加算するときは、本年度に於ける整理實額は三千九百九萬八千四百四十二圓なり。而して之を前揭の新規一般財源餘裕額三千九百六萬五千八百七十七圓に比すれば三萬二千五百六十五圓の超過を示せども、右は成立豫算に於て大藏省所管營繕費中(一)横濱稅關海面埋立及陸上設備費(二)神戸稅關海陸運輸聯絡設備費(三)煙草製造專賣創業建設費に於て、大正二年度限りの使用額として合計三萬二千五百六十五圓を計上せしを、實行豫算の編成に當り削除せしに依る。又所得稅の輕減及鮮米移入稅の撤廢等の結果租稅收入に於て約七百五十萬圓の減少を見る豫定なるに拘らず、實行豫算に於て歳入經常部租稅の計上額を成立豫算と同額と爲せしは、今後本年度内に於て鹽價引下を實行すべきを以て、其の際右減稅額を歳入豫算中より切落すことと爲し、今回は當初の豫算額を其の儘實行豫算に計上せしものなり。

第二款　追加豫算

大正二年度總豫算に對する追加豫算案は、第三十回及第三十一回帝國議會に於て各一件提出せられたり。今其の内容及審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第三十回帝國議會提出追加豫算

本議會提出の追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各百八十八萬三千五百三十七圓にして其の追加を要する所以は在厦門領事館蟻害復舊費・在ホノルル總領事館新營費・各種萬國會議參列費・清國事件費・新潟醫學專門學校附屬病院新營費・電信電話營繕費及火災復舊費等の支出を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。右追加豫算案は大正二年三月二十日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月二十四日、貴族院は同月二十六日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て三月二十九日左の如く公布せられたり。

大正二年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額
歳入	
臨時部	
前●年度繰入金	一、八八三、五三七 円
前年度繰入金	一、八八三、五三七
歳出	
經常部	
內務省所管	
府縣給俸費	一三、八八九
廳費	四、八〇〇
旅費	七、二九
雜給及雜費	九七一 円
大藏省所管	
大藏本省	八二八
國際貿易統計局費分擔金	四、二六
經常部合計	四、二六
臨時部	一四、三五五
外務省所管	
督繕費	一五九、三七二
在厦門領事館蟻害復舊費	三五、〇〇〇
在ホノルル總領事館新營費	一三四、三七二 円
內務省所管	
災害費	二、九三七
府縣風水害諸費	四、二六
臨時外國行諸費	四、二六
萬國道路會議參列費	三、六九七
萬國醫學會議參列費	三、六二
合計	二九、三五五
大藏省所管	
督繕費	二五、九五六

科目	金額
新潟醫學專門學校附屬病院新營費	二五、九五六
臨時調査費	一〇、五七八
教育制度調査費	一〇、五七八
災害費臨時支出金	三五、三五四
京都帝國大學	
臨時試驗費	五六七、七二四
臨時醫術開業試驗費	五六七、七二四
災害費	四八五、一二六
東京外國語學校火災應急費	四八五、一二六
震災豫防調査會火災復舊費	四八五、一二六
合計	
農商務省所管	
督繕費	二七、九七七
新營費	二七、九七七
臨時外國行諸費	六五、九六二
萬國農事協會會議參列費	一、七二三
萬國度量衡會議參列費	三、二七
合計	六、六〇九
遞信省所管	
電信電話營繕費	三〇五、二七〇
電信電話營繕費	三〇五、二七〇
督繕費	一四、七三〇
新營費	一四、七三〇
清國事件費	二五、七〇二
清國事件費	二五、七〇二
合計	三四五、七〇二
臨時部合計	一、八六九、二三三
歳出總計	一、八八三、五三七

科目	金額
新營費	二五、九五六
沼津稅務署土地臺帳及地圖火災復舊費	一〇、五七八
沼津稅務署土地臺帳及地圖火災復舊費	一〇、五七八
合計	三五、三五四
陸軍省所管	
清國事件費	五六七、七二四
清國事件費	五六七、七二四
海軍省所管	
清國事件費	四八五、一二六
清國事件費	四八五、一二六
司法省所管	
災害費	二七、九七七
沼津區裁判所其他火災復舊費	二七、九七七
文部省所管	
督繕費	六五、九六二

第二　第三十一回帝國議會提出追加豫算

本議會提出の追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各七百六十萬九千百八十二圓にして、其の追加を要する所以は、歳入に在りては砂糖消費稅・臺灣總督府特別會計より繰入支那償還金收入及前年度繰入金を豫算し、歳出に在りては在外公館電信料・市町村交付金・諸拂戻金・陸軍糧秣費・年金及恩

給・福島縣災害土木費補助四分利付支那債券元利・支那事件費補足及墨國派遣軍艦費等を豫算したるに依る。右追加豫算案は大正三年二月二十五日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月二十八日、貴族院は三月十日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て三月十四日左の如く公布せられたり。

大正二年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額	科目	金額
歳入		**外務省所管**	
經常部		在外公館	一、七九九、一三五円
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	三、四六九、六四九	電信料	一〇〇、〇〇〇
砂糖消費稅繰入	三、四六九、六四九	**内務省所管**	
臨時部		砂糖消費稅臺灣總督府特別會計繰入	八八五、六二八
雜收入	二、〇四八、五二〇	砂糖消費稅臺灣總督府特別會計繰入	八八五、六二八
支那償還金收入	二、〇四八、五二〇	**大藏省所管**	
前年度繰入金	二、〇九二、〇一三	貴族院	八〇〇
前年度繰入金	二、〇九二、〇一三	雜給及雜費	八〇〇
臨時部合計	四、一三五、二三三	年金及恩給	七二、〇四四
歳入總計	七、二〇五、一八二	年金	七二、〇四四
歳出		恩給	一、〇八七、三五二
經常部		**經常部合計**	一、〇八七、三五二
		臨時部	
		合計	**陸軍省所管**	一、七九九、一三五円
		軍事費	五五九、四三五
		糧秣費	五五九、四三五
		文部省所管	二、四七八
		文部本省	二、四七八
		雜給及雜費	二、四七八
		遞信省所管	九六二、四七四
		年金及恩給	六八、五〇九
		年金	六八、五〇九
		恩給	八九三、九六五
		經常部合計	四、三〇九、二四三
		臨時部	

内務省所管

補助費	三五、〇〇〇	四分利付支那債券元利
水道費補助	三五、〇〇〇	公債端金
災害費	九七、二三〇	公債端金
府縣風水害諸費	二四、二三〇	**合計**
囚作救濟諸費	一、〇〇〇	**海軍省所管**
福島縣災害土木費補助	八九二、〇〇〇	支那事件費補足
合計	九五三、二三〇	支那事件費補足
大藏省所管		外國派遣軍艦費
四分利付支那債券元利	二、〇四八、五二〇	墨國派遣軍艦費
		合計
		遞信省所管
		電信電話督繕費
		電信電話督繕費
		修繕費
		合計
		臨時部合計
		歳出總計

四分利付支那債券元利	二、〇四八、五二〇	
公債端金	一六、〇三一	一六、〇三一
公債端金	一六、〇三一	一六、〇三一
合計	二、〇四八、五二〇	二、〇四八、五二〇
海軍省所管		
支那事件費補足	一四八、九六四	一四八、九六四
支那事件費補足	一四八、九六四	一四八、九六四
外國派遣軍艦費	三二六、六〇九	三二六、六〇九
墨國派遣軍艦費	三二六、六〇九	三二六、六〇九
合計	七九五、二八〇	七九五、二八〇
臨時部合計	三、二五九、二八〇	三、二五九、二八〇
歳出總計	七、六〇九、一八二	七、六〇九、一八二

以上第三十及三十一回兩議會の協賛を經たる追加豫算額を共の本豫算額に加算して、大正二年度歳入歳出總豫算の總額を示せば左の如し。

大正二年度歳入歳出總豫算總計表

區分	本豫算額	第三十議會追加豫算額	第三十一議會追加豫算額	總計
歳入				
經常部	五二九、七五五、六四九円	一、八八三、五三七	三、四六九、六四九円	五三三、一二五、二九八円
臨時部	五五、一六八、四〇二	一、八八三、五三七	四、一三九、五三三	六一、一九一、四七二
合計	五八四、九二四、〇五一	一、八八三、五三七	七、六〇九、一八二	五九四、四一六、七七〇
歳出				
計				

區分	本豫算額	第三十議會追加豫算額	第三十一議會追加豫算額	總計
經常部	四二二、〇〇四、〇四一円	一四、三一五円	四、三〇九、二四二円	四二六、三二七、五九八円
臨時部	一六二、九二〇、〇一〇	一、八六九、一二二	三、二九九、九四〇	一六八、〇八九、一七二
合計	五八四、九二四、〇五一	一、八八三、五三七	七、六〇九、一八二	五九四、四一六、七七〇

第三款　豫備金及豫備金外支出

大正二年度第一豫備金の豫算額は百萬圓にして、大正二年勅令第九十四號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば外務本省及在外公館電信料・傳染病豫防檢疫諸費・褒賞費・稅關臨時勤勞手當・陸軍退營賜金・退官及死亡賜金・在監人費及造船奬勵費等なり。

大正二年度第二豫備金の豫算額は二百萬圓にして、豫算外に生じたる必要の費途に豫算全額を支出せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば臨時機密費・墨國事件費・尾斯發生船新造費・祿高整理公債端金・國葬費・ペスト防遏費・支那事件費補足・墨國派遣軍艦費・風水害復舊費・火災復舊費・長崎上海間通信設備費等なり。

大正二年度一般會計に於て豫備金以外に國庫剩餘金を以て豫算超過及豫算外支出を爲したる金額は六百七十三萬五百二十二圓五十七錢なり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば在外公館電信料・褒賞費・諸拂戻金・陸軍糧秣費・墨國事件費・災害土木費補助・大禮費・支那事件費補足・長崎上海間通信設備費等なり。

右大正二年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は第三十六回帝國議會の事後承諾を求むる爲め大正四年五月二十六日之が總計算書を衆議院に提出したり。衆議院に於ては豫備金外支出は憲法違反なるを以て承諾を與ふべからずとの議論ありしも、六月五日多數を以て全部承諾を與ふべきものと決定之を貴族院に送付し、貴族院に於ても亦同樣の贊否兩論ありしも、結局多數を以て六月九日之に對し全部承諾を與ふることに決定したり。

第四款　決　算

大正二年度の歳入歳出總決算に計上する所の經常部歳入額は五億七千五百四十二萬八千四十七圓五十二錢二厘、臨時部歳入額は一億四千六百五十四萬七千四百三十六圓九十二錢九厘、歳入合計七億二千百九十七萬五千四百八十四圓四十五錢一厘にして、之に對する經常部歳出額は四億千五百六十三萬五千八百五圓十四錢二厘、臨時部歳出額は一億五千七百九十九萬八千百二十圓十八錢七厘、歳出合計五億七千三百六十三萬三千九百二十五圓三十二錢九厘なり。故に歳入歳出差引一億四千八百三十四萬千五百五十九圓十二錢二厘の剩餘を生じたり。該剩餘金は會計法第二十條に依り之を大正三年度の歳入に繰入せり。今右決算額を豫算額に比較して其の大要を說明すれば左の如し。

第一　歳　入

大正二年度歳入の決算額七億二千百九十七萬五千四百八十四圓四十五錢一厘を以て、其の豫算額五億九千四百四十一萬六千七百七十圓に對比すれば一億二千七百五十五萬八千七百十四圓四十五錢一厘を增加せり。今之を經常臨時に區分すれば經常部歳入の決算額は五億七千五百四十二萬八千四十七圓五十二錢二厘にして、之を其の豫算額五億三千三百二十二萬五千二百九十八圓に對比すれば四千二百二十萬二千七百四十九圓五十二錢二厘を增加し、臨時部歳入の決算額は一億四千六百

五十四萬七千四百三十六圓九十二錢九厘にして、之を其の豫算額六千百十九萬千四百七十二圓に對比すれば八千五百三十五萬五千九百六十四圓九十二錢九厘を增加せり。今歳入の增減を生じたる重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）經常部

租稅は有稅品の輸入多かりし等の爲め關稅の收入增加せしと、所得金額の多かりし等の爲め、所得稅の收入增加せしと、砂糖課稅斤數の多かりし等の爲め砂糖消費稅の收入增加せしと、酒類造石高の多かりし等の爲め酒稅の收入增加せしと、營業稅課稅標準額の多かりし等の爲め營業稅の收入增加せしと、其の他兌換銀行券發行稅・織物消費稅・通行稅・鑛業稅・相續稅・噸稅及醬油稅等の收入增加せしとに依り四千二百三十四萬九千八百六十八圓四十錢一厘を增加せりと雖も、所得稅法を改正せしと、朝鮮產米及籾の移入稅を廢止せしと、地租・取引所稅及石油消費稅の收入減少せしとに依り九百八十一萬三千八百五十圓四十四錢九厘を減少せしを以て、差引三千二百五十三萬六千十七圓九十五錢二厘を增加せり。

印紙收入は收入印紙賣捌代の收入多かりし等に依り百七十五萬九千七百五十一圓八十五錢八厘を增加せり。

官業及官有財產收入は煙草及鹽の賣渡數量多かりし等の爲め專賣局益金の增加せしと、製鐵所に於ける操業者の技術漸次熟練せし等の爲め製鐵所益金の增加せしと、受託製品の多かりし等の爲め大阪砲兵工廠益金の增加せしと、其の他配當金收入・印刷局益金・東京砲兵工廠益金・囚徒工錢及製作收入等の增加せしとに依り千百二十六萬八千六百二十一圓五十一錢九厘を增加せりと雖も、郵便切手及葉書類賣捌代・電話建設寄付金の收入少かりし等の爲め郵便電信及電話收入の減少せしと、其の他鹽賣渡收入率を低減せしと、海軍工廠資金益金及森林收入等の減少せしとに依り二百二十九萬千四百九十五圓八十九錢を減少せしを以て、差引八百九十七萬七千百二十五圓六十二錢九厘を增加せり。

雜收入は雜入・一年志願兵及幼年學校自費生納金等の收入增加せしに依り二十一萬四千四十二圓九十三錢七厘を增加せりと雖も、懲罰及沒收金・免許及手數料・辨償及違約金等の收入減少せしに依り十九萬七千二百八十五圓八錢九厘を減少せしを以て、差引一萬六千七百五十七圓八十四錢八厘を增加せり。

預金特別會計より繰入は郵便貯金及普通預金に係る利子の仕拂少かりし等に依り七十七萬六千六百三十二圓八十錢四厘を減少せり。

朝鮮總督府特別會計より繰入は公債利子の仕拂少かりし等に依り八萬七千六百七十圓五錢一厘を減少せり。

臺灣總督府特別會計より繰入は公債利子及借入金利子の仕拂少かりし等に依り二十二萬二千六百圓九十一錢を減少せり。

（二）臨時部

官有物拂下代は地所・船舶及物品拂下代等の收入多かりしに依り七十三萬四千五百四十八圓六十一錢三厘を增加せり。

雜收入は國庫金預入等に係る利子の收入多かりしが爲め利子收入の增加せしと、臨時軍事費の支辨に屬せし糧秣及被服を賣却したる等の爲め臨時軍事費所屬收入のありしと、其の他臘納獸皮分配金等の收入ありしとに依り五百六十萬七千八百三十一圓八十五錢八厘を增加せりと雖も、海軍受託造修收入及返納金等の減少せしに依り十萬千八百八十五圓四十二錢七厘を減少せしを以て、差引五

百五十萬五千九百四十六圓四十三錢一厘を增加せり。

公債募集金は公債支辨に係る朝鮮事業費の財源に充用すべき資金の繰替借入を要すること少かりしに依り二百五十三萬二千三百八圓四十九錢を減少せり。

森林資金繰入は國有林野經營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り五十六萬六千七百十六圓九十三錢五厘を減少せり。

陸軍營繕費補充資金繰入は土地建造物利用費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること多かりし等に依り千八百三十四圓十二錢を增加せり。

治水費資金繰入は治水費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り四百八十七萬六千三百九十九圓五十三錢八厘を減少せり。

獻納金は學校創立費獻納金の受入少かりしに依り八萬四千圓を減少せり。

前年度繰入金は歳計剩餘金の繰入多かりしに依り八千七百十七萬三千六十圓七十二錢八厘を增加せり。

第二　歳　出

大正二年度歳出の決算額五億七千三百六十三萬三千九百二十五圓三十二錢九厘を以て、其の豫算額五億九千四百四十一萬六千七百七十圓に對比すれば二千七十八萬二千八百四十四圓六十七錢一厘を減少せり。今之を經常臨時に區分すれば經常部歳出の決算額は四億千五百六十三萬五千八百五圓十四錢二厘にして、之を其の豫算額四億二千六百三十二萬七千五百九十八圓に對比すれば千六十九萬千七百九十二圓八十五錢八厘を減少し、臨時部歳出の決算額は一億五千七百九十九萬八千百二十圓十八錢七厘にして、之を其の豫算額一億六千八百八萬九千百七十二圓に對比すれば千九萬千五十一圓八十一錢三厘を減少せり。

大正二年度歳出豫算額は五億九千四百四十一萬六千七百七十圓なるも、豫算決定後に於て會計法第二十一條第二十二條明治三十九年法律第五十二號第三條及明治四十四年法律第二號に依り、前年度の豫算殘額を本年度に繰越したるが爲め七千四十二萬七千八百二十二圓五十九錢九厘、國庫豫備金外に臨時支出を爲したるものありしが爲め六百七十三萬五百二十二圓五十七錢を增加せり。依て右歳出豫算額及豫算決定後增加額を合計すれば六億七千百五十七萬五千百十五圓十六錢九厘にして、同年度支出濟額は五億七千三百六十三萬三千九百二十五圓三十二錢九厘、同年度に於て支出を終らずして翌年度に繰越したる金額は七千二百五十七萬八千八圓五十錢一厘なるを以て、差引二千五百三十六萬三千百八十一圓三十三錢九厘の不用額を生ぜり。今翌年度繰越及豫算不用に係る重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）　翌年度繰越

營繕土木の工事、陸海軍の演習、林野の經營其の他航海の補助等に關し海外に注文したる物品の年度内に到達せざるものありしと、天候不良其の他避くべからざる事故に依り事業を遲延し又は豫定の計畫を遂行すること能はざるものありし等との爲め、年度内支出を終らざりし經費にして、會計法第二十一條に依り翌年度に繰越したる金額は八百二萬三百九十九圓四十三錢七厘なり。

軍艦及兵器の製造、河川の修築其の他營繕工事等の繼續事業にして行政整理の爲め事業繰延を爲したるものありしと、海外に注文したる物品の年度内に到達せざるものありしと、天候不良其の他の事故に依り豫定の如く事業進行せざるものありしとの爲め、會計法第二十二條に依り翌年度に繰越

したる金額は二千四百六十四萬四千三百四十二圓三十四錢五厘なり。

臨時軍事費支辨に係る兵器及被服の製造等の經費にして、年度内支出を終らざりし爲め明治三十九年法律第五十二號第三條に依り翌年度に繰越したる金額は三千七百九十一萬千二百七十二圓十七錢九厘なり。

公共團體の經營に係る工事の經費に對する補助にして、年度内支出を終らざりし爲め明治四十四年法律第二號に依り翌年度に繰越したる金額は二百萬千九百九十四圓五十四錢なり。

（二）豫算不用

俸給及在外國居留民取締費等の支出少かりしが爲め在外公館の經費に於て不用に歸したる金額は三十六萬四千三百十九圓六十錢六厘、旅費及警察費連帶支辨金等の支出少かりしが爲め北海道廳及府縣の經費に於て不用に歸したる金額は五十萬二百七十二圓十錢、殖民地特別會計に對する經費補充金の支出少かりしが爲め朝鮮總督府、關東都督府及樺太廳の經費補充金に於て不用に歸したる金額は三百二十六萬圓、預金利子の支出少かりしが爲め預金利子及手數料に於て不用に歸したる金額は七十八萬三百二圓八十五錢四厘、旅費及俸給等の支出少かりしが爲め内國稅徵收費に於て不用に歸したる金額は三十五萬八百二十四圓三錢七厘、諸拂戻金等の支出少かりしが爲め諸拂戻及缺損補塡金に於て不用に歸したる金額は三十七萬千八百五十四圓五十九錢五厘、陸上設備費及海面埋立費等の支出少かりしが爲め神戸稅關海陸運輸聯絡設備費に於て不用に歸したる金額は六十三萬九千六百圓、造船造兵及修理費竝俸給等の支出少かりしが爲め陸海軍軍事費及憲兵費に於て不用に歸したる金額は五百八十三萬十六圓九十八錢七厘、兵器費及被服費の支出少かりしが爲め整備費に於て不用に歸したる金額は百六十五萬圓、糧秣費及需品費等の支出少かりしが爲め朝鮮派遣部隊費に於て不用に歸したる金額は百七萬九千六圓十五錢、兵營廳舍建築費及一時賜金等の支出少かりしが爲め臨時軍事費に於て不用に歸したる金額は八十三萬六百九十圓二十九錢四厘、雜給及雜費竝俸給等の支出少かりしが爲め裁判所及監獄の經費に於て不用に歸したる金額は四十八萬二千五百二十一圓八十三錢、森林及原野の經營に關する經費の支出少かりしが爲め森林費及國有林野經營費に於て不用に歸したる金額は九十八萬三千二百三十四圓十一錢五厘、遞信事業に關する經費の支出少かりしが爲め遞信費に於て不用に歸したる金額は百十三萬二千九百十九圓三錢八厘、航路擴張、航海奬勵、傳染病豫防費及罹災救助基金等に關する補助金の支出を要すること少かりしが爲め、各種の補助費に於て不用に歸したる金額は百二萬二千六百四十九圓二十三錢、以上の外諸般の經費に於て不用に歸したる金額は六百八萬四千九百七十圓五十錢三厘なり。

以上豫算不用額の合計は二千五百三十六萬三千百八十一圓三十三錢九厘にして、内行政整理に依るもの二千八萬八千二百九十三圓なり。

大正二年度に於ける大藏省證券發行最高額は一時借入金を併せ四千七百六十五萬圓にして、之を其の豫定最高額五千萬圓に對比すれば二百三十五萬圓を減少せり。

今大正二年度決算額を其の豫算額と對照すれば左の如し（圓位以下切捨）。

大正二年度歳入歳出決算額豫算額對照表

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
歳入			
經常部			
租稅	三六九、四七六、六八〇 円	三三六、九四三、六六三 円	三二、五三六、〇一七 円
地所得稅	七四、六三五、五一三 円	七五、三三五、〇四六 円	△ 六九九、五三三 円
營業稅	三五、五九二、三四八	三五、四七一、六七六	一一九、六七二
租稅	二七、三九二、六一八	二五、〇五九、一九〇	二、三三三、四二八

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
相続税	三、三五一、三五六	三、〇三七、四四四	三一三、八九二
通行税	四、八七二、七二四	四、一二四、一四五	七五八、五七九
鑛業税	二、八九〇、四七五	二、一八八、三三三	七〇二、六二一
兌換銀行券發行税	一、六三四、一四七	八一六、二九九	八一七、九〇八
酒税	九三、三三、九八二	八九、〇四七、四七	四、一七六、五二五
醬油税	四、九三、九〇〇	四、七八九、〇八二	一七四、八三八
砂糖消費税	二一、〇四九、六六〇	一五、二五、二九三	五、九二四、三六七
織物消費税	一九、九六四、四四三	一九、一八〇、二〇四	七八四、三三九
石油消費税	一、六六八、七〇一	二、〇一四、七二九 △	三四六、〇二八
寶藥營業税	二六三、六八七	二三五、〇五五	二八、九五二
取引所税	三、四七一、七七七	四、〇三二、一四〇 △	五五〇、三六三
關税	七三、七三一、三七八	五五、九六、六八八	一七、八五、六九二
噸税	七八二、九八四	六〇〇、九四三	一八二、〇四一
印紙收入	三〇、八三〇、九七八	二九、〇七一、三一七	一、七五九、七九一
官業及官有財産收入	一四九、〇二一、六五四	一四〇、〇〇四、五二九	八、九七七、二五
郵便電信及電話收入	五七、九〇三、五七七	五八、九九二、六七八 △	一、〇八九、〇八一
森林收入	一〇、六四二、一二六	一〇、七五二、二四〇 △	二〇、六二四
配當金收入	二、一五四、七九四	一、六四六、四四〇	五〇八、三五四

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
囚徒工錢及製作收入	一、五七七、九〇七	一、四三二、〇五三	一六四、八五五
官有物貸下料	三六八、四二二	二九一、九六〇	七六、四六一
印刷局益金	六四二、三六六	二七五、〇五一	三六七、三一五
專賣局益金	六九、二九七、四二三	六三、八五〇、五四七	五、四四六、八七六
東京砲兵工廠益金	二四七、九八六	三八、九〇六	二〇九、〇八〇
大阪砲兵工廠益金	一、六七、五四三	六四、四八二	一、一〇三、〇六一
千住製絨所益金	四五、五八九	三、二四九	四二、三四〇
海軍採炭所益金	八〇、五二七	八三、八七四	二五、六五三
海軍工廠資金益金	四二八、〇五九	五六三、二六六 △	一五五、二〇七
製鐵所益金	四、四〇四、八六〇	二、〇〇五、四三一	二、三九九、四二九
電信燈臺用品製造所益金	一、四五九	二、八五三 △	一、三九四
雜收入	三、一九五、一三七	三、一七八、三八〇	一六、七九七
免許及手數料	一七六、四三〇	二三九、七二〇 △	六三、二九〇
懲罰及沒收金	八三二、一八五	九二七、九五七 △	九六、七二二
辨償及違約金	三六七、二三	三九二、七六八 △	二五、五四七
稅關雜收入	一九二、八四八	一九六、六七四 △	三、八二六
雜入	六三二、九二七	四三九、九二五	一九二、〇〇二
官吏遺族扶助法納金	三七六、一五〇	三四〇、〇〇二 △	七、八五二
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	一七〇、一九八	一六二、一〇六	八、〇九二

一年志願兵及幼年學校自費生納金	四四七、一六八		
小笠原島地方收入	二、〇〇七	九九六	一、〇一一
預金特別會計ヨリ繰入	二一、八七五、四七六	二三、六五二、一〇九 △	七七六、六三三
預金利子繰入	一〇、八七五、四七六	一一、六五二、一〇九 △	七七六、六三三
預金利益金繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	五、〇三〇、〇一六	五、一七、六八七 △	八七、六七一
朝鮮公債及借入金償却繰入	五、〇三〇、〇一六	五、一七、六八七 △	八七、六七一
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	六、〇〇五、一〇一	六、三七、七三 △	三三、六〇一
臺灣事業公債及借入金償却繰入	二、五三五、四五三	二、七五八、〇五四 △	三三、六〇一
砂糖消費税繰入	三、四六九、六四九	三、四六九、六四九	〇
經常部合計	五七五、四三八、〇四七	五三三、一三〇、二九八	四二、一〇七、七四九
臨時部			
官有物拂下代	三、〇九七、六八三	三、三六三、一二四 △	七二四、五四八
鑛山拂下代	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇
地所拂下代	五五八、六四六	一二四、三六〇	四二四、二六
建物拂下代	三〇、〇四八	二六、三二九	三、七、一九
工場拂下代	一四、三〇〇	一四、三〇〇	〇
物品拂下代	一、四九三、〇六	五四、一二四	五九、一二四
船舶拂下代	七九七、三三	五四、三四三	二〇二、八七〇
家畜拂下代	二〇二、四六七	一五六、九一〇	四四、五五七
雜收入	六、三五五、二六八	五、五〇五、九四六	八五〇、三五六
海軍受託造修收入	二六、〇四九	八五、三六六 △	一六、七五七
返納金	一、三〇七、六七一	一六、五〇〇 △	一六、七五七
清國償還金收入	二、一四四、〇三四	〇	〇
利子收入	六八、九四四	一七三、九〇〇 △	一七三、九〇〇
支那償還金收入	二、〇四八、四五〇	二一 △	二一
臨時軍事費所屬收入	三、八五四、七二	三、八五四、七二 △	〇
公債償還金收入	一〇〇	〇	一〇〇
腽肭獸皮分配金	三〇、〇六〇	〇	三〇、〇六〇
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	〇
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	〇
公債募集金	一二、八九四、九二一	一五、四一七、三一〇 △	二、五三三、三〇九
朝鮮事業費公債及繰替借入金	二一、一〇三、一二一	二二、六七、三一〇 △	一、五二四、一〇九
臺灣事業費繰替借入金	一、七九一、八〇〇	二、八〇〇、〇〇〇 △	一、〇〇八、二〇〇
森林資金繰入	二、二六二、三七〇	二、八九、〇八七 △	五六六、七一七
森林資金繰入	二、二六二、三七〇	二、八九、〇八七 △	五六六、七一七
陸軍營繕費補充資金繰入	三六一、八三四	三六〇、〇〇〇	一、八三四
陸軍營繕費補充資金繰入	三六一、八三四	三六〇、〇〇〇	一、八三四
軍艦水雷艇補充基金繰入	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	〇
軍艦水雷艇補充基金繰入	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	〇

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
治水費資金繰入	一〇、〇三七、三八八 円	一四、九三三、七八八 円	△四、八九六、四〇〇 円
治水費資金繰入	一〇、〇三七、三八八	一四、九三三、七八八	△四、八九六、四〇〇
獻納金	五六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	△八四、〇〇〇
學校創立費獻納金	五六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	△八四、〇〇〇
前年度繰入金	九三、七九六、〇五五	六、六三三、九五五	八七、一七三、〇五〇
前年度繰入金	九三、七九六、〇五五	六、六三三、九五五	八七、一七三、〇五〇
臨時部合計	一四六、五四七、四三六	八五、三四五、九五四	六一、一九一、四七二
歲入總計	七三一、九七五、四八四	五九四、四八六、七七〇	一三七、五五八、七一四

歲出	決算額	豫算額	比較增減（△）
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七七三、〇四〇	七九四、四九七	△二一、四六七
在外公館	三、七五五、二四四	三、八二二、〇三二	△六七、七八八
諸支出金	三一、九四六	二六、五九六	六、三五〇
合計	四、五三一、二三三	四、五九八、二〇五	一三一、九七二
內務省所管			
神宮費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	二三四、七一八	二三四、九九七	△二六九
治水費資金繰入	一〇、〇三七、三八八	一四、九三三、七八八	△四、八九六、四〇〇
治水費資金繰入	一〇、〇三七、三八八	一四、九三三、七八八	△四、八九六、四〇〇
獻納金	五六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	△八四、〇〇〇
學校創立費獻納金	五六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	△八四、〇〇〇
前年度繰入金	九三、七九六、〇五五	六、六三三、九五五	八七、一七三、〇五〇
前年度繰入金	九三、七九六、〇五五	八七、一七三、〇五〇	八七、一七三、〇五〇
臨時部合計	一四六、五四七、四三六	八五、三四五、九五四	六一、一九一、四七二
歲入總計	七三一、九七五、四八四	五九四、四八六、七七〇	一三七、五五八、七一四

歲出	決算額	豫算額	比較增減（△）
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七七三、〇四〇	七九四、四九七	△二一、四六七
在外公館	三、七五五、二四四	三、八二二、〇三二	△六七、七八八
諸支出金	三一、九四六	二六、五九六	六、三五〇
合計	四、五三一、二三三	四、五九八、二〇五	一三一、九七二
內務省所管			
神宮費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	二三四、七一八	二三四、九九七	△二六九
行政裁判所	七一、三五四	七五、二一七	△三、八六三
拓殖局	一八、六三三	九七、五九三	△七八、九六〇
稅關	一、〇七五、三〇六	一、一八四、〇六三	△一〇八、七五七
內國稅徵收費	七、九〇九、三五三	八、一五九、九五六	△二四九、六〇三
釀造試驗費	六〇、八九二	七七、〇二五	△一六、一三三
橫濱港維持費	二三四、七九一	二六二、四一三	△三七、六二二
國債元利金及手數料	四五五、一七二	五九八、三八九	△一四四、二一七
諸拂戻及缺損補塡金	九、六〇四、五九〇	七、五二七、五三一	二、〇七七、〇五九
輸出交付金	一六三、八四四	二〇三、三〇〇	△三六、三五六
國債整理基金繰入	一四二、六二六、八一四	一四二、九四九、七九四	△三三、九〇〇
軍艦水雷艇補充基金繰入	一三、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	〇
諸支出金	八九、二六九	七八、一五九	一一、一三〇
國庫豫備金	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	△三、〇〇〇、〇〇〇
合計	一八七、八八六、九四七	一九〇、七〇九、五二一	△二、八二三、五七四
陸軍省所管			
陸軍本省	三七六、一〇二	三八七、八三三	△一一、四八一
軍事費	七二、八二七、四七三	七四、一六六、九五九	△一、三三九、四八六
憲兵費	一、七〇九、七一七	一、八四四、一八〇	△一三四、四七三
廢兵院	三三、五二七	三三、五二五	一、〇一八
緯度觀測所	一、八二六、三三八	一、九二九、二四四	△八二、八三六
內務本省	三八〇、一五六 円	四九、一三八、九二八 円	△一七、九七二 円
內務本省	一一四、一七三	一二七、八六一	△一三、六八九
傳染病研究所	二三四、九〇一	二三五、九五九	△六九八
警視廳	二五三、一八二	二六六、二四九	△一三、〇六七
北海道廳	五六四、九二三	五九〇、〇三八	△二七、一二五
府縣	八、七四二、四六〇	九、一九六、四九四	△四五四、〇三四
地方費	六六、一七七	六九、八一六	△三、六三九
補助費	七八、〇四六	八八八、九九七	△九六、九五一
諸支出金	二〇六、七九六	二四〇、六三三	△三三、八三六
府縣特別會計繼入	八八五、六二八	〇	八八五、六二八
合計	一二、五七四、一七三	一三、三六四、四二九	△七五一、二五六
大藏省所管			
大藏本省	三〇〇、二七八	三七一、八五九	△七一、五八一
預金利子及手數料	一〇、九三五、四五五	一二、六五五、七五八	△七八〇、三〇三
內閣	五二四、一五五	三七九、二七六	一三四、八七六
樞密院	一六一、九五一	一七三、八三五	△一二、八八五
貴族院	六八六、一〇八	七一四、八六二	△三八、七五四
衆議院	八九二、九五〇	九二六、七四三	△三三、七九三
會計檢查院	三二五、九八五	二三七、一六四	△一二、一七九
內務本省	三八〇、一五六 円	四九、一三八、九二八 円	△一七、九七二 円
衛生試驗所	一一四、一七三	一二七、八六一	△一三、六八九
傳染病研究所	二三四、九〇一	二三五、九五九	△六九八
警視廳	二五三、一八二	二六六、二四九	△一三、〇六七
北海道廳	五六四、九二三	五九〇、〇三八	△二七、一二五
府縣	八、七四二、四六〇	九、一九六、四九四	△四五四、〇三四
地方費	六六、一七七	六九、八一六	△三、六三九
補助費	七八、〇四六	八八八、九九七	△九六、九五一
諸支出金	二〇六、七九六	二四〇、六三三	△三三、八三六
砂糖消費稅臺灣總督府特別會計繼入	八八五、六二八	〇	八八五、六二八
合計	一二、五七四、一七三	一三、三六四、四二九	△七五一、二五六
大藏省所管			
大藏本省	三〇〇、二七八	三七一、八五九	△七一、五八一
預金利子及手數料	一〇、九三五、四五五	一二、六五五、七五八	△七八〇、三〇三
內閣	五二四、一五五	三七九、二七六	一三四、八七六
樞密院	一六一、九五一	一七三、八三五	△一二、八八五
貴族院	六八六、一〇八	七一四、八六二	△三八、七五四
衆議院	八九二、九五〇	九二六、七四三	△三三、七九三
會計檢查院	三二五、九八五	二三七、一六四	△一二、一七九
靖國神社寄付金	〇	四五、四八三	△四五、四八三
諸支出金	三六一、三六一	八七、九七八	二七四、三八三
合計	七七、一三一、〇三一	一七八、七四一、八三九	△一、五六三、八〇八
海軍省所管			
海軍本省	一七九、六九六	一九四、一九二	△一四、四九六
軍事費	三八、六七五、七三二	四二、〇九一、一三	△三、三四三、三八〇
諸支出金	三〇、二七一	三三、九一一	△七、三六一
合計	三八、八八五、七〇一	四一、三五六、二二五	△三、三五〇、五二四
司法省所管			
司法本省	一一四七、二六四	一五九、〇一三	△一一、七四九
裁判所	五、八四七、二五六	六、〇九六、五〇六	△二四九、二五〇
監獄	五、八三三、七八六	六、〇七九、〇四六	△二四五、二六〇
諸支出金	九〇、三五五	五九、二三四	三一、一三一
合計	一一、九八八、六七三	一二、三五三、七九九	△四三五、一二六
文部省所管			
文部本省	五二四、八八三	五七二、三五五	△四七、三五五
震災豫防調查會	一七、一四六	二一、七九	△四、三三
測地學委員會	八、〇五四	四一、九	四、〇四五
中央氣象臺	七四、四五九	七四、五三三	五四
緯度觀測所	八、五七一	一一、九七一	△三、四〇〇

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
醫術及藥劑師試驗費	八一、二八四	八二、一九五	△　九一一
大學及學校圖書館支出金	五、六六〇、一六二	五、七六六、九六三	△一〇六、七八四
府縣立師範學校長俸給	一三三、〇三四	一三一、〇五六	△　二三
普通教育費	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	△　〇
實業教育奬勵費	三五二、三五四	三九三、〇〇〇	△四〇、六四六
諸支出金	三、三五五	五四	△二、八二
（元農商務省所管）			
蠶業講習所	九四、六六六	一〇七、三七	△　二、七二
（元内務省所管）			
補助費	一四九、九九九	一五〇、〇〇〇	△　一
合計	九、五九六、九九八	九、八〇七、三一八	△二一〇、三五〇
農商務省所管			
農商務本省	四六四、七五六	五三七、一三八	△七二、三八二
特許局	一七三、二四六	一九七、六七九	△二四、四三三
森林費	四、六〇二、〇五七	四、六七二、三一〇	△七〇、二五三
鑛山監督署	三一二、六四四	三八七、〇八二	△七四、四〇八
農事試驗場	一七二、九五七	二一〇、七一〇	△三七、七五三
水產講習所	二七、〇四四	四七、八八〇	△二〇、七一四
生絲檢查所	七九、五七一	八八、八〇〇	△　九、三九

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
畜產改良費	二三〇、〇五五	二七二、〇七八	△五二、〇二三
工業試驗所	九九、七七	一〇八、四九二	△　八、七一五
花莚檢查所	五一、〇〇〇	五六、五五八	△　五、五五八
原蠶種製造所	二七一、三二九	三二七、六七一	△六六、四四二
牛痘血清製造所	八五、一一三	八五、八七一	△　七五八
補助費	二九三、六七三	四四四、〇〇〇	△一五〇、三二七
諸支出金	七六、六二七	五四、六五九	△二一、九六八
合計	七、〇二九、八三六	七、六〇〇、八五六	△五七一、〇二〇
遞信省所管			
遞信本省	六六一、〇一二	七五四、二七九	△九三、二六八
遞信費	二八、五六二、九〇八	二九、三八二、九三八	△八二〇、〇三〇
航路標識費	三九一、五四三	四一六、九八四	△二五、四四二
商船學校	三〇八、四九九	三二四、三九一	△一五、八九二
年金及恩給	三一、六三三、一〇六	三一、八〇八、九三三	△一七五、八一七
諸支出金	七三、一六一	五二、八一一	△二〇、三五〇
合計	六一、三五〇、二五〇	六三、六八〇、三三六	△一、一一〇、〇八六
經常部合計	四一五、六五五、八〇五	四三六、三七〇、三九八	△一〇、六九一、七九三
臨時部			
外務省所管			

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
賞繕費	二二五、九三六	二五九、三七二	△　四三、四三六
在外公館移轉費	九、九五二	一〇、〇〇〇	△　四八
移民調査費	三、三五九	二〇、〇〇〇	△一六、六四一
海牙平和宮殿寄贈品費	二、四七四	三、七九三	△　一、三一九
臨時機密費	二四九、九八	二四九、九九八	△　〇
罹國事件費	八七、二五三	八七、二五三	△　〇
（元大藏省所管）			
關東都督府經費補充金	二、三四七、八〇〇	三、〇四七、八〇〇	△七〇〇、〇〇〇
合計	二、九一六、七四四	三、二五〇、九六五	△四二五、一九一
内務省所管			
補助費	一、三八三、八四一	一、四五五、〇〇〇	△　五一、一五九
治水事業費	八、九四八、三五四	一三、四八〇、六一〇	△四、五三一、二五六
道路港灣調査費	四二、五七九	七〇、〇〇〇	△二七、四二一
營繕費	二四九、三五四	三六、四八五	△一三、八七九
造神宮使廳	三〇、五二四	二、三五八	九、一六六
小笠原島殖產事業費	一九、八六九	二三、〇七三	△　二、二〇四
北海道拓殖費	二、八三〇、五七九	三、一〇六、四二四	△二七五、八四五
北海道森林費	三五六、一八二	三九九、五〇七	△三四、三二五
港灣改良費	七二一、三六六	六〇〇、〇〇〇	△一四、三四
神職養成及神社調查費	九、八〇	一〇、〇〇〇	△　二〇

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
	円	円	円
傳染病豫防費	一五六、五六三	一六〇、〇〇〇	△　三、四三七
議員總選擧取締費	三、一〇三	三、一三六	△　三三
臨時神社費	六六、八八六	六六、八八六	〇
トラホーム講習費	六、九〇八	七、〇三八	△　一三〇
縣債利子補給	一六七、五八〇	一六七、五八一	△　一
災害費	二、四四五、四七四	九三九、〇六七	一、五〇六、四〇七
臨時外國行諸費	六、二七五	七、三八	△　一、〇四三
地方廳臨時諸費	四、九二	四、九二	〇
神社奉祀調查會費	二、六九四	二、六九四	〇
京都府下伏見通道路改修費補助	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	〇
（元大藏省所管）			
朝鮮總督府經費補充金	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一三、三五〇、〇〇〇	△二、三五〇、〇〇〇
朝鮮總督府特別會計繰入金	三八九、二九一	五九九、二九一	△二一〇、〇〇〇
棒太廳經費補充金	二、一〇三、一二一	二、三七、三一〇	△一、五二四、一〇九
朝鮮總督府特別會計繰入金	二、七九一、八〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	△一、〇〇八、二〇〇
臺灣總督府特別會計繰入金	四九、七六八、二五五	四九、〇九八、九四四	△八、三三一、七三九
合計			
大藏省所管			
補助費	一九、〇〇〇	六六、一八七	△四七、一八七
營繕費	二、九二三、三〇八	四、七二一、七二五	△一、八六九、四一七
關稅定率調查費	八、四〇八	一〇、五四三	△二、一三五

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
	円	円	円
四分利付清國債券元利	三、一四四、〇四四	三、一四四、〇四四	〇
海外駐剳財務官費	六五、七四四	八二、七四四	△一六、九〇〇
臨時事件行賞諸費	二三、二七五	二六、七八	△三、四三三
臨時秩祿處分費	一三、八五五	二一、七八一	△八、一七六
拓殖局廳舍借料及設備費	〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
治水費資金特別會計繰入金	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	〇
沼津稅務署土地臺帳及地圖火災復舊費	七、二三六	一〇、五七八	△三、三四二
四分利付支那債券元利	二、〇四八、四四九	二、〇四八、五二〇	△二
公債諸金	七四四、五九五	一六、〇一二	五八、五七四
國葬費	四五、三九六	〇	四五、三九六
臨時外國行諸費	三、一四二	〇	三、一四二
災害費	三、五八四	〇	三、五八四
ペスト防遏費	九一、〇一三	〇	九一、〇一三
大禮費	二四四、六八四	〇	二四四、六八四
合計	一二、四八五、五五七	一三、三六、六八一	△一、七三一、一三四
陸軍省所管			
砲臺建築費	三〇六、五六一	三一〇、〇〇〇	△三、四三九
營繕費	五八八、三九二	五六〇、〇〇〇	二八、三九二
備	八、七一八、一四〇	一一、〇五六、六六一	△二、三六八、五二一
土地建造物利用費	一〇一、六四四	一〇〇、〇〇〇	一、六四四
軍用氣球研究費	三四、七三	三〇、〇〇〇	四、六三
無線電信研究費	一〇六、一四〇	七〇、〇〇〇	三六、一四〇
測量費	三一七、五四六	二九〇、六七六	二六、八七〇
拂下地圖製造費	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇	〇
朝鮮派遣部隊費	三、三九〇、四七四	四、四六九、四八四	△一、〇七九、〇〇七
清國駐屯部隊費	四五七、六一〇	四九三、三三三	△三五、七二三
特別大演習外賓接待費	一、六八七、八七九	二〇、〇七七	△三、一九八
豫備兵器補塡費	一、三五五、二三三	一、三五五、二三三	〇
匪徒鎭定費	〇	三〇、〇〇〇	△三〇、〇〇〇
一時賜金	八、五五〇	二、九一〇	五、六三〇
動記動章取扱費	一九、二九六	三三、九八二	△三、六八六
馬政事業設備費	一四七、〇九三	一四七、〇九三	一四
臨時馬疫調查費	八、四八〇	八、五〇〇	△二〇
清國事件費	六六、〇八八	五六七、七二四	二八、三六四
臨時軍事費	一、三七六、二四〇	〇	一、三七六、二四〇
臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費	七七、〇五四	〇	七七、〇五四
支那事件費補足	四〇、二七、二九	〇	四〇、二七、二九
合計	一八、二八九、二一七	一九、九二〇、六九三	△一、四九一、四五六

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
	円	円	円
營繕費	四九、一三一	五八、七五八	△六七、六二七
災害費	七一、四一二	二七、九〇七	四三、五〇五
合計	六二〇、八四三	六四八、一二七	△二七、二八五
文部省所管			
營繕費	三三、八一一	三二、一、五五八	九三三
九州帝國大學工科大學創立費	二一、一四〇	九、九五七	一、一八三
第六醫學專門學校創立費	二四、五八〇	一九、〇〇〇	五、五八〇
第七高等工業學校創立費	二九、〇〇六	二三、八一七	一五、一八九
第八高等工業學校創立費	一六、一五九	一四〇、〇〇〇	△一三三、八四一
大學及學校圖書館臨時支出金	三二一、九三四	三二一、九三四	〇
臨時調查費	一六、〇五九	二八、〇〇〇	△一一、九四一
臨時教員養成所費	一六、〇一六	一六、〇五三	△三七
獎勵費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	〇
臨時維新史料編纂事務局費	四四、六六六	五〇、七〇八	△六、〇四二
縣債利子補給	一九、七八	二三、三六五	△二、五七七
災害費臨時支出金	一二一、八三三	七九、〇〇〇	三三、八三三
臨時試驗費	三、八三三	四、〇四七	△六四
災害費	四六、八五八	四七、〇〇四	△一四六
臨時外國行諸費	九、九五四	〇	九、九五四
委託學生費	〇	一七	△一七

海軍省所管

營繕費	二一七、〇八八	二一五、〇〇〇	二、〇八八
鎭海軍港第一期設備費	七三四、一〇七	七〇〇、〇〇〇	三四、一〇七
受託造修費	九二、三二五	三二二、六三	△一九、六七八
臨時海軍建築部費	四六、〇七三	四九、八五六	△三、七八三
拂下圖誌製造費	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇
軍備補充費	五五、〇四〇、八九	五三、七六八、三六六	二、二七二、五五三
艦艇火藥庫冷却裝置費	三二四、七六三	三〇〇、〇〇〇	一四、七六三
航空術研究費	九九、九一三	一〇〇、〇〇〇	△八七
清國事件費	四七五、八八〇	四八五、一一六	△九、二三六
支那事件費補足	二八二、〇二五	一三三、〇六一	一四八、九六四
外國派遣軍艦費	二二一、九九三	二三六、六〇九	八五、三八四
災害費	二、七八三	〇	二、七八三
一時賜金	四五一	〇	四五一
教育兵器充實費	七九九	〇	七九九
遭難艇引卸費	六、八〇一	〇	六、八〇一
合計	五七、五五九、八九〇	五五、一三一、一六〇	二、四三八、七三六
司法省所管			
法律調查費	二八、三〇八	三一、四七二	△三、一六四
免囚保護事業奬勵費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	〇

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
（元農商務省所管）			
營繕費	八、四二二円	一六、三四〇円	七、九一八円
合計	九八九、二三三	一、〇七五、一八三	△ 八五、九五〇
農商務省所管			
外國貿易擴張費	八〇、四七〇	九九、〇〇〇	△ 一八、五三〇
製鐵所擴張費	五、三一六、四四一	三、七九七、五三五	一、五一八、九〇六
營繕費	二八八、三〇〇	二〇七、〇〇一	八一、二九九
國有林野經營費	二、二六二、三七〇	二、八二九、〇八七	△ 五六六、七一七
漁業免許處分費	四、四一八	八、五六二	△ 四、一四四
足尾國有林復舊費	九、〇八〇	四三、四一七	△ 三四、三三七
產業奬勵費	九四五、九七二	一、二〇七、四八六	△ 二六一、五一四
臨時調査費	二四、六一一	五九、四八〇	△ 三四、八六九
生產調査會費	九五四	一五、〇〇〇	△ 一四、〇四六
獸疫及害蟲驅除費	六七、三六五	九〇、四〇〇	△ 二三、〇三五
治水事業費	四五九、〇二三	六八三、〇〇〇	△ 二二三、九七七
膃肭獸保護費	一一、五七三	一三、九六二	△ 二、三八九
巴奈馬大平洋萬國博覽會費	二、〇九一	三〇〇、〇〇〇	△ 二九七、九〇九
臨時外國行諸費	九、四五一	四、九一九	四、五三二

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
スマラン展覽會出品團體補助	一六、〇〇〇円	〇円	一六、〇〇〇円
災害費	二四、七五五	〇	二四、七五五
合計	九、五三二、八八一	九、三五八、八四九	一六四、〇三二
遞信省所管			
補助費	一一、七四七、二二七	一二、二七五、六七三	△ 五二八、四四六
電信電話營繕費	五七九、二六一	五〇九、三三〇	六九、九三一
航路標識營繕費	六六、九六八	六三、〇〇〇	三、九六八
營繕費	二六三、〇一二	二六八、三六六	△ 五、三五四
電話交換擴張費	二、八四九、八一五	三、〇〇〇、〇〇〇	△ 一五〇、一八五
發電水力調査費	一〇一、八四六	二四〇、〇〇〇	△ 一三八、一五四
電氣器具機械設備費	六五、七八〇	六六、三五五	△ 五七五
清國事件費	一一、七七五	二五、七〇二	△ 一三、九二七
災害費	九、二五一	〇	九、二五一
長崎上海間通信設備費	一九二、五一五	〇	一五二、五一五
合計	一五、八四七、四五七	一六、四四八、四二六	△ 六〇〇、九五九
臨時部合計	一五七、九九八、一二〇	一六八、〇八九、一七二	△ 一〇、〇九一、〇五二
歳出總計	五七三、六三三、九二五	五九四、四一六、七七〇	△ 二〇、七八二、八四六

右大正二年度歳入歳出總決算は同年度各特別會計決算及會計檢査院の檢査報告と共に、大正四年十二月十六日第三十七回帝國議會に提出せられたり。衆議院決算委員會に於ては審議の末、總決算中歳入に於て不當と認めたるもの二十四件、歳出に於て不法と認めたるもの八件、不當と認めたるもの二十五件を議決し、大正五年二月二十八日決算委員長鹿島秀麿は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『大正二年度總決算中歳入に於て不當と認めたるもの二十四件、歳出に於て不法と認めたるもの八件、不當と認めたるもの二十五件、官金に於て不當と認めたるもの一件あり。今其の著しきもの二三を報告すべし。內務省所管中傳染病研究所の支出に係る三萬餘圓は、其の研究に關する牛馬羊の養料飼料の買入代金にして、是等動物の數が常に增減あるに拘らず、其の飼料に日々增減なきは甚だ不當の支出なりと謂はざるべからず。次は同じく傳染病研究所の支出に係る血清液容器買入金及血清液運送費は、公入札に付すべき性質のものなるに拘らず、而も高價なる隨意契約に據りしは不當の甚しきものなり。次も同じく傳染病研究所の支出に係る馬匹九十三頭買入の件なり。研究所に於ては一度に全部買入れたりと稱するも、事實は然らず、七頭若くは八頭宛買入れ、而も其の値段たるや甚だ高價なるのみならず、公入札を以て買入るべき性質なるにも拘らず隨意契約に據りたるは不當の支出たり。次も同じく傳染病研究所の支出に係る小動物の飼料たる牛乳・獸肉・野菜類買入の件なり。是も公入札に付すべき性質のものたるに拘らず、非常なる高價を以て隨意契約に依り購入したるは是又不當の支出たり。次も同じく傳染病研究所の支出に係る試驗用兎・鼠・モルモット買入の件にして、之も能く質すときは數萬圓の不當

支出たるべし。以上指示したるものは其の甚しきものの一たり。次は國庫金運用に關する件なり。右は政府が國庫金の運用と稱し、興業銀行救濟の目的を以て約六百萬圓の官金を低利にして而も長期の貸付を爲したるにあり。委員會に於ては政府が種々陳辯する所ありたるに拘らず、其の理由なきものと認め左の決議を爲したり。

政府は明治二十三年法律第二十一號に依り預金局預金を以て更に充當するを辭柄となし、明治二十七年法律第十六號を適用し、國庫金を以て興業銀行に貸付せるは明に不當の甚しきものなりと認む。

委員會は右の如き決議のみにては滿足する能はずして、更に左の如き附帶決議を爲したり。

政府は興業銀行に貸付せる金五百八十五萬四千八百三十三圓二十五錢四厘を同行をして返還せしむべし。若し事情不可能とすれば、政府は豫算を以て帝國議會の協贊を經ると同時に利子の歩合を相當に改正するは勿論、可成速に同行をして整理の實を擧げしめ返還年限を短縮すべし。

豫算と決算とは車の兩輪の如くにして、之に甲乙輕重のあるべきものにあらず。然るに近來の傾向を見るに、決算を輕視するの風あるは誠に遺憾に堪へず。豫算と決算とを査察して歳計の正當に行はるるや否やを見んとせば、決算を嚴密にせざるべからず。之を嚴密にせんとせば、現今の如く決算の提出を三年後にするが如きは斷じて不可なり。依て之を一年短縮して、前年度の決算を支出せしむる樣せざるべからず。是に於て決算委員會は左の決議を爲したり。

決算報告は前々年度の決算に係るも、之を短縮して前年度の決算に改むるを適當と認む。依て政府は次年度より之を實行せんことを望む。

以上報告したる諸件の御贊同を望む。』

政府委員紫安新九郎は決算の提出期を一箇年短縮することは到底不可能の事なりとし、左の如く反對說を述べたり。

『現行の會計制度に於ては、年度終結の後相當の整理期間を置き決算整理の方法を採り居るものなるを以て、若し之が報告の時期を早め前年度の決算を報告することとせば、整理期間なるものは全く廢止せざるを得ず。其の結果として未決算に屬する金額は非常の多額に上るに至るべし。是等は結局翌年度に至り決算を終了するの外なきを以て、決議の趣旨は到底之を達することと能はざるものと認む。又此整理期間を廢止するとせば、年度の末日に納期を定めたる租稅はその年度の歳入として收入する能はざるを以て、勢ひ納期を繰上げざるを得ざるの不都合を生ずるに至るべし。決算整理期間廢止の爲め、決算整理の混雜を來すが如きは、會計上より見て到底忍ぶこと能はざるなり。依て政府は右決議に同意するを得ず。』

斯くて採決の結果異議なく總て委員長報告の通決定したり。

貴族院決算委員會に於ては、審査の結果一般會計歳入に於て一件、同歳出に於て九件は政府に對し將來の注意を促すべきものと議決し、且國庫金の運用に關し左の如き決議案を議決したり。

『貴族院は大正二年度に於て政府が日本興業銀行を救濟する爲、國庫金の運用と稱し豫算に依らずして同行に對し金五百八十五萬四千八百三十三圓餘を貸付たるは不當の處置なりと議決す。』

二月二十六日決算副委員長川村鐵太郎は決算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議

に報告したり。

『豫算及法令違反事項として會計檢査院が批難したるものは、一般會計歳入に於て二十六件、歳出に於て三十三件、特別會計歳出に於て二十三件、其の他決算の上には現はれざるも官金に於て一件、合計八十三件なり。今期提出の決算批難事項數を前年の夫と比較すれば約五割、既往年度たる四十一年度に比すれば約半數に減じ居れり。殊に陸軍省所管に於て然り。當年度に於ける陸軍省の批難事項は一般特別會計を通じて五件、大正元年度十一件、二年度二十八件、三年度二十三件と云ふが如き數字を示せり。是より決議案の内容に付説明すべし。此の決議案を提出したる理由は、興業銀行に於て明治三十九年より大正二年迄の間に於て七百六萬餘圓の整理資金を要する缺損を生じ、政府は之を救濟する爲め其の所有に係る英貨六十萬磅を年利二分を以て興業銀行の代理店に預入し、其の他日本銀行より三百萬圓、正金銀行より二百五十萬圓を前同樣の利子を以て預入せしめ、興業銀行は之を財源として運用し、其の利鞘を以て缺損金を補塡するの計畫を立てしものなり。之に對し會計檢査院は右は一時の貸借と見るを得ず、而も破格の低利にして長期に亙る貸借關係と見ざるべからず。果して然らば帝國議會の協賛を經、歳出豫算決算に編入せざるべからず。然るに之を爲さざるは不當なりと批難せり。決算委員會亦其の見解を同じうして決議案を提出したる次第なり。政府の處置穩當を缺くものと認めたるもの八件、及政府に對し將來の注意を促すべきものと認めたるもの十五件、其の他事柄の簡明にして追窮を要せざるもの若くは支出の正當に行はれ居るものは總て異議なしと議決したり。』

斯くて採決の結果多數を以て總て副委員長報告の通決定したり。

第十三節　大正三年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

大正三年度豫算に就ては前年度に於て實行したる整理の趣旨に從ひ、大體左記の方針に依りて之を編成することと爲したり。

(一)所得稅の輕減、鹽價の引下等、稅制の整理に就ては既定の計畫に依り之を計上すること。

(二)普通經費に就ては經常臨時を通じて大體前年度に於て決定したる標準に基き之が整理を爲すこと。

(三)既定繼續費に就ては經費の節約を圖るの外、既定年割額に對して大體三割前後の繰延を行ふこと。

(四)準繼續費に就ては必要に應じて之を繼續費の形式に改むること。

(五)從來毎年度豫算金額以外に別に支出し來りたる臨時軍事費は、行政整理の趣旨に從ひ之が金額を節約し、其の使用年割額を繰延ぶると同時に之を陸軍整備費に合併計上すること。

(六)各省經費に就ては緊切已むを得ざるものの外之が增額を抑制すること。

(七)以上の方針に依りて生じたる國庫の餘裕金は、主として一層財政の基礎を鞏固にし、財政經濟の調和を保つの目的に之を使用すること。

右方針に基き編成せられたる大正三年度歳入歳出各六億四千百二十三萬五百五十六圓にして、内歳入經常部五億三千四百三十二萬八千六百四十五圓、同臨時部一億六百九十萬千九百十一圓、歳出經常部四億二千五百二十九萬二千二十六圓、同臨時部二億千五百九十三萬八千五百三十圓なり。今之を前年度豫算額に比較すれば左の如し。

區分		大正三年度豫算額	大正二年度豫算額	比較 増	比較 減
歳入	經常部	五三四、三二八、六四五円	五二九、七五五、六四九円	四、五七二、九九六円	○円
	臨時部	一〇六、九〇一、九一一	五七、〇五一、九三九	四九、八四九、九七二	○
	合計	六四一、二三〇、五五六	五八六、八〇七、五八八	五四、四二二、九六八	○
歳出 經常部		四二五、二九二、〇二六	四二二、〇四四、〇五八	三、二四七、九六八	○
歳出 臨時部		二一五、九三八、五三〇	一六四、七六三、五三〇	五一、一七五、〇〇〇	○
歳出 合計		六四一、二三〇、五五六	五八六、八〇七、五八八	五四、四二二、九六八	○

（備考）一、大正二年度豫算額は本豫算額及第三十議會通過追加豫算額の合計なり。
二、大正二年度豫算額に於ては比較對照上便宜の爲め、歳出經常部と同臨時部との間に組替掲記せるものあるを以て、該年度決定金額と符合せず。

今大正三年度歳入豫算を前年度に比較して其の増減せる重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては營業稅・相續稅・通行稅・鑛業稅・兌換銀行券發行稅・酒稅・砂糖消費稅・織物消費稅・取引所稅・關稅・印紙收入・郵便電信及電話收入・配當金收入・印刷局益金・製鐵所益金・臺灣事業公債及借入金償却繰入等の増加したると、臺灣總督府特別會計より砂糖消費稅の繰入あるとの爲め千三百二萬九千五百六十八圓を増加すと雖も、地租・所得稅・石油消費稅・專賣局益金・海軍工廠資金益金・預金利子繰入等に於て減少したると、預金利益金繰入の皆減したるとの爲め八百四十五萬六千五百七十二圓を減少するを以て、差引四百五十七萬二千九百九十六圓を増加し、臨時部に於ては地所拂下代・陸軍營繕費補充資金繰入及前年度繰入金等の増加したる爲め五千八百七十三萬二百七十九圓を增加すと雖も、朝鮮事業費公債及繰替借入金・臺灣事業費繰替借入金・森林資金繰入及治水費資金繰入等の減少したる爲め八百八十八萬三百七圓を減少するを以て、差引四千九百八十四萬九千九百七十二圓を增加したり。

又其の歳出豫算増減の重要なる事項を擧ぐれば、經常部に於ては内務省所管に於て警察費連帶支辨金の増加・臺灣關稅諸收入繰入、大藏省所管に於て諸拂戻金及國庫豫備金の増加、陸軍省所管に於て糧秣費の増加、海軍省所管に於て新艦船に要する經費、司法省所管に於て判事及檢事休職俸給・在監人費の増加、農商務省所管に於て造林事業費の増加、遞信省所管に於て電話交換擴張に伴ふ經費・通信事業の増進及擴張に伴ふ經費・恩給の増加等に於て千百五十七萬九千四十圓を增加すと雖も、各省に於て行政整理に伴ふ經費の減少、大藏省所管に於て預金利子及國債整理基金繰入の減少したる等の爲め八百三十三萬千七十二圓を減少するを以て、差引三百二十四萬七千九百六十八圓を増加し、臨時部に於ては内務省所管に於て水道費新規補助・關門海峽改良費・港灣修築費補助・臺灣糖業諸經費分擔金繰入、大藏省所管に於て神戸稅關防波堤築造費・門司稅關設備費・特別會計資金返償、陸軍省所管に於て軍隊官衙學校其の他集中改築及移轉費・整備費年割額の追加・臺灣兵營廳舍營繕及初度調辨費・軍用氣

球研究費の增加・自動車研究費、海軍省所管に於て鎭海軍港第一期設備費軍艦製造費の追加・航空術研究費の追加、農商務省所管に於て製鐵所厚板工場設備費・工業試驗所事業擴張に伴ふ新營費、遞信省所管に於て造船奬勵費の增加・東京中央停車場郵便局新營費・電話交換擴張費等に於て八千二百五十二萬八千六百七十七圓を增加すと雖も、各省に於て行政整理に伴ふ經費の減少、陸軍省所管に於て整備費の減少・朝鮮派遣部隊費・豫備兵器補塡費及清國事件費の皆減、農商務省所管に於て製鐵所擴張費の減少、遞信省所管に於て發電水力調査費の皆減したる等の爲め三千百三十五萬三千六百七十七圓を減少するを以て、差引五千百十七萬五千圓を增加したり。

大正三年度に於て新に要求に係る繼續費は三千八百六十三萬四千二百九十二圓、既定繼續費に對し新に追加を要するもの一億五千六百四十三萬九千三百圓、臨時軍事費の大正三年度以降使用豫定額を合併整理する爲め追加を要するもの三千七百八十五萬四千百五圓、大正二年度に於て事業繰延の結果不用と爲すべき費額にして大正三年度以降に使用する爲め追加を要するもの千二百五十二萬三千五百八十九圓、合計二億四千五百四十五萬千二百八十六圓にして、其の年限最も長きは大正十八年度に終る。而して既定繼續費に對し減額を要するもの五百六十三萬四千八百八十九圓あるを以て、差引增加額二億三千九百八十一萬六千三百九十七圓を大正三年度以降の既定繼續費總額三億二千七百十三萬三千八十三圓に加ふるときは、大正三年度以降の繼續費の總額は五億六千六百九十四萬九千四百八十圓となるの計算なり。

大正三年度に於て國庫豫備金は第一豫備金三百萬圓、第二豫備金五百萬圓なり。

大正三年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は五千萬圓なり。

第二項　豫算不成立及實行豫算の編成

大正三年度歲入歲出總豫算案は大正三年一月二十一日第三十一回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計豫算案と共に衆議院に提出せられ、同日大藏大臣高橋是清は右豫算案に關し衆議院に於て左の演說を爲したり。

『本大臣は玆に大正三年度歲計豫算を紹介するの光榮を有す。大正三年度總豫算に計上する所の歲入は經常部に屬するもの五億三千四百三十二萬八千六百四十五圓、臨時部に屬するもの一億六百九十萬千九百十一圓、合計六億四千百二十三萬五百五十六圓にして、其の歲出は經常部に屬するもの四億二千五百二十九萬二千二十六圓、臨時部に屬するもの二億千五百九十三萬八千五百三十圓、合計六億四千百二十三萬五百五十六圓なり。故に經常歲入を以て經常歲出に比較すれば一億九百三萬六千六百十九圓の超過にして、之を前年度に於ける經常歲入歲出の關係に對照すれば一層良好なる狀態を示せり。大正三年度歲入を以て之を前年度豫算に比較するに經常部に在りては一方に前年度に於て決定せる稅制整理の結果所得稅に於て六百九十六萬餘圓、移入稅に於て百二十五萬圓、專賣局益金に於て二百六萬餘圓、小計千二十八萬餘圓、國庫收支の關係を改善する爲め專賣品延納代金の所屬年度を改正するに依り專賣局益金の繰入に於て九百七十七萬餘圓、預金利益金繰入廢止の爲め預金特別會計より繰入に於て百萬圓、合計二千百五萬餘圓を減少すと雖も、他方に於て主として一般經濟上の發達に伴ひ、租稅收入に於て所得稅營業稅・酒稅及關稅の增加等に依り千二十五萬餘圓、印紙收入に於て百五十三萬餘圓、官業及官有財

産收入に於て就中郵便電信電話收入及製鐵所益金の增加等に依り二百七十三萬餘圓を增加する等の爲め小計千四百六十三萬餘圓、及行政整理の結果各作業會計の整理等に依り官業及官有財産收入に於て二百八十八萬餘圓、臺灣産內地消費糖の消費稅を一般會計の收入に屬せしめたる爲め租稅收入等に於て七百七十萬餘圓、小計千六十二萬餘圓、合計二千五百二十五萬餘圓を增加するに依り、差引四百五十七萬餘圓の增加を示し、臨時部に在りては一方に於て朝鮮事業費既定年割額の減少に依る同公債及繰替借入金の減少等に依り百五十六萬餘圓、行政整理に依る事業繰延の結果、治水事業費資金繰入・朝鮮竝臺灣事業費公債及繰替借入金の減少等に依り八百五十八萬餘圓、小計千十四萬餘圓を減少すと雖も、他方に於て行政整理に伴ふ陸軍所屬土地の整理に依り二百四十七萬餘圓、其の他土地の拂下等に依り三百九萬餘圓を增加するの外、前年度に於ける行政整理等の爲め前年度繰入金に於て五千四百四十三萬餘圓を增加するに依り、差引四千九百八十餘萬圓を增加し、結局經常及臨時を併せ歳入總額に於て五千四百四十二萬餘圓を增加せり。大正三年度歳出を以て之を前年度豫算に比較するに、經常部に在りては一方に於て行政整理の結果各省經費に於て千三百二十一萬餘圓を減ずるの外、國債額の減少に伴ひ國債利子を要すること少き等の爲め二百八十一萬餘圓を減少すと雖も、他方に於て糧秣費・恩給等補充科目に屬する各省經費に於て四百九十六萬餘圓、從來臨時部歳出に計上せる朝鮮派遣部隊所屬の經費を經常部に移替たる爲め陸軍費に於て三百二十九萬餘圓、新艦艇の建造に伴ひ海軍軍事費に於て二百二十六萬餘圓、從來一般會計に收入の上其の半額を臺灣總督府に交付し來れる臺灣關稅諸收入は、行政整理に伴ひ其の全額を同府特別會計に繰入ることとし新に之を歳出に計上したる爲め二百二十一萬餘圓を增加し、其の他產業の指導奬勵通信機關の整備等に關し緊急必要なる施設を行ふが爲に經費の增加するものあるに依り差引三百二十四萬餘圓を增加し、臨時部に在りては一方に於て既定繼續費に屬する年割額の減少等に伴ひ千百三十九萬餘圓を減ずるの外、行政整理に依りて各般の經費に節約を加へ、既定繼續費年割額の繰延を行ひ、各殖民地特別會計に對する補充金を減ずる等の結果、各省經費に於て二千五百二十五萬餘圓を減じ、竝前述朝鮮派遣部隊費移替等の爲め四百四十五萬餘圓を減少すと雖も、他方に於て海軍軍備補充費に於て一千萬圓、製鐵所擴張費に於て十一萬餘圓、竝臨時軍事費合併整理の爲め陸軍整備費に於て三百萬圓を追加し、新に電話交換擴張費四百萬圓を計上するの外、各市上下水道費竝地方港灣修築費補助に四十六萬餘圓を要する等、緊急已むべからざる各般の施設に對し經費の增加するものあるが爲に合計二千四百十六萬餘圓を增加し、既往年度に於て繰替使用したる特別會計所屬資金の返償に六千四百六十萬餘圓、治水費資金繰入金の增加に三百萬圓を計上し、各種補充費途に於て五十萬餘圓の增加を要するが爲め差引五千百十七萬餘圓を增加し、結局歳出總額に於て五千四百四十二萬餘圓の增加を示せり。

以上大正三年度豫算に關し其歳入歳出增減の大體を說明したり。本大臣は更に進で同年度豫算に關する財政計畫の綱領に就て一言せんと欲す。抑〻大戰役後に於ける我財政の膨脹に關しては政府は從來銳意之が整理に努め、或は經費の節約、事業の繰延を圖り、或は稅法の改正、負擔の輕減を期する等、今日迄に實施したるもの少からずと雖も、之が完成は固より一朝一夕の能くす

る所にあらず。加之最近に及で各種國情の變化は我財政の整理を促すこと愈急なるを以て、政府は一昨年來廣く各般の制度を改革し、行政財政の全體に亙りて整理を斷行せんことを企畫せるも、諸種の事情に依り遂に前年度豫算に於て之が計畫を實現するの機運に到達せざりしは、最も遺憾とせし所なり。而して政府の之に處するの途唯其の實行上最善の手段を盡すに在り。其の前期議會に於て披瀝したる所信は幸にして諸君の贊同を得たるを以て、政府は前年度豫算成立の後直に之が整理の審査を進め、同年五六月の交に及て漸く之が成案を得、以て同年度豫算の執行上之が計畫を實施することを得たり。而して之に依りて新に一般會計に財源を生ずべき金額は三千九百九萬餘圓にして、前期議會に於て決定したる改正稅法等の實施に依り、前年度の歳計上歳入の減額を來すべき金額は九百十四萬餘圓とす。次で大正三年度豫算の編成に關し、政府は前年度に於ける整理の趣旨に從ひ其の各般の計畫を完成せんことを期し、普通經費に就ては經常臨時を通じて大體前年度に於ける整理の標準に基き節約を圖り、既定繼續費に就ては其の費額に節減を加ふるの外既定年割額に對して大體三割前後の繰延を行ふものとし、之が爲め新に一般會計に財源を生ずべき金額は四千二百九十七萬餘圓に達するの計算にして、經常部歳入の自然增收千四百六十餘萬圓と合せて五千七百六十一萬餘圓の財源を得るの外、前年度に於ける整理に依りて生じたる財源及前々年度の決算上生じたる歳計剩餘金の兩者中、前年度に於ける各種の支出に充當し尚大正三年度に繰越し使用し得べき金額七千六百餘萬圓に達すべく、右の內同年度追加豫算等の財源に充つべき金額を除き五千八百九十六萬餘圓を剩すを以て、前記五千七百餘萬圓と併せて總額一億千六百五十七萬餘圓を得べく、之を以て既定計畫に屬する稅制整理等に依る歳入の缺陷を補塡し、各種緊急の費途に充當したる殘額は、一層財政の基礎を鞏固にし財政經濟の調和を保つの目的に向て之を使用するを以て最適切の處置なりと認め、從來戰時其の他急迫の場合に於て一時繰替使用したる儘、今日に至る迄未だ返償の財源を得るに及ばざりし軍艦水雷艇補充基金以下四特別會計資金の返償に六千四百餘萬圓を充當し、國庫豫備金の增額に五百萬圓、治水費資金繰入の增額に三百萬圓を使用するの外、專賣品延納代金所屬年度改正の爲め九百七十七萬餘圓を振向くるの計畫を定めたり。行政整理に依り公債又は借入金支辨の事業費に整理を加へたる等の結果、本年度に於て必要とする公債又は借入金の豫定額は三千七百餘萬圓にして、前年度に比し二千二百餘萬圓を減ずるの計算なり。又大藏省證券の最高發行高は五千萬圓として之を計上し、本年度に於て國債の償還に充つべき金額は從來の方針に從ひ五千萬圓とす。稅制の整理に就ては前年度に於て既に實行したるものあるも營業稅其の他必要なる程度の改正案は本議會に提出するの見込なり。

今秋擧行せらるべき大禮に關し必要なる諸般の經費に就ては、其の急を要するものは曩に臨時支出の手續を了したるものあり、其の將來に必要とするものは本年度追加豫算を以て之を要求せんとす。又昨年に於ける北海道竝東北地方の災害に關しては、被害地人民の苦痛極めて大なるものあり、政府は應急の手段に於て違算なからんことを期し、其の復舊工事の遂行に關し最急を要するものに在りては既に臨時國庫補助の支出を了したるも、尙其の一部は本期議會に追加豫算として提出すべく、又其の被害地方救濟の方法に關しては政府は約六百萬圓の資金を地方に貸付し、以て窮民の保護、生業の恢復に資せしむるの計畫にして、其の他の必要なる經費と共に

本年度追加豫算として之を提出するの豫定なり。

蠶て昨年中に於ける我經濟界の趨勢を察するに、前記の如く地方的災害の大なるものありしに拘らず、大體に於て順當に發展の機運を維持し、從來の歩調を繼續したるは諸君と共に慶賀する所なり。同年中銀行會社の社債又は株金として資本の現實に拂込まれたる高は二億四千萬圓の多きに達し、尚一般經濟の趨勢を卜すべき鐵道運賃收入の如き、旅客貨物に論なく共に相當の增加を呈せり。更に同年に於ける對外貿易の狀況を見るに、輸出額六億三千二百餘萬圓、輸入額七億二千九百餘萬圓、總額十三億六千百餘萬圓にして、之を其の前年に於ける貿易總額十一億四千五百餘萬圓に比較すれば實に二億千五百餘萬圓の增加を示し、啻に其の總額に於て既往各年に超絶せるのみならず、其の前年に對する增加の著しき未だ曾て其の比を見ざる所なり。只夫れ輸入額の輸出額に超過すること九千七百餘萬圓にして、米・砂糖等内地作柄の結果に基き一層輸入額を增加したるは頗る遺憾なりとす。而して我對外貿易上將來益〻内地産業の發達を圖り輸出貿易の增進を期するは最も其の切要なるを認之を要するに戰後財政の計畫は幾多の曲折を經て漸次歩武を進め、多年の宿題たる行政の整理茲に一段落を告ぐるを得るに至れるは、職に朝野多年協力の結果にして、本大臣の諸君と共に深く喜ぶ所なり。本大臣は諸君が愼重審議以て速に豫算案に協贊を與へられんことを望む。」

衆議院に於ては翌二十二日より豫算委員會を開きて審議の結果其の一部に修正を加ふるに決し二月十二日豫算委員長改野耕三は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

「豫算委員會は數日間の質問應答を經、就中國防問題・財政計畫・減稅問題・海軍事件に關し充分意見を交換し、更に各分科に於て愼重の審議を遂げたり。査定は甚だ簡單にして修正極めて尠し。今其の金額を擧示せんに、委員會に於ては、大正三年度歳入歳出總額各六億四千百二十三萬五百五十六圓を、歳入總額六億四千百二十三萬五百五十六圓、歳出總額五億九千四百五十一萬六百八十五圓に修正することに決定せり。修正を施したる箇所は歳出臨時部大藏省所管に於て、特別會計資金返償六千四百六十萬六千九十一圓を修正して千七百八十八萬六千二百二十圓と爲し海軍省所管に於て軍備補充費既定總額外の追加額一億五千六百四十一萬四千百四十四圓を修正して一億二千六百四十一萬四千百四十四圓と爲したるの二點に在り。右修正の理由は前者に在りては軍艦水雷艇補充基金の返償は今日の場合右基金を維持するの要なしとして之を削除し、後者に在りては大正五年度著手の戰艦一隻の建造費に對し今日より協贊を與ふるの要なしとして之を削除せしものなり。右削減の結果歳入の超過四千六百萬圓を生じ、歳入歳出適合せざるに至れるが、這は不日産業奬勵資金法を制定し其の財源に充つるの見込なり。以上は專ら數字に係れる豫算委員會査定の結果なるが、之に附帶して政府に警告せる事件あり。其の一は人權尊重に關する問題なり。決議文に曰く「檢事其職を執行するに當り往々苛酷に流れ法規に違反し人權を蹂躙するの事例少からず。今に於て之を矯正せずんば司法權の威信を維持する能はざるのみならず、國家組織の基礎に危害を及ぼすの虞あるものと認む。司法大臣は嚴に部下を監督して司法行政の刷新を圖り、將來人權尊重の實を擧げんことを望む。」其の二は朝鮮總督府の施設に關する問題なり。決議文に曰く「朝鮮總督府の施設に就ては改革を要すべきも

の少からずと認む。當局者は宜しく鋭意庶政を刷新し、且つ一層財政の整理を爲さんことを望む。」以上二箇の決議は孰れも豫算委員會に於て全然之を承認し、殊に前者は更に分科會の決議となり、司法大臣は之に對して決議を尊重する旨を聲明せり。後者に對しても亦內務大臣或は總理大臣より當議場に何等かの聲明あらんことを望む。其の他豫算を實行するに方り特に政府に希望する所は、陸軍、海軍其の他各省に於て尙一層行政を整理し、冗員を淘汰し、冗費を減省し生產的事業に向て全力を傾注せられんこと是なり。尤も本年度豫算面に於て、內務省所管產業施設中多少の計畫あるを見ると雖も、頗る不充分の嫌なきにあらず。曩に山本農商務大臣は豫算委員會に於て盛に積極的方針を說けり。而も吾人窃に思ふに、實行の伴はざる抱負は畫餠の如し。願くば善く其聲明を實にし、殖產興業の道を完うし、國富を充實するに忠ならんことを。此の他各分科會に於て政府に對する忠告及警告あり、任に爲政の路に在るもの充分之を尊重して著々實踐あらんことを望む。乙號、丙號、特別會計及豫算外國庫の負擔と爲るべき契約を要する諸案は總て原案を可決せり。豫算委員會決定の場合に、一箇の豫算返付の動議、二個の修正案ありしが、採決の結果孰れも消滅し、卽ち分科査定通り如上の決定を見たる次第なり。因に一言を添ふべきものあり、國稅徵收法に依る市町村の交付金に關し從來頗る公平を缺くを以て、之を均一に歸せんとするも、法律の伴ふありて直に豫算を增加する能はざるに依り、法律を改正し追加豫算として要求あらんことを望みしに、政府は同意を表せられたり。」

次で司法大臣奧田義人、內務大臣原敬は豫算委員會の決議を尊重する旨を辯明し、終て大體議に移り、田川大吉郎は中正會を代表して豫算編成替を要求せる動議を提出、其の趣旨を演述し、右に對し指

田義雄の質問、小川平吉の反對ありて採決の結果、少數にて右動議は消滅したり。次で武富時敏は豫算修正案を提出し、夫要左の如く其の趣旨を辯明したり。

『吾人は政府提出に係る歳計豫算に修正を加へ、其の歳入歳出各六億四千餘萬圓を改めて、歳入五億七千八百八十九萬餘圓、歳出五億七千六百七十八萬餘圓と爲したり。意ふに刻下財政上の急務は戰後俄然膨脹せる國費を緊縮し、國民の負擔を輕減するにあり。政府の歳出は普通費たると事業費たるとに關せず、一切財源を公債若は借入金に仰がず以て支辨を完うするに在り。是れ國情の要求にして何人も諒ふべからざる所なり。此の二事早く實行を見ずんば、久しく財政の壓迫を受け其發達を阻碍せられ、且又戰後多大の債務を負へる我國經濟狀態は愈〻不自然の形勢を繼續し、延て兌換制度の基礎を破壞せずんば止まざらんとす。苟も財政に意を用ふるもの如上二箇の事實に向て一日も速に手を下すに至らずんば、遂に非常の慘況に陷り臍を噬むも及ばざるに至らん。今本豫算を檢するに政府は啻に此點に注意せざるのみならず、寧ろ從來の敗轍を蹈襲し、益〻正路に背馳するの狀あるを看取し、吾人は憂憤禁ずる能はず。玆に於てか政府の豫算及豫算の基礎たるべき財政計畫に對し根本に於て反對を表するに至れり。殊に國民負擔の輕減に關しては政府は何等計畫する所なきのみならず、寧ろ餘裕の財源を隱蔽するの跡あり。試に剩餘金處分に見よ。其の大部分は二年度若は三年度に於ける追加豫算の財源に分配せられ、殘餘五千八百萬圓を以て七千六百萬圓の支出に充てんとしつつあり。抑〻五千八百萬圓の剩餘金を處分する爲め七千六百萬圓の歳出を作爲するが如きは恕すべからざるの癡事たり。夫れ剩餘金の處分は則ち讀で字の如く其の有る限りを以て適當の支出に振向くれば足る。然る

に政府は比較的不急の計畫に向て無慮七千六百萬圓を支出し、之に充つるに五千八百萬圓の剩餘金を以てし、不足千八百萬圓は之を普通歳入より割取せり。之れ强て支出の費目を設け普通歳入の餘裕を吸取し、所謂減稅の財源の如き全然之なきものの如く裝ふものにあらずや。吾人の手に成る修正案は其の基礎を剩餘金の全部を傾倒して先づ教育基金・森林資金・貨幣整理資金を塡補し、專賣局益金の所屬年度改正に依て生ずる歳入缺陷を塡補し、次に田租第三期の繰下・酒稅第四期の繰下を實施し、之に依て生ずる一時の缺陷を塡補し、剩餘其のものの全力を以て收入支出相償はしめ、些の累を普通歳入に及ぼさず、次で其處分を了すると共に意義ある價値を發揮するを旨とせり。其の當然の結果として、一面普通歳計に於て差引千百萬圓の歳入超過を生ずると共に、田租及酒稅の納期繰下或は專賣局益金所屬年度改正に依て國庫の收支適合改善せられ、從來金融機關を壓迫せる大藏省證券發行の要を見ず、他面納期の繰下に依て多大の便宜を國民に與ふるに至る。尙又政府の原案に於て新に要求せられたる經常臨時兩部歳出に約千八百萬圓の斧鉞を加へたり。卽ち該削減額約千八百萬圓と、前述歳入超過額約千百萬圓と、合計約三千萬圓を得べし。是れ卽ち吾人の提出中に係る營業通行の二稅廢止に充當すべき財源なり。右の如く修正すれば國民の負擔に於て約三千萬圓の輕減を實現するを得べく、又經費の緊縮に依て從來財源を公債若くは借入金に仰ぎしものを一般會計の支出に移すことを得べし。前述の歳出削減の中に於て特に一言を要するものあり。何ぞや。曰く、海軍充實費一千萬圓卽ち是なり。諸君も旣に知らるる如く、帝國の精華たる海軍をして國民疑惑の府たらしめ、帝國の威信を中外に失墜せしめたる禍源は安くに在りやと問へば、則ち海軍當局者なり。

此の如き不信任の海軍當局をして此の如き擴張計畫を遂行せしめなば、尙如何なる失態を演じて國家に累を及ぼすなきを保せず。是れ此費目を削除したる所以なり。若夫れ歳入歳出に於て差引二百萬圓の歳入超過を殘せるは、旣に吾人の提出せる治水費資金特別會計廢止案の成立を見れば、其の財源として一般會計に要するものあるべきを以て暫時之を保留せるなり。是れ亦從來治水事業が財源の一部を借入金に仰ぎつつありしを改め、一般會計の負擔として事業の確實を期するに外ならず。願くば多數の贊成を得て本案の成立を見んことを。』

次で鈴木梅四郎は國民黨を代表して豫算修正案を提出し、其の趣旨を辯明せり。大要左の如し。

『吾人は大正三年度豫算に對し一大斧鉞を加へたり。今其の主なる點を述ぶれば、一般會計歳出經常部に於て五千六百餘萬圓、同臨時部に於て八千三百萬圓を削減し、特別會計に於て八千九百四十七萬餘圓を削減し、斯くて總額に於て實に二億二千九百四十一萬二千六百六十六圓の巨額の削減を加へたり。右の如く一方に大削減を加ふると共に、之を財源として他方に租稅の輕減若は廢止を計畫し、其の爲め一億五百四十九萬三千四十圓の收入を減少せり。而して尙後に二千八百七十六萬千三百七十七圓の剩餘金あり。吾人は海軍の新なる計畫に對しては絕對に排斥するものなり。但し昨年承認を與へたる軍艦三隻に對しては當年も承認を與ふべし。其の趣旨は吾人は旣に現政府に對し不信任を提議しつつあり、固より政府を信ずるにあらざるも、國家一日も政府なかるべからざると共に一日も國防なかるべからざればなり。』

次で尾崎行雄の海軍軍備補充費削除說、吉植庄一郎及長島鷲太郎の委員長報告に贊成說、片岡直溫の武富案贊成說、增田義一の鈴木案贊成說ありて討論終結し、採決の結果武富案・鈴木案は共に少數に

て消滅し、大正三年度豫算案は全部豫算委員長報告の通可決確定したり。今政府原案と衆議院議決額とを對照すれば左の如し。

區分	政府原案	衆議院議決額	差引削減額
歲入			
經常部	五三四、三二八、六四五円	五三四、三二八、六四五円	○円
臨時部	一〇六、九〇一、九一一	一〇六、九〇一、九一一	○
合計	六四一、二三〇、五五六	六四一、二三〇、五五六	○
歲出			
經常部	四二五、二九二、〇二六	四二五、二九二、〇二六	○
臨時部	二一五、九三八、五三〇	一六九、二一八、六五九	四六、七一九、八七一
合計	六四一、二三〇、五五六	五九四、五一〇、六八五	四六、七一九、八七一

貴族院に於ては二月十二日衆議院より大正三年度豫算案を受領し、同月十七日より豫算委員會を開きて審議の結果、其の一部に修正を加ふることに決定し、三月十三日豫算委員長曾我祐準は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『大正三年度總豫算案は各分科審査の結果、第四分科に於て修正を加へたる外、他の各分科は孰れも衆議院議決案の通可決せり。仍て各省所管毎に採決し、海軍省を除ける各省所管の分は悉く各分科主査報告の通可決せり。第四分科に於ける修正は海軍省所管に於て軍艦製造費七千萬圓即ち衆議院の修正案より更に四千萬圓を削減せんとするに在り。採決の結果は大多數を以て修正案を可決せり。此の修正には二箇の理由あり。第一は陸海軍の要求に於て均衡を得ざること、第二は海軍部内の紊亂是なり。余は修正贊成者の一人なるを以て少しく其理由を說明せんに、貴族院は第二十八議會に於ける海軍擴張に關する決議に基き大正元年度豫算に計上せられたる海軍擴張案を通過せしめたり。然るに第三十議會に於て貴族院は同じく陸軍增師案の提出に關する決議を爲したるに拘らず、政府は本豫算に於て何等陸軍に關する擴張の計畫なく、却て再び海軍擴張案を提出し來れり。大正元年以來陸軍大臣を替ふること三回にして尙且增師計畫の實行せられざる所以のもの、其の罪素より陸軍當局に在りと雖も、貴族院としては之に對し極めて公平の判斷を下して國防の大事を決せざるべからず。海軍當局は名を補充に藉り擴張なる文字を避くと雖も、事實は明に擴張にして、日露戰爭後陸軍は約五割弱を增加して十三箇師團より十九箇師團となれるに對し、海軍に於ては二倍半を增加して二十五萬噸より六十六萬噸に進めり。是れ豈偏倚の甚だしきものにあらずや。第二の理由たる海軍部内の紊亂に就ては玆に辭を費すを要せず。余は海軍大臣に對し自ら引責して海軍の廓清を圖らんことを勸告せしも、終に其の納るる所とならざりしを遺憾とす。』

次で石渡敏一は修正案に反對して左の如く陳述せり。

『修正論者は其の第一の理由として、本豫算は陸海軍の間に偏重偏輕ありと云ふも、其の說明を聽けば一も理由とするに足るものなく、唯增師に要する所は六箇年千百萬圓なるに、海軍は一億五千四百萬圓を要し、陸軍は十二箇師團より十九箇師團に增加せるに止まるも、海軍は二十五萬噸より六十六萬噸に增加せりと云ふに過ぎず。陸海軍同時に擴張を行ふが如きは、假令必要ありとするも時の情勢に於て實行困難なることあるは勿論なり。故に同時に兩者を實行せざる爲

に偏重偏輕なりとするは理由として承認すること能はず。第二の理由として海軍廓清の實を擧ぐるにあらざれば豫算に協贊するを得ずと云ふも、旣に補充費の一部たる九千萬圓に對して協贊せるを以て、要するに一面に於ては政府を信任し一面に於ては信任せざることとなり、削除の理由としては徹底せず。されば貴族院としては此の際區々たる感情を棄てて、國防上必要の計畫に協贊せざるべからず。殊に兩院協議會の結果妥協點を發見する能はずして豫算不成立の不幸を見るが如きことあらば、眞に國防の基礎を危くするの結果を生ずるに至らんとするに於てをや。』

次で古市公威は修正案に贊成して左の如く陳述せり。

『海軍擴張の特に陸軍擴張より急務なる理由なし。國防は飽まで陸海共同作戰を大方針とせざるべからず。本豫算に於ける政府の計畫は不具の計畫なり、更に廟議を盡すの必要あり。殊に瀆職問題の突發せるありて、今や全海軍は疑惑の雲に覆はれつつあり。政府は宜しく先づ海軍廓清を斷行し、次期議會に於て新に要求を提出するを適當とす。』

次で德川賴倫は修正案に反對して左の如く陳述せり。

『海軍擴張は第二十八回議會以來我貴族院の宿論なれば、單に偏倚なる計畫なりとの理由の下に必要の經費を削減するは不可なり。又海軍廓清を待ちて協贊すべしとの說あるも、海軍瀆職事件と豫算問題とを混淆するは穩當ならず。瀆職問題に關しては別に問責案を提出し堂々糾彈の方法を取るも不可なし。然るに今之を理由として國防の必要費を削減し、延て兩院の衝突を招くが如きは憲政有終の美を濟す所以にあらず。貴族院は宜しく衆議院の決議を重んじ其の

査定案に同意すべし。』

次で久保田讓・目賀田種太郎の修正案贊成說、鎌田榮吉の修正案反對說あり。村田保は海軍瀆職事件に關し赤心を披き內閣諸公に愬ふと冒頭して、同問題發生後に於ける國民義憤の狀況を縷述して山本內閣總理大臣に引責辭職を勸告せり。最後に內閣總理大臣山本權兵衞は原案維持に關し、大要左の如く演述せり。

『大勢旣に定まれるに際し敢て辯論を逞うするの要なきも、尙一言を以て諸君に愬ふる所あらんとす。陸海軍の擴張は必ずしも之を同時に行ふにあらざれば其の均衡を失するものにあらず。而して陸海軍共に假想敵に對する我國力相應の程度あり。此の程度は陸海軍共に公然の祕密として確定せるあり。漸次必要に應じ國力の許す範圍に於て議會の協贊を經つつあり。本豫算に計上せる所は一方に偏倚せりとの理由を以て修正せられたるも是れ金額の上に止まり、政府は國防の大體に就き或は外交に、或は四圍の事情に、或は財政の都合に考へ、其の緩急順序に依りて計上したり。唯本豫算に關しては海軍瀆職事件の突發したる爲め意外の困難を感ずるに至れるも、元來此の事件たるや關係する所極めて小部分に止まり、之が爲に帝國海軍の光輝ある歷史を埋沒せしむるの恐なし。其の責任の歸する所は事件の決定を待ちて自ら判明すべし。徒に感情に馳せて人を責むるに苛酷ならざらんことを望む。政府提出案に對し衆議院は未著手戰艦一隻建造費三千萬圓を削除し、政府は之に同意せり。然るに本院に於て削除せられたる四千萬圓は驅逐艦及潛水艇建造費にして、現在の艦艇は旣に舊型に屬し、一朝有事の日に於ては到底沿海警護以上の用を爲すを得ざる狀態に在り。是れ諸君の一考を煩はさざるを得ざる所

以なり。而して陸軍問題は必ず近き將來に於て解決すべきは既に明言せる所の如し。』

斯くて討論終結し、議長は議案中委員會修正の部を除ける他の部分を一括して採決せしに多數にて豫算委員長報告の通可決し、次で修正せられたる部分に就き採決したるに四十四に對する二百四十の大多數を以て委員會修正の通可決したり。斯くて大正三年度歳入歳出總豫算案は衆議院の議決に對し更に修正を加へたるを以て、直に之を衆議院に回付したり。今衆議院議決額と貴族院議決額とを對照すれば左の如し。

區分		衆議院議決額	貴族院議決額	差引削減額
歳入	經常部	五三四、三二八、六四五円	五三四、三二八、六四五円	○円
	臨時部	一〇六、九〇一、九一一	一〇六、九〇一、九一一	○
	合計	六四一、二三〇、五五六	六四一、二三〇、五五六	○
歳出	經常部	四二五、二九二、〇二六	四二五、二九二、〇二六	○
	臨時部	一六九、二一八、六五九	一六八、七一八、六五九	五〇〇、〇〇〇
	合計	五九四、五一〇、六八五	五九四、〇一〇、六八五	五〇〇、〇〇〇

（備考）乙號繼續費、海軍省所管、軍備補充費追加額一億二千六百四十一萬四千百四十四圓の內四千萬圓を削除す。

三月十四日衆議院は貴族院より回付に係る大正三年度歳入歳出總豫算案を院議に付し、採決の結果兩院協議會を開くことに決定し、之を貴族院に通告せり。斯くて兩院協議會を開き愼重協議したるも妥協的成案を得るに至らず、互に其の院議を主張して討論終結し、先づ衆議院の議決案に就き採決せしに賛成十反對九にして衆議院案を可決し、三月二十三日兩院協議會委員小川平吉は兩院協議會の結果を大要左の如く衆議院本會議に報告したり。

『兩院協議會に於て衆議院側委員よりの質問に對する答辯に依れば、貴族院修正の理由は第一國防計畫上陸海軍に對する偏重偏輕、第二海軍瀆職問題の二點にして、貴族院の見る所に於ては海軍廓清の實を擧ぐるまで豫算に協賛を與へざるも別に甚しき缺陷を生ずることなしと云ふに在り。而して衆議院側よりは兩院の豫算議定權に關しては明治二十五年の　天裁に依り其間何等の差異なきこと明なるも、兩院意見の相違の爲に豫算不成立を見ることは議會開設以來其の例なきを以て、特に此の好慣例を重んじ衆議院案に同意せんことを求めしも、貴族院側は固く院議を執て動かず。且兩院意見の相違は單に數字上の問題にあらざるを以て、終に一致點を發見すること能はずして討論終結し、採決の結果一票の差を以て衆議院案を可決せり。』

次で採決の結果多數を以て之を可決せり。貴族院に於ては同日衆議院より兩院協議會成案の送付を受くるや直に之を院議に付し、兩院協議會議長二條基弘は同協議會に於て衆議院案を可決したる顚末を報告し、曾我祐準・德川慶久の反對、石渡敏一の賛成あり、最後に內閣總理大臣山本權兵衞は成案可決を望む旨を述べ、斯くて採決の結果協議會成案は少數にて否決せられ、茲に大正三年度歳入歳出總豫算は不成立に歸せり。此の時　詔勅降り帝國議會は三月二十三日より二十五日迄三日間停會を命ぜられ、停會中に會期終了せり。斯くて大正三年三月二十七日勅令第四十號を以て、大正二年度一般會計所屬豫算は憲法第七十一條に依り大正三年度に於て之を施行する旨公布せられたり。

大正三年度豫算不成立となりし結果政府は施行豫算の範圍內に於て大正三年度に於て實際施行

すべき標準豫算を編成の上之を實行せしが、今之を施行豫算及不成立豫算と比較すれば左の如し。

科目	施行豫算額	實行豫算額	施行豫算額に比し增減(△)	不成立豫算額	不成立豫算額に比し增減(△)
歳入					
經常部					
租稅	三四〇、四一三、三一二円	三四六、六九一、四四六円	六、二七八、一三四円	五、三三五、九〇三円	
印紙收入	二九、〇七一、二二七	三〇、五三一、五三三	△ 一、四六〇、三〇六	七〇、九五九	△
官業及官有財産收入	一四〇、四八九、二七五	一三三、六七一、〇一一	△ 六、八一八、二六四	一四五、一三一	△
雜收入	三、一七八、三八〇	三、二三六、九七四	△ 五八、五九四	四七、三五三	△
預金特別會計より繰入	一二、六五二、一〇九	一〇、四一三、九二四	△ 二、二三八、一八五	○	○
朝鮮總督府特別會計より繰入	五、一一七、六八七	五、二〇一、六一七	八三、九三〇	○	○
臺灣總督府特別會計より繰入	二、七五八、〇五四	四、三一八、六九七	△ 一、五六〇、六四三	五、三三五、九〇三	△
合計	**五三三、六八〇、〇四四**	**五三四、三二八、六四五**	△ **四八五、一五八**	**二六三、四四三**	△
臨時部					
官有物拂下代	二、三六三、一三四	二、〇四三、三六九	△ 三一九、七六五	△ 四、四〇三、六二一	○
雜收入	六、三三五、二六八	四、一八六、二九三	△ 二、一四八、九七五	△ 三九、八〇二	○
港灣設備納付金	二〇〇、〇〇〇	三九、八〇二	△ 一六〇、一九八	○	○
公債募集金	一五、四二七、二二〇	一〇、九九〇、八七一	△ 四、四三六、三四九	○	○
森林資金繰入	二、八二九、〇八七	二、五七六、五七〇	△ 二五三、九六五	△ 一、四四八	○
陸軍軍需費補充資金繰入	三六〇、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	△ 一五、〇〇〇	△ 二二五、〇〇〇	○
軍艦水雷艇補充資金繰入	一二、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	○	○	○
治水費資金繰入	一四、九一三、七八八	一一、〇二七、〇〇〇	△ 三、八八六、七八八	○	○

歳出	納金	前年度繰入金	合計	總計
經常部				
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇			
外務省	四、三九八、三〇五			
內務省	一三、一九八、四二三			
大藏省	一九三、三〇三、三九七			
陸軍省	七八、七一四、八三九			
海軍省	四二、二三六、二一五			
司法省	一二、三九三、七九九			
文部省	一〇、〇三二、九一七			
農商務省	七、六六〇、五二三			
遞信省	六二、九〇五、二五六			
合計	**四二九、三四三、六七四**	**八三、九四六、四六九**	**一三八、五一四、九六六**	**六七二、一九五、〇一〇**
臨時部				
外務省	三、五六五、四六五			
內務省	五六、七四七、七六一			
大藏省	七二、五七三、〇三四			
陸軍省	一六、五四七、〇一三			
海軍省	六一、七二七、四一六			
合計	**四二五、二九二、〇二六**	**六〇、七五九、一八四**	**一〇四、〇六二、六四一**	**六三八、一二七、八四三**
總計	**四二九、三四三、六七四**	**八三、九四六、四六九**	**一三八、五一四、九六六**	**六七二、一九五、〇一〇**

歳出	納金	前年度繰入金	合計	總計
經常部				
皇室費	○			
外務省	△ 三二二、三三六			
內務省	△ 一、七六一、五八三	△ 二三、一八七、二八五	△ 三四、四五二、三二五	△ 三四、〇六七、一六七
大藏省	△ 四、七五六、五五四			
陸軍省	△ 三、一七二、六一一			
海軍省	△ 一、三四八、七〇三			
司法省	△ 六八九、三六九			
文部省	△ 四八〇、一三一			
農商務省	△ 六七一、四七七			
遞信省	△ 一、二二一、七〇七			
合計	△ **一四、四二四、四七一**	△ **四四、〇〇〇**	△ **三四、〇六七、一六七**	△ **三四、〇六七、一六七**
臨時部				
外務省	○			
內務省	△ 四八、三四三			
大藏省	△ 二、五七五、七九五			
陸軍省	△ 二、三四二、八七五			
海軍省	△ 四、三三一、二八一			
司法省	△ 二二、〇六二			
文部省	△ 八二、三九四			
農商務省	△ 一八一、六七四			
遞信省	△ 二〇、八四九			
合計	△ **一〇、三七二、八二三**	○	△ **二、八三九、二七〇**	△ **三、一〇二、七一三**
總計	△ **一四、四二四、四七一**	△ **四四、〇〇〇**	△ **三四、〇六七、一六七**	△ **三四、〇六七、一六七**

歳出	納金	前年度繰入金	合計	總計
經常部				
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇			
外務省	四、〇七五、九六九	△		
內務省	一一、四三六、八四〇	△		
大藏省	一八八、五四六、八四三	△		
陸軍省	七五、五四二、二二八	△		
海軍省	四〇、八八七、五一二	△		
司法省	一一、七〇四、四三〇	△		
文部省	九、五五二、七八六	△		
農商務省	六、九八九、〇四六	△		
遞信省	六一、六八三、五四九	△		
合計	**四一四、九一九、二〇三**	△ **九六、〇〇〇**	△ **一〇四、〇六二、六四一**	△ **六三八、一二七、八四三**
臨時部				
外務省	二、六三三、五〇〇	△		
內務省	四二、八四三、六三四	△		
大藏省	六八、〇三五、八〇三	△		
陸軍省	一六、五九八、六〇一	△		
海軍省	五七、四三六、七二〇	△		
合計	**四一四、九一九、二〇三**	△ **九六、〇〇〇**	△ **一〇四、〇六二、六四一**	△ **六三八、一二七、八四三**
總計	**四二九、三四三、六七四**	**八三、九四六、四六九**	**一三八、五一四、九六六**	**六七二、一九五、〇一〇**

歳出	納金	前年度繰入金	合計	總計
經常部				
皇室費	○			
外務省	△ 九三一、九六五			
內務省	△ 一三、九〇四、一二七	△ 四、五三七、二三一	△ 一、〇、五九八、六〇一	△ 五七、四三六、七二〇
大藏省	△ 一三、九〇四、一二七	△ 四、五三七、二三一	△ 一、〇、五九八、六〇一	△ 五七、四三六、七二〇
陸軍省	△ 一四八、五〇〇	△ 九、六七四、四二一	△ 一、四八八、六〇八	△ 三、三五四、一二六
海軍省	△ 一四八、五〇〇	△ 五、二九五、〇六〇	△ 一、四八八、六〇八	△ 三、三五四、一二六
合計	△ **一〇、三七二、八二三**	○	△ **二、八三九、二七〇**	△ **三、一〇二、七一三**
臨時部				
外務省	△ 二、六三三、五〇〇	△		
內務省	△ 四二、八四三、六三四	△		
大藏省	△ 六八、〇三五、八〇三	△		
陸軍省	△ 一六、五九八、六〇一	△		
海軍省	△ 五七、四三六、七二〇	△		
合計	△ **一四、四二四、四七一**	△ **四四、〇〇〇**	△ **三四、〇六七、一六七**	△ **三四、〇六七、一六七**
總計	**四二九、三四三、六七四**	**八三、九四六、四六九**	**一三八、五一四、九六六**	**六七二、一九五、〇一〇**

科目	施行豫算額	不成立豫算額	實行豫算額	施行豫算額に比し增減（△）	不成立豫算額に比し增減（△）
司法省	六七八、二九七	五七六、七〇〇	四六九、〇一五	△二〇九、二八二	△一〇七、六八五
文部省	一、五四〇、一四四	七三八、〇五七	一、〇三二、九七一	△五〇七、一七三	二九四、九一四
農商務省	八、五四一、六二四	七、七六八、〇八一	七、三五六、一四三	△一、一八五、四八一	四一一、九三八
遞信省	一六、九七〇、九〇一	一七、二三三、八三九	一五、六〇〇、五九九	△一、三七〇、三〇二	△一、六三三、二四〇
合計	**二三八、八九一、六五五**	**二一五、九三八、五三〇**	**二〇六、〇〇六、九八六**	**△三二、八八四、六六九**	**△九、九三一、五四四**
總計	**六六八、二三五、三二九**	**六四一、二三〇、五五六**	**六二〇、九二六、一八九**	**△四七、三〇九、一四〇**	**△二〇、三〇四、三六七**

（備考）一、施行豫算額及實行豫算額は、何れも追加豫算額を加算せる總額を掲上す。
二、施行豫算額及實行豫算額中對照上經常部と臨時部との間に組替掲記せるものあり。

第二款　追加豫算

大正三年度總豫算に對する追加豫算案は第三十一回帝國議會に於て五件、第三十二回、第三十三回及第三十四回帝國議會に於て各一件提出せられたり。今其の內容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第三十一回帝國議會提出追加豫算

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各三百八十二萬六千百四十圓にして、其の追加を要する所以は、大禮の經費を要するに依り前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各百五十萬千三百二圓にして其の追加を要する所以は、大禮に關し各省に於て諸般の施設を要するに依り、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。

右第一號及第二號追加豫算案は大正三年三月十日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月十二日貴族院は同月十三日何れも全會一致を以て之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十日公布せられたり。

（三）本議會提出の第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各千四百萬三千五百四十七圓にして、其の追加を要する所以は、歳入に在りては大禮の擧行に際し電話を增設し且記念郵便切手及繪葉書を發行するに依り郵便電信及電話收入の增加すべき金額、及前年度繰入金を豫算し、歳出に在りては諸拂戻及缺損補塡金・原蠶種製造所・輸出入植物檢查所・大禮擧行の際に於ける通信事業設備費・東亞同文會事業費補助・縣債利子補給・櫻島爆發罹災者移住費補助・災害復舊竝凶作救濟貸付金・支那事件費・墨國及米國派遣軍艦費・町村教育費貸付金・災害復舊費等を豫算したるに依る。右追加豫算案は大正三年三月十九日衆議院に提出せられしが、衆議院及貴族院共同月二十三日何れも異議なく原案の通之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十七日公布せられたり。

（四）本議會提出の第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入百六十四萬八千六十七圓、歳出二百三十六萬七千九百三十八圓にして、其の追加を要する所以は國稅徵收法中改正に伴ひ市町村に於て徵收すべき國稅に對する交付金の增加を要し、前年度繰入金及本年度總豫算に於ける歳入超過額を財源として之を豫算したるに依る。右追加豫算案は大正三年三月二十一日衆議院に提出せられしが、衆議院及貴族院共同月二十三日異議なく原案の通之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十七日

公布せられたり。

（五）本議會提出の第五號追加豫算案に計上する所の金額は歳出四千六百萬圓にして、其の追加を要する所以は產業奬勵基金特別會計法の制定に伴ひ元資金の繰入を要し、本年度總豫算に於ける歳入超過額を財源として之を豫算したるに依る。右追加豫算案は大正三年三月二十一日衆議院に提出せられしが、同院豫算委員會に於ては審議の結果原案の通可決すべきものと決定し、同月二十三日豫算委員長改野耕三は委員會に於ける經過及結果を本會議に報告したり。之に對し早速整爾は、農業の奬勵及改良の必要に就ては何人も異議なき所なりと雖も、之が爲に基金を設定することは其の必要なきのみならず、將來に惡弊を伴ふものなるが故に其の要なく、且又產業奬勵基金特別會計法案は衆議院を通過せしも貴族院に於ける運命は未だ決せざる今日、斯かる追加豫算を要求するは其の當を得ざるものなりと爲して本案に反對せしも、採決の結果少數にて否決せられ、本案は委員長報告の通即ち原案の通可決確定し、直に之を貴族院に送付したりしを以て、本案は遂に不成立に歸したり。

今以上第三十一回帝國議會の協贊を經たる追加豫算四件を一括表揭すれば左の如し。

大正三年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額
歳入	
經常部	
官業及官有財產收入	四五四、七四六円
臨時部	
郵便電信及電話收入	四五四、七四六円
前年度繰入金	一六、五六四、三一〇
前年度繰入金	一六、五六四、三一〇円
歳入總計	一七、〇一九、〇五六
歳出	
經常部	
大藏省所管	
大藏本省	二七、一四四
萬國協約分擔金	五、二八〇
貴族院	二一、九二四
事務費	三一、四八三
衆議院	八、七六四
事務費	二三、八一四
稅關	一九、六六九
俸給	五九、六六七
廳費及修繕費	一〇、九二一
雜給及雜費	六、一五〇
內國稅徵收費	二、一八七
俸給	二、五七四
廳費及修繕費	二、三七四、三六八
雜給及雜費	四、一〇〇
諸拂戻及缺損補塡金	四三〇
諸拂戻金	一、九二〇
合計	二、三六七、九三八
農商務省所管	
專賣種製造所	二五三、三四八
俸給	二五三、三四八
事業費	二、三六四、三六八
輸出入植物檢查所	八、七六四
俸給	八、七六四
事業費	六、六〇四
合計	一〇、九二一
遞信省所管	
遞信費	六、一五〇
俸給	二、一八七
遞信事業費	二、五七四
經常部合計	二、三七四、三六八
臨時部	四、一〇〇
外務省所管	四三〇
大禮施設費	一、九二〇
大禮施設費	二、三六七、九三八
墨國事件費	二五三、三四八
墨國事件費	二五三、三四八
合計	二、六二四、三二八
東亞同文會事業費補助	二一〇、〇〇〇
內務省所管	三四四、三〇〇
縣債利子補給	七一、八六八
土木費借入金利子補給	七一、八六八
大禮施設費	五六九、三三八
大禮施設費	五六九、三三八
神社奉祀調查會費	一五、〇〇〇
神社奉祀調查會費	一五、〇〇〇
災害費	六六三、二七三
府縣風水害諸費	二〇、一三〇
囚作救濟諸費	一七、二五〇
櫻島爆發罹災者移住費補助	六二五、八九三
災害復舊竝囚作救濟貸付金	六、〇〇〇、〇〇〇
新潟縣貸付金	六六六、〇〇〇
埼玉縣貸付金	五二七、〇〇〇
山形縣貸付金	四〇〇、〇〇〇
北海道廳貸付金	七四〇、〇〇〇
青森縣貸付金	七六〇、〇〇〇
秋田縣貸付金	一〇〇、〇〇〇

科目	金額
宮城縣貸付金	一、〇四〇、〇〇〇円
福島縣貸付金	一、〇六七、〇〇〇
岩手縣貸付金	七〇〇、〇〇〇
合計	**七、三一九、四九九**
大藏省所管	
大禮費	三、八二六、一四〇
大禮費	三、八二六、一四〇
大禮施設費	二七五、〇〇〇
大禮施設費	二七五、〇〇〇
災害復舊費補助	一、四八二
村役場國稅諸帳簿災害復舊費補助	一、四八二
合計	**四、一〇二、六三三**
陸軍省所管	
大禮施設費	三九〇、四四四
大禮施設費	三九〇、四四四
支那事件費	四九六、八〇六
支那事件費	四九六、八〇六
合計	**八八七、二三〇**
海軍省所管	
大禮施設費	一三五、〇四八円
大禮施設費	一三五、〇四八
外國派遣軍艦費	九六一、二一七
墨國派遣軍艦費	二三四、四九三
米國派遣軍艦費	七二六、七二四
合計	**一、〇九六、二六五**
司法省所管	
災害費	三四、八〇〇
弘前區裁判所廳舍其他火災復舊費	二九、〇〇〇
鹿兒島地方裁判所其他震災復舊費	五、八〇〇
文部省所管	
大禮施設費	六、六五〇
大禮施設費	六、六五〇
町村教育費貸付金	三四〇、〇〇〇
町村教育費貸付金	三四〇、〇〇〇
災害費	九五、〇一七
鹿兒島高等農林學校震災復舊費	九、三七四
第七高等學校造士館震災復舊費	七一、六四三
上田蠶絲專門學校火災復舊費	一四、〇〇〇
臨時外國行諸費	三、二九四円
萬國地震學會議參列費	三、二九四
合計	**四四四、九六一**
農商務省所管	
營繕費	一二七、七三〇
新營費	一二七、七三〇
遞信省所管	
電信電話營繕費	三九八、〇八六
電信電話營繕費	三九八、〇八六
營繕費	七二、〇一三
新營費	五〇、七八二
修繕費	二一、二三一
大禮施設費	三八、八二二
大禮施設費	三八、八二二
船舶積量改測費	二八、五一四
船舶積量改測費	二八、五一四
臨時外國行諸費	一〇、七四二
萬國郵便會議參列費	一〇、七四二
合計	**五四八、一七七**

臨時部合計	一四、七八五、八〇四
歳出總計	一七、七三八、九二七

第二　第三十二回帝國議會提出追加豫算

大正三年五月四日　昭憲皇太后大喪に關する豫算を議せしめんが爲め第三十二回（臨時）帝國議會召集せられ、五月五日政府は衆議院に大正三年度歳入歳出總豫算に對する追加案を提出したり。本追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各百二十三萬三千百八十四圓にして、其の追加を要する所以は大喪に關する經費を要し、前年度繰入金を財源として之を豫算したるに依る。翌六日本案は豫算委員の審査を經ずして直に院議に付し、內閣總理大臣大隈重信は大喪費に關し演說を爲し、次で大藏大臣若槻禮次郎は追加豫算に關し左の演說を爲せり。

『玆に御大喪に關する經費の豫算を紹介するは寔に恐懼に堪へざる所なり。御大喪に關する經費として要求する所の豫算額は百二十三萬三千百八十四圓にして、其の內容は豫算書類に詳悉せり。謹で按ずるに　皇太后陛下の坤德は之を稱へ奉るに辭なし。然るに今遽に崩御あらせられたるは我國民の擧つて痛悼に堪へざる所なり。而して今回の御大喪儀は　先帝陛下の御大喪儀に準じ、英照皇太后陛下御大喪の前例を參酌して行はせられ、政府は之に要する總ての經費を計上し、其の實行に付萬遺漏なきを期せり。諸君冀くは之を諒とし、愼重審議速に協贊あらんことを。』

次で議長は本案は政府より緊急議決の要求あり、別に討論の通告なきを以て直に採決する旨を告げ、採決の結果全會一致原案の通可決したり。貴族院に於ては五月六日衆議院より本案を受領する